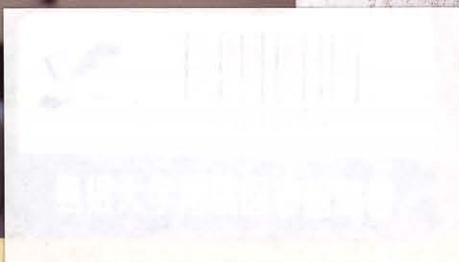
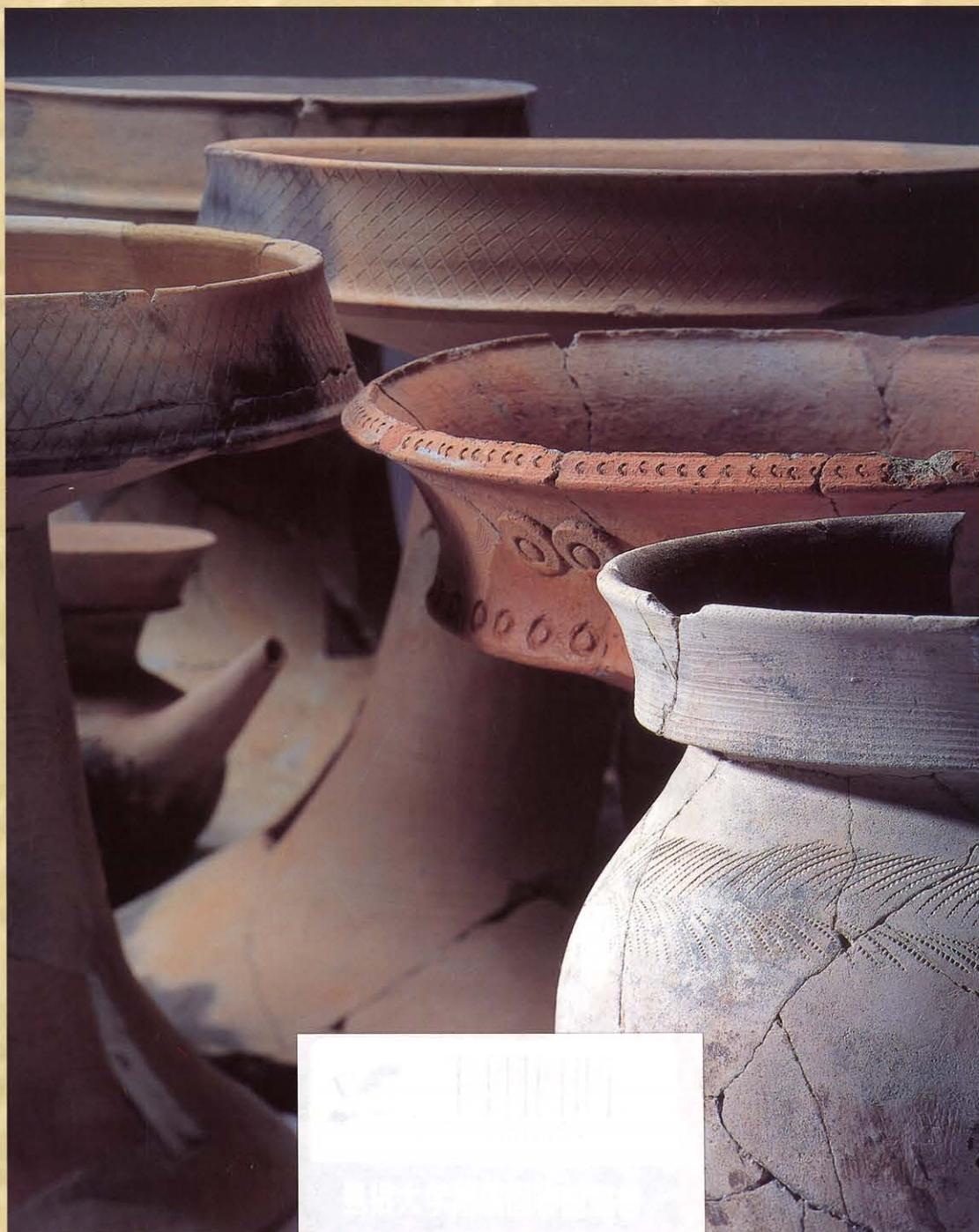


# 山持遺跡

(Vol.1)

国道431号道路改築事業(東林木バイパス)  
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2



2005年3月  
島根県教育委員会

# 山持遺跡

(Vol.1)

国道431号道路改築事業(東林木バイパス)  
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2

2005年3月

島根県教育委員会



小型特殊器台出土状況



小型特殊器台・弥生土器集合写真

# 序

本書は、島根県教育委員会が島根県土木部から委託を受けて、平成14年度に実施した国道431号道路東林木バイパス建設予定地内に所在する山持遺跡の発掘調査の成果をとりまとめたものです。

山持遺跡は出雲市西林木町に位置し、北山山系南麓に展開する扇状地に立地しています。周辺には出雲地方で最古級の前方後円墳である大寺1号墳、戦国時代の尼子・毛利の合戦において重要な位置を占めた鳶ヶ巣城などがあり、出雲平野の歴史を物語る遺跡や景観が多く残されています。

本遺跡では、弥生時代の旧河道から弥生時代後期を中心とする遺物が多量に見つかりました。その中には吉備地方（今の岡山県）の墳墓で祭祀をする際に使われる特別な土器である小型特殊器台も含まれており、当時の交流などを考えていくうえで貴重な資料となりました。これらの調査結果は出雲の古代史の一端を明らかにしただけでなく、全国的な歴史の究明にも貴重な資料を提供したものであると思われれます。本書が地域の歴史と埋蔵文化財に対する理解と関心を高めるための一助となれば幸いに思います。

最後になりましたが、発掘調査と報告書の作成にあたり御協力いただきました地元住民の方々や、出雲市ならびに島根県土木部をはじめとする関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成17年3月

島根県教育委員会

教育長 広 沢 卓 嗣



# 序

本書は、島根県教育委員会が島根県土木部から委託を受けて、平成14年度に実施した国道431号道路東林木バイパス建設予定地内に所在する山持遺跡の発掘調査の成果をとりまとめたものです。

山持遺跡は出雲市西林木町に位置し、北山山系南麓に展開する扇状地に立地しています。周辺には出雲地方で最古級の前方後円墳である大寺1号墳、戦国時代の尼子・毛利の合戦において重要な位置を占めた鳶ヶ巣城などがあり、出雲平野の歴史を物語る遺跡や景観が多く残されています。

本遺跡では、弥生時代の旧河道から弥生時代後期を中心とする遺物が多量に見つかりました。その中には吉備地方（今の岡山県）の墳墓で祭祀をする際に使われる特別な土器である小型特殊器台も含まれており、当時の交流などを考えていくうえで貴重な資料となりました。これらの調査結果は出雲の古代史の一端を明らかにしただけでなく、全国的な歴史の究明にも貴重な資料を提供したものであると思います。本書が地域の歴史と埋蔵文化財に対する理解と関心を高めるための一助となれば幸いに思います。

最後になりましたが、発掘調査と報告書の作成にあたり御協力いただきました地元住民の方々や、出雲市ならびに島根県土木部をはじめとする関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成17年3月

島根県教育委員会

教育長 広 沢 卓 嗣

# 例 言

1. 本書は鳥根県土木部道路建設課の委託を受けて、鳥根県教育委員会が平成14年度に実施した国道431号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査地は下記のとおりである。  
鳥根県出雲市西林木町215-3外 山持遺跡
3. 調査組織は次のとおりである。  
調査主体 鳥根県教育委員会  
平成14年度 現地調査  
[事務局] 宍道正年（鳥根県埋蔵文化財調査センター所長）、卜部吉博（副所長）  
内田 融（総務課長）、坂本淑子（総務係長）  
[調査員] 今岡一三（調査第1係長）、守山博義（同臨時職員）、梶谷泰子（同）  
永井宏子（同）  
平成16年度 報告書作成  
[事務局] 山根正巳（鳥根県埋蔵文化財調査センター所長）、卜部吉博（副所長）  
永島静司（総務グループ課長）、川原和人（調査第1グループ課長）  
[調査員] 今岡一三（調査第1グループ主幹）、永井宏子（同臨時職員）
4. 発掘調査、ならびに報告書作成にあたっては、以下の方々から有益な御指導・御助言・御協力をいただいた。記して謝意を表しておきたい。（敬称略）  
渡邊貞幸（鳥根大学法文学部教授）、田中義昭、蓮岡法暲（鳥根県文化財保護審議会委員）、宇垣匡雅（岡山県山陽町教育委員会主幹）、石野博信（徳島文理大学教授）、藤田憲司（大阪府文化財センター所長）、北井利幸（尼崎市立田能資料館）、福井 優（姫路市教育委員会）
5. 挿図で使用した方位は、測量法による第3座標系X軸方向を指し、平面直角座標系XY座標は日本測地系による。また、レベル高は海拔高を示す。
6. 本書で使用した図のうち、第2図は国土地理院発行のものを使用した。
7. 本書に掲載した木製品の保存処理は株式会社京都科学に委託した。
8. 本書に掲載した遺物の実測図は各調査員の他に、保科邦彦、松山智弘、石橋弥生、糸川寿幸と整理作業員が行った。
9. 本書に掲載した遺物の写真撮影は松尾充品、澤田正明、今岡が行った。
10. 本書の執筆は第4章を除き今岡が行い、第4章については小林謙一・春成秀爾・坂本 稔・尾崎大真・新免歳靖氏（国立歴史民俗博物館）・松崎浩之氏（東京大学原子力研究総合センター）に御執筆いただいた。
11. 本書掲載の遺跡出土遺物及び実測図、写真などの資料は、鳥根県埋蔵文化財調査センター（松江市打出町33）で保管している。

# 本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過 .....	1
第2章 位置と歴史的環境 .....	2
第3章 調査の結果 .....	6
第1節 遺構 .....	9
第2節 出土遺物 .....	14
第4章 自然科学的分析 .....	115
第5章 まとめ .....	127

# 挿図目次

第1図 山持遺跡位置図 .....	1
第2図 山持遺跡と周辺の遺跡 (S = 1/25,000) .....	5
第3図 山持遺跡調査区位置図 (S = 1/4,000) .....	6
第4図 A区西壁、C区東壁セクション図 (S = 1/60) .....	7
第5図 B区、C区南壁セクション図 (= 1/60) .....	8
第6図 河道及び遺構位置図 (S = 1/600) .....	9
第7図 木製品、土器出土状況 (S = 1/300) .....	10
第8図 SX01実測図 (S = 1/40) .....	11
第9図 C区杭、矢板検出状況 (S = 1/80) .....	12
第10図 貝塚平面及びセクション図 (S = 1/60) .....	13
第11図 A区土器出土状況 (S = 1/150) (赤：包含層2・青：包含層1) .....	15
第12図 B区土器出土状況 (S = 1/150) (赤：包含層2・青：包含層1) .....	16
第13図 C区土器出土状況 (S = 1/150) (赤：包含層2・青：包含層1) .....	17
第14図 小型特殊器台出土状況① (S = 1/40) .....	18
第15図 小型特殊器台出土状況② (S = 1/60、土器はS = 1/12) .....	19
第16図 A区木製品出土状況 (S = 1/120、遺物はS = 1/12) .....	23
第17図 B区木製品出土状況 (S = 1/120、遺物はS = 1/12) .....	24
第18図 C区木製品出土状況 (S = 1/120、遺物はS = 1/12) .....	25
第19図 包含層2出土遺物1 (S = 1/4) .....	28
第20図 包含層2出土遺物2 (S = 1/4) .....	29
第21図 包含層2出土遺物3 (S = 1/4) .....	30
第22図 包含層2出土遺物4 (S = 1/3) .....	31
第23図 包含層2出土遺物5 (S = 1/3) .....	32
第24図 包含層2出土遺物6 (S = 1/3) .....	33
第25図 包含層2出土遺物7 (S = 1/3) .....	34

第26図	包含層 2 出土遺物 8 (S = 1 / 3)	35
第27図	包含層 2 出土遺物 9 (S = 1 / 3)	36
第28図	包含層 2 出土遺物 10 (S = 1 / 3)	37
第29図	包含層 2 出土遺物 11 (S = 1 / 3)	38
第30図	包含層 2 出土遺物 12 (S = 1 / 3)	39
第31図	包含層 2 出土遺物 13 (S = 1 / 3)	40
第32図	包含層 2 出土遺物 14 (S = 1 / 3)	41
第33図	包含層 2 出土遺物 15 (S = 1 / 3)	42
第34図	包含層 2 出土遺物 16 (S = 1 / 3)	43
第35図	包含層 2 出土遺物 17 (S = 1 / 3)	44
第36図	包含層 2 出土遺物 18 (S = 1 / 3)	45
第37図	包含層 2 出土遺物 19 (S = 1 / 3)	46
第38図	包含層 2 出土遺物 20 (S = 1 / 3)	47
第39図	包含層 2 出土遺物 21 (S = 1 / 3)	48
第40図	包含層 2 出土遺物 22 (S = 1 / 3)	49
第41図	包含層 2 出土遺物 23 (S = 1 / 3)	50
第42図	包含層 2 出土遺物 24 (S = 1 / 3)	51
第43図	包含層 2 出土遺物 25 (S = 1 / 3)	52
第44図	包含層 2 出土遺物 26 (S = 1 / 3)	53
第45図	包含層 2 出土遺物 27 (S = 1 / 3、15は 1 / 1)	54
第46図	包含層 1 出土遺物 1 (S = 1 / 3)	55
第47図	包含層 1 出土遺物 2 (S = 1 / 3)	56
第48図	包含層 1 出土遺物 3 (S = 1 / 3)	57
第49図	包含層 1 出土遺物 4 (S = 1 / 3)	58
第50図	包含層 1 出土遺物 5 (S = 1 / 3)	59
第51図	包含層 1 出土遺物 6 (S = 1 / 3)	60
第52図	包含層 1 出土遺物 7 (S = 1 / 3)	61
第53図	包含層 1 出土遺物 8 (S = 1 / 3)	62
第54図	包含層 1 出土遺物 9 (S = 1 / 3)	63
第55図	包含層 1 出土遺物 10 (S = 1 / 3)	64
第56図	包含層 1 出土遺物 11 (S = 1 / 3)	65
第57図	包含層 1 出土遺物 12 (S = 1 / 3)	66
第58図	包含層 1 出土遺物 13 (S = 1 / 3)	67
第59図	包含層 1 出土遺物 14 (S = 1 / 3)	68
第60図	包含層 1 出土遺物 15 (S = 1 / 3)	69
第61図	包含層 1 出土遺物 16 (S = 1 / 3)	70
第62図	包含層 1 出土遺物 17 (S = 1 / 3)	71
第63図	包含層 1 出土遺物 18 (S = 1 / 3)	72
第64図	包含層 1 出土遺物 19 (S = 1 / 3)	73

第65図	包含層 1 出土遺物20 (S = 1 / 3)	74
第66図	包含層 1 出土遺物21 (S = 1 / 3)	75
第67図	包含層 1 出土遺物22 (S = 1 / 3)	76
第68図	包含層 1 出土遺物23 (S = 1 / 3)	77
第69図	包含層 1 出土遺物24 (S = 1 / 3)	78
第70図	包含層 1 出土遺物25 (S = 1 / 3)	79
第71図	包含層 1 出土遺物26 (S = 1 / 3)	80
第72図	包含層 1 出土遺物27 (S = 1 / 3)	81
第73図	包含層 1 出土遺物28 (S = 1 / 3)	82
第74図	包含層 1 出土遺物29 (S = 1 / 3)	83
第75図	包含層 1 出土遺物30 (S = 1 / 3)	84
第76図	包含層 1 出土遺物31 (S = 1 / 3)	85
第77図	石製品 1 (S = 1 / 3)	86
第78図	石製品 2 (S = 1 / 3)	87
第79図	石製品 3 (S = 1 / 3)	88
第80図	木製品 1 (S = 1 / 6)	89
第81図	木製品 2 (S = 1 / 6)	90
第82図	木製品 3 (S = 1 / 6、4・5・6はS = 1 / 3)	91
第83図	木製品 4 (S = 1 / 6)	92
第84図	木製品 5 (S = 1 / 6)	93
第85図	木製品 6 (S = 1 / 6)	94
第86図	木製品 7 (S = 1 / 6)	95
第87図	木製品 8 (S = 1 / 6)	96
第88図	木製品 9 (S = 1 / 6)	97
第89図	木製品10 (S = 1 / 6)	98
第90図	木製品11 (S = 1 / 6)	99
第91図	木製品12 (S = 1 / 6)	100
第92図	木製品13 (S = 1 / 6)	101
第93図	木製品14 (S = 1 / 6)	102
第94図	木製品15 (S = 1 / 6)	103
第95図	木製品16 (S = 1 / 6)	104
第96図	木製品17 (S = 1 / 6)	105
第97図	木製品18 (S = 1 / 6)	106
第98図	木製品19 (S = 1 / 6)	107
第99図	木製品20 (S = 1 / 6)	108
第100図	木製品21 (S = 1 / 6)	109
第101図	木製品22 (S = 1 / 6)	110
第102図	木製品23 (S = 1 / 6)	111
第103図	木製品24 (S = 1 / 6)	112

第104図	木製品25 (S = 1 / 6)	.....	113
第105図	木製品26 (S = 1 / 6)	.....	114
第106図	遺物時期別割合	.....	127

## 写真図版目次

### 写真図版 1

上下：A区土器出土状況

### 写真図版 2

上：A区木製品出土状況      下：B区土器出土状況

### 写真図版 3

上：B区土器出土状況      下：B区木製品出土状況

### 写真図版 4

上：B区完掘状況      下：C区S X01検出状況

### 写真図版 5

上：C区貝塚セクション      下：C区矢板列

### 写真図版 6

上：C区河道及び杭列      下：C区小型特殊器台出土状況

### 写真図版 7

上：C区小型特殊器台出土状況      下：C区木製品出土状況

### 写真図版 8

上下：C区木製品出土状況

### 写真図版 9

上：C区南壁セクション      下：調査風景

### 写真図版10~13

特殊土器

### 写真図版14~40

包含層 2 出土遺物

### 写真図版41~80

包含層 1 出土遺物

### 写真図版81~98

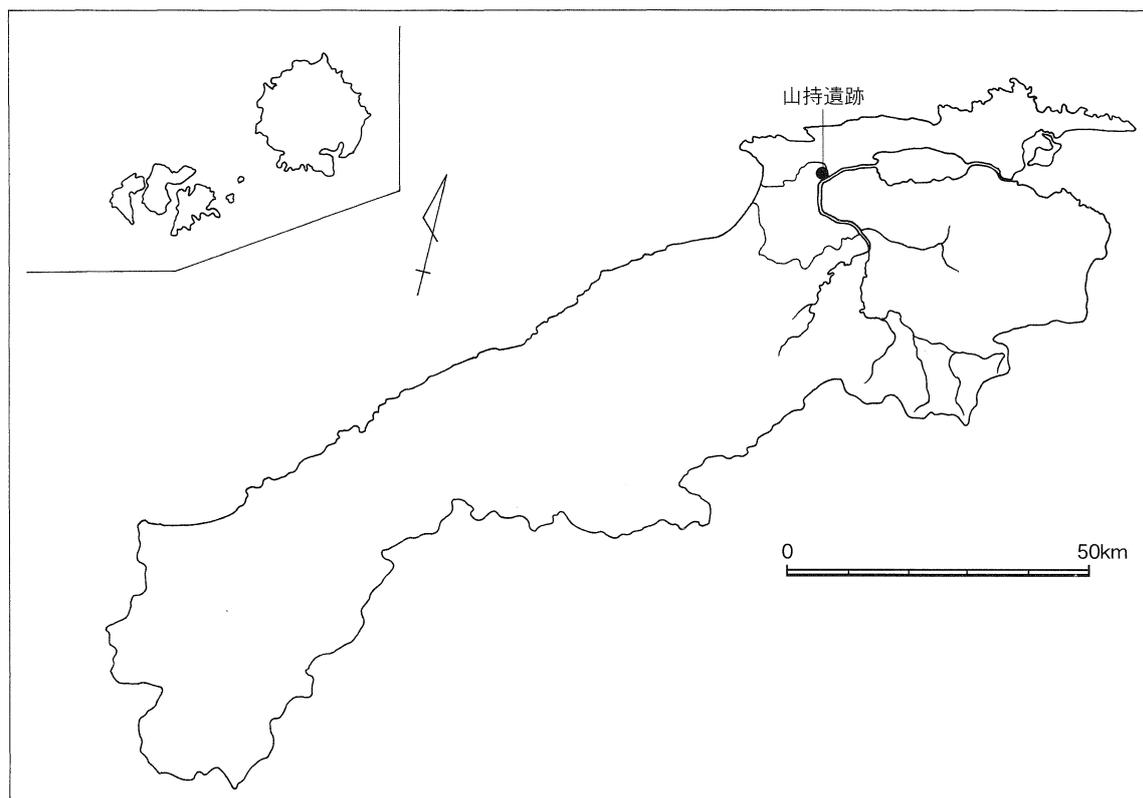
木製品

# 第1章 調査に至る経緯と経過

一般国道431号道路は、出雲市を起点として平田市から松江市・境港市を経て米子市に至る総延長95.8kmの道路である。この道路は出雲平野部の宍道湖、中海をはさみ南側の国道9号線と共に北側を結ぶ大動脈である。一般国道431号東林木バイパスは宍道湖・中海北岸の市町村を連結する地域高規格道路「境港出雲道路」の一部を構成するとともに、現道の線形不良及び交通混雑の解消を目的とし、出雲市矢尾町から出雲市東林木町に至る延長4.2kmの4車線計画で、平成10年12月地域高規格道路の整備計画に組み込まれた道路である。

鳥根県教育委員会は、平成11年度に出雲土木建築事務所から遺跡有無の照会を受けて、平成12年3月に事業予定地内の分布調査を実施し、青木遺跡、馬渡り遺跡、山持遺跡、里方本郷遺跡、下澤遺跡の5遺跡を発見するとともに、遺跡の存在と取り扱いについて協議が必要な旨を回答した。平成12年度には青木遺跡と馬渡り遺跡の範囲確認調査を実施し、平成13年度には青木遺跡の発掘調査と本書で報告する山持遺跡の範囲確認調査を実施した。その範囲確認調査の結果、山持遺跡は総面積450,000m<sup>2</sup>、そのうち45,200m<sup>2</sup>が調査対象面積となり、平成14年度から発掘調査を開始することとなった。

平成14年度の調査は広範囲にわたる遺跡の東端部分を山持遺跡I区(約4,300m<sup>2</sup>)として5月7日から調査を開始した。調査区域は水田地帯で、耕作土上面から約3m下層に遺物包含層を2層確認した。しかしながら、標高2m地点であることからか、調査区内はいたるところで湧水に悩まされ続け、調査区が水没するなどして調査が中断することも度々であった。そしてある日突然のごとく、調査区周辺に亀裂及び陥没が認められたため、調査区全域を一度に掘削することは危険である



第1図 山持遺跡位置図

と判断し、調査区を西からA区、B区、C区として調査を進めることにした。しかし、調査が終了すると同時に湧水を抑えながら調査区が崩壊しないよう埋め戻しをする必要があるため、各調査区間の地盤をある程度残しながら調査を行った。そのため調査区全面の調査を行ったわけではないことをここで断っておきたい。

遺物包含層は弥生時代後期と古墳時代初頭の2層あり、調査区を東西に延びる弥生時代の旧河道に流れ込むように多量の土器と木製品が出土した。調査終了間際の9月30日にC区から小型特殊器台がまとまって出土し、写真撮影、実測等を行い、10月11日に調査は終了した。

## 第2章 位置と歴史的環境

山持遺跡は出雲市西林木町に所在する。出雲市街地から北方約4km、出雲平野北東部の北山山麓に位置し、北山の南側を東から西に向かって流れている山持川沿いに広範囲に広がる遺跡である。北を島根半島、南を中国山地、西を日本海、東を宍道湖に囲まれた出雲平野は、斐伊川と神戸川の沖積作用によって形成された県内最大の平野であり、有数の穀倉地帯として知られている。

平野の沖積が始まったのは、約7000年前の縄文海進とその後の海退により始まったと考えられ、その後、二度にわたる三瓶山の噴火により、火山灰等の噴火物が堆積して平野中央部が形成され始めたと言われている。さらに中世には中国山地で製鉄が盛んになり、その後「鉄穴流し」による土砂の流入等による斐伊川東流により、平野は東へとさらに広がり近世に現在の地形へと定着したと考えられている。

### 縄文時代

出雲平野の最も古い遺跡としては、早期末の菱根遺跡や上長浜貝塚が知られているが、これらは平野縁辺部に位置している。中期の遺跡は少なく三田谷Ⅲ遺跡から土器が出土している程度である。後・晩期になると出雲大社境内遺跡、三田谷Ⅰ遺跡、矢野遺跡などが知られているが、平野北東部の山持遺跡近辺では現在のところ確認されていない。

### 弥生時代

弥生時代になると平野全域に集落が形成され始める。前期には縄文時代から続く矢野遺跡や原山遺跡などに加え、三田谷Ⅰ遺跡や蔵小路西遺跡などがある。中期から後期にかけて遺跡の数が増大し、神戸川によって生成された旧自然堤防上には古志本郷遺跡、白枝荒神遺跡、天神遺跡、下古志遺跡、小山遺跡などの環濠集落の様相を呈した大規模な集落も出現している。また、多量の木製品が出土した姫原西遺跡や海上遺跡、山持遺跡（山持川川岸遺跡含む）など新たな遺跡も増加し、平野部の開発がかなり進んでいたことが窺える。この頃、他地域との交流も活発に行われ、白枝荒神遺跡、矢野遺跡、正蓮寺周辺遺跡、山持遺跡から吉備系の特殊土器が出土している。特に山持遺跡では旧河道から小型特殊器台がまとまって出土していることが興味深い。さらに、平野南側の丘陵上には最大級の四隅突出型墳丘墓である西谷3号墓をはじめとする西谷墳墓群が出現し、吉備や北陸地方との交流も指摘されている。また、同墳丘墓の立地は丘陵上に限られると考えられてきたが、

近年の調査で平野低地の中野美保遺跡や山持遺跡の西側約2kmに位置する青木遺跡からも四隅突出型墳丘墓や方形貼石墓が発見され、青木遺跡では最古型式の四隅突出型墳丘墓が見つかったことにより、四隅突出型墳丘墓の発生について再考を促すこととなった。この他に三田谷Ⅰ遺跡では県内初の方形周溝墓が確認されている。

## 古墳時代

古墳時代の集落は基本的に弥生時代から継続するものが多いが、古志本郷遺跡のように前期には大溝への土器廃棄後、衰退する集落もみられ、出雲平野の集落はその後減少する傾向にある。中・後期の集落としては三田谷Ⅰ遺跡や中野美保遺跡、斐伊川鉄橋遺跡などわずかな数しか知られていない。山持遺跡も同じ傾向をたどったと考えられるが、出雲平野北東部では出雲地方で最古の前方後円墳とされる大寺1号墳が築造されていることから、北山山麓では新たな集落がいち早く形成されていることが窺える。

前期古墳には上記の大寺1号墳のほかに平野西部の筒形銅器が出土した山地古墳など数えるほどしかないが、後期になると平野中央部に最大規模の前方後円墳である大念寺古墳や上塩冶築山古墳、地蔵山古墳などに代表される出雲西部で最大クラスの古墳が築かれるようになり、有力首長の存在が窺える。後期後葉以降は横穴墓の造墓が盛んに行われ、180穴以上が密集する上塩冶横穴墓群などが知られている。北山山麓では出雲市内最大の方墳をはじめとする膳棚山古墳群や横穴式石室などを内部主体とする平林寺山古墳群、古前背後横穴墓群、古前西北崖上横穴墓、傘屋背後横穴墓群などが築かれている。

## 奈良・平安時代

奈良時代の出雲平野は律令制下の行政区画でいう「神門郡」と「出雲郡」に編成され、山持遺跡の地は出雲郡伊努郷にあたる。同じ伊努郷の青木遺跡では多量の墨書土器や木簡、神社施設の可能性をもつ建物跡や祭祀関連遺構、信仰関連の特殊遺物が検出され官衙や神祇祭祀・寺院の関係性などを考える上で貴重な資料となった。集落としては、青木遺跡の北側にある多量の土師質土器や須恵器が出土した大寺三蔵遺跡、赤彩を施した土師器などが出土した高浜Ⅱ遺跡、里方別所遺跡などが広く分布しており、平野北東部における遺跡集中地域となっている。出雲平野全域を見ると官衙関連遺跡として推定されるものに、和同開珎や木簡、墨書土器などが出土した三田谷Ⅰ遺跡、墨書土器、緑釉陶器、大型の掘立柱建物跡が検出された天神遺跡、緑釉陶器や円面硯、大型掘立柱建物跡を検出した神門郡家との関連が注目される古志本郷遺跡がある。寺院跡としては、『出雲国風土記』記載の新造院に比定される神門寺境内廃寺や長者原廃寺などが知られている。また、近年の調査で火葬骨を納めた石櫃が見つかった光明寺3号墓のほか、小坂古墳、朝山古墓、菅沢古墓など石製骨臓器を納めた墓が見つかっており、8世紀に火葬が行われていたことが確認されている。

## 鎌倉時代以降

中世の遺跡としては、幅約4mの堀や掘立柱建物跡、12世紀～15世紀の遺物が多数見つかった蔵小路西遺跡、総柱の掘立柱建物跡が確認された渡橋沖遺跡があり、前者は朝山氏の館跡と推定され

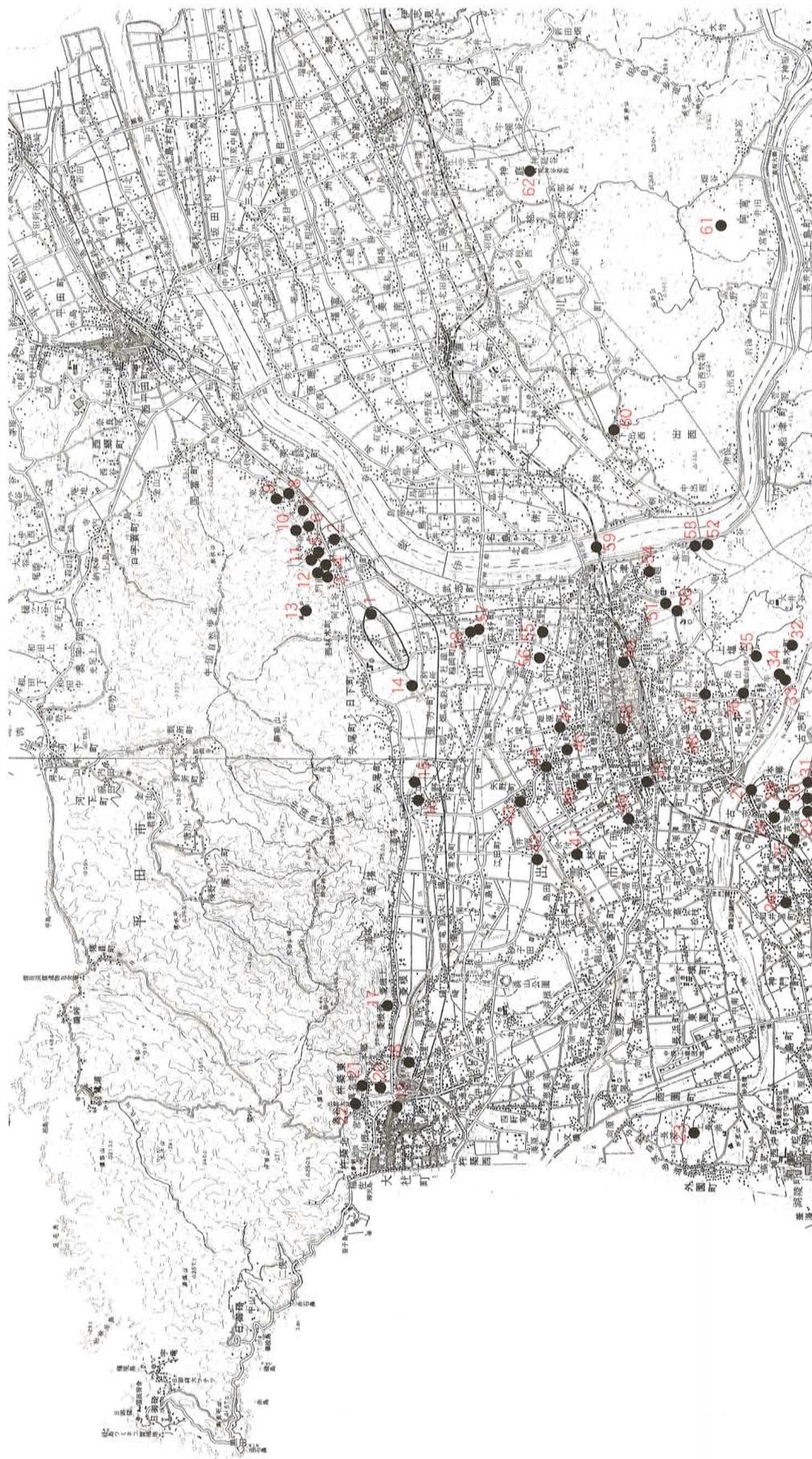
ている。墳墓としては青磁碗・皿などを副葬する荻杼古墓や姫原西遺跡の木棺墓など当時の墓制を窺える貴重な資料がある。

北山山麓周辺については、青木遺跡で多数の掘立柱建物跡と青磁・白磁の碗などが見つまっている。戦国時代には、毛利氏と尼子氏などの戦乱により、市内でも最大規模の山城である鳶ヶ巣城が築かれている。

以上のように、山持遺跡の所在する出雲平野北東部の北山山麓周辺は弥生時代から重要な地域であったことが窺える。

#### 〔参考文献〕

- 鳥根県教育委員会「出雲・上塩冶地域を中心とする埋蔵文化財調査報告」1980  
出雲市教育委員会「遺跡が語る古代の出雲」1997  
出雲市教育委員会「山持川川岸遺跡」1996  
出雲市教育委員会「山地古墳発掘調査報告書」1986  
鳥根県教育委員会「斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書1～14」  
出雲市教育委員会「上長浜貝塚」1996  
出雲市教育委員会「天神遺跡第7次発掘調査報告書」1997  
出雲市教育委員会「光明寺3号墓・4号墓」2000  
鳥根県教育委員会「中野美保遺跡 一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書4」2004  
鳥根県教育委員会「青木遺跡 国道431号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1」  
2004  
近藤 正「出雲・荻杼古墓発見の骨臓器」1969『考古学雑誌』54-3



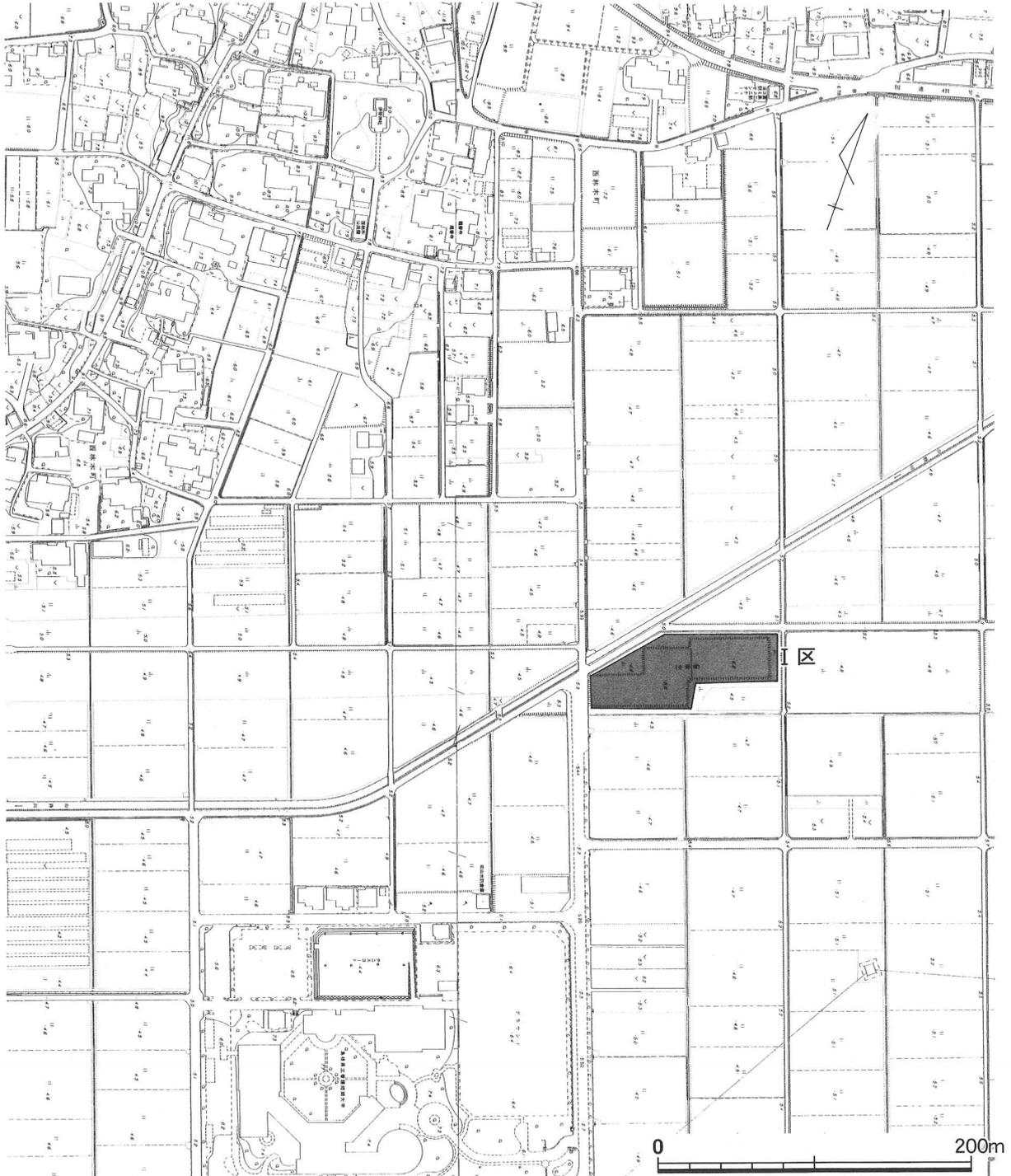
- |                     |             |             |           |            |           |            |            |
|---------------------|-------------|-------------|-----------|------------|-----------|------------|------------|
| 1 山持遺跡 (旧山持川川岸遺跡含む) | 9 美談神社1号墳   | 17 養根遺跡     | 25 瓦塚古墳   | 33 三田谷1遺跡  | 41 白枝菟神遺跡 | 49 今市大倉寺古墳 | 57 荻野古墓    |
| 2 青木遺跡              | 10 大寺1号墳    | 18 原山遺跡     | 26 下古志遺跡  | 34 半分城跡    | 42 井原遺跡   | 50 菅沢古墓    | 58 荻野II遺跡  |
| 3 古前西北崖上構穴          | 11 平林寺山古墳群  | 19 鹿蔵山遺跡    | 27 古志本郷遺跡 | 35 上塩治構穴墓群 | 43 矢野遺跡   | 51 長者原廃寺   | 59 斐伊川鉄橋遺跡 |
| 4 傘屋背後構穴墓           | 12 古前背後構穴墓群 | 20 五反配遺跡    | 28 大槻古墳   | 36 地蔵山古墳   | 44 小山遺跡   | 52 長廻遺跡    | 60 後谷遺跡    |
| 5 離瀬山古墳群            | 13 鷹ヶ巣城跡    | 21 眞名井遺跡    | 29 妙蓮寺山古墳 | 37 上塩治築山古墳 | 45 渡橋沖遺跡  | 53 権現山城跡   | 61 天寺平廃寺   |
| 6 大寺三蔵遺跡            | 14 別所里方遺跡   | 22 出雲大社境内遺跡 | 30 湊土寺山城跡 | 38 神門寺境内廃寺 | 46 蔵小路西遺跡 | 54 西谷墳墓群   | 62 荒神谷遺跡   |
| 7 荒木古墳群             | 15 里方八石原遺跡  | 23 上長法貝塚    | 31 放れ山古墳  | 39 天神遺跡    | 47 姫原西遺跡  | 55 中野清水遺跡  |            |
| 8 美談神社2号墳           | 16 高浜II遺跡   | 24 知井宮多聞院遺跡 | 32 光明寺3号墓 | 40 香丁田遺跡   | 48 海上遺跡   | 56 中野美保遺跡  |            |

第2図 山持遺跡と周辺の遺跡 (S=1/25,000)

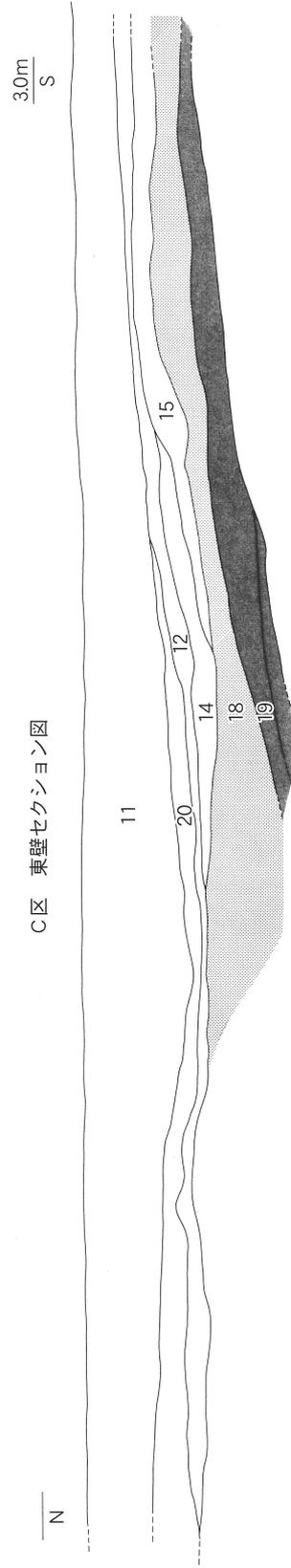
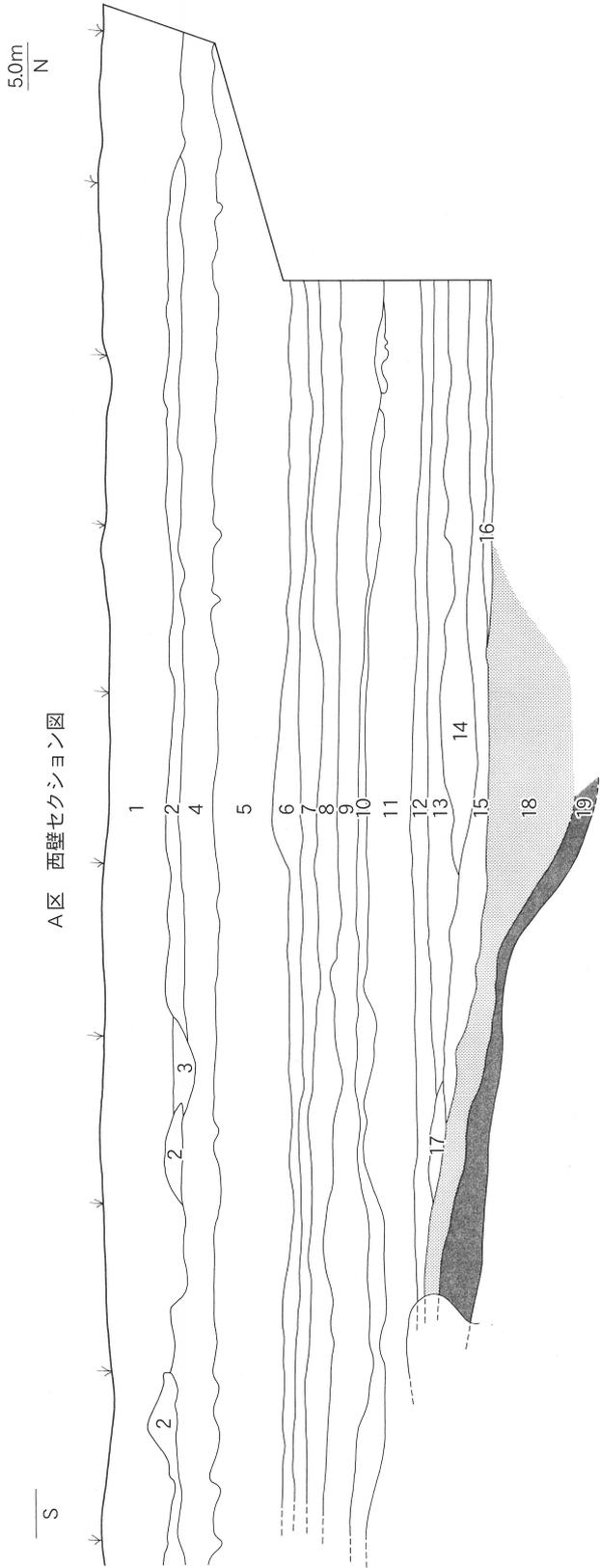
### 第3章 調査の結果

山持遺跡は伊努谷扇状地の前方に位置する水田地帯に広範囲に広がる遺跡である。今回調査対象のⅠ区は県立看護短大の北東側の水田部分にあたり、調査区は便宜的に西側からA区、B区、C区として調査を行った。

調査の結果、耕作土上面から約2.7m下の標高約1.5mの地点で東西方向に延びる旧河道と、この旧河道に流れ込む遺物包含層を確認した。遺物包含層は河道内では1m以上と厚く堆積し、間に腐



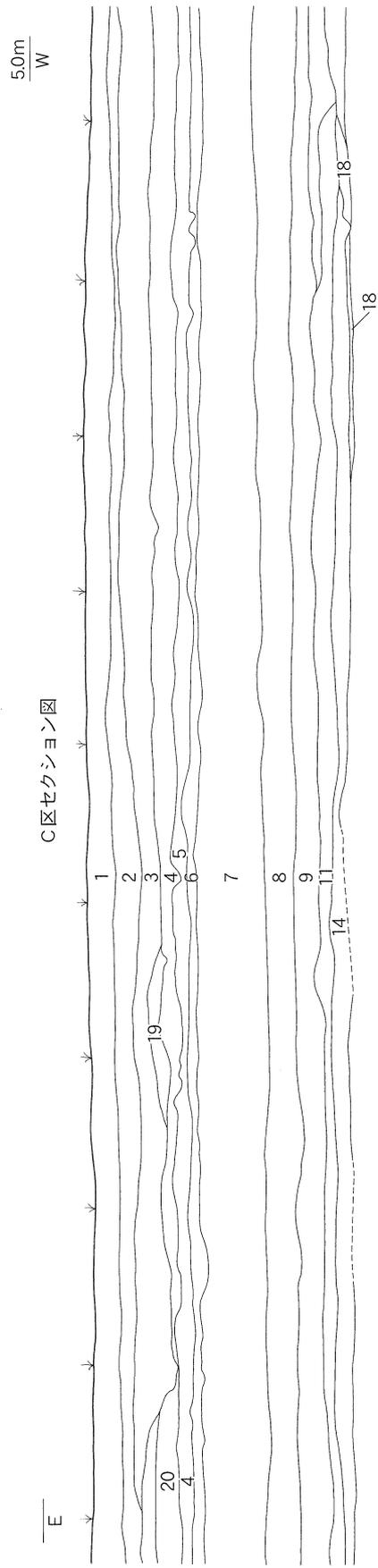
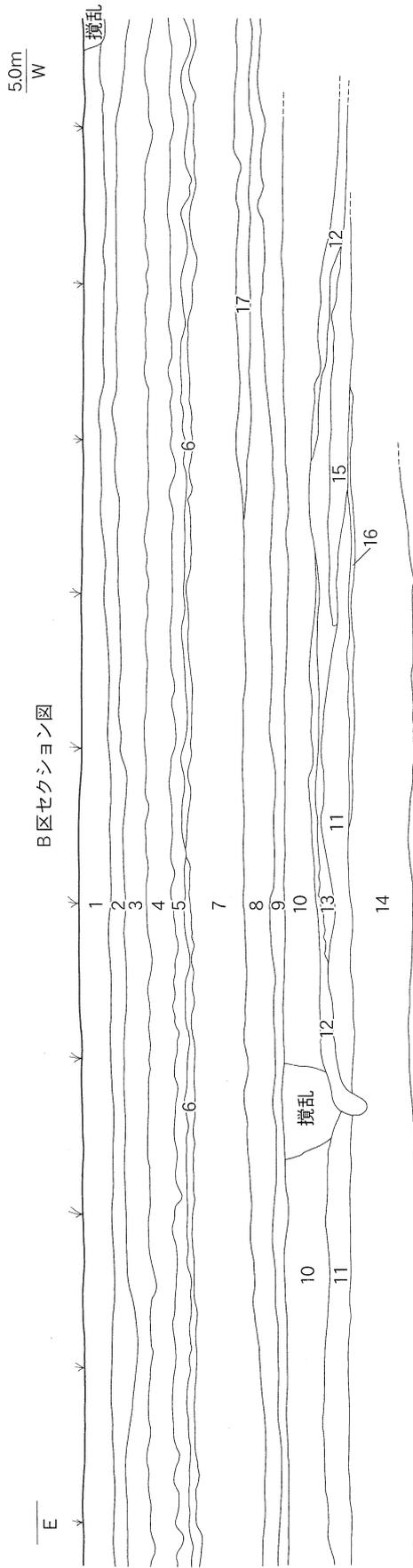
第3図 山持遺跡調査区位置図 (S = 1 / 4, 000)



- |           |                  |                    |
|-----------|------------------|--------------------|
| 1 明茶色土    | 11 赤灰色粘質土        | 16 暗茶褐色粘質土 (腐植土含む) |
| 2 黄灰色砂質土  | 12 黒茶色土          | 17 赤褐色土            |
| 3 暗黄灰色粘質土 | 13 黒黄茶色土 (腐植土含む) | 18 暗灰茶色粘質土 (含腐植1)  |
| 4 暗茶色土    | 14 暗黄灰色粘質土       | 19 暗灰褐色粘質土 (含腐植2)  |
| 5 暗灰色土    | 15 黒褐色粘質土        | 20 暗茶褐色土 (腐植土含む)   |



第4図 A区西壁、C区東壁セクション図 (S=1/60)



- |    |        |    |         |    |         |
|----|--------|----|---------|----|---------|
| 1  | 明茶色土   | 11 | 赤茶色土    | 16 | 黒色土     |
| 2  | 黄茶色粘質土 | 12 | 赤灰黄色砂質土 | 17 | 赤褐色土    |
| 3  | 黄茶色土   | 13 | 灰茶色土    | 18 | 黒褐色土    |
| 4  | 赤灰色粘質土 | 14 | 暗灰褐色土   | 19 | 明黄褐色砂質土 |
| 5  | 黒灰色土   | 15 | 赤褐色砂質土  | 20 | 白黄色砂質土  |
| 6  | 灰白色砂質土 |    |         |    |         |
| 7  | 赤灰色土   |    |         |    |         |
| 8  | 黄褐色粘質土 |    |         |    |         |
| 9  | 暗褐色粘質土 |    |         |    |         |
| 10 | 暗赤茶色土  |    |         |    |         |



第5図 B区、C区南壁セクション図 (= 1/60)

植土層を挟む部分もあるが概ね2層に分かれている。上層は暗灰茶色粘質土で弥生時代後期末～古墳時代前期を中心とする遺物を含み、下層は暗灰褐色砂質土で弥生時代後期を中心とする遺物を含んでいる。河道底面には腐植土層が堆積していたが、それより下層については湧水が激しく調査を断念した。以下、上層を包含層1、下層を包含層2として記述する。

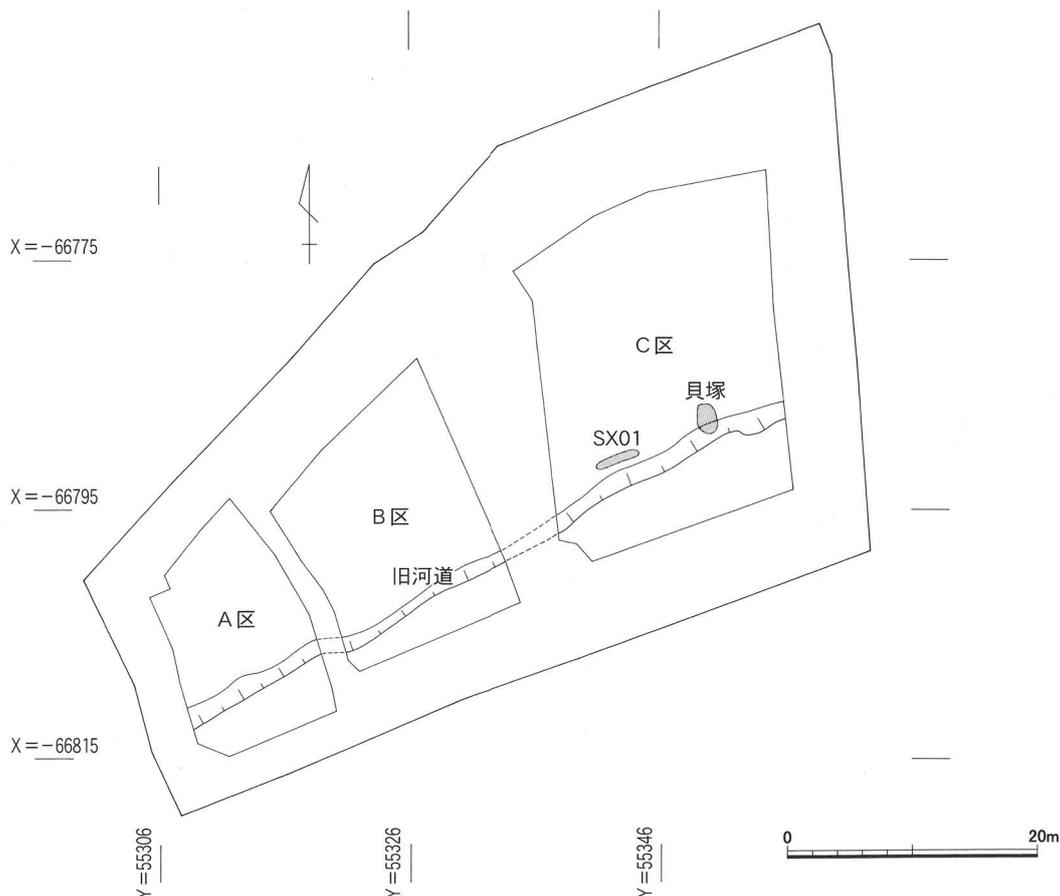
遺構としてはC区で集石遺構のSX01と貝塚、B区～C区間で所々ではあるが矢板列や杭列などによる護岸施設を検出した。

## 第1節 遺構

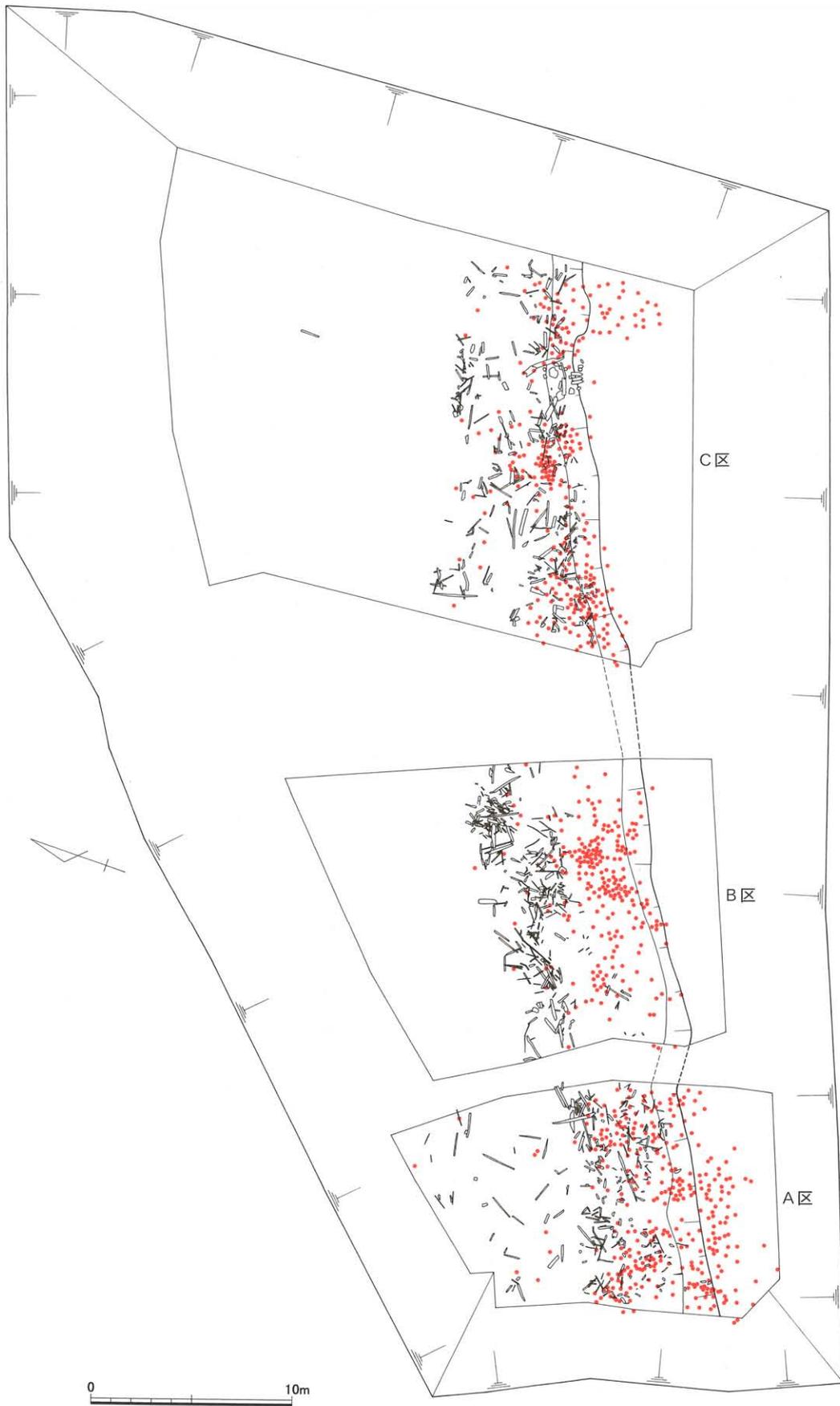
### 1. 旧河道

A区～C区の中央を東西方向に延びている自然河道で、その南岸部分を検出したが北岸は調査区内では確認できなかった。そのため正確な河幅については不明であるが20m以上あるものと推測される。深さについても河道検出面から掘り下げ面までの深さは1mを測るが、河底中央部の深さは調査が湧水のため中断を余儀なくされたため正確には捉えられないが最大で2m以上あるものと考えられる。

河道の堆積土は前述したとおり2層の遺物包含層が堆積しているが、包含層2の中には弥生時代中期の土器が出土していることから、おそらくこの時期には河道は形成されていたようである。また、古墳時代中期前半までは機能していたと考えられ、その間に規模の拡大・縮小等がおきていることもありうるが、人々の生活と密接に関連する河道であったといえ、建物跡等は確認していないが、河道内からの多量の出土遺物がそれを裏付けている。



第6図 河道及び遺構位置図 (S = 1 / 600)



第7図 木製品、土器出土状況 (S = 1 / 300)

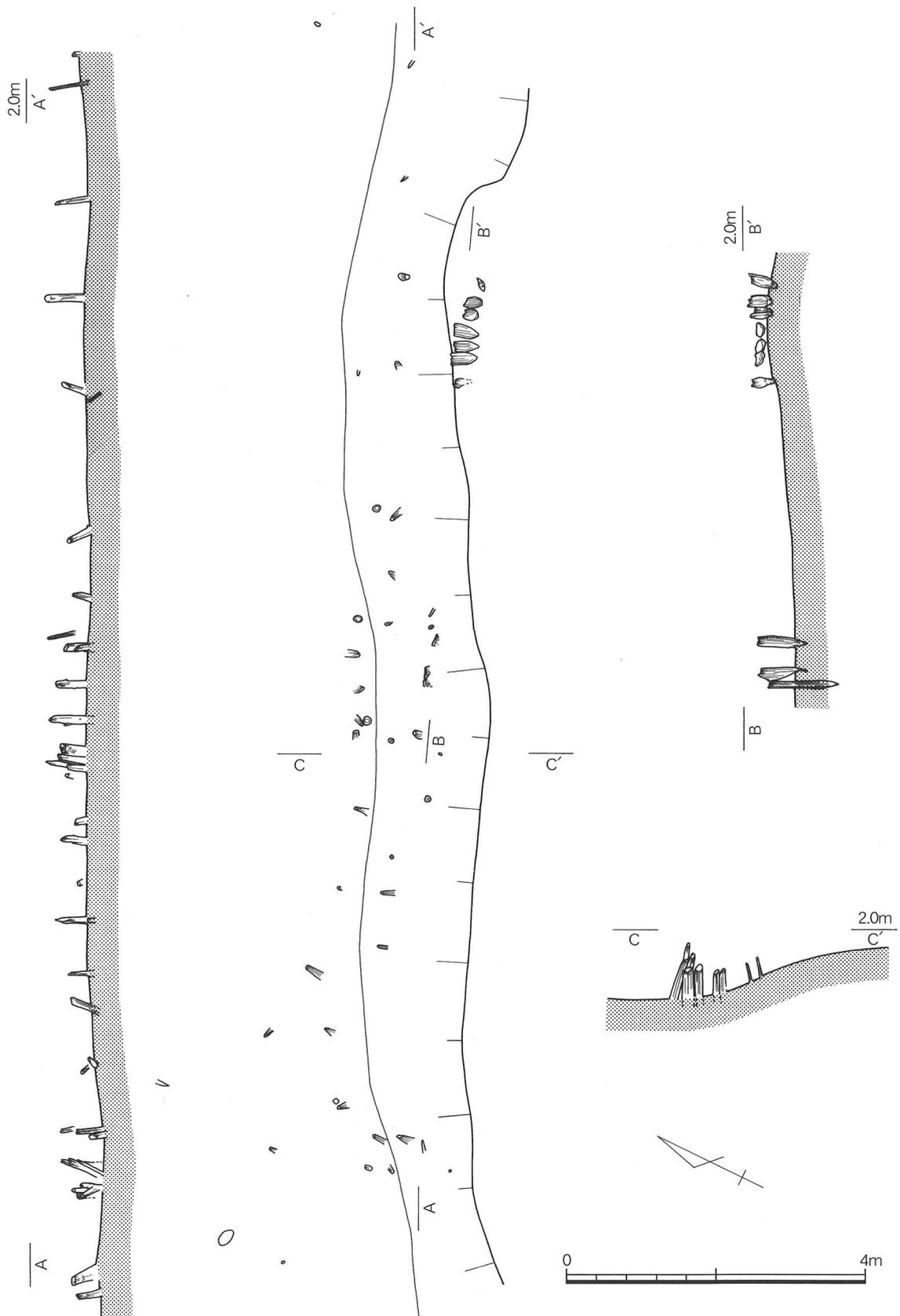


第8図 SX01実測図 (S = 1 / 40)

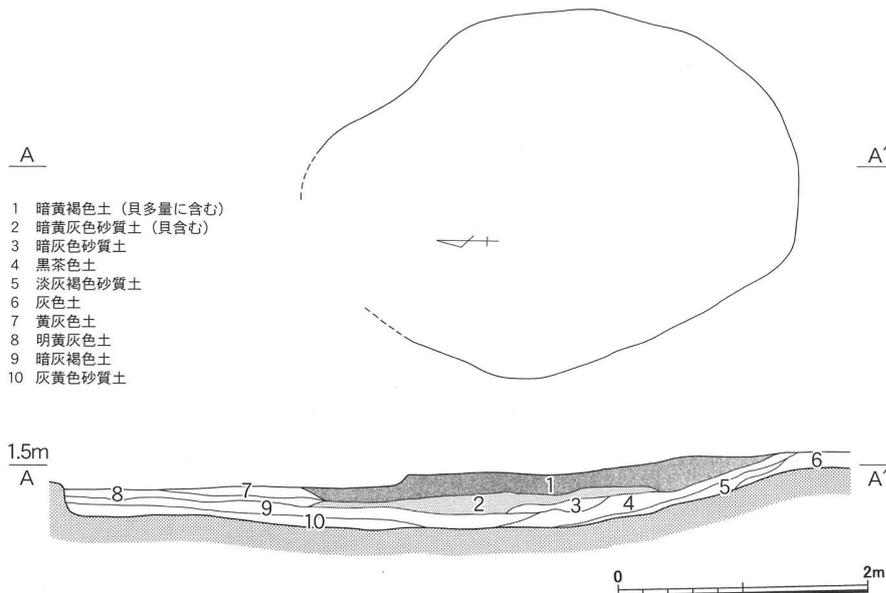
包含層の上層には厚さ約5～7cmの腐植土層が堆積しており、河道埋没後は沼地的環境であったと考えられる。さらに、この3層上にも腐植土層が堆積していることから、河道として機能しなくなってから何度か沼地化したようである。河道の流向については土層堆積状況や流木の状況などから検討したが判断できなかった。

## 2. SX01

C区の河道内南寄りで見出した礫を中心とした集石遺構である。上面及び遺構内に入っていた土器・木製品を取り上げた後の状況で、東西4.5m、南北30～90cmの範囲に10～40cm大の石が置かれていた。西側は幅約1mの方形状を呈し、そこから東に向かって細長く延びるように石が置かれている。西側部分では中央部の石を確認していないが、もともと無かったのか流失したものか判断できなかった。調査区内でこれほど石がまとまって出土した場所は他にないため、自然堆積ではなく



第9图 C区杭、矢板検出状況 (S=1/80)



第10図 貝塚平面及びセクション図 (S = 1 / 60)

- 1 暗黄褐色土 (貝多量に含む)
- 2 暗黄灰色砂質土 (貝含む)
- 3 暗灰色砂質土
- 4 黒茶色土
- 5 淡灰褐色砂質土
- 6 灰色土
- 7 黄灰色土
- 8 明黄灰色土
- 9 暗灰褐色土
- 10 灰黄色砂質土

人為的に作られたものと考えられるが、その性格、用途についてには不明である。

### 3. 杭列

杭列はB区とC区の河道内から検出したが、残存状況はあまり良くなくB区では数本が並ぶ程度であったが、C区では比較的まとまった状況で検出した。C区

の杭列は河岸斜面と底面付近で河道に並行するように東西方向に延びており、整然と並ぶような状況ではないが約1mの幅で2列にわたって打ち込まれている。また、各列の杭間距離も不規則であり、この2列が同時期に機能していたものかどうかは不明である。使用している杭材は2列とも同じで、径10cm前後の細長い丸太材の先端を切り落としただけのものである。

杭列の性格としては、河道方向と一致していることから河道が機能している時期に護岸施設として作られた可能性が高いと考えられる。

### 4. 矢板列

矢板列はC区の河道東側で検出した。河岸に沿って10枚程度打ち込まれていたが、河岸全面に打ち込まれていたものではないようである。幅20cm前後の板材の先端を尖らせたもので、ほとんどの頂部は失われており先端部分のみ残存していた。矢板の打ち込み面が不明なため作られた詳細な時期については不明と言わざるを得ないが、1枚ほど深く打ち込まれていたものの、その他の矢板は河道検出面に浅く突き刺さって内側に傾いた状況で検出した点からみて、河道が機能している時期に作られたとするより、河道埋没後の沼地化した時期に作られた可能性が高いかもしれない。

### 5. 貝塚

C区の東側で検出した東西3m、南北3.8m、厚さ約30cmを測る貝層である。残存状況は良好で堆積状況を見ると2層に分かれていることから、長期にわたって貝等を廃棄した貝塚であるといえる。第1層は暗黄褐色土で貝を多量に含み、第2層は暗黄灰色砂質土で第1層より貝の量が少ない。貝層を形成する大部分はヤマトシジミであるが、サザエやアワビなどの大型の貝も含まれていた。貝以外には土器が含まれているが、動物遺存体は確認できなかった。

## 第2節 出土遺物

### 1. 遺物出土状況

遺物は前述したとおり包含層2から弥生時代後期を中心とする土器、包含層1から弥生時代後期末～古墳時代初頭の土器が河岸に廃棄もしくは置かれたような状態で多量に出土している。主要なものには番号を付けて出土包含層が特定できるように取り上げ、それ以外の土器類も層位を確認しながら取り上げたが、湧水が激しく調査地が泥沼化するなどして、包含層1と2が入れ替わったり区別の付かなかった個体もある。木製品は河道内から出土しているため包含層1・2の区別は困難な状況であったが、土器同様に出土位置が特定できるように取り上げている。これらの遺物出土状況の全体図は第7図に示しており、中央部分から北側にかけて遺物が出土していない状況になっているが、これは底面まで調査ができなかったからである。

土器は各調査区とも河岸付近に密集して出土しているが、包含層ごとでの出土状況を見ると若干差があり、A区では包含層1出土のものが多く、B、C区では包含層2出土のものの方が多く見られる。また、A区では完形品はあまり目立たず破片状態のものが多く、B区、C区では完形品及びその場で押しつぶされた状態のものも多く見られ、特にB区では中央付近に最も集中している。土器の多くは残存状況が良好であることからそのほとんどが現位置を保っていたと考えられる。

この他にC区では小型特殊器台が出土している。小型特殊器台は河道中央付近で東西3m、南北2mの範囲に7～8個体分が鼓形器台と高坏とともに密集して出土している。この中には甕類は一切含まれていないことから、祭祀終了後何らかの目的のために器台、高坏だけを選んで廃棄もしくは置かれた可能性が考えられる。また、小型特殊器台の大きさは高さ35cm前後のもので、胎土等の特徴から当地域で模倣して作られたものようである。

本書に掲載した土器は、多量に復元された中でも完形品もしくはほぼ元の状態になったものを中心にしている。

木製品は河道内に多量の流木とともに折り重なるように堆積し、比較的残存状態の良い個体が目立つ。その内容は梯子、柱などをはじめとする建築部材のほか、農耕具、容器や腰掛などの雑具など多岐にわたり、当時の木工技術などを今に伝える貴重な資料である。現地調査時に木製品と判断したものだけ取り上げ、そのほとんどを本書に掲載した。その総数は205点であった。

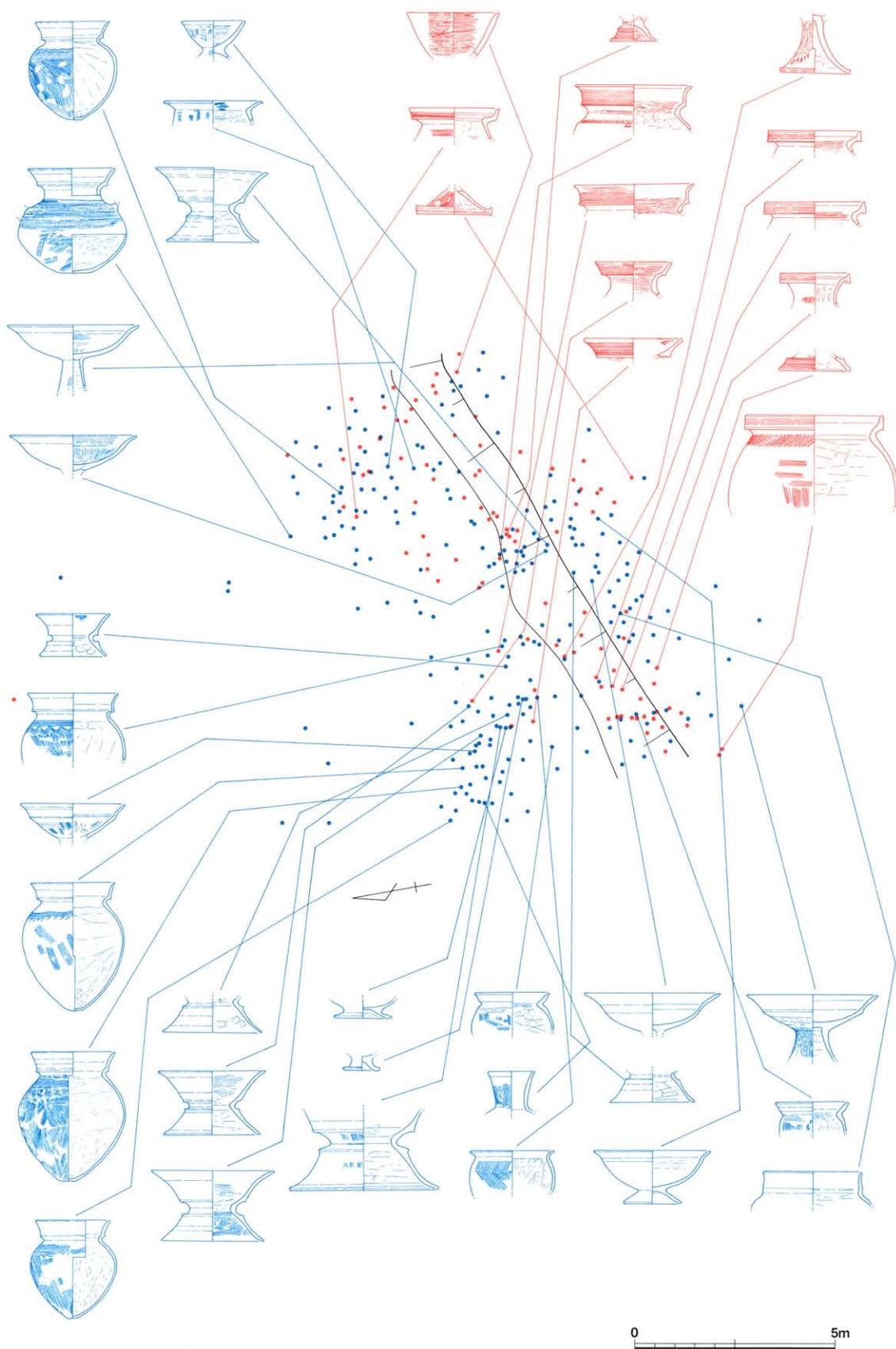
また、この他に石製品や碧玉剥片などが少量出土している。

### 2. 包含層2出土土器

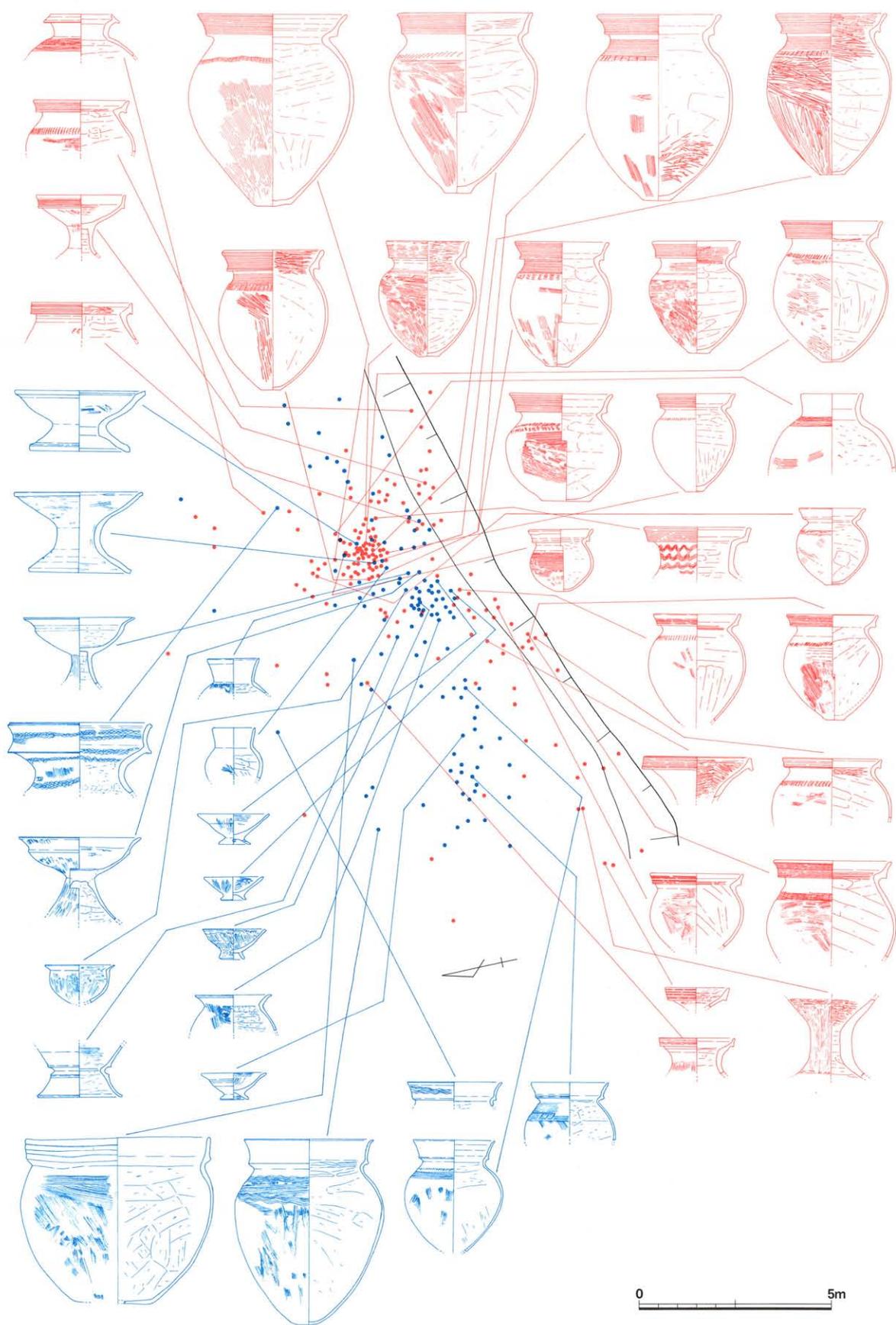
包含層2からは小型特殊器台と特殊壺形土器、壺甕類、高坏、器台などがあり、器種ごとの出土量は甕が大半を占めている。また、炭化物が付着したものが多量にあり、それらは観察表に示している。

#### 特殊土器（第19図～21図）

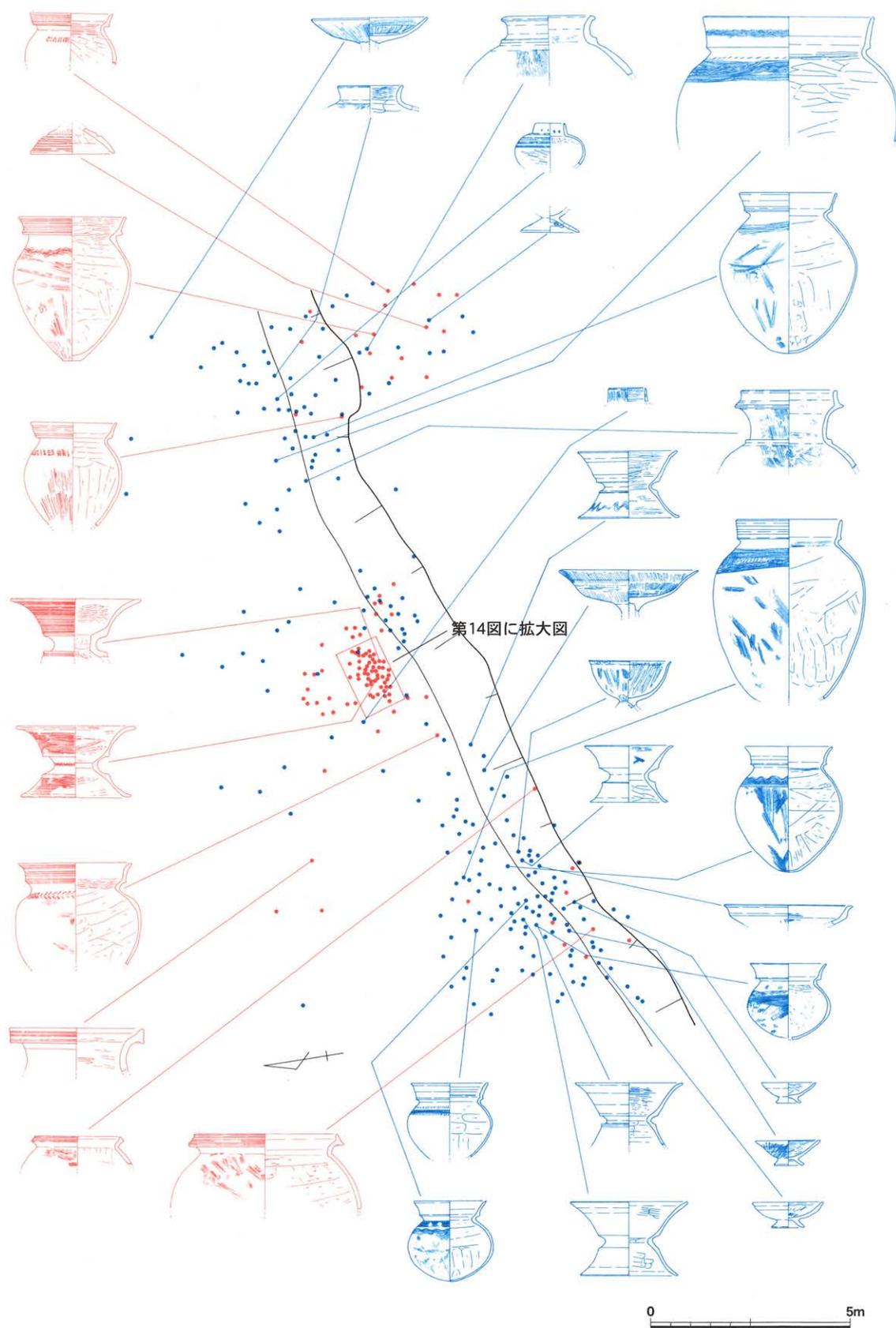
19-1～21-6は小型特殊器台と小型の器台で、21-7～15は特殊壺である。19-1・2、20-1～3はほぼ完形近くに復元できた小型特殊器台である。19-1は口縁部は内傾するもので、外面に斜格子文を施す。筒部外面下半は6条の平行沈線による連続「S」字状文とその上方に弧帯文を施し、脚裾部上方に三角形透かしをもつ。脚裾部には鋸歯文と渦巻き状の文様を施し、端部は若干



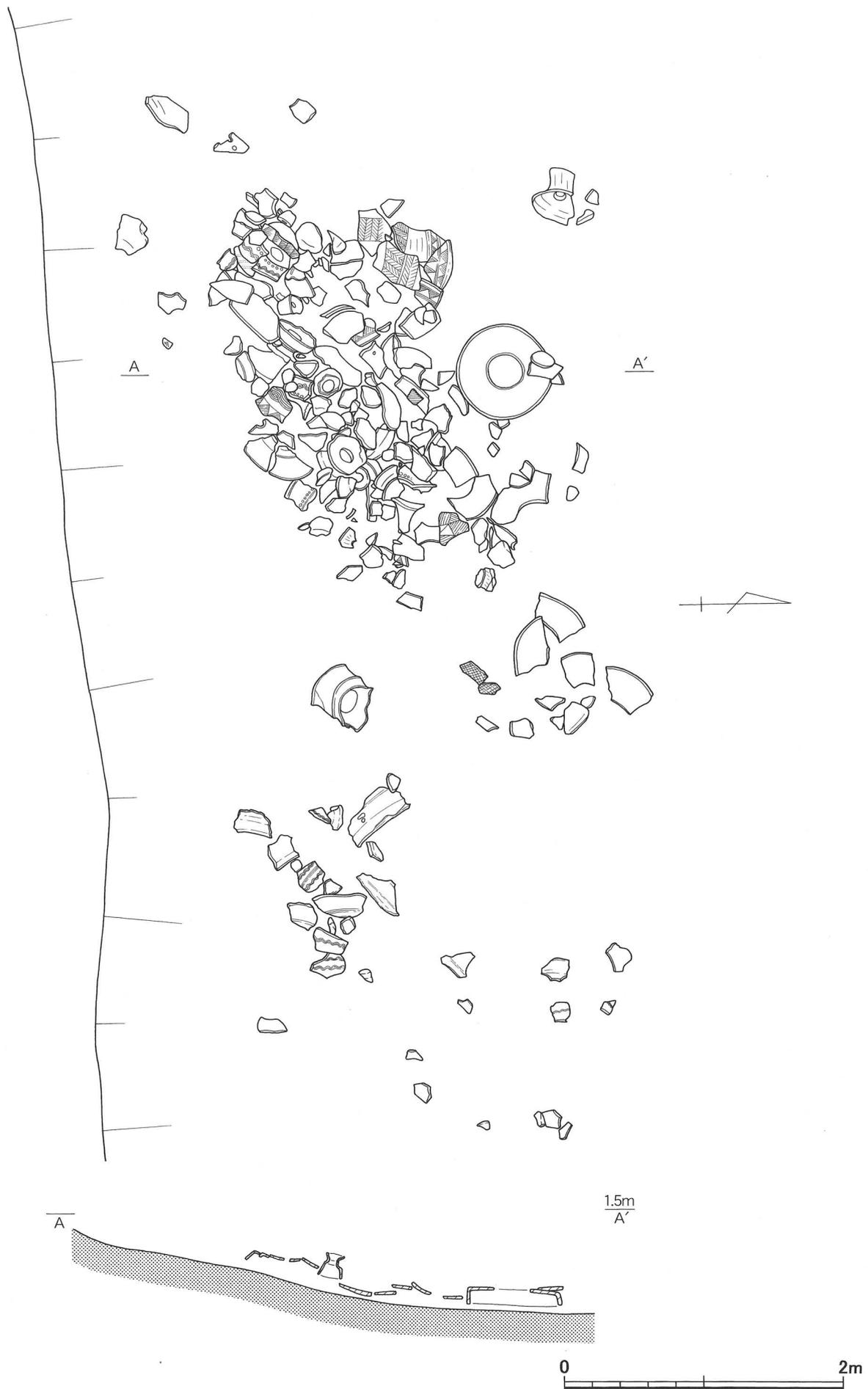
第11图 A区土器出土状况 (S=1/150) (赤: 包含層2 · 青: 包含層1)



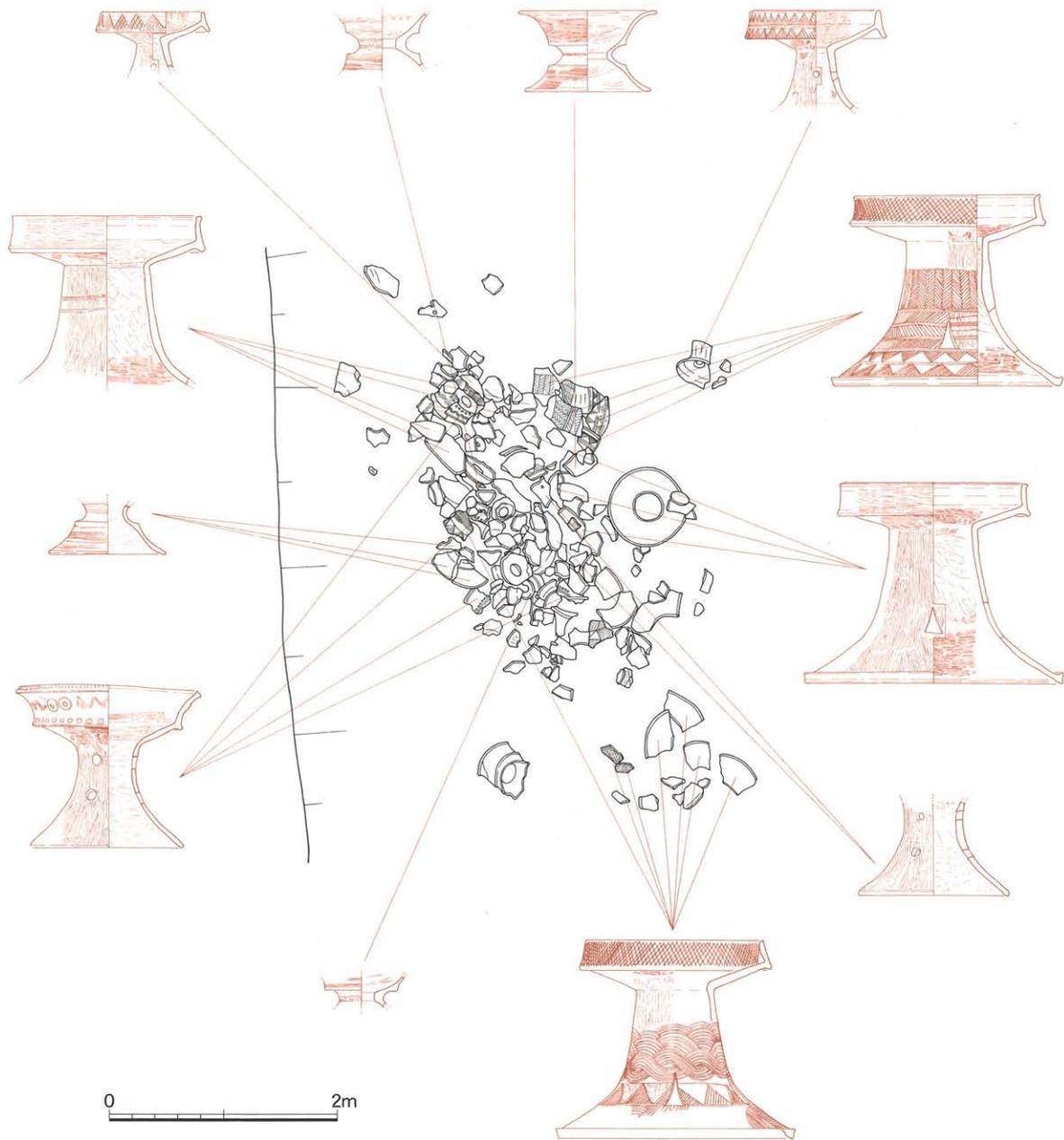
第12图 B区土器出土状况 (S=1/150) (赤: 包含層2 · 青: 包含層1)



第13図 C区土器出土状況 (S=1/150) (赤：包含層2・青：包含層1)



第14図 小型特殊器台出土状況① (S = 1/40)



第15図 小型特殊器台出土状況② (S = 1 / 60、土器は S = 1 / 12)

上方に拡張している。19-2は口縁部は若干内傾ぎみにのび、端部は外方に屈曲して丸くおさめる。外面に斜格子文を施す。筒部には縦横の平行沈線を施した後、区画内に綾杉文を施す。脚裾部上方に4方向の三角形透かしをもつ。脚裾部は平行沈線と2段の鋸歯文を施し、端部は1同様に上方に若干拡張している。20-1はプロポーション的には19-1などと同様であるが、文様を施さないもので、外面は丁寧にヘラミガキされる。筒部に三角形透かしをもつ。20-2は脚裾部を欠くが、20-1同様に無文でヘラミガキ調整がされている。20-3は今までのものと形態が異なるものである。口縁部は外反ぎみにのび端部は上下に肥厚する。端部外面に半裁竹管による刺突文を施し、口縁外面には円形浮文を飾り、波状文と竹管による刺突文を施している。筒部には円形透かしを2段に施し、脚裾部は「ハ」の字状に開いて端部は丸くおさめている。19-3・4は器台の受け部である。3の口縁部は1と同様の形態で外面に綾杉文を施している。4の口縁部は上下に拡張しており、外

面に平行沈線と斜めの沈線を施している。19-5~7は小型の装飾器台で口縁部は上下に拡張している。5は口縁外面中央に3条の凹線を施し、その上下に鋸歯文を施している。筒部に4方向の円形透かしをもつ。6、7の口縁部外面は鋸歯文と半裁竹管による刺突文を施し、6の筒部には円形の透かしをもつ。20-4・5は口径25cm前後の器台受け部で口縁部は外反してのび、文様は施していない。20-6は3に近い形態の受け部で、口縁部は外反してのび、端部は上下に肥厚しているが、文様などを施していないものである。21-1~6は器台の脚裾部である。1は端部を四角く拡張し、2は鋭くのびて端部に至る。3~6は筒部に円形の透かしを1~3段施すもので、端部は丸くおさめている。21-7~15は特殊壺形土器の口縁部や胴部である。7は唯一吉備からの搬入品で、口縁部は若干内傾してのび端部は外側に肥厚してから丸くおさめる。外面には凹線を施した後に2段の鋸歯文で飾る。内外面に丹塗りが施されている。8は口縁部外面中央に擬凹線を施し、その上下に鋸歯文を飾る。9~15は胴部破片で突帯がめぐるものである。9、11、12は突帯間に鋸歯文、10は半裁竹管文を4列施し、13~15は竹管文及び沈線を施している。16は口縁部を欠損する器台受け部の可能性が高く、口縁部の稜に竹管文を施している。17は器種不明の土器である。

#### 壺甕類 (第22図~40図)

22-1は直口壺の口縁部で外面に多条の凹線を施す。22-2~4は広口壺の口縁部で、2は端部に波状文、4は円形浮文と刺突文を施す。3は頸部に突帯がめぐる。これらはⅢ-1~2様式の様相を示している。22-5~10は甕で口縁部は上下に短く拡張し、凹線文を施している。これらはⅣ-2~Ⅴ-1様式の様相を示している。23図~39-4は複合口縁の甕である。23図は口縁部が上方にやや短く立ち上がるもので、4~5条の凹線文を施している。肩部に貝殻状工具やヘラ状工具による刺突文や波状文を施すものがある。24図~25図は口縁部外面に3~5条の凹線文及び擬凹線を施すもので、口縁部の形態には内傾するもの、直立するもの、内湾するものなどがある。26図~27図は口縁部が外反してのびるものを中心としている。外面には擬凹線を施すものが多く見られる。肩部には櫛状工具や貝殻状工具による刺突文を施すものがある。27-13~15は頸部上方に円孔が穿たれ、14、15は内外面に赤色顔料が塗布されている。これらはⅤ-1~2様式と考えられる。28図~33図は口縁部が長く立ち上がり、複合口縁部の稜が下方に向くもので、口縁部外面には擬凹線が施される。肩部まで擬凹線を施すものや櫛状工具による沈線と刺突文を施すものや羽状文などを施すものがある。34図~39-2は複合口縁部の稜が横方向に突出するものを中心としているが、下向きのもも一部混在している。口縁部外面には擬凹線を施すものもないものがある。38-1~4などのように口縁部付近で大きく外反するものも見られる。39-3、4は口縁部が外反してのび、複合口縁の稜がやや下向きのもので、浅く擬凹線が入る。39-5は直口壺で頸部下半に波状文を施している。これらはⅤ-3様式の様相を示すものである。40図は複合口縁を有する壺で口縁部は短くのびるものと長くのびるもの内傾するものがある。口縁外面には凹線及び擬凹線を施している。

#### 高坏 (第41図1~7)

この時期の高坏は数が少なく、図化できたものはわずか7点である。1~4は坏部、5~7は脚部である。1はくりあげ状の口縁部で外面に凹線を施す。2は複合口縁を呈するが体部との境が屈曲するもので、口縁外面に4条の凹線を施す。内外面に赤色顔料を塗布している。3は口縁部が外方に張り出して端部に至るものである。4は複合口縁を呈し、体部は丸みをおびる。口縁外面には擬凹線を施す。5は脚端部に2条の凹線、6、7は4条の擬凹線を施す。これらはⅤ-1~2様式

の様相を示すものと考えられる。

#### 器台（第41図8～45図10）

41-8～13は短めにのびる口縁部を有する受け部で外面に凹線を施す。11は内外面に赤色顔料を塗布している。14は大型の器台であるが受け部と脚部を欠損する。内外面に部分的であるが赤色顔料が残っている。42-1～10は外反してのびる口縁部を有する受け部で外面に擬凹線を施すものである。4は内外面に赤色顔料を塗布している。42-11～43-5は凹線を施す脚部である。脚部は上下に拡張するもの、短いものとやや長いものがある。43-5は外面に赤色顔料を塗布している。43-6～13は擬凹線を施す脚部で、8～10は外面に赤色顔料を塗布している。これらはV-1～2様式の様相を示している。

43-14～45-9は受け部及び脚部が外反して長くのびるもので、外面には多条の擬凹線が施される。筒部には羽状文などを施すものが多く見られる。45-10は小型の器台で内外面に赤色顔料を塗布している。これらはV-3様式の様相を示すものである。

#### その他の土器・遺物（第45図11～15）

11、12は算盤玉形した装飾壺である。11は胴部に突帯がめぐり、3条の平行沈線とその間に竹管文を施し、12は4条の平行沈線とその間に櫛状工具による刺突文を施す。13は小型壺の胴部から底部の破片である。14は鉢の破片である。15は勾玉で孔は2箇所穿孔されているが、材質は不明である。

### 3. 包含層1出土土器

包含層1出土土器には壺甕類、高坏、器台のほか包含層2では見られなかった注口土器や低脚坏、搬入土器などがある。

#### 甕（第46図～62図）

46-1～60-1は口縁部は薄く外反してのびる複合口縁の甕で、端部は丸みをおびるものや外方に折り曲げるものが見られる。複合口縁の稜は横方向に突出するもの、やや斜め下方に突出するものがある。体部は倒卵形でわずかに平底を残す。底部内面には指頭圧痕をもつものも見られる。肩部には平行沈線、波状文、刺突文などを施している。46-1～46-6は口縁部外面に波状文を施すものである。これらは大木式～小谷式の様相を示しているものと考えられる。60-2は複合口縁の鉢形土器で大きな平底をもっている。61-1～62-11は複合口縁が退化及び退化傾向にある甕である。口縁部はやや分厚くなり、大きく外反してのびるものがある。複合口縁の稜は鈍くなり、突出するものや段をなすもの、厚く三角形に張り出すものなどがある。62-12～16は単純口縁の甕である。

#### 壺（第63図～65図）

63-1～3は口縁部に波状文を施す複合口縁の壺で、複合口縁の稜はやや下方に突出する。63-4～64図は口縁部に文様を施さないもので、複合口縁の稜はやや下方のものと横方向に突出するものがある。65図は地域は特定できなかったが胎土等から搬入品と考えられる壺形土器である。1は口縁端部を欠損するが頸部の境に突帯がめぐり、2は口縁部は短く外傾するもので、端部は外方に肥厚する。頸部の境に突帯をめぐらす。3は複合口縁で口縁部は内傾し、頸部の境に突帯がめぐり、4は口縁部外面に波状文を施す。5は頸部の境に突帯をめぐらすものである。6は頸部の突帯に刺

突文を施している。

#### 注口土器（第66図）

1～4は複合口縁の注口土器で3、4は把手が付く。肩部には3～4条の平行沈線を入れ、その間に貝殻状工具による刺突文を施す。5～7は把手である。8～13は注口部分である。

#### 器台（第67図～69図）

67図～69-6は鼓形器台で、器高は低く筒部も短いものである。脚裾部に波状文や刺突文を施すものもある。7は小型の器台である。8、9は当地方ではあまり見かけない器台で搬入品の可能性が高く、8は筒部が短く、9は長めのものである。

#### 高坏（第70図～72図）

70-1～11は坏部の口縁部と体部の境に明瞭な段を有するもので、口縁部は外反する。端部は丸くおさめるものが多いが、外方に肥厚して平らにするものなどがある。3は脚部内面以外に赤色顔料を塗布している。71-1～6は明瞭な段はもたないが体部との境が湾曲する。7～72-4は口縁部がやや外反するものと内湾するものである。5～11は脚部で10は外面に赤色顔料を塗布している。12は脚部としたが坏部の可能性もある。

#### 低脚坏（第72図13～73図）

坏部が大きく皿状に開くものと、碗形のものがある。72-13、14は坏部が深く碗形のもので、体部と口縁部の境に段を有している。脚部は大きく「ハ」の字状に開く。73-1～13は小型のもので、坏部は皿状に開くものが多い。脚部は小さく「ハ」の字状に開く。14～27は脚部で大きく開くものと小さく開くものがある。14は3方向の円形透かしをもち、22～25は2方向の小孔を穿っている。

#### 小型壺・鉢形土器（第74図～75図7）

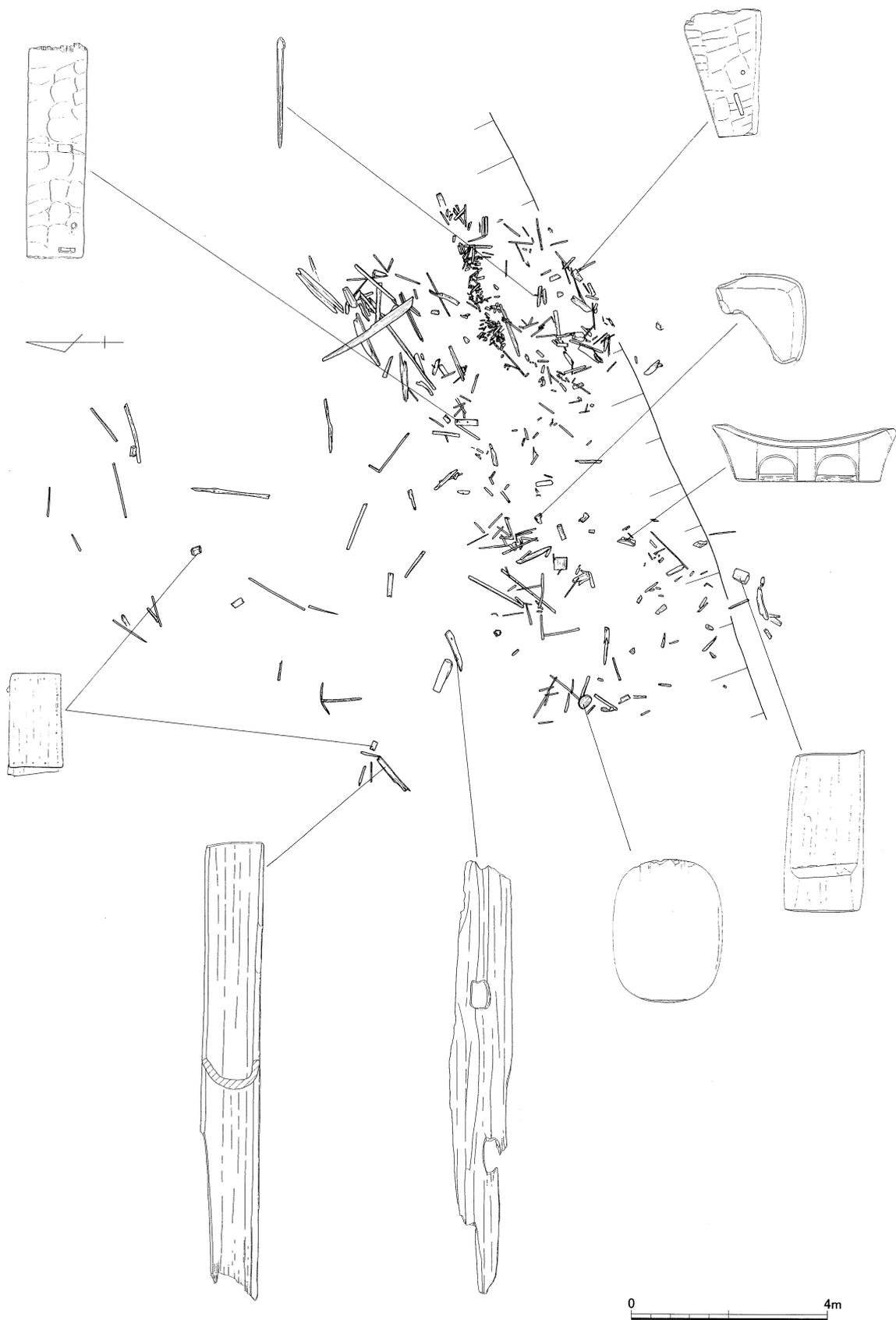
74-1、2、4は直口壺で3は長頸壺である。数は少なく実測できたものは掲載した4点だけであった。5～7は短頸壺で頸部に円形の小孔を2～4方向に穿っている。6は肩部に平行沈線と刺突文を施している。8～13、75-1、2は口縁部が緩く外反するものと大きく屈曲する鉢である。8は脚が付いている。75-3はワイングラス状の鉢形土器で、4は広口、5、6は複合口縁の鉢である。7は大型の鉢と考えられる。

#### その他の土器（第74図14、15、75図8～76図）

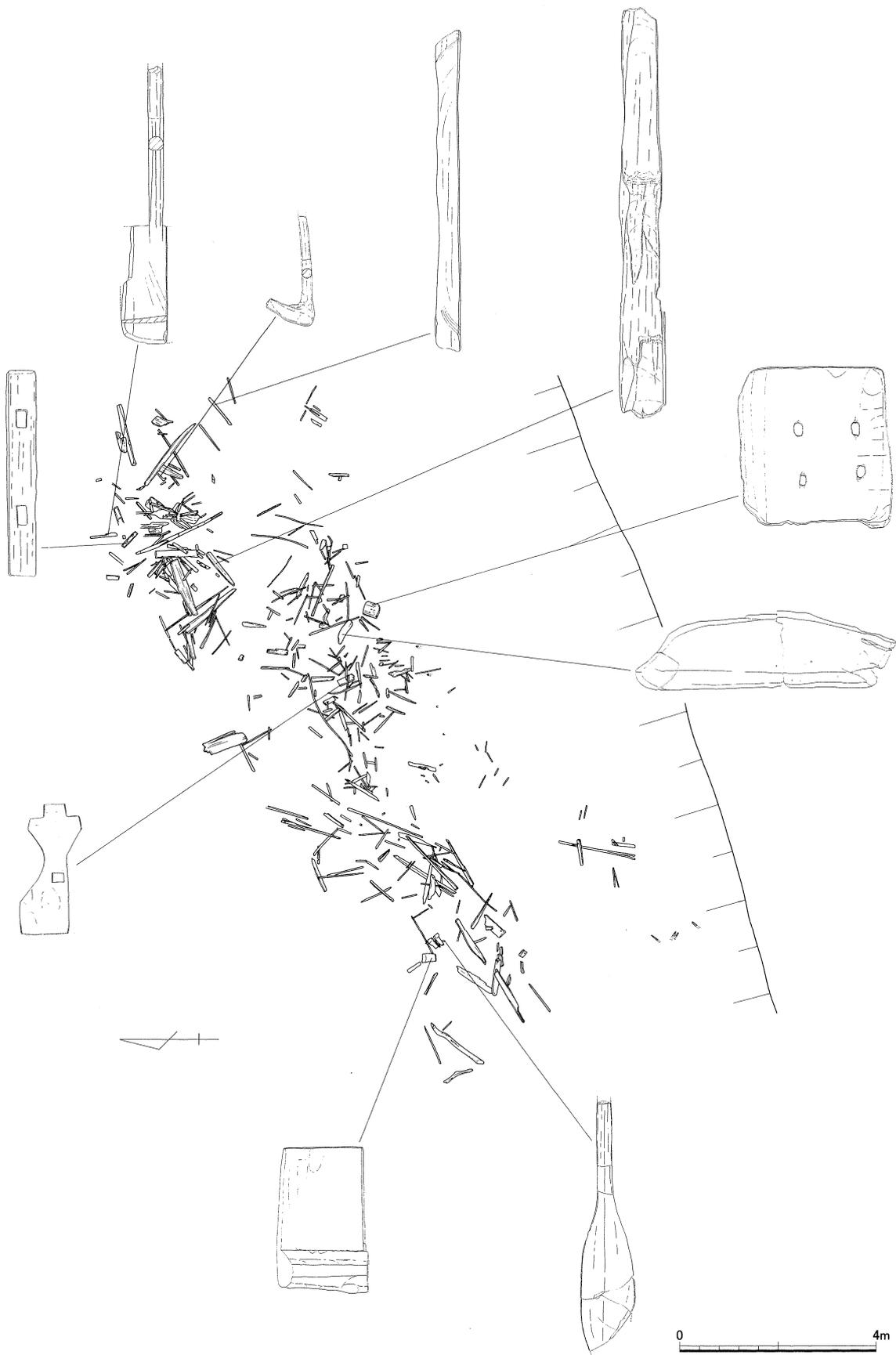
74-14、15は小型甕形土器で、15は単純口縁の低脚付小型甕形土器である。75-8は底部が厚く作られた碗である。9、10は蓋で9のつまみ部分には2方向の小孔が穿たれている。76-1～3はミニチュア土器である。4は小型丸底鉢で2つの小孔が穿たれている。5、6は把手で、5は半裁竹管による刺突文、6はヘラ状工具による刺突文が施されている。7は不明であるが、2段に突帯がめぐっていたようである。8は壺甕類の頸部で頸部外面に櫛状工具による斜格子文を施した突帯がめぐる。9は土錘、10は有孔円盤である。

#### 4. 石器類（第77図～79図）

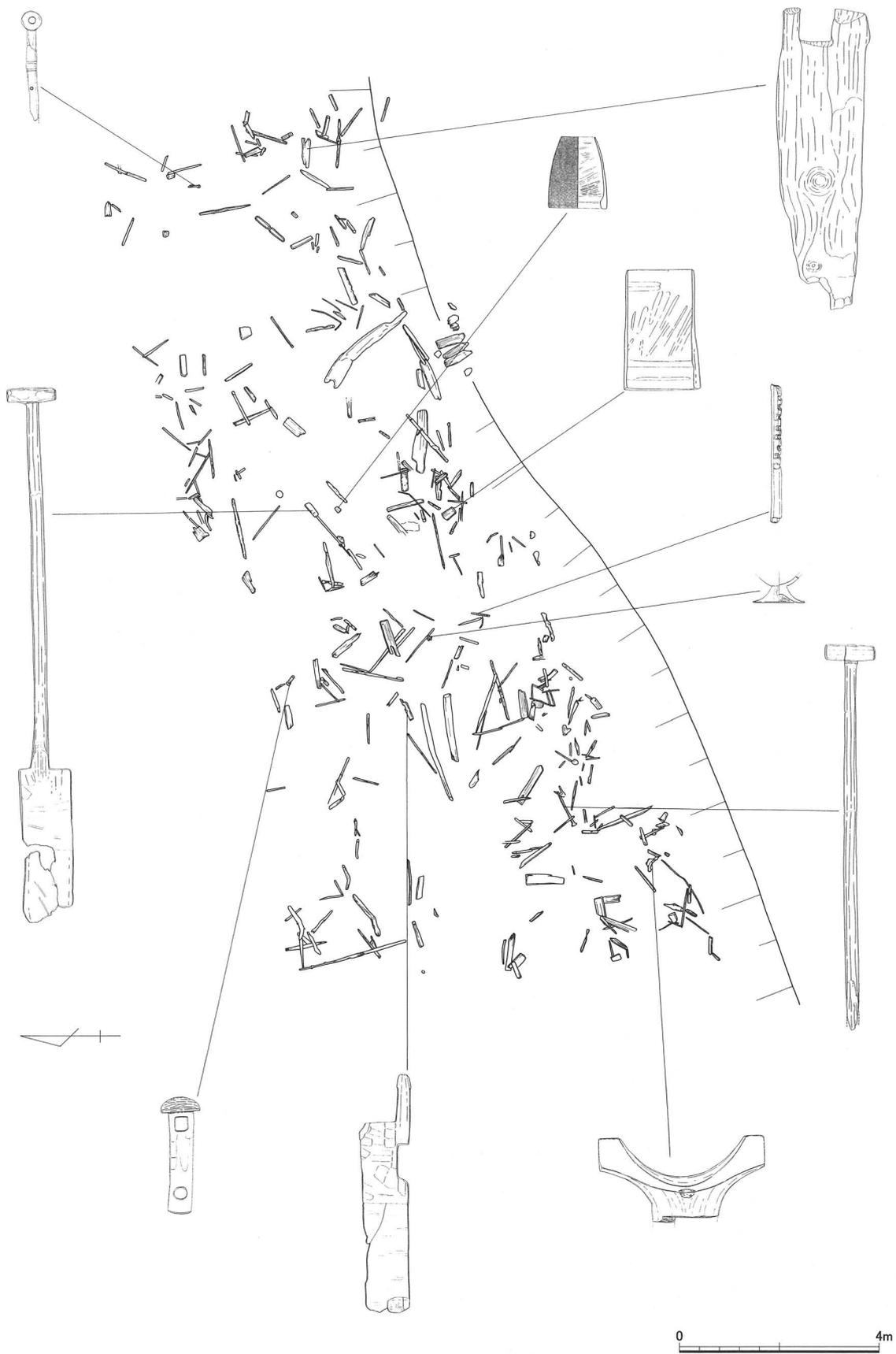
石器類には砥石、敲石、碧玉剥片などがあり、主に包含層1から出土している。77-1～78-2は砥石で1～4面を使用している。この内78-1は筋砥石と考えられるもので幅約6mm、深さ2mmの溝状の窪みが認められる。2は内磨き砥石と思われ4面ともに細かい使用痕がある。78-3～6は敲石か磨石と思われるもので、4には一部赤色顔料が付着している。79-1、2は石皿、3は石



第16図 A区木製品出土状況 (S = 1 / 120、遺物は S = 1 / 12)



第17図 B区木製品出土状況 (S = 1 / 120、遺物は S = 1 / 12)



第18図 C区木製品出土状況 (S = 1 / 120、遺物は S = 1 / 12)

斧である。4～6は碧玉剥片で荒割段階のものと考えられる。図化したものは3点であるがこの他に細かい剥片もかなりの量出土しており、総重量で846.4gであった。7は石錘と思われるが縦方向に1条、横方向に3～4条の溝が刻まれている。

## 5. 木製品

### 農具（第80図～81図1）

農具は鋤、田下駄が5点出土した。80-1～4は鋤である。1は組合せ鋤の身で半分欠損している。身の中央やや上方に柄を受けるための方形の柄孔が施されている。軸部は有頭状に加工して軸頭を作りだしている。2、3は一木鋤で身はいずれも角肩で方形を呈している。3の把手部分は一木で作ったものである。4は鋤の柄であり、把手部分は棒状の柄の上端に横木をはめ込み貫通させている。81-1は田下駄で4孔式のものである。

### 運搬具（第81図2～4）

運搬具は田舟が3点出土した。いずれも大部分が失われており、全体の形状は判然としないが、先端を尖らせるように削りぬき、底面はやや湾曲している。2の内面には漆が塗られていることから別の用途に使われた可能性もある。

### 漁撈具（第82図1、2）

漁撈具は櫂が2点出土した。1は鋤の掘り棒の柄と類似しているが、身を欠くものの先端に向かって太くなり、柄の端は把手状にしている。2は身の部分だけで横断面が紡錘形で表裏の区別がないものである。

### 服飾具（82図3）

服飾具は簪が1点出土した。先端を尖らせた一本の棒状のもので、頭部は若干膨らませている。赤彩などは見られないが、比較的丁寧な作りであることから簪と考えた。

### 武器（82図4）

武器は木鏃が1点出土した。茎部を欠いているが三稜鏃で、先端側は断面三角形、茎側は断面円形を呈している。

### 容器（第82図5～85図9）

容器は刳物桶、高杯、脚付盤など計36点出土した。そのうちの大半を刳物桶が占めている。82-5は皿、6、7は高杯で、7は赤彩が認められる。82-8～11は脚付盤で平面形は方形及び円形のものがあり、脚部は円柱形を呈するが、11のように方形のものもある。付け根には加工時に付いた傷跡が多数残っている。10には漆塗りの痕跡がある。83-1～85-1は刳物桶で大型品と小型品がある。いずれも底部内面に段状の張り出しをもっている。83-4は小型品で口径が底径より小さくなっており、外面に赤色顔料が塗られている。5も赤色顔料が塗られている。6、7は内面に漆が塗られ、8、9は焼痕が認められる。85-2は鉢と思われる。3～9は刳物桶や曲物の底板で円形に近いものと楕円形のものがある。

### 雑具・部材（85図10～93図9）

雑具は腰掛、箱、栓、部材など、計86点出土している。85-10は自在鉤で二股になった小枝の一方を短くして、先端を削って鉤形を作りだしたものである。11は組合せ式の箱で内面に小口板や底板を差し込むための溝があり、外側から固定するための木釘が打ち込まれている。86-1、2は栓

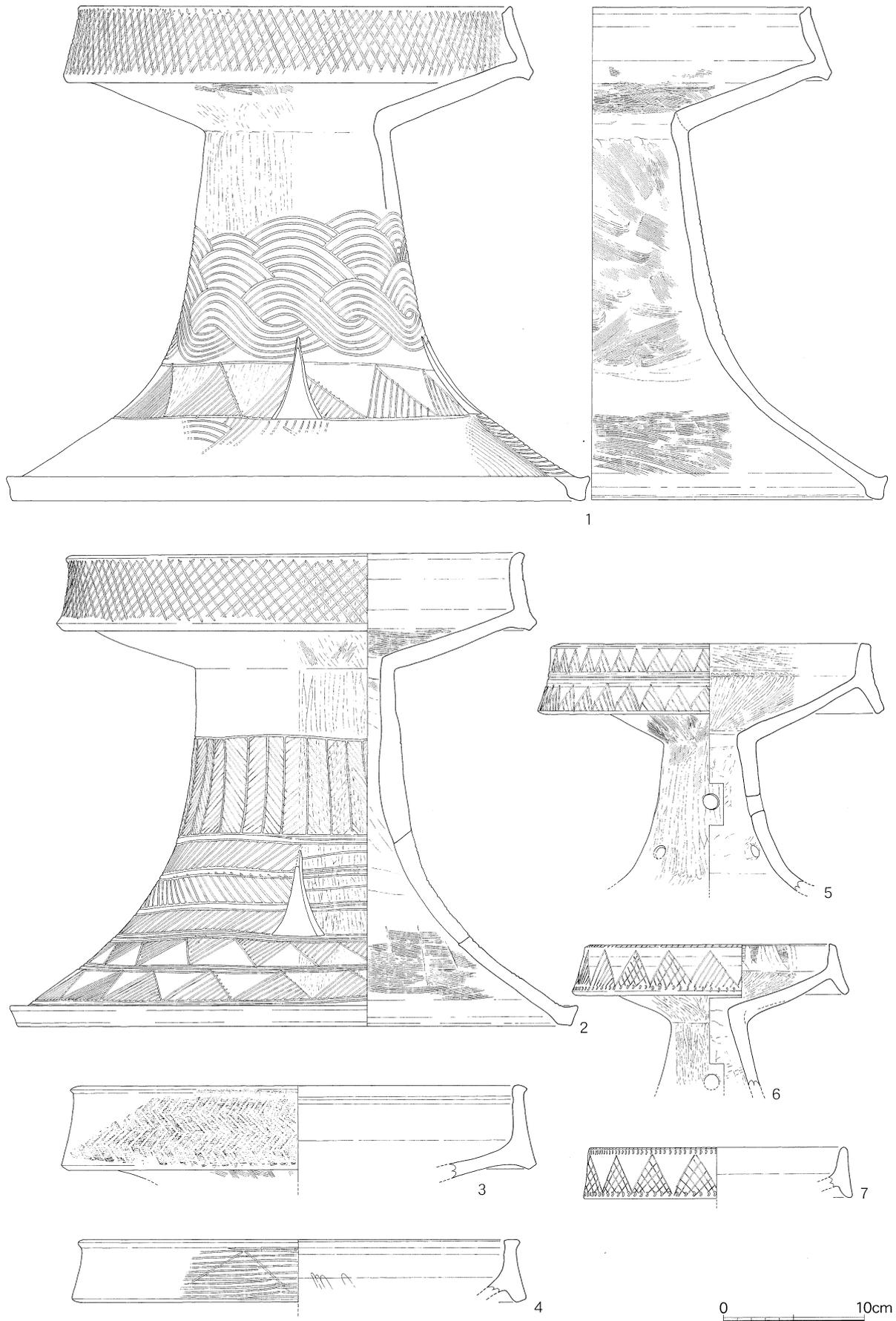
と考えられるものである。1は衣笠の立飾りを思わせるような特異な形状をしているが、何かの飾りの一部で底面の窪みに栓がはめ込まれるものようである。3は火鑽臼で角棒状の木の側面に断面V字形の刻みを入れており、上面には火鑽穴が認められる。4～87-1は腰掛である。4、5は剝物腰掛、6、7は指物腰掛の脚板、87-1は指物腰掛の座板である。4は半分欠損するが形状が分かりやすく、座板の平面形は楕円形であったと思われる。座板の上面は中窪みで両端が緩やかに反り上がっている。脚部は座板と平行に2脚が長くのびるものと考えられる。6は両側辺を大きく削り込んで大の字に近い形をしている。両側辺のくびれのやや下方には棧を通すための正方形のほぞ孔が穿たれている。87-1は平面形は楕円形であったと思われ、座板の上面は中窪みで両端が反り上がっている。底面には脚板をはめ込むための方形の窪みがある。87-2～93-9は雑具の部材と考えられるものである。87-4は弩形木製品の先端部分に似た形状をしているが用途は不明である。この他には板材や棒状のものが多く、板材は方形や円形のほぞ孔を穿ったものが見られ、箱として使用された可能性が高いと思われる。棒状木製品には先端を尖らせたり丸くしたものがある。

#### 建築部材（第94図～104図5）

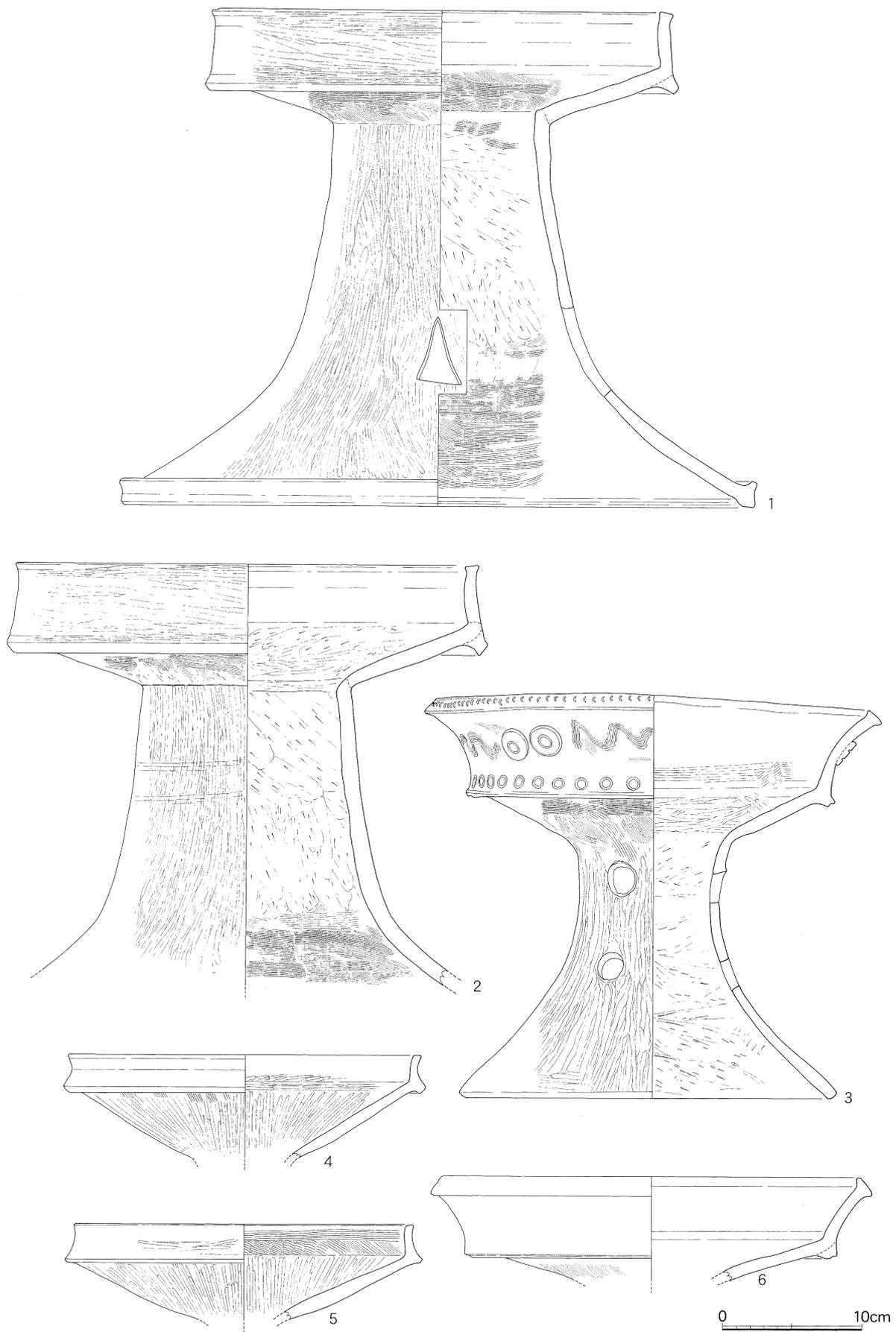
建築部材には柱や梯子、矢板、杭などがあり計65点出土しているが、大半を矢板と杭が占める。94-1は柱で下端は削って尖らせ、上端は二股になっている。2は残存状況は悪いが梯子と思われ、足掛け部分が残っている。矢板は全体的に工具痕跡を残すものが多い。これらの他には、ほぞ孔を穿った大型の板材や組み合わせて使用する部材などがある。

#### 用途不明品（第104図6～105図）

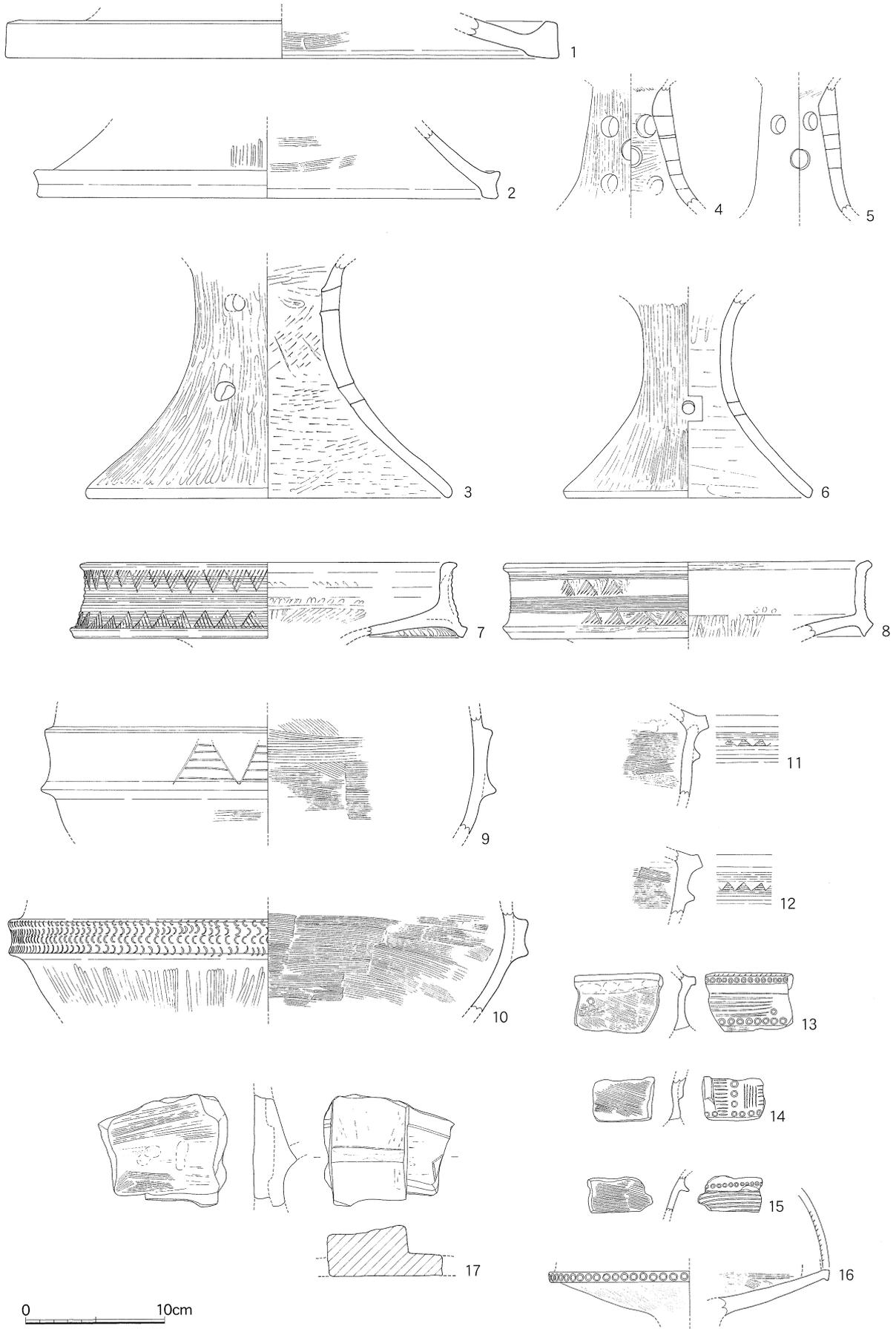
用途不明品としたものは6点出土している。104-6は表面に面取りが認められるが、部材等の加工時に出た木端であろうか。7は漆が塗られているが不明である。8は組み合わせて使うものようであるが、用途は不明である。105-1は円柱状に加工された木材の中央部分に、V字状の切り込みが一周しているもので、何かの未製品と思われる。2は半分に欠損するが楕円形状の板材で桶等の底板の可能性もあるが、側面が内面より厚くなっている。3は断面U字形の木製品で、樋か導管であろうか。



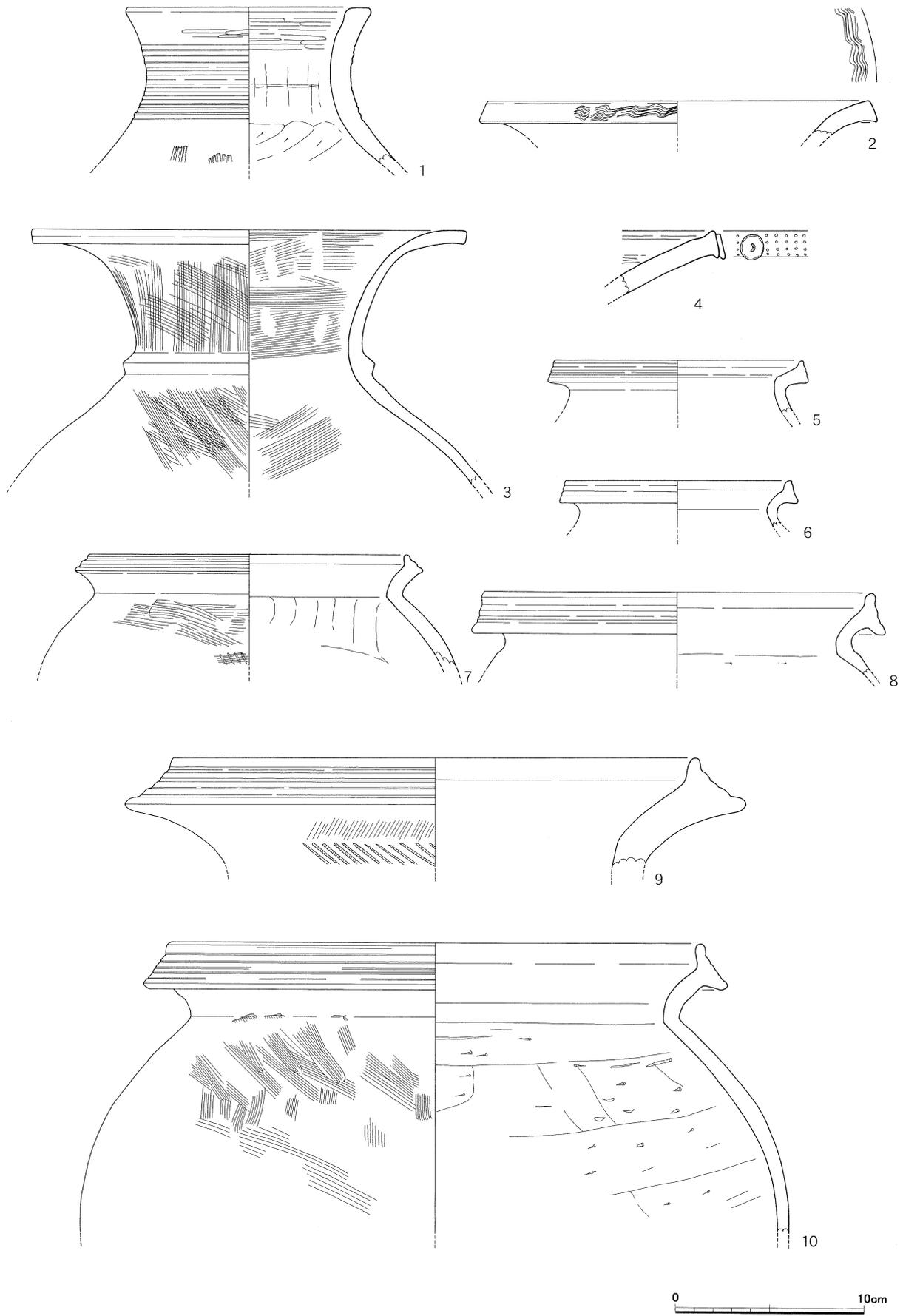
第19图 包含層2出土遺物1 (S = 1 / 4)



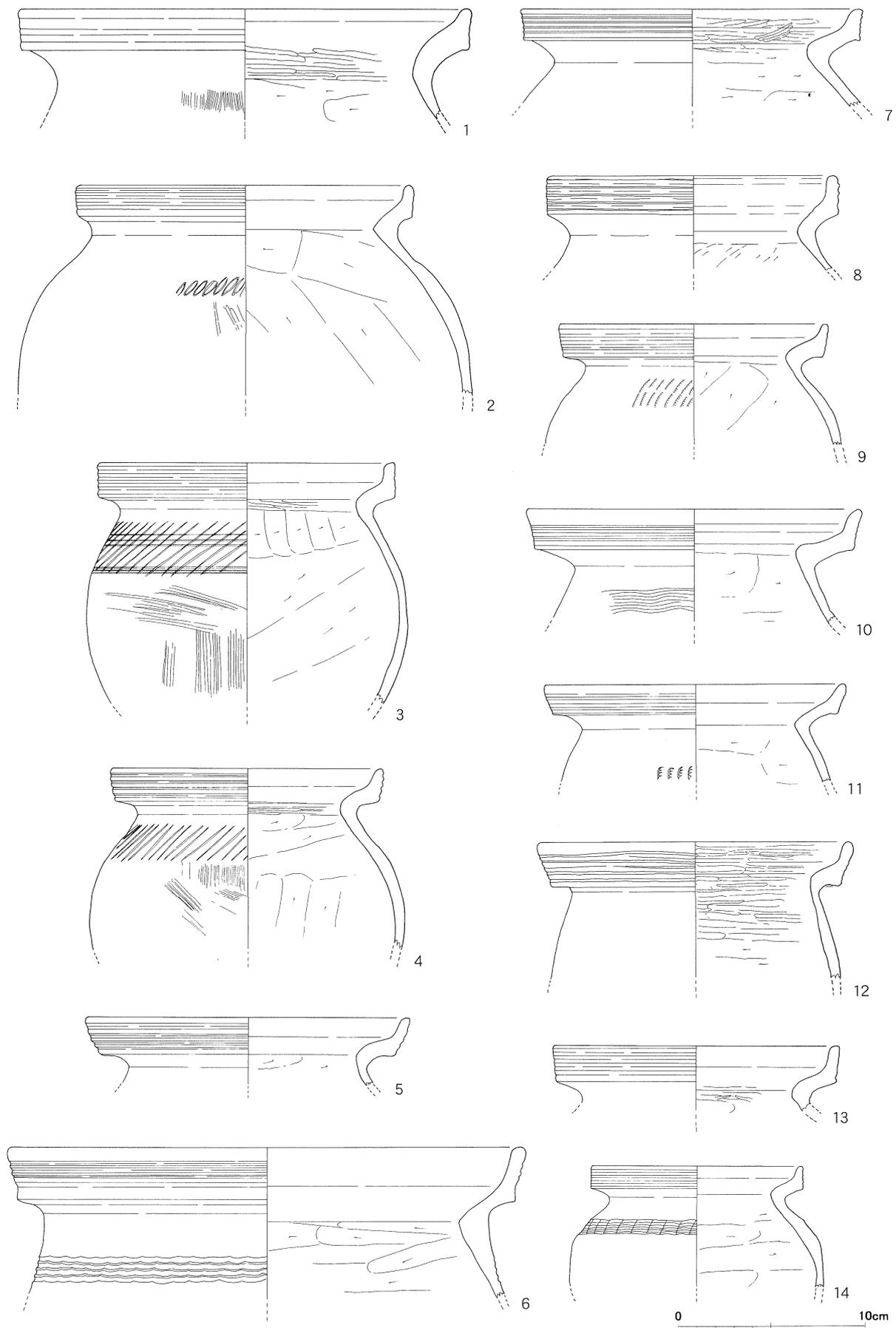
第20图 包含層2 出土遺物2 (S = 1 / 4)



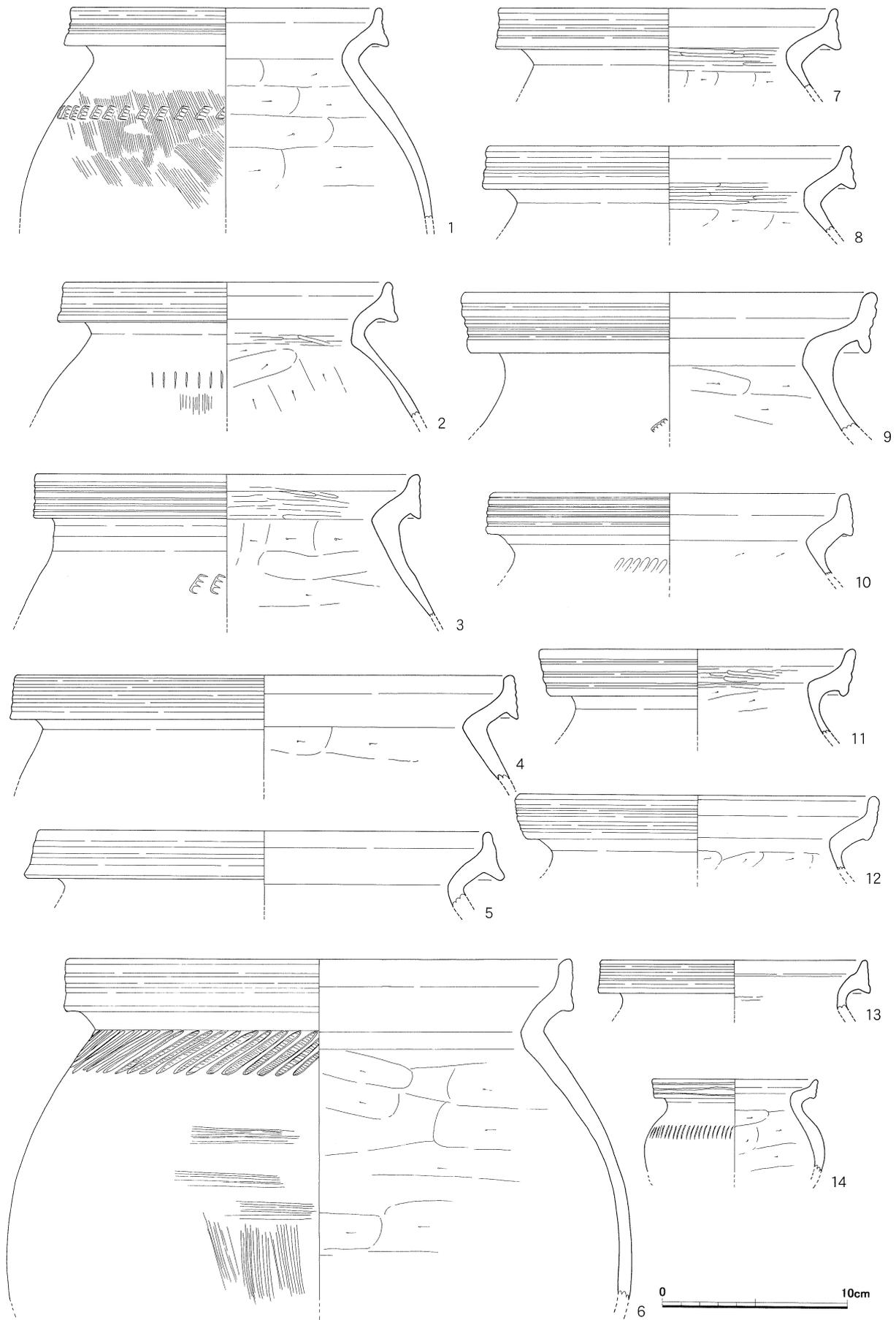
第21图 包含層2出土遺物3 (S=1/4)



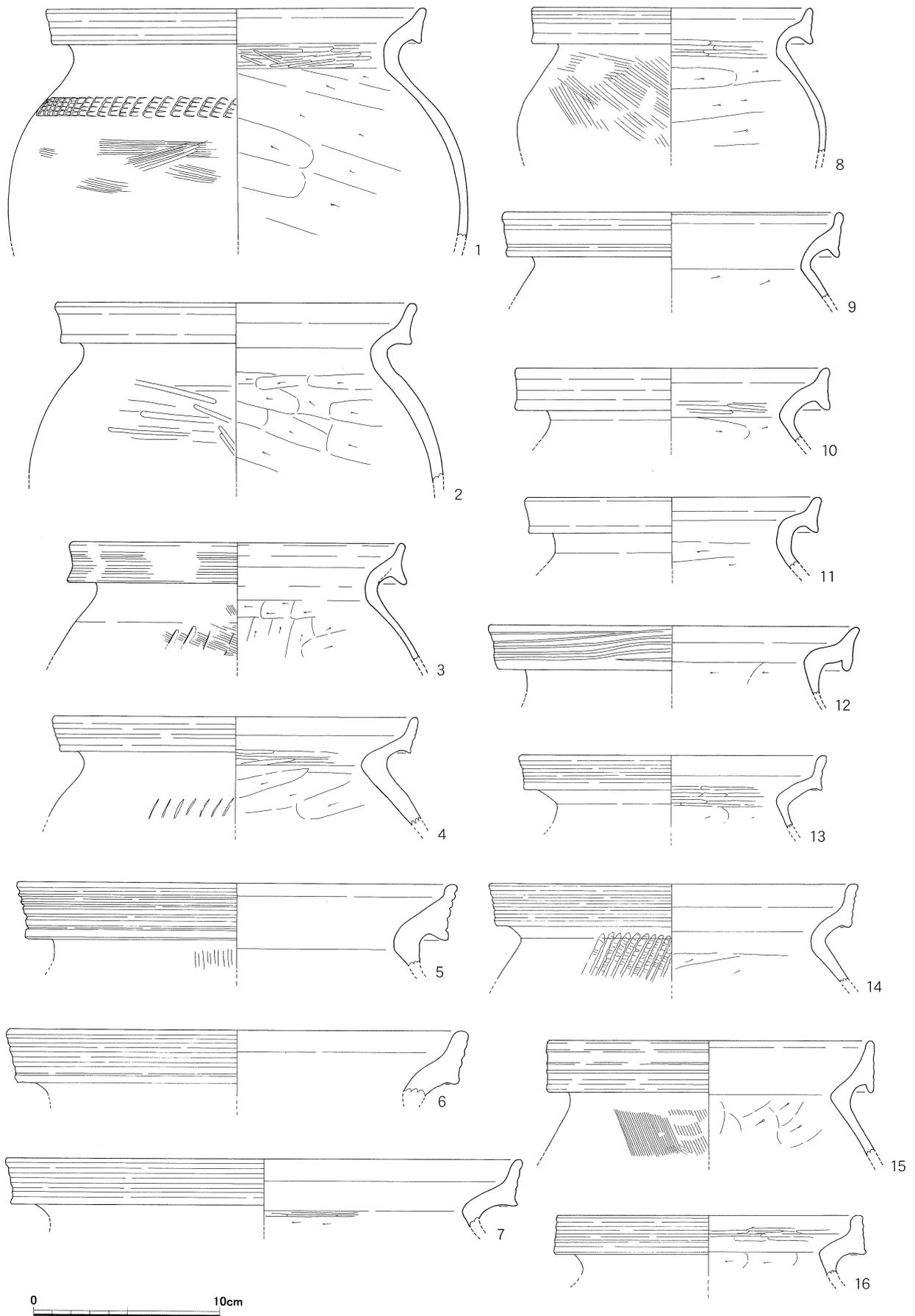
第22図 包含層 2 出土遺物 4 (S=1/3)



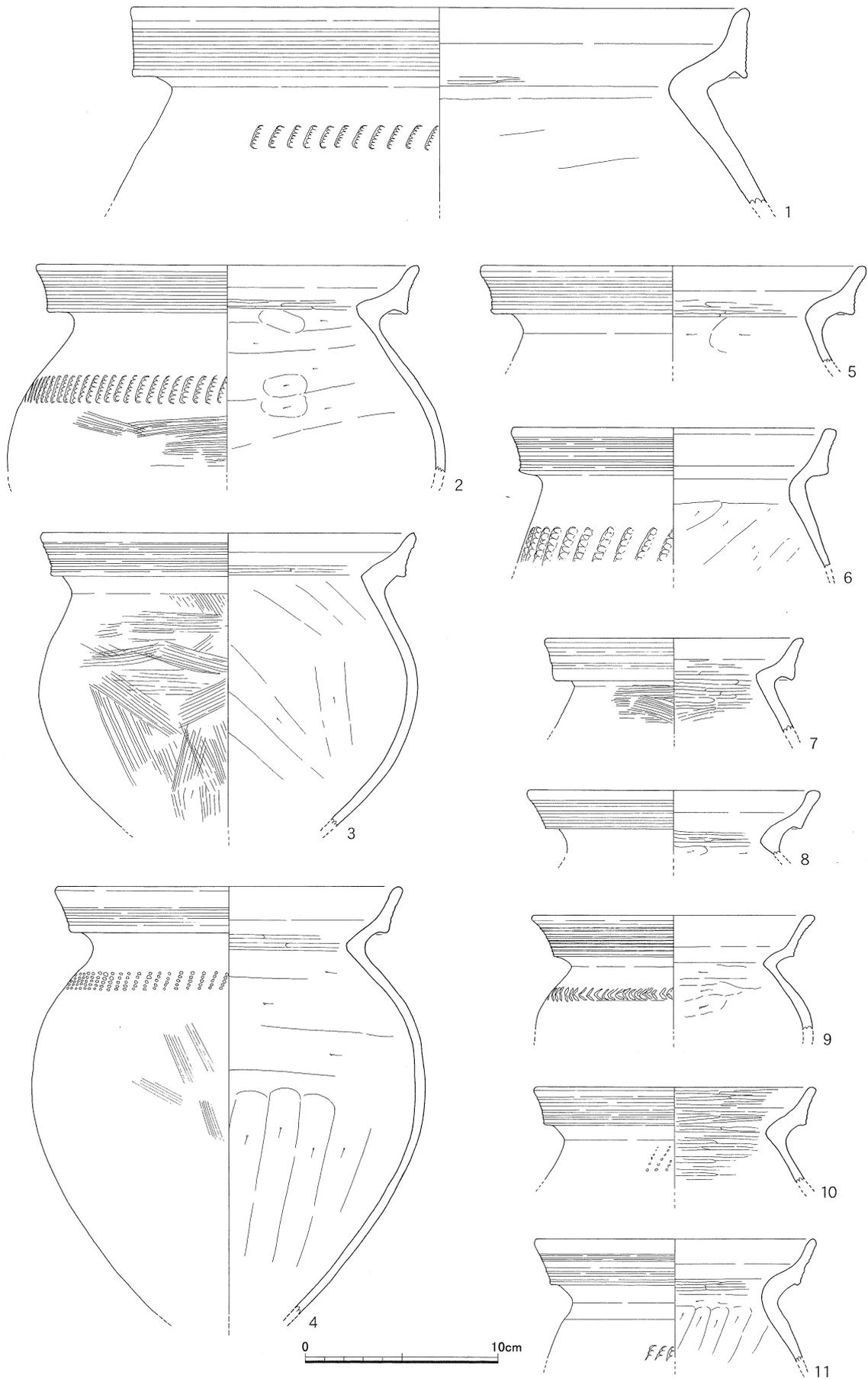
第23図 包含層2 出土遺物5 (S = 1 / 3)



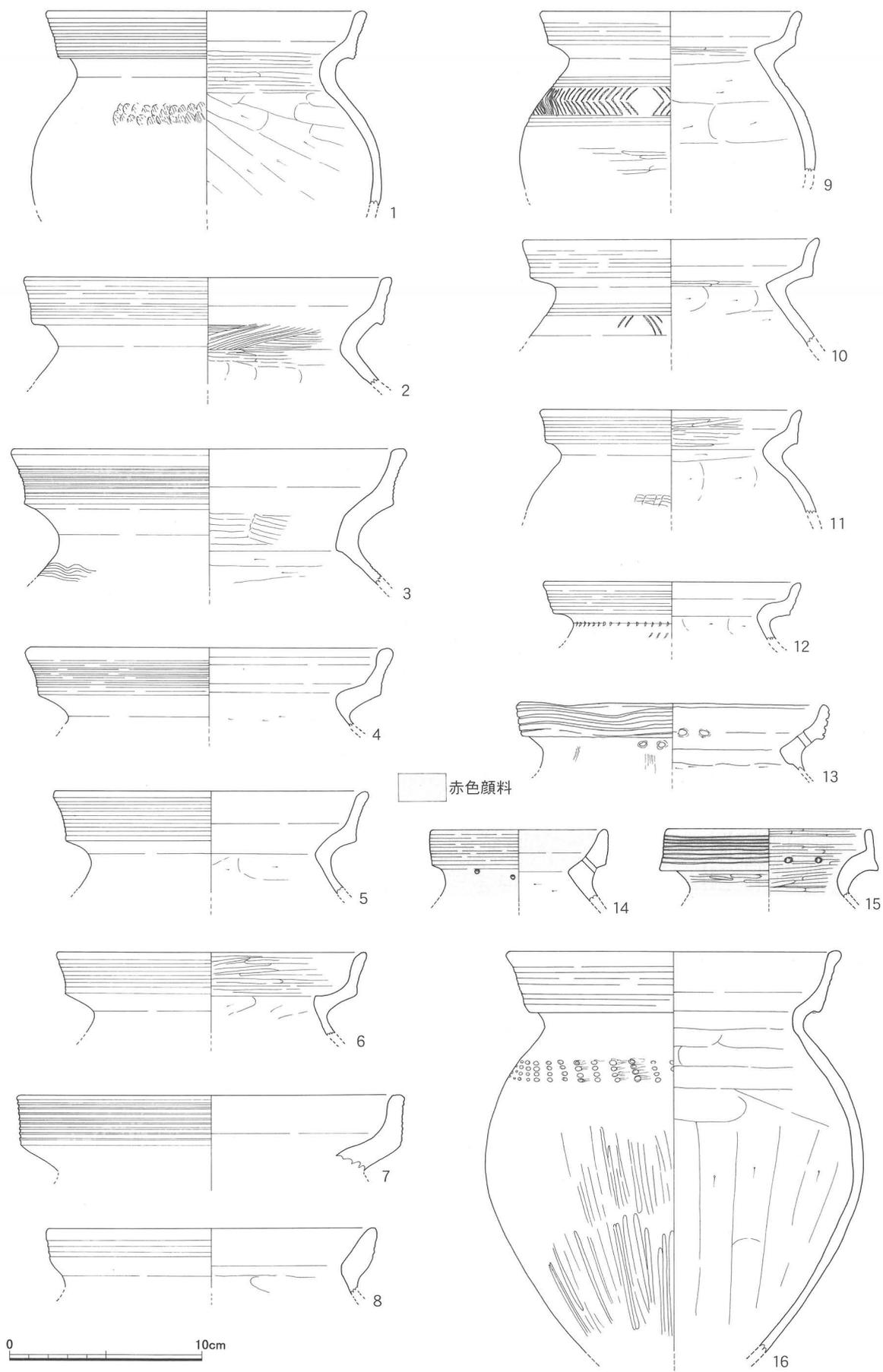
第24図 包含層2出土遺物6 (S=1/3)



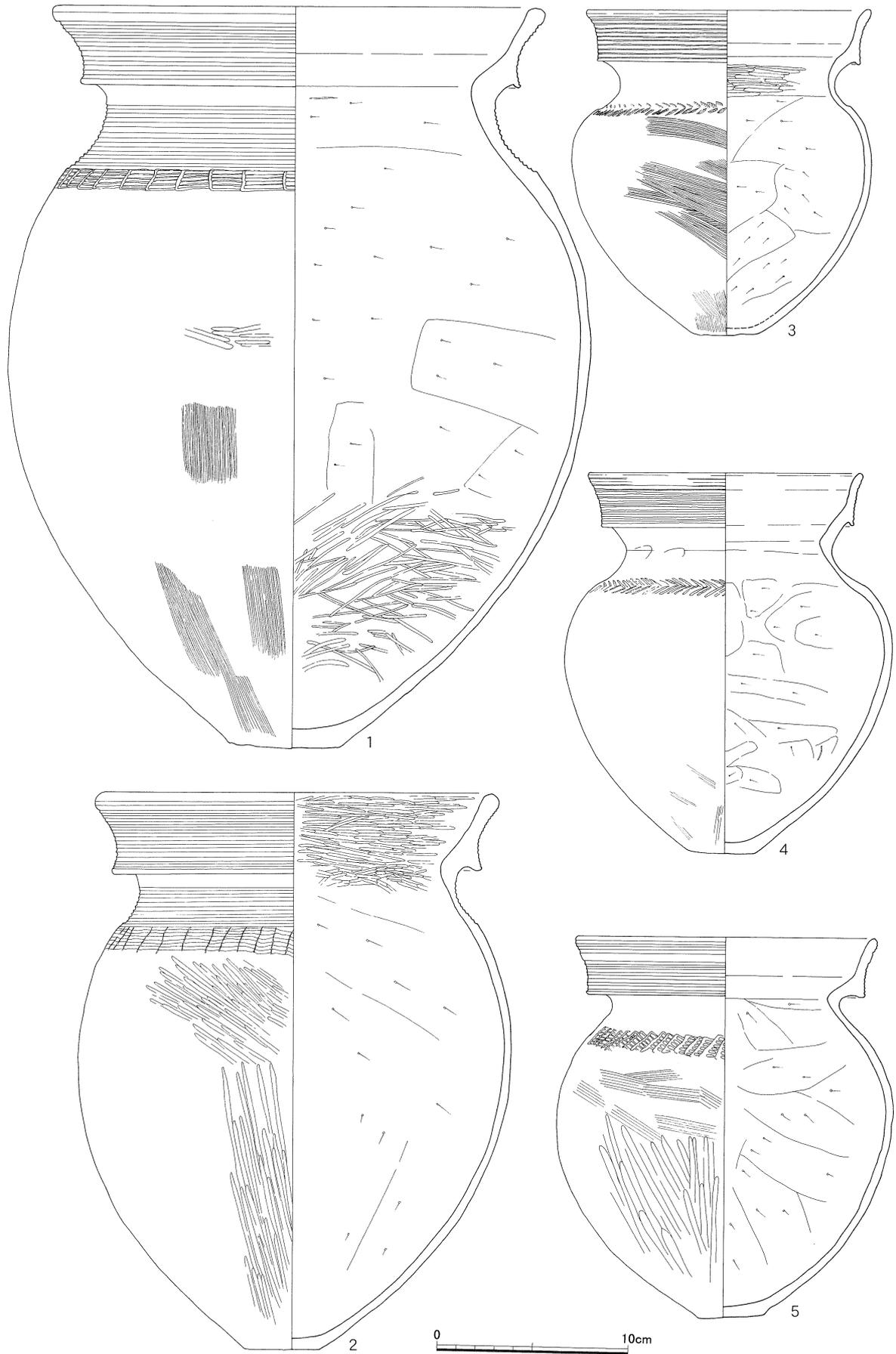
第25図 包含層 2 出土遺物 7 (S = 1 / 3)



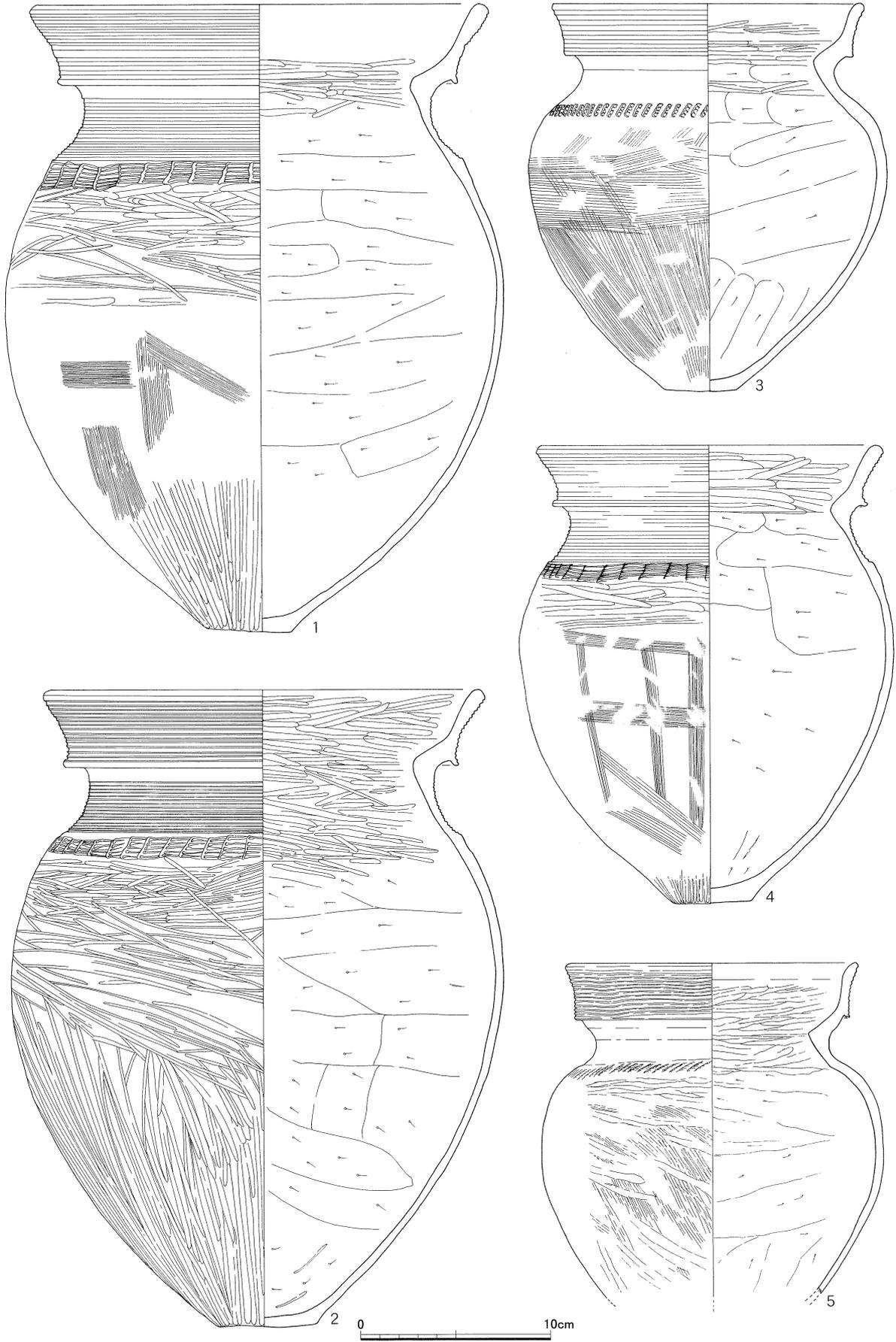
第26図 包含層2出土遺物8 (S=1/3)



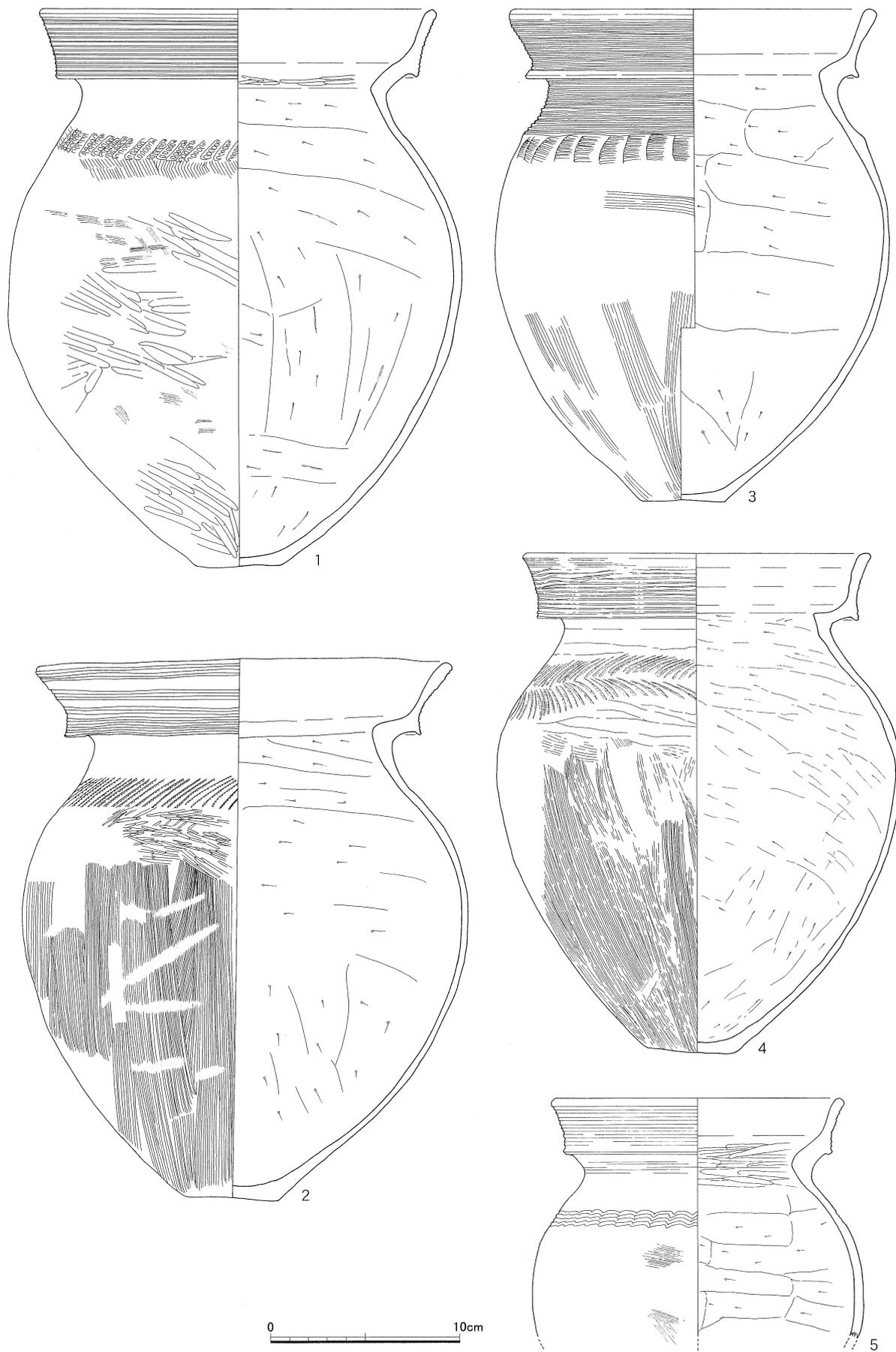
第27図 包含層2 出土遺物9 (S=1/3)



第28図 包含層2 出土遺物10 (S=1/3)



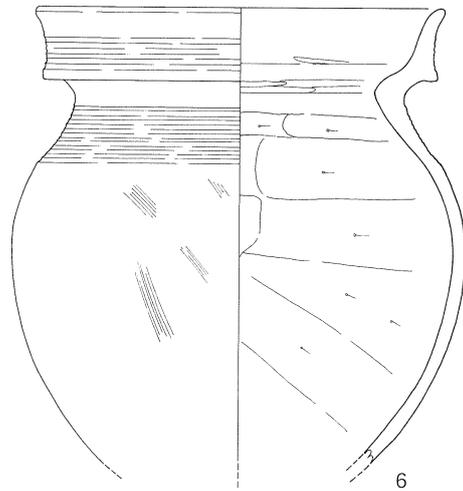
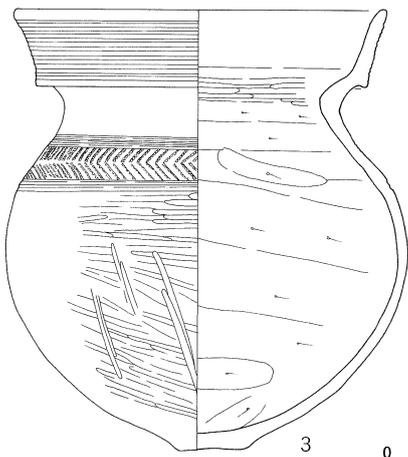
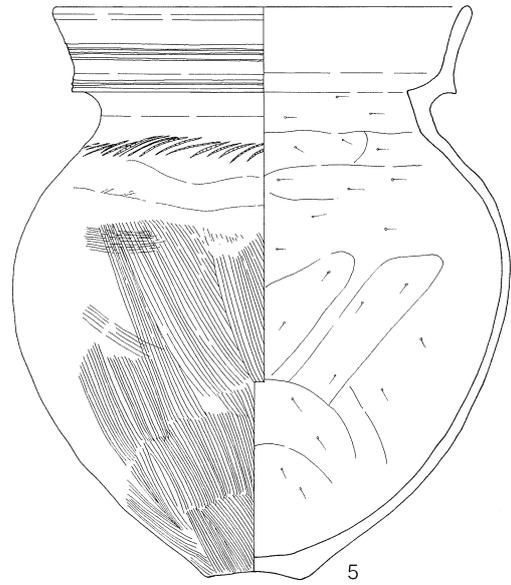
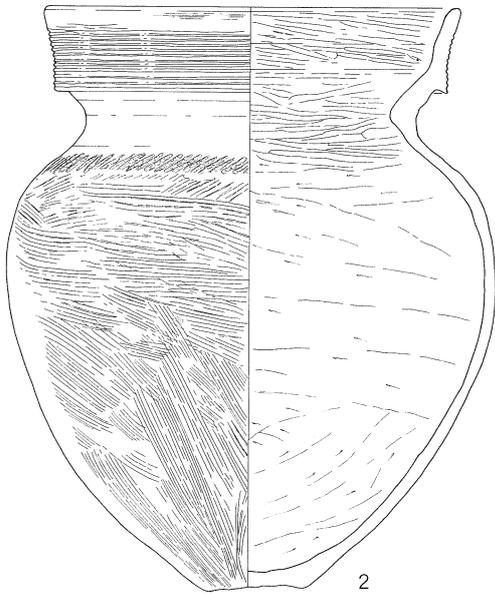
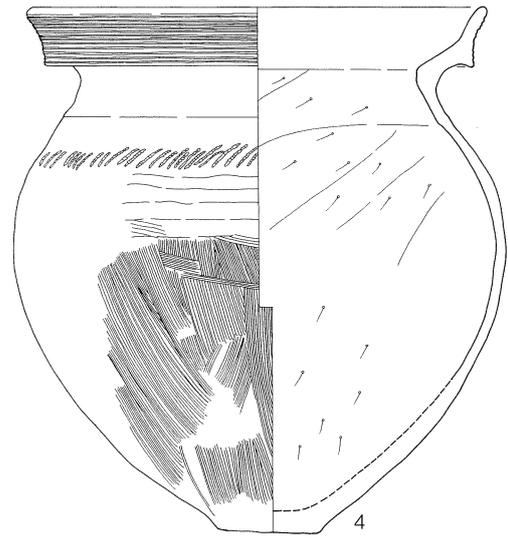
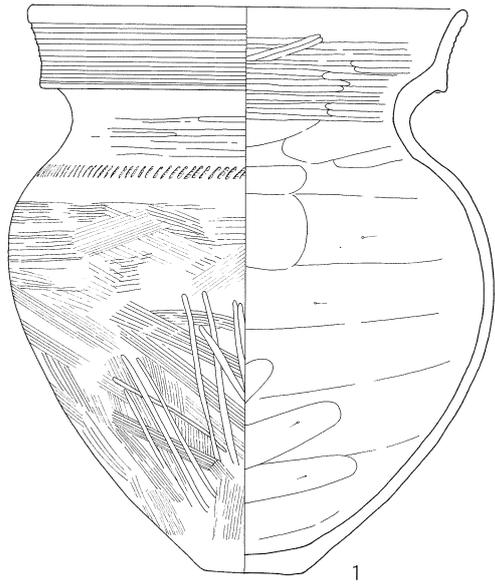
第29図 包含層2 出土遺物11 (S = 1 / 3)



第30図 包含層2 出土遺物12 (S = 1 / 3)

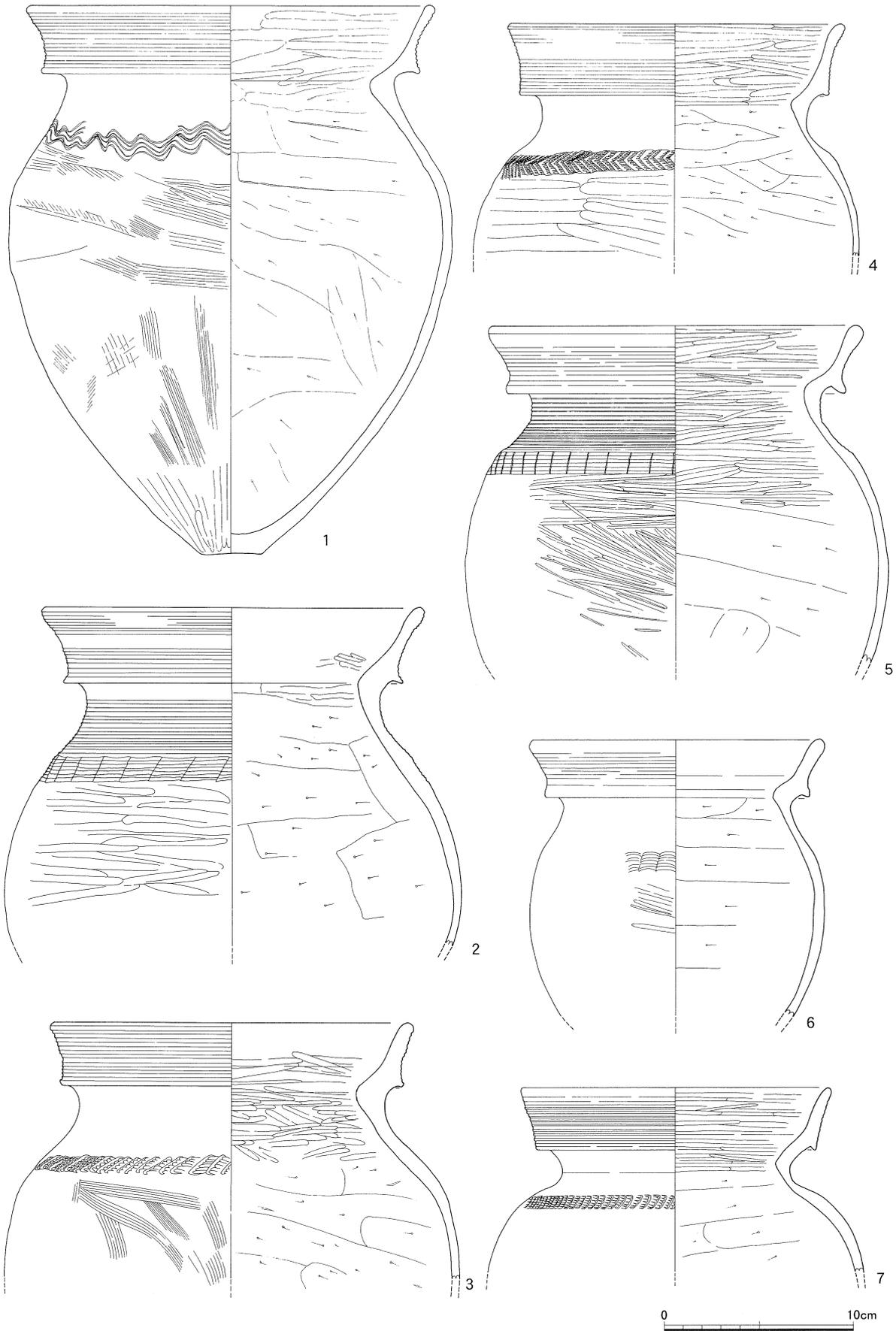


第31图 包含層2 出土遺物13 (S = 1 / 3)

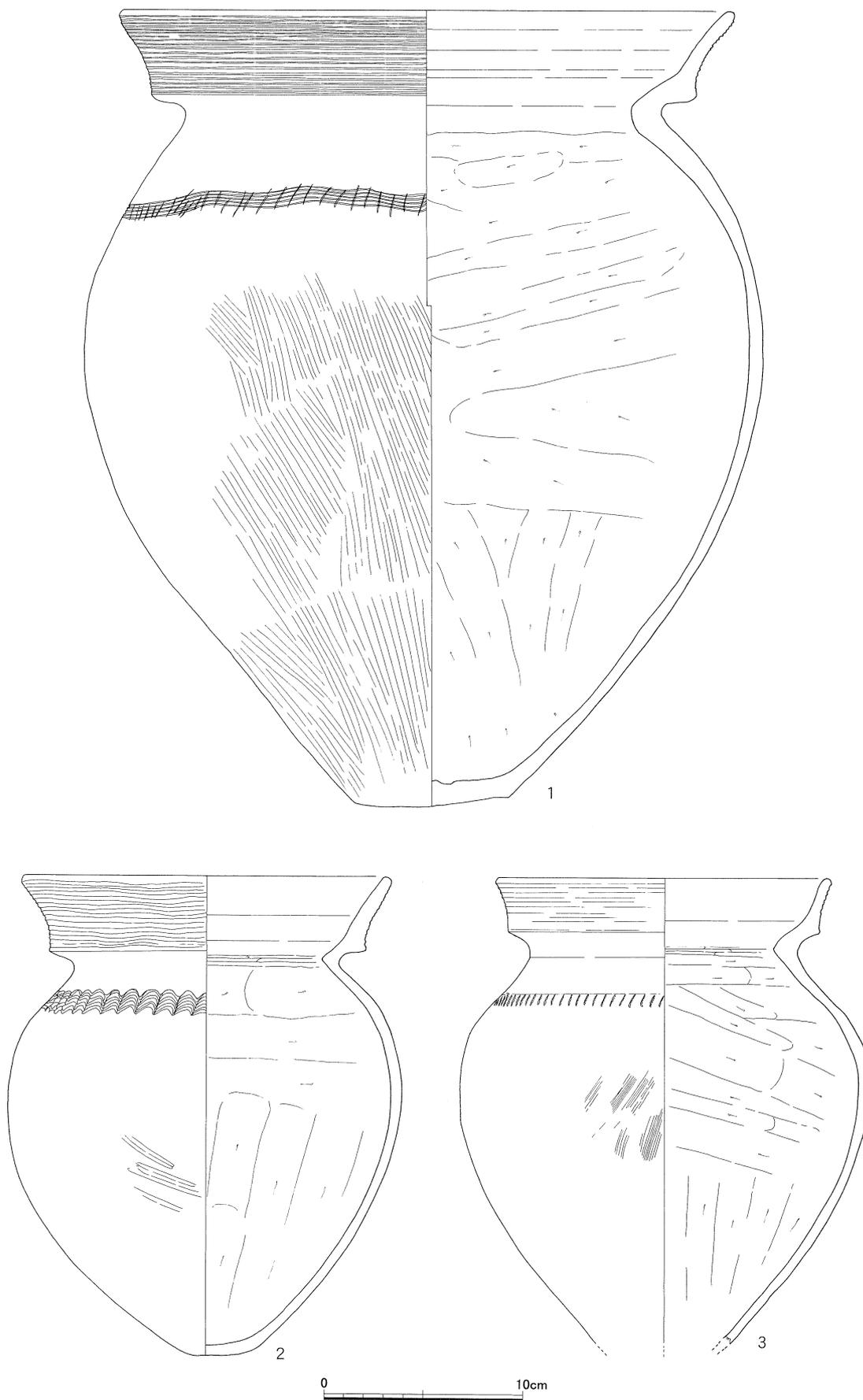


0 10cm

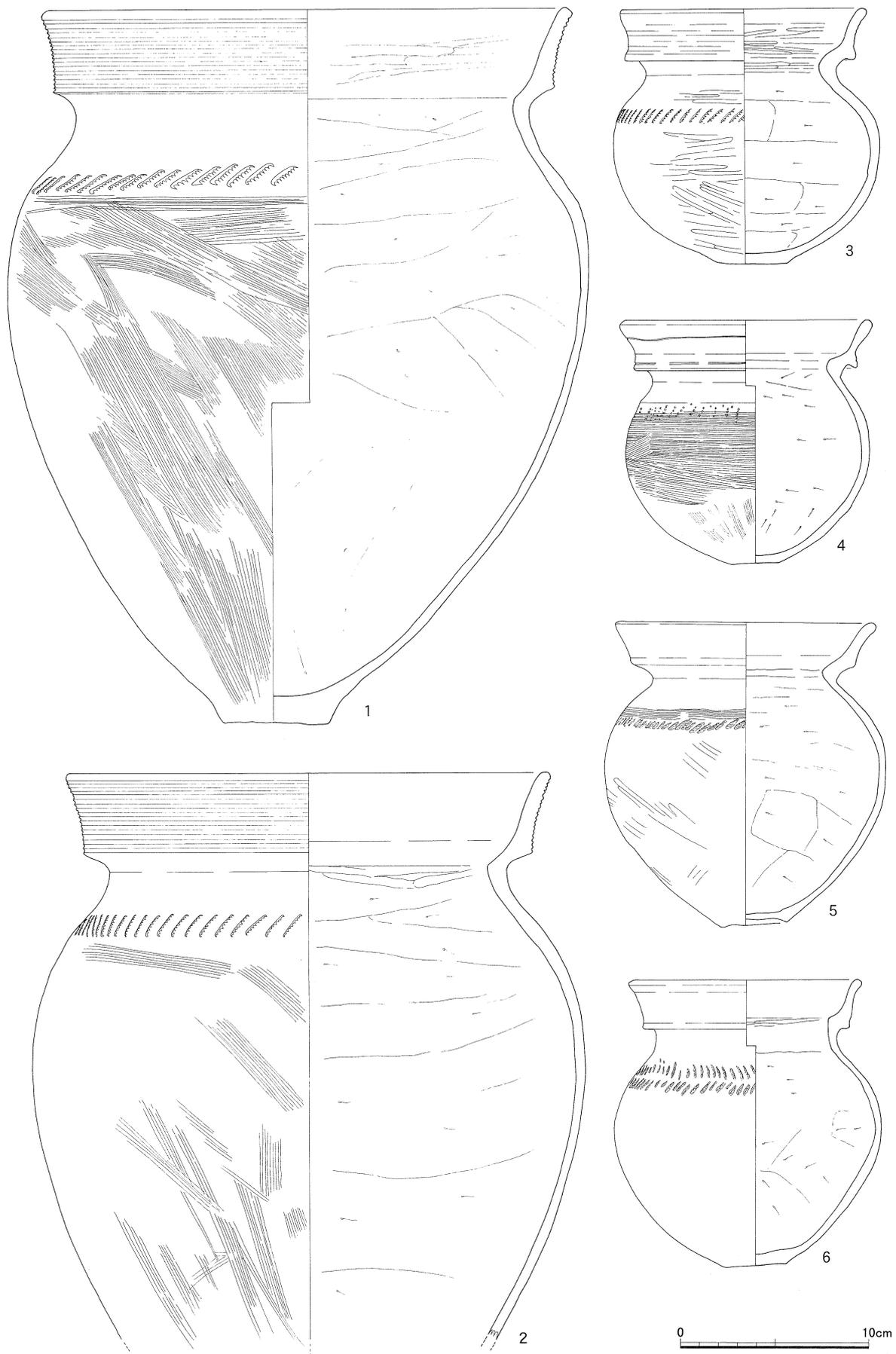
第32図 包含層2 出土遺物14 (S=1/3)



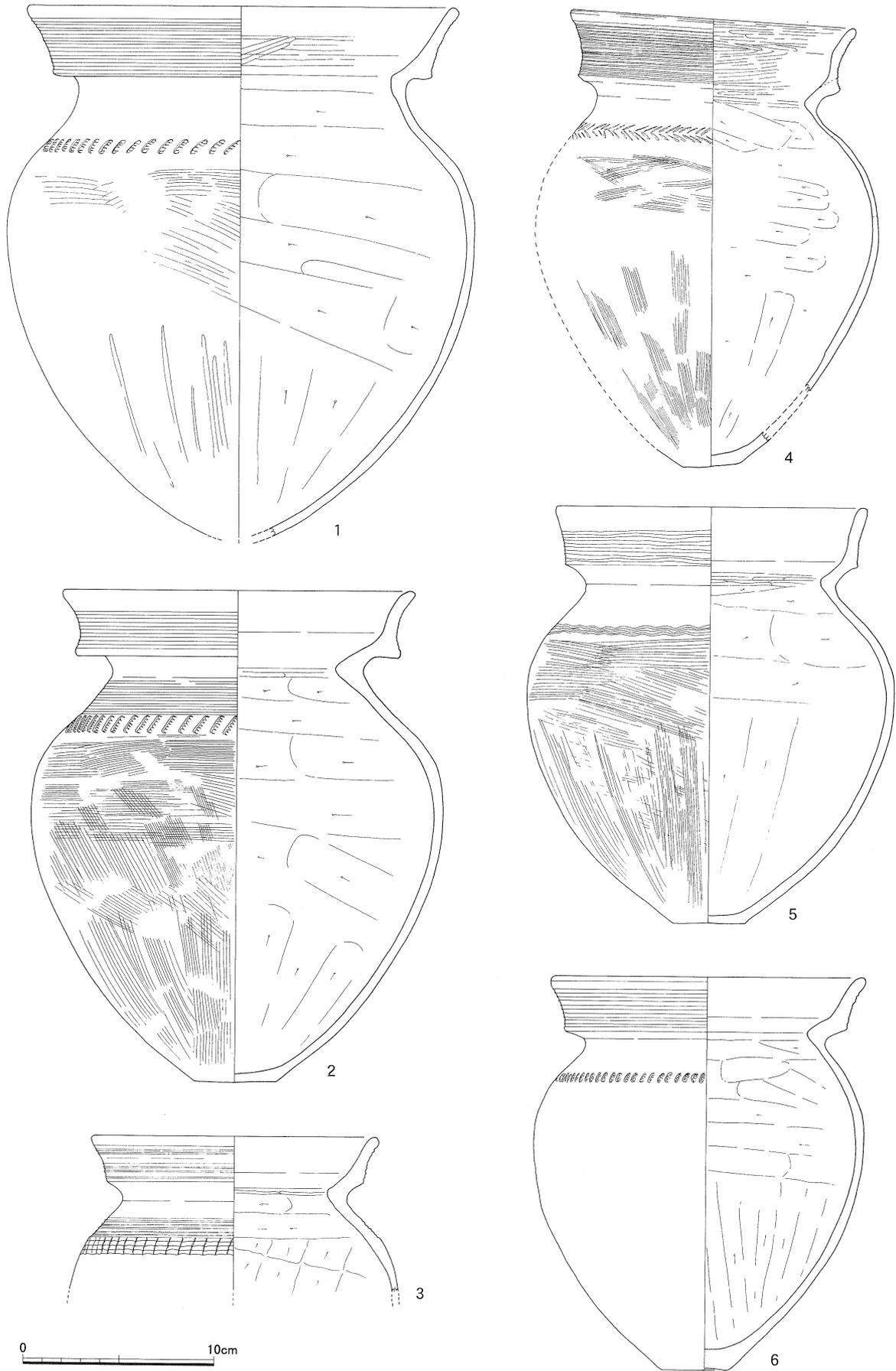
第33図 包含層 2 出土遺物15 (S = 1 / 3)



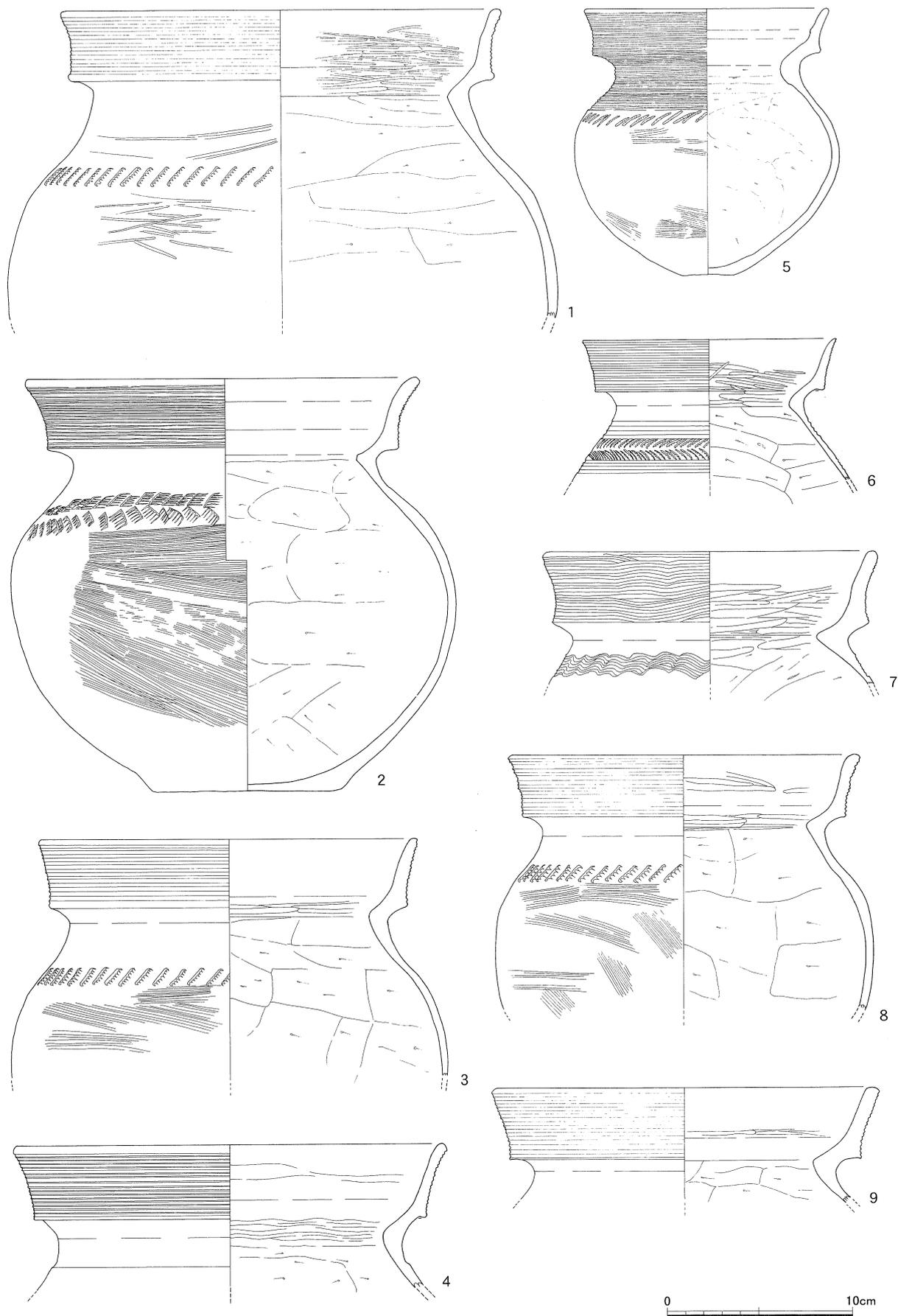
第34図 包含層 2 出土遺物16 (S = 1 / 3)



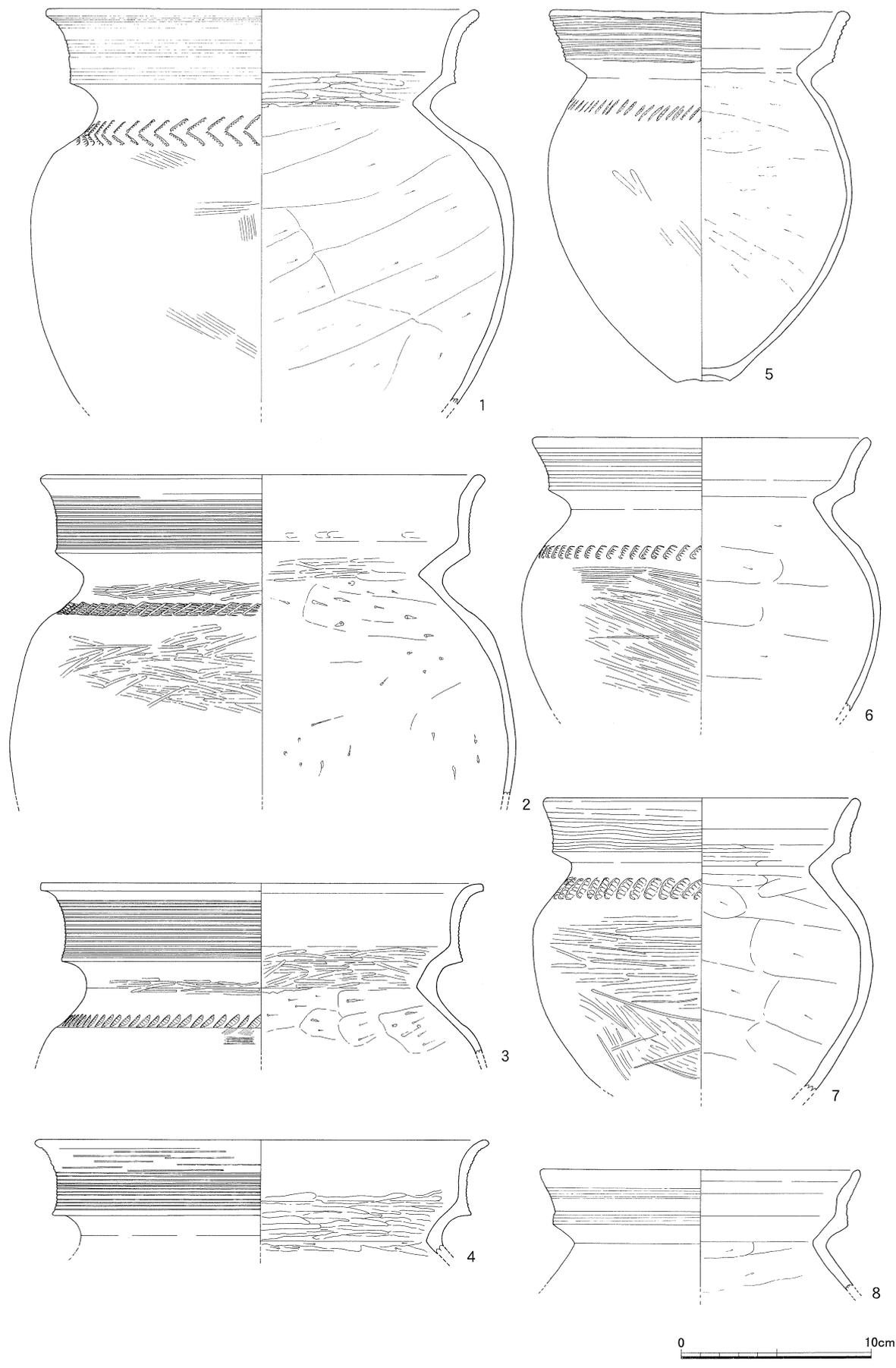
第35図 包含層2出土遺物17 (S = 1 / 3)



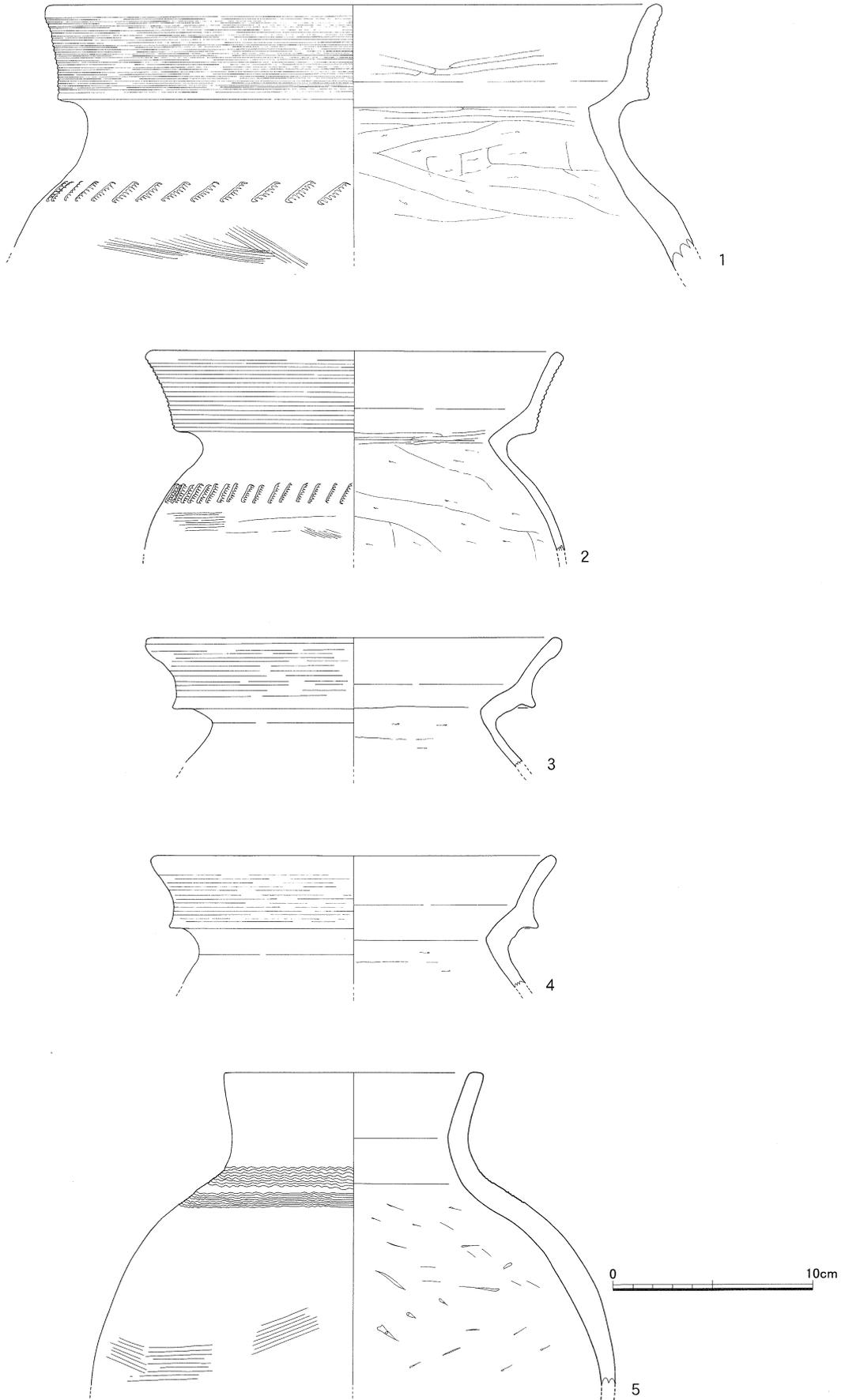
第36図 包含層2 出土遺物18 (S=1 / 3)



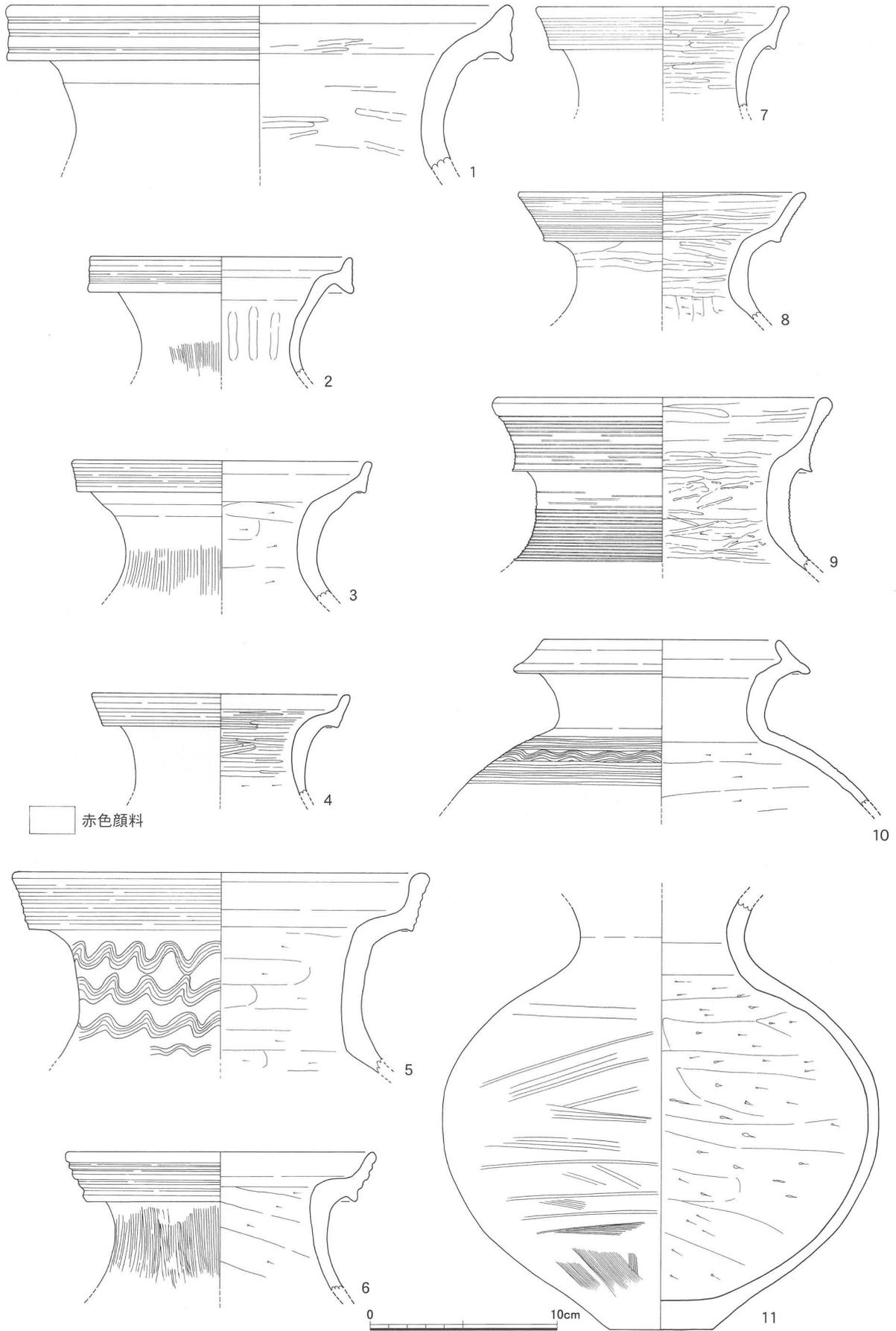
第37図 包含層 2 出土遺物19 (S = 1 / 3)



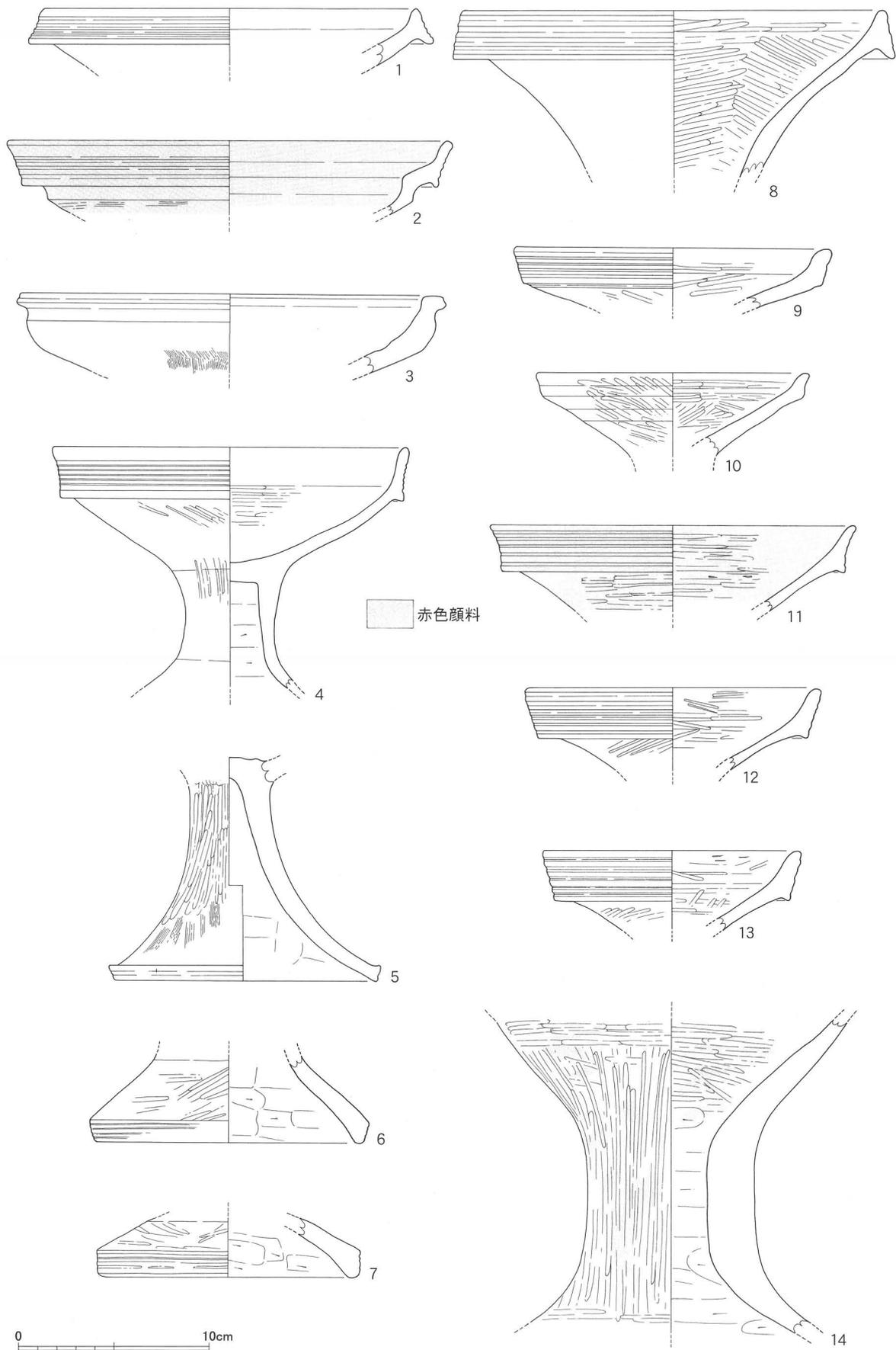
第38図 包含層2 出土遺物20 (S = 1 / 3)



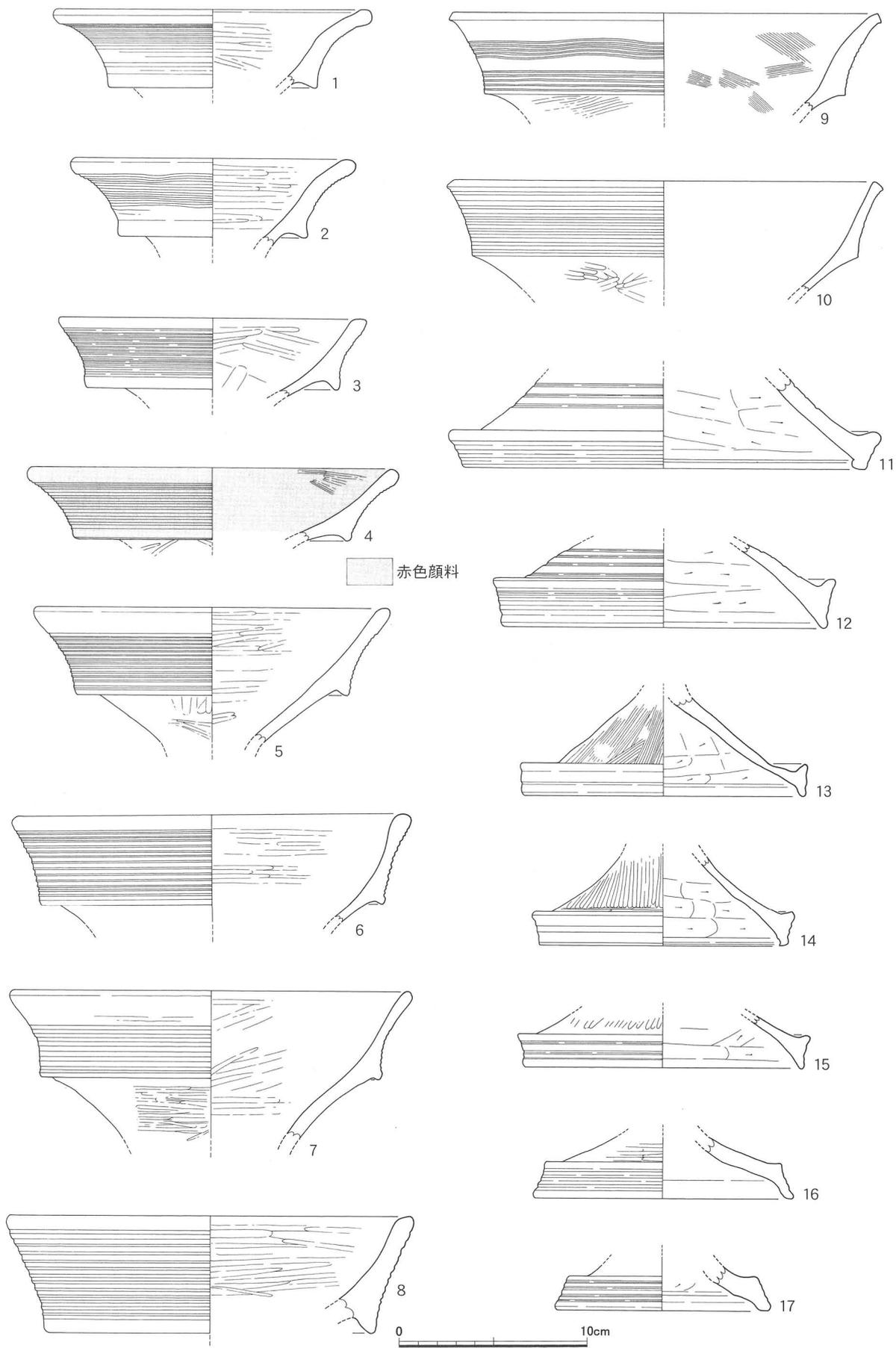
第39図 包含層2 出土遺物21 (S=1/3)



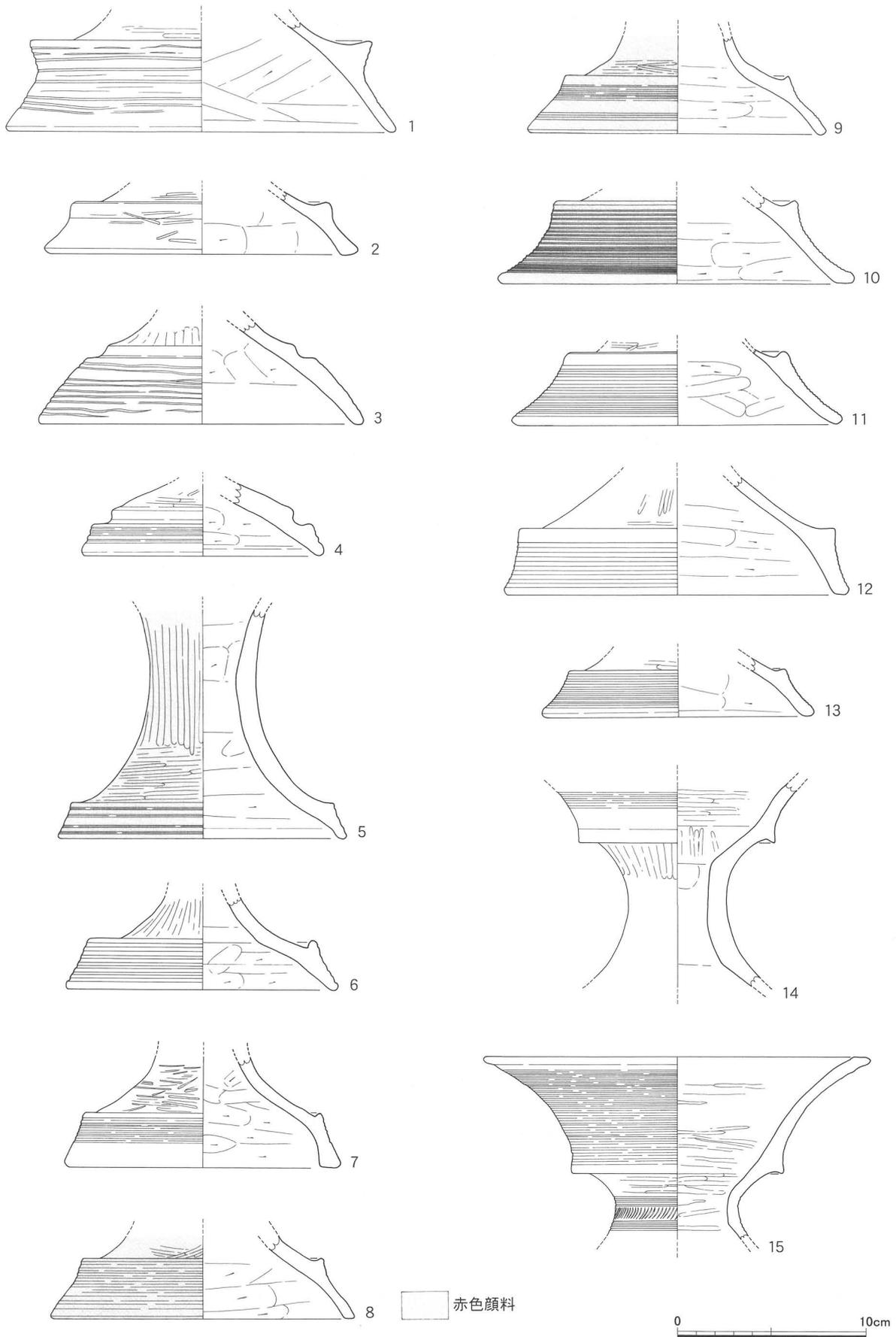
第40図 包含層2 出土遺物22 (S = 1 / 3)



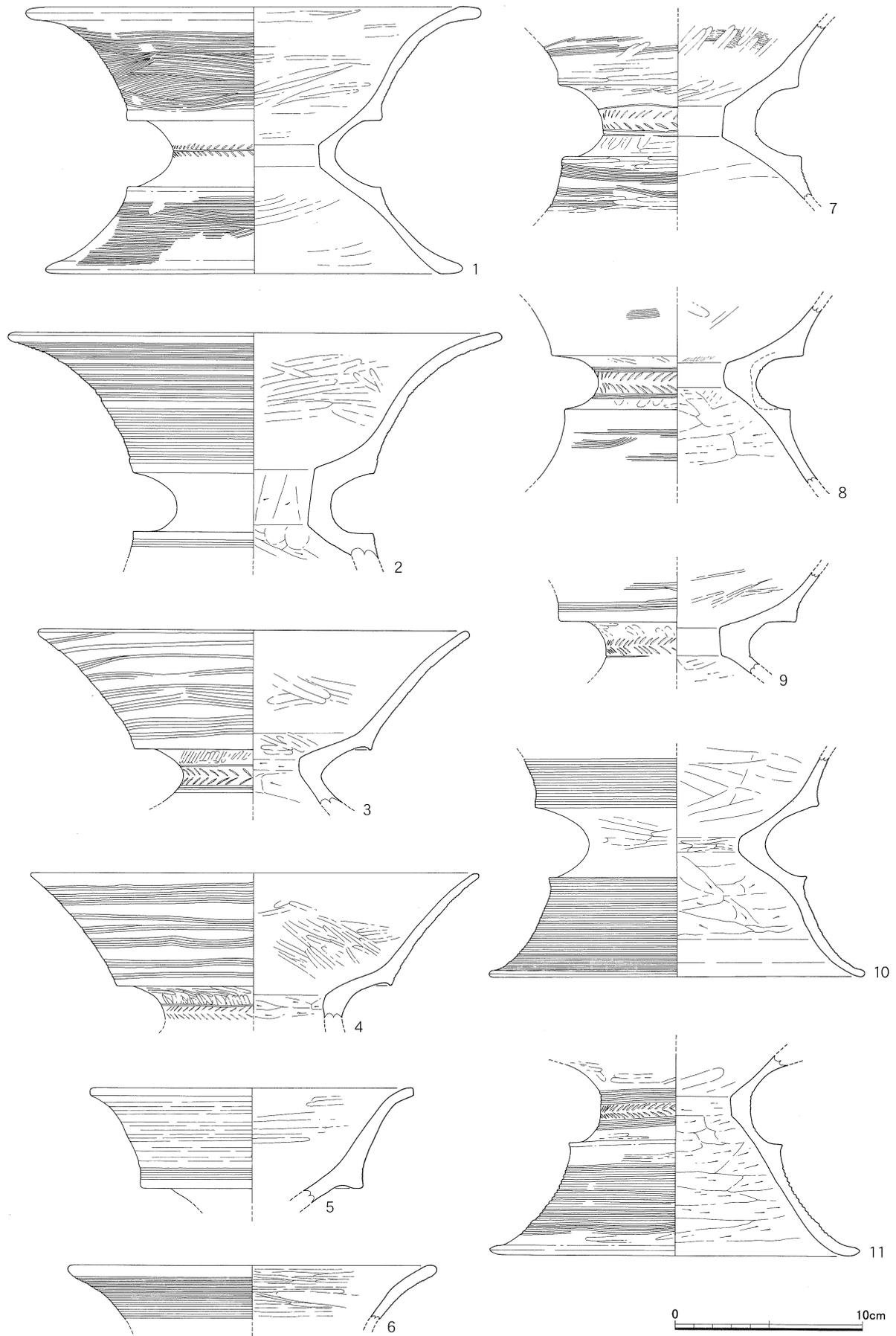
第41図 包含層2出土遺物23 (S=1/3)



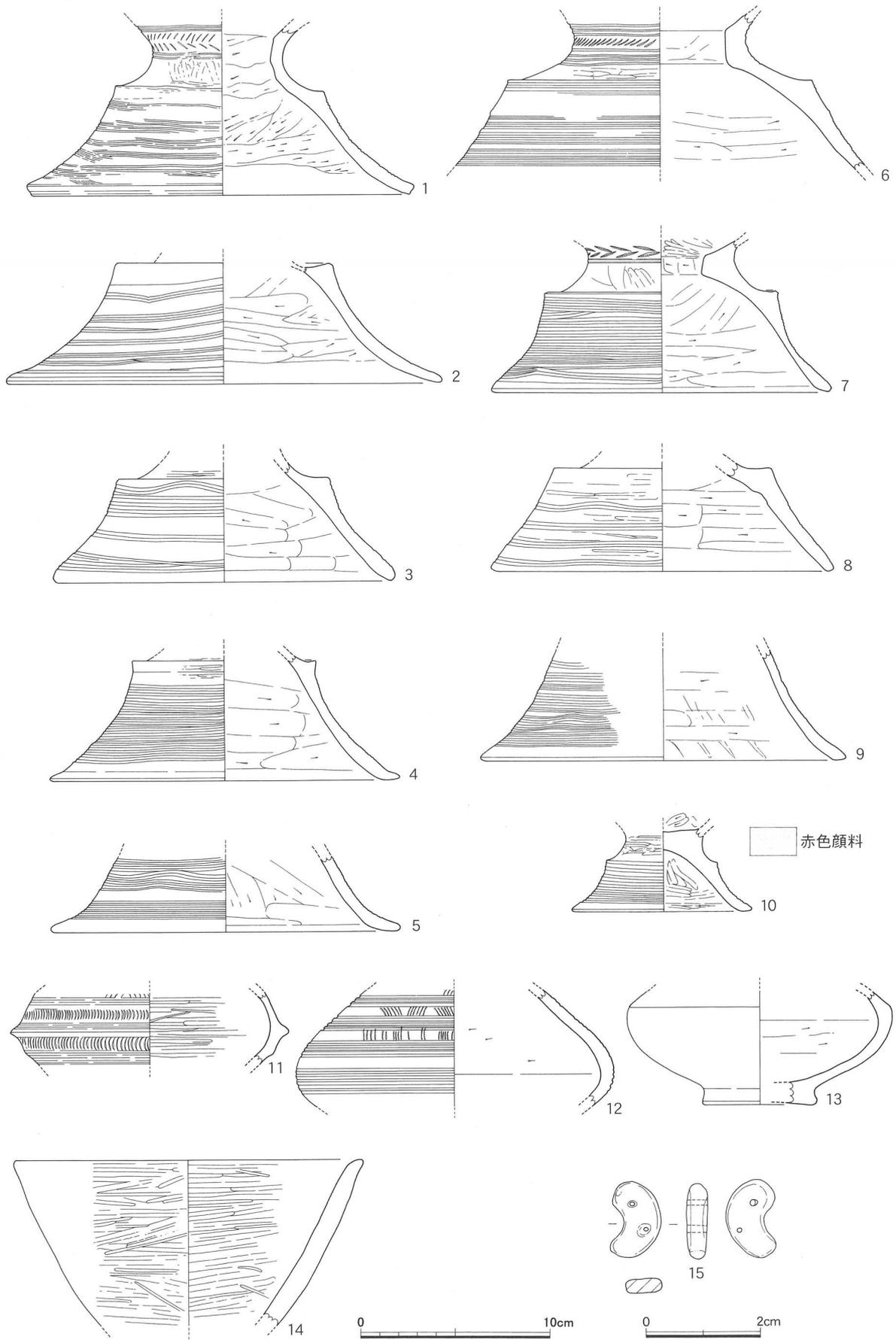
第42図 包含層2 出土遺物24 (S = 1 / 3)



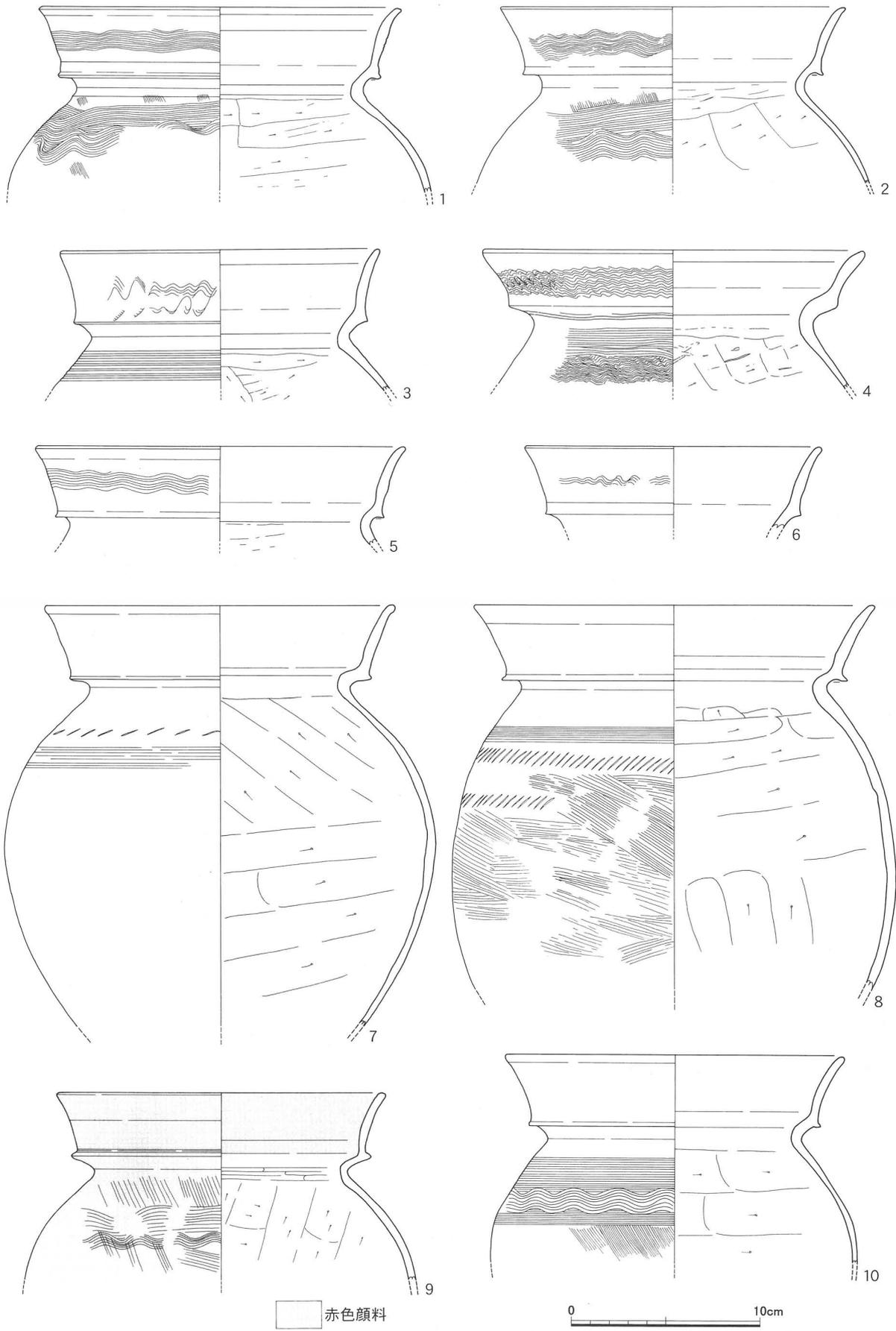
第43図 包含層2 出土遺物25 (S = 1 / 3)



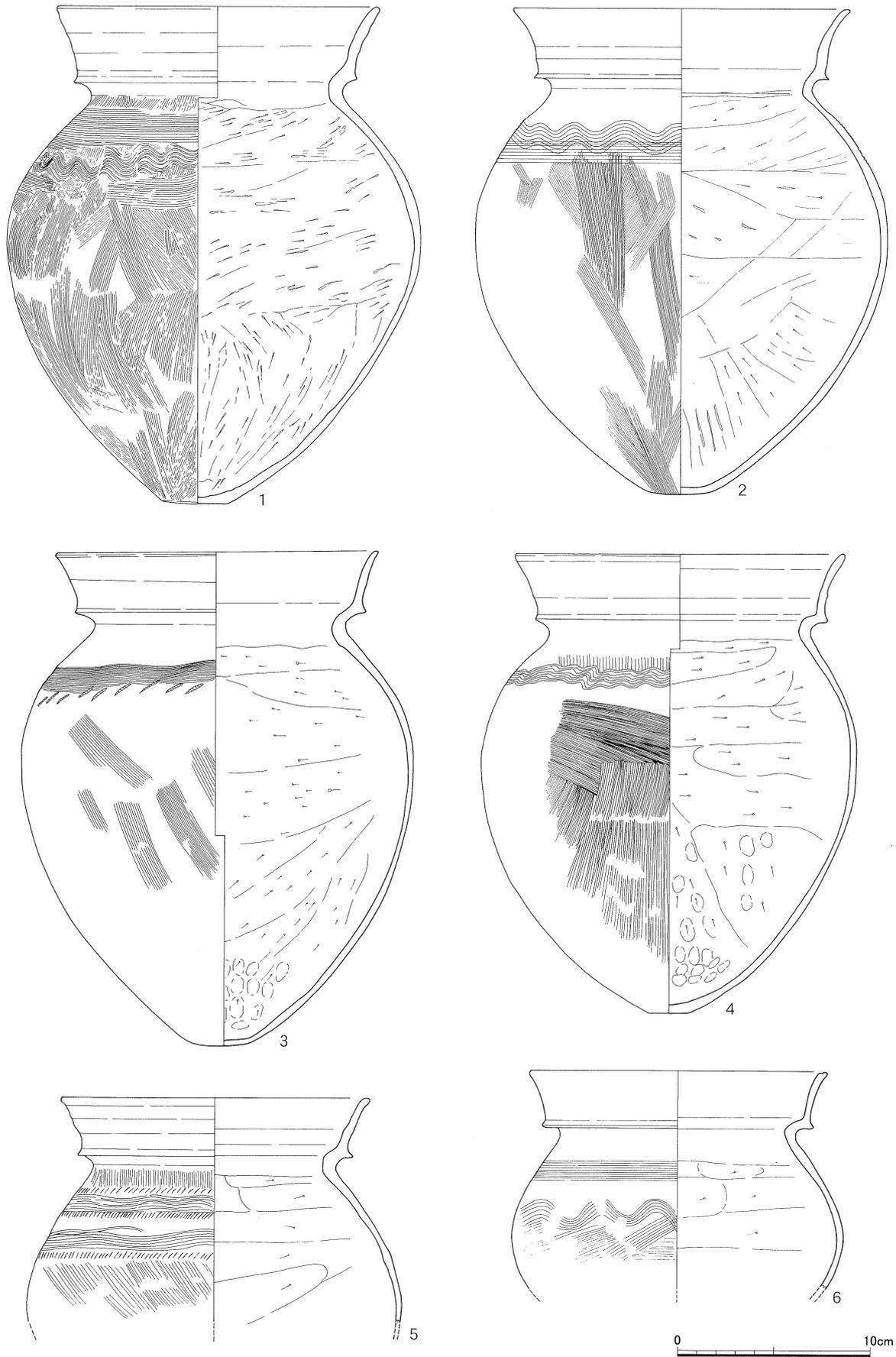
第44図 包含層2 出土遺物26 (S = 1 / 3)



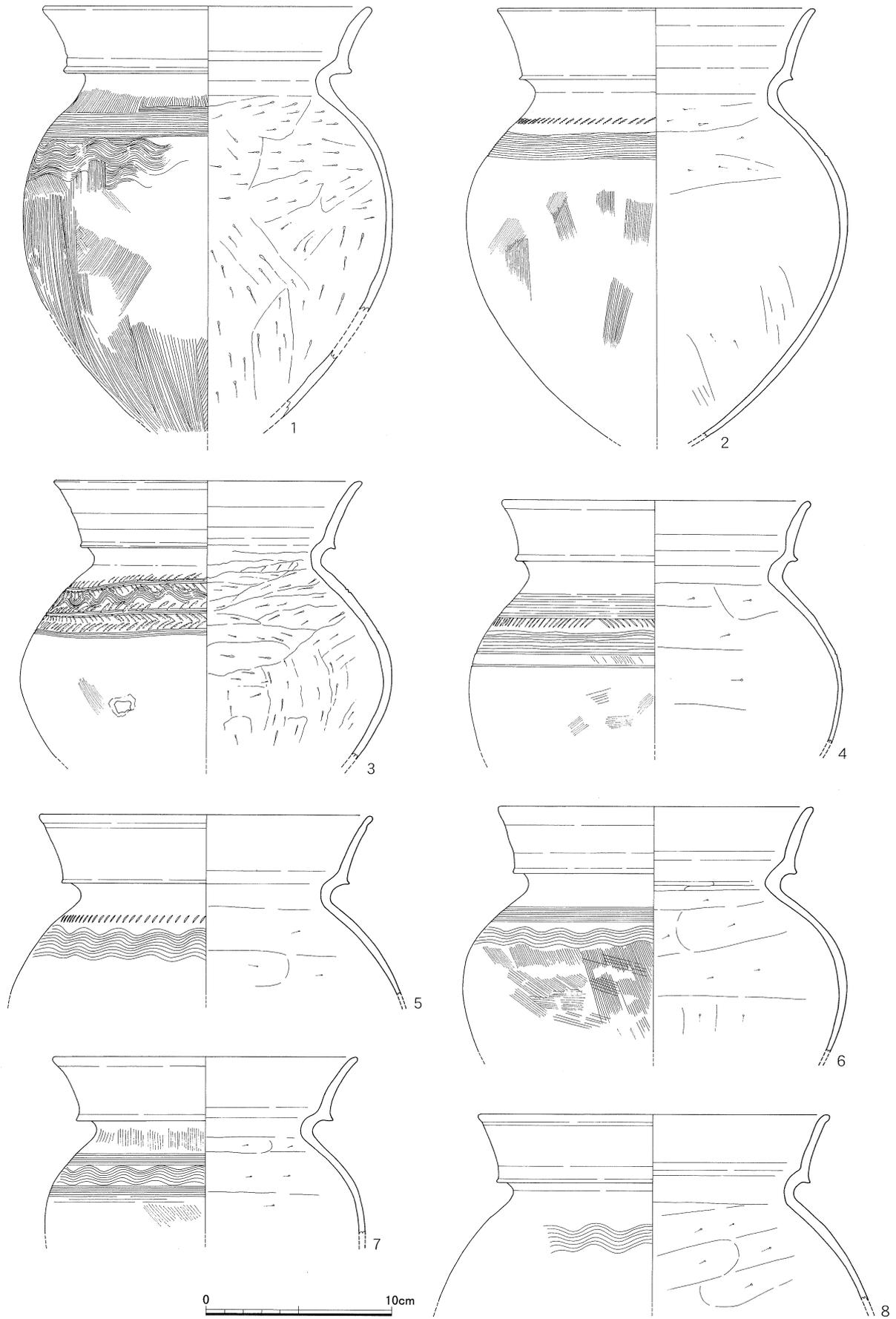
第45図 包含層2 出土遺物27 (S=1/3、15は1/1)



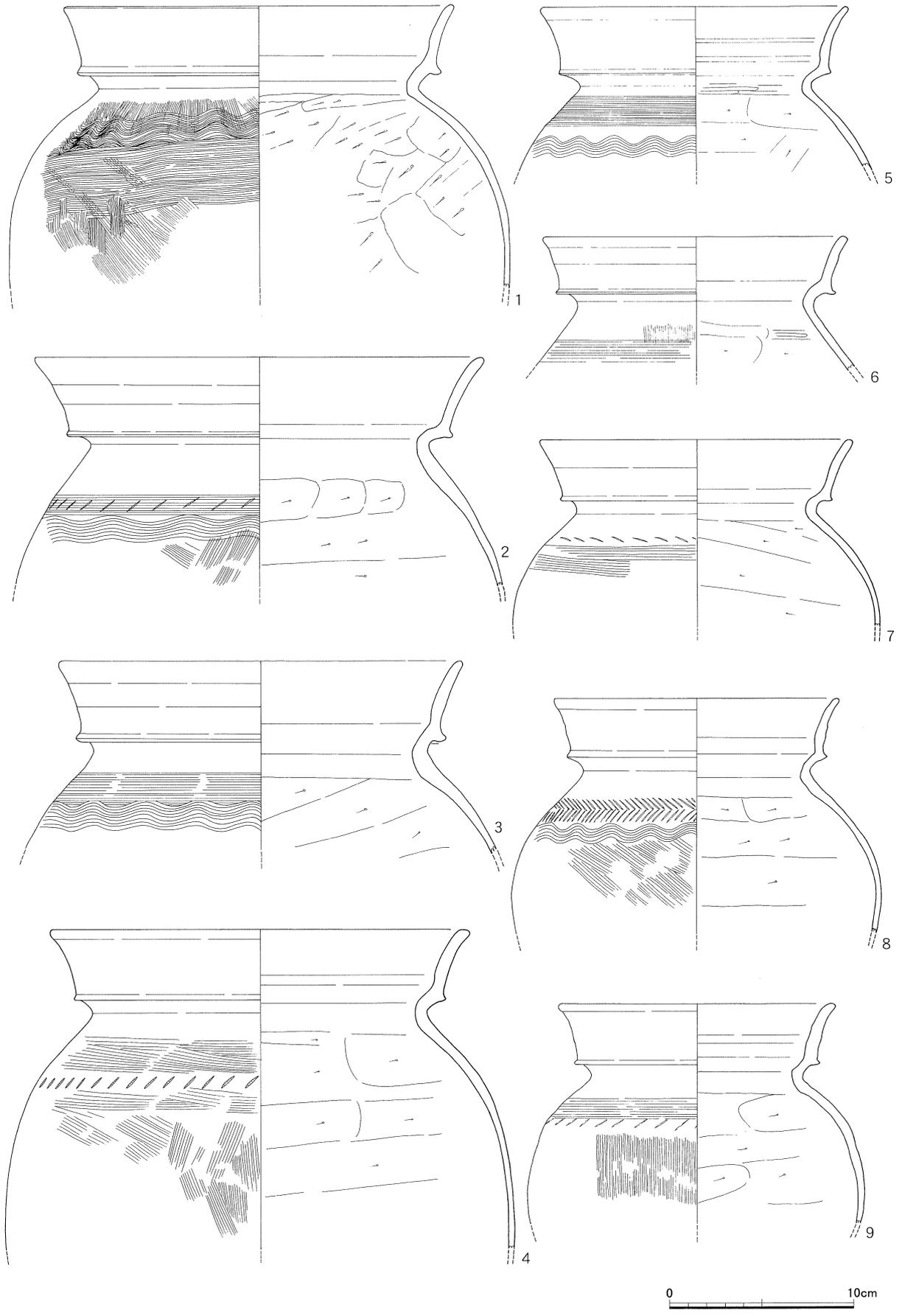
第46図 包含層1 出土遺物1 (S = 1 / 3)



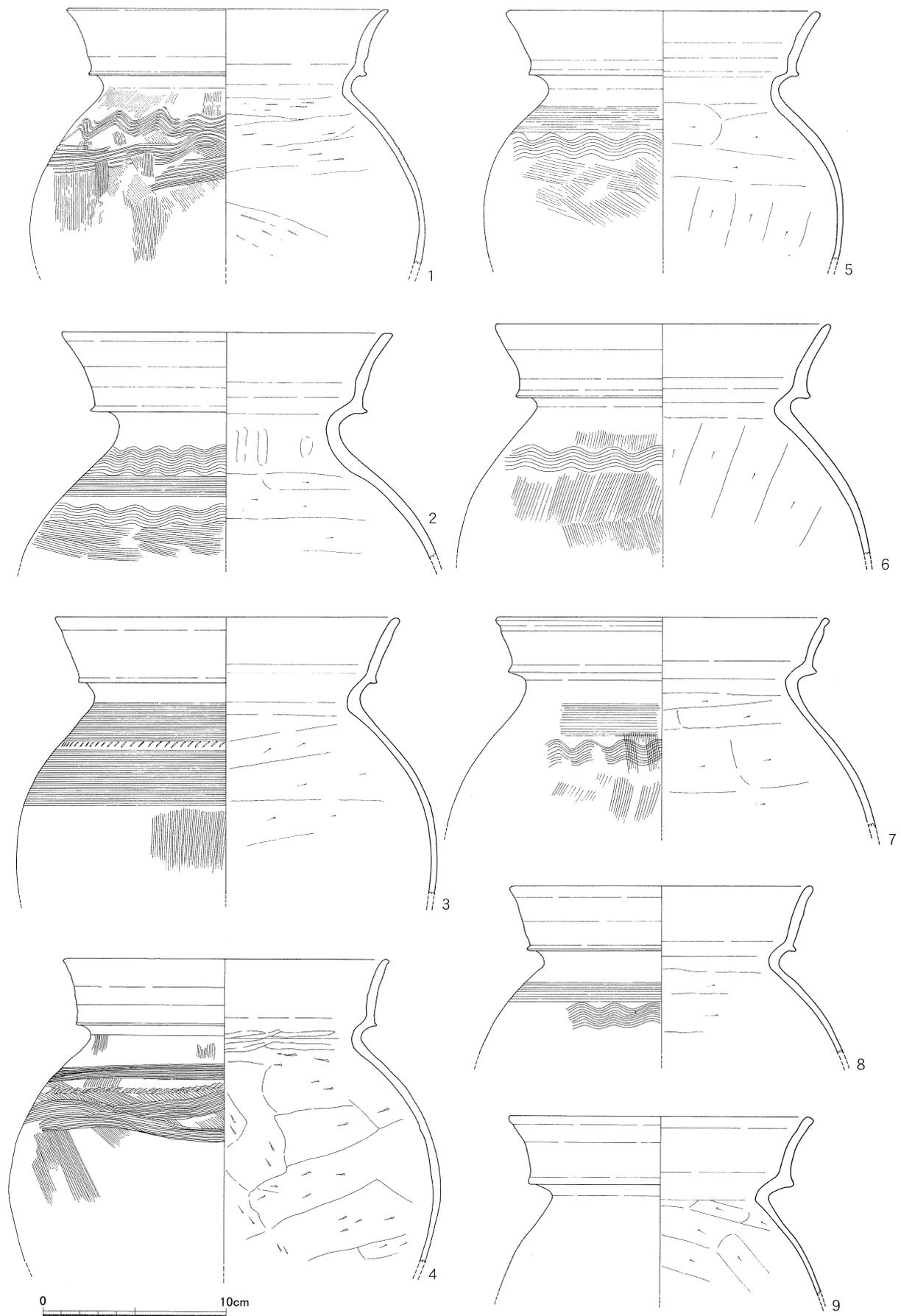
第47図 包含層1出土遺物2 (S=1/3)



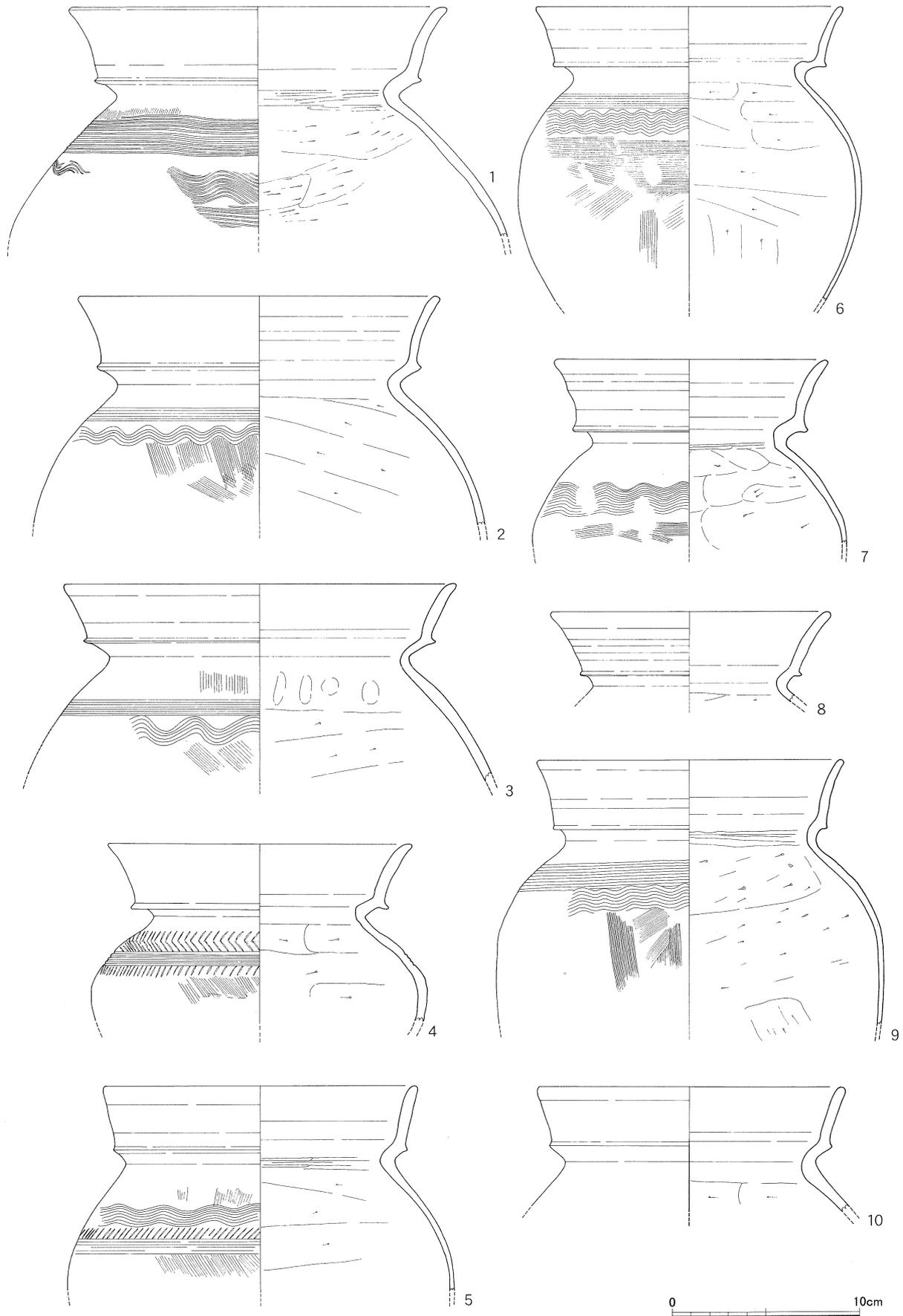
第48図 包含層1出土遺物3 (S=1/3)



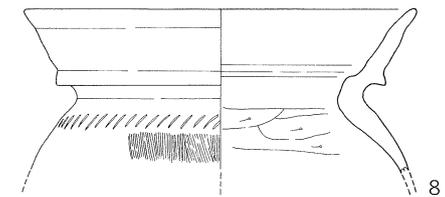
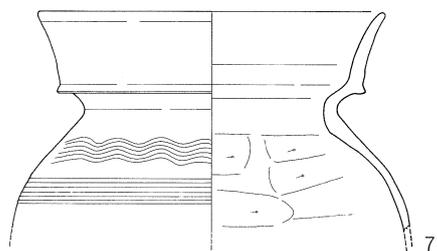
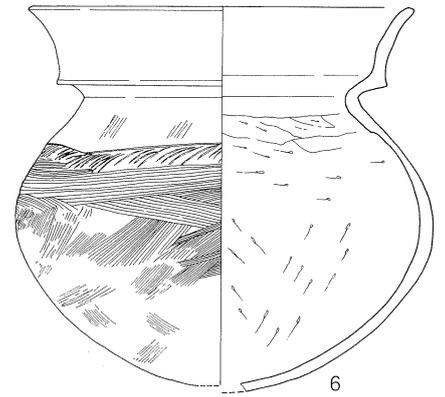
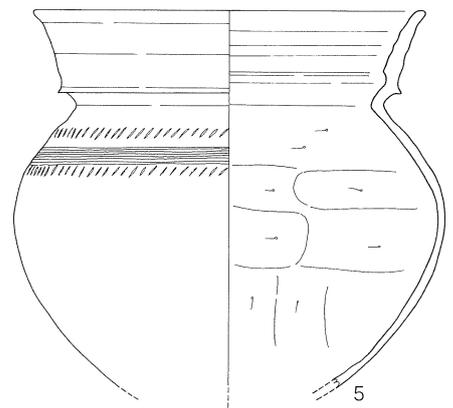
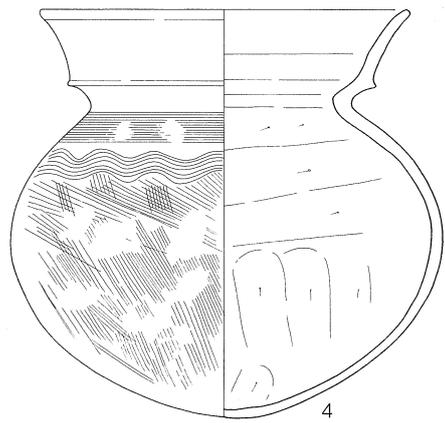
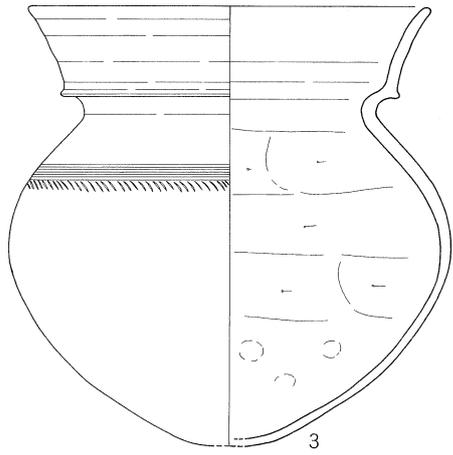
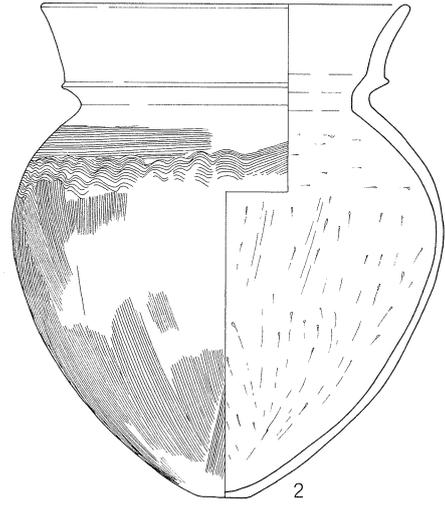
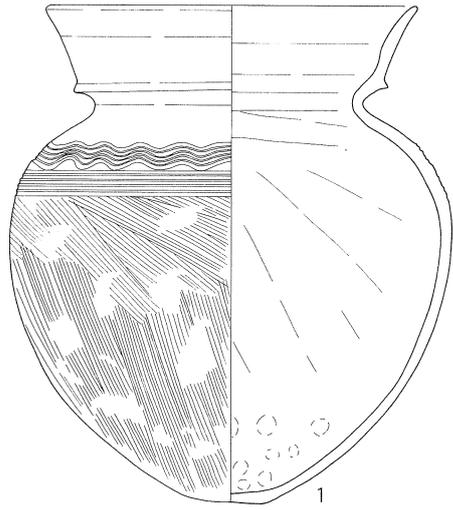
第49図 包含層1 出土遺物4 (S=1/3)



第50図 包含層1 出土遺物5 (S=1/3)

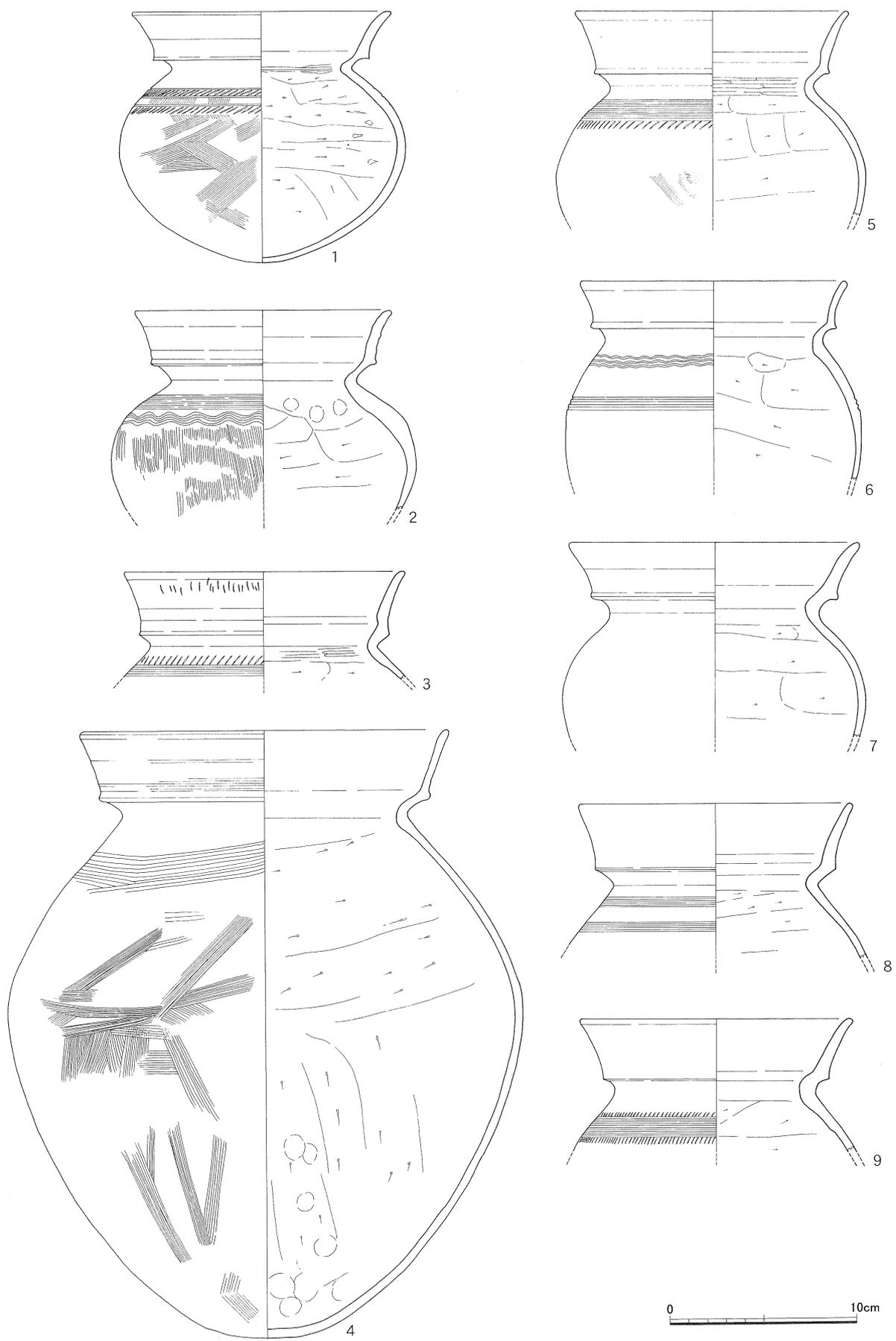


第51図 包含層1 出土遺物6 (S=1/3)

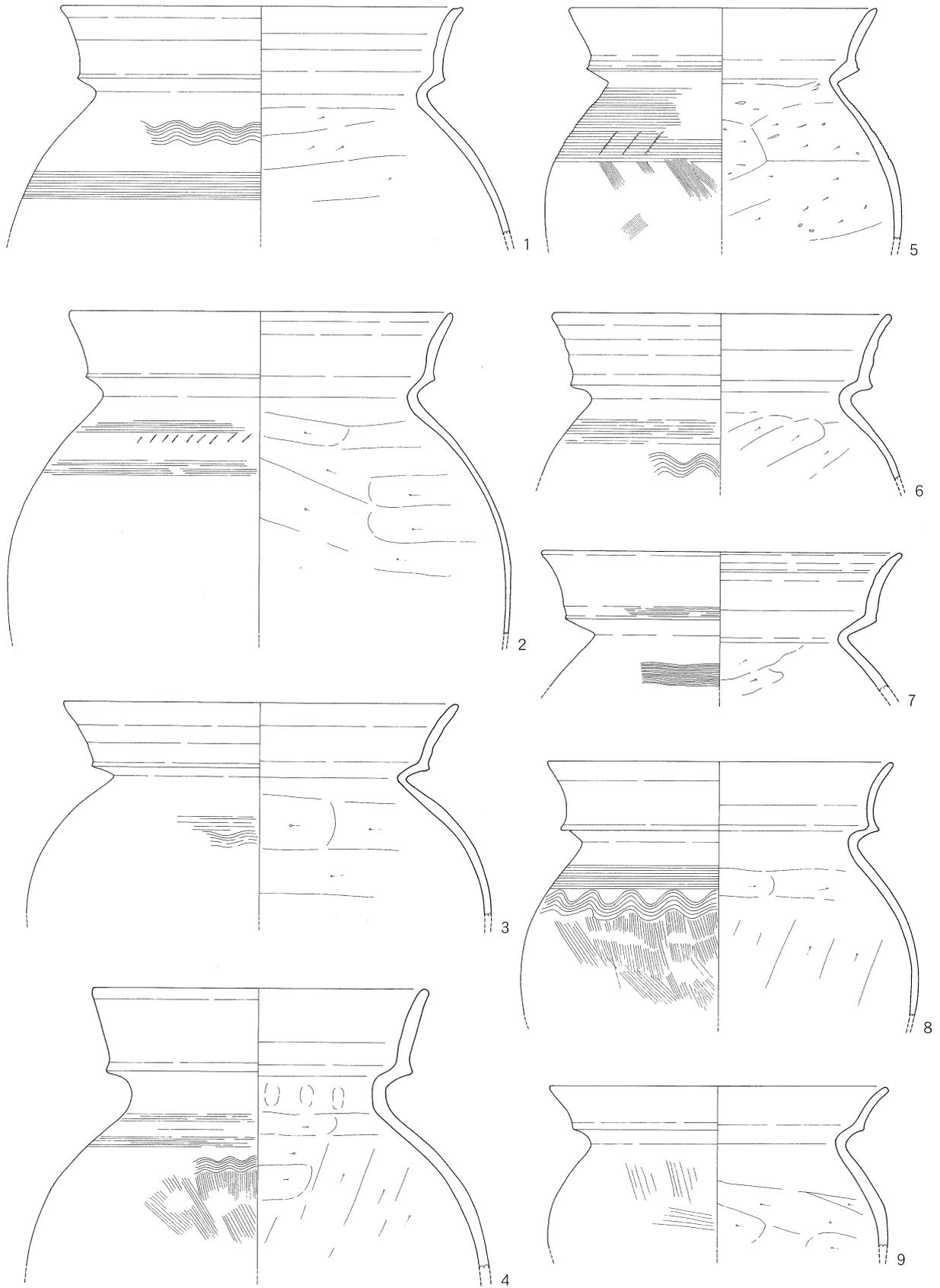


0 10cm

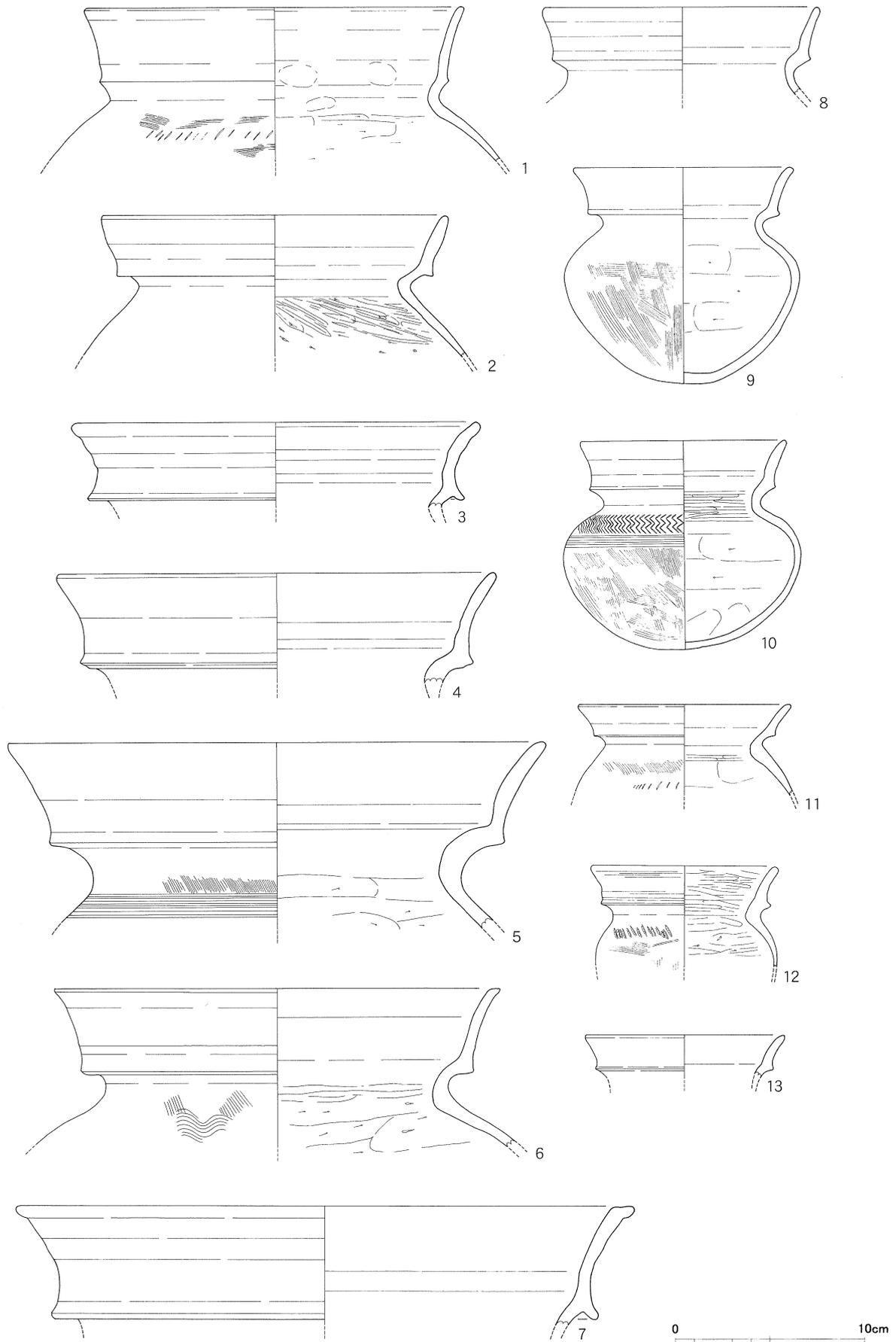
第52図 包含層1 出土遺物7 (S=1/3)



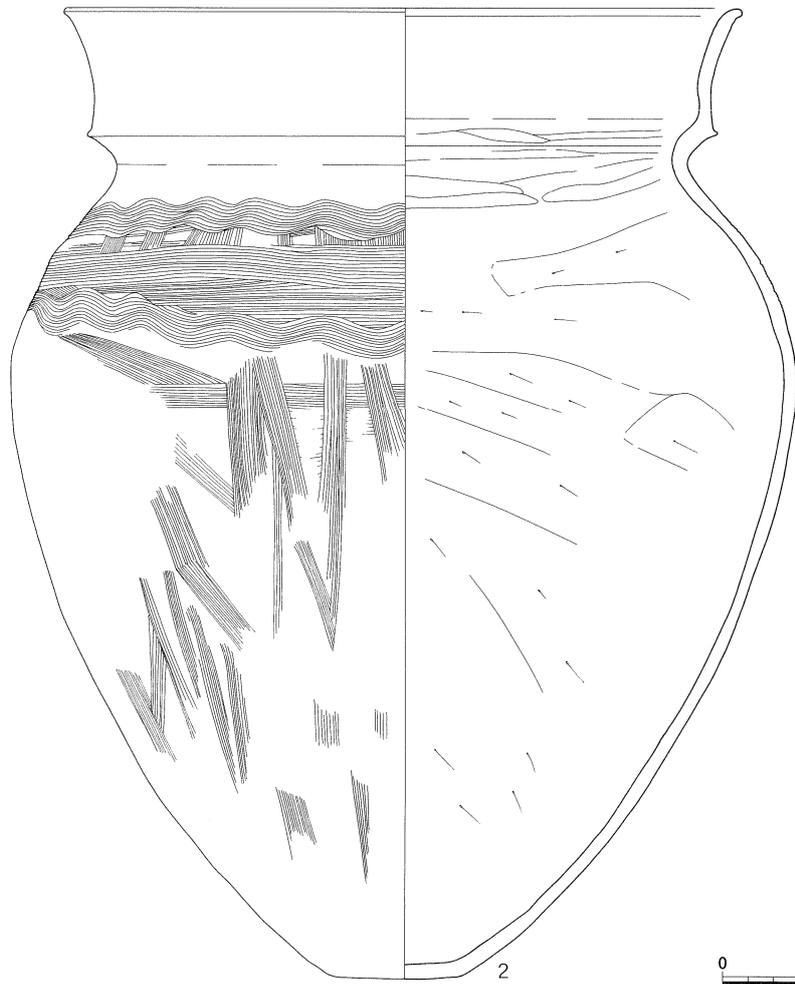
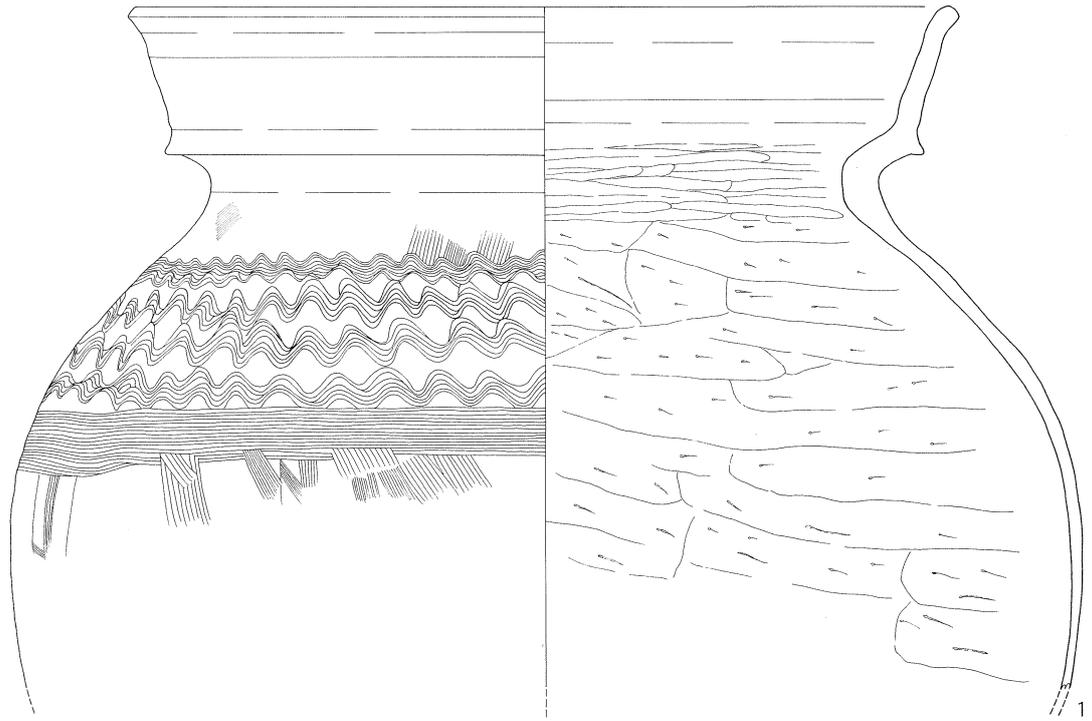
第53図 包含層1 出土遺物8 (S=1/3)



第54図 包含層1 出土遺物9 (S=1/3)

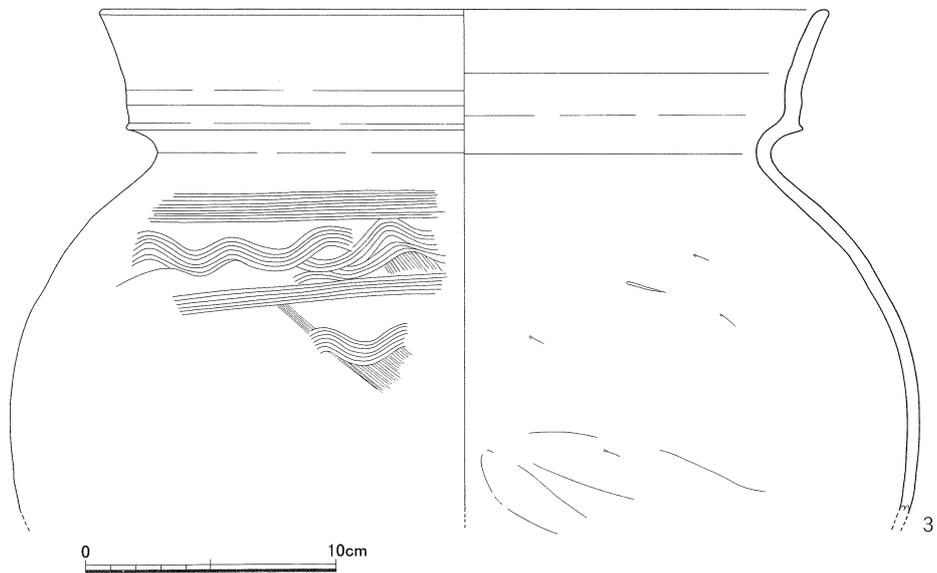
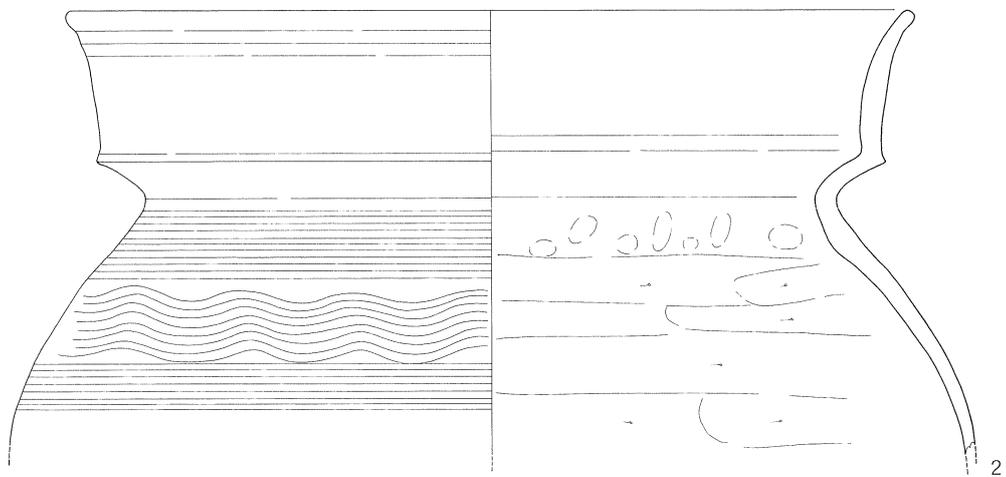
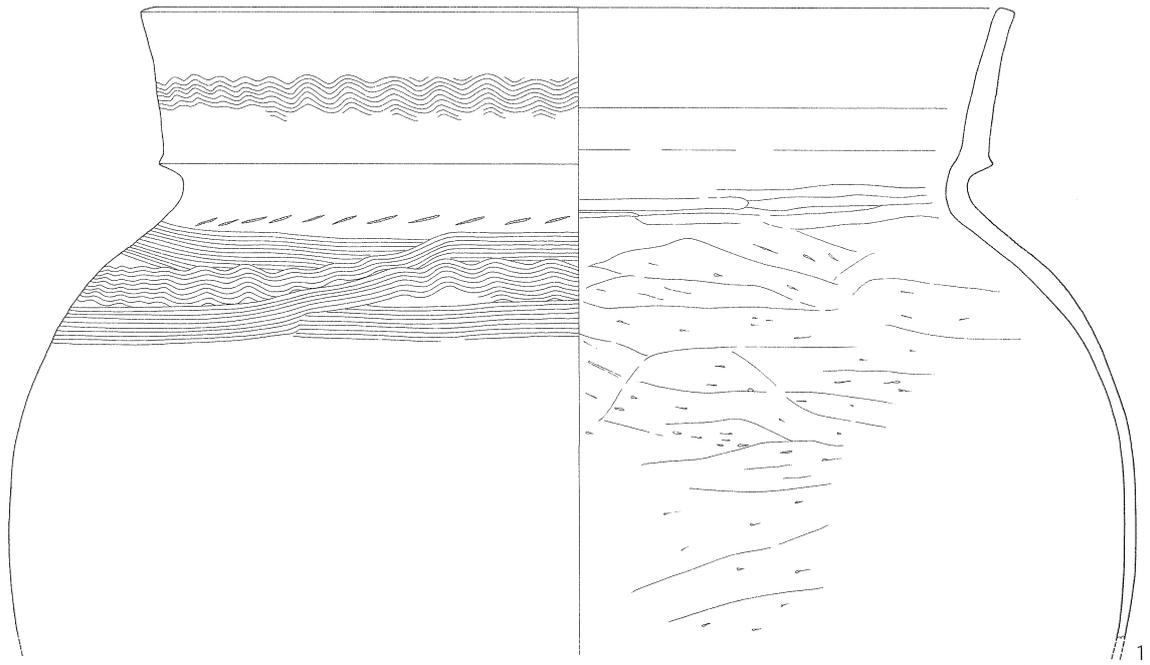


第55図 包含層1 出土遺物10 (S = 1 / 3)

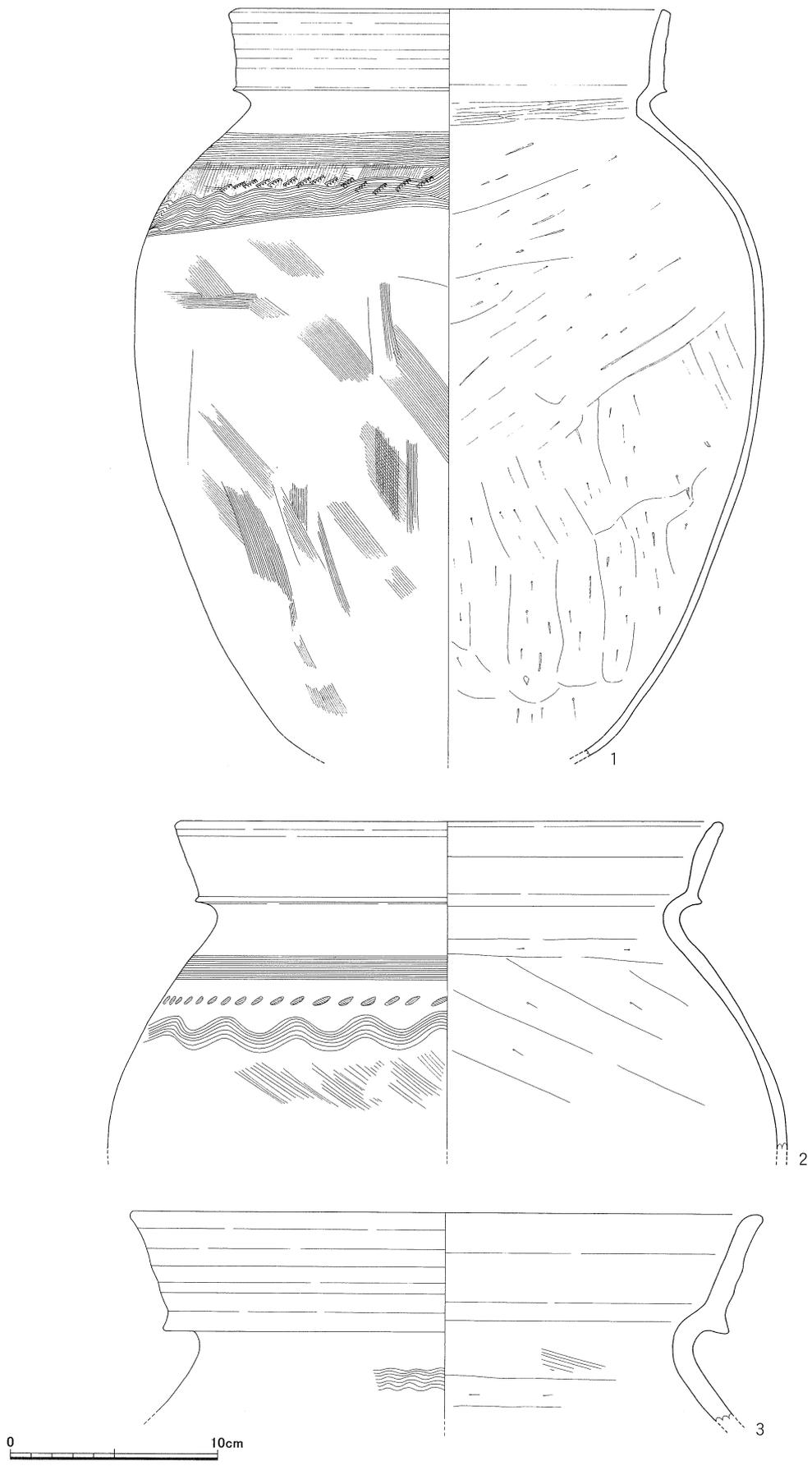


0 10cm

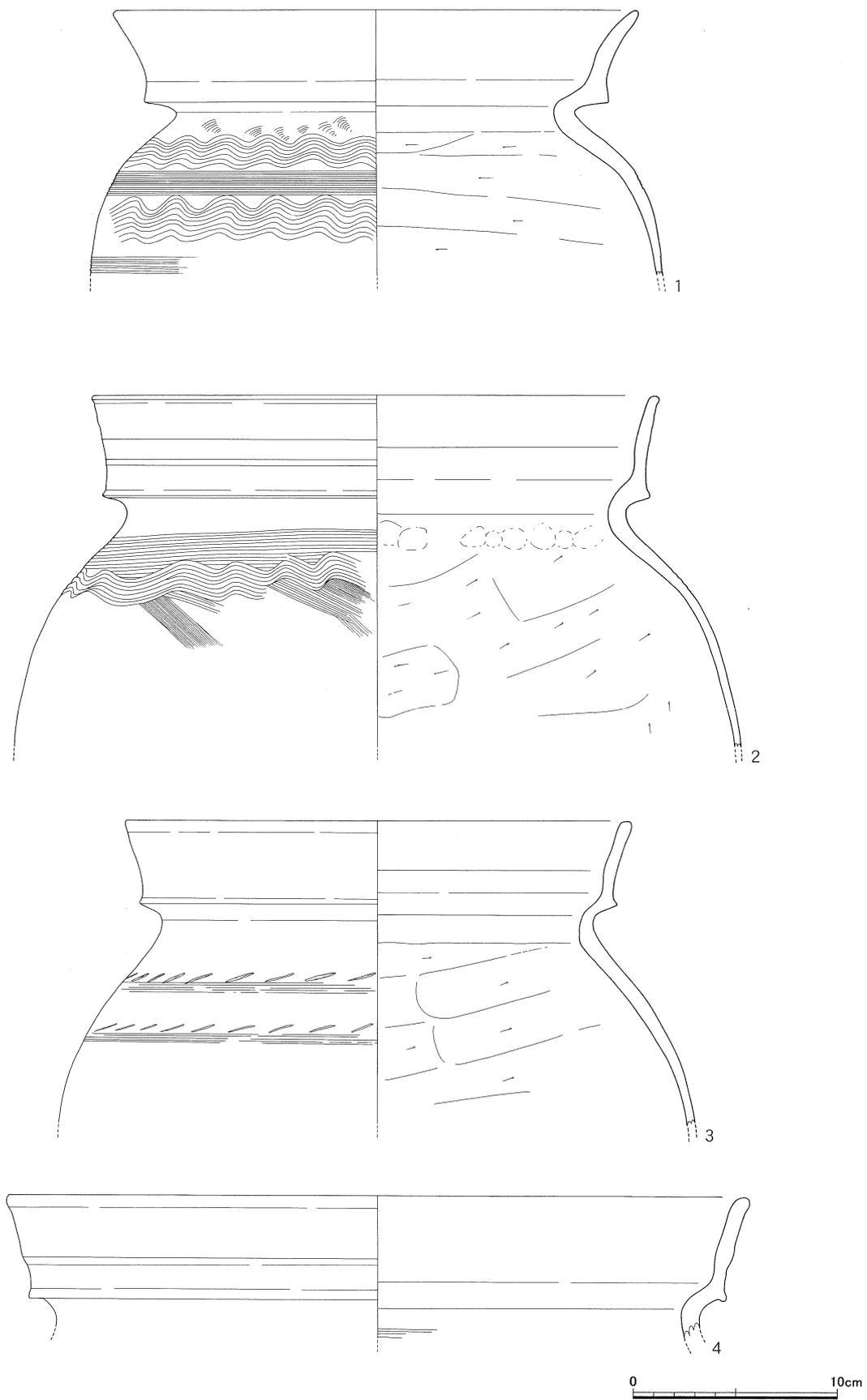
第56図 包含層1 出土遺物11 (S = 1 / 3)



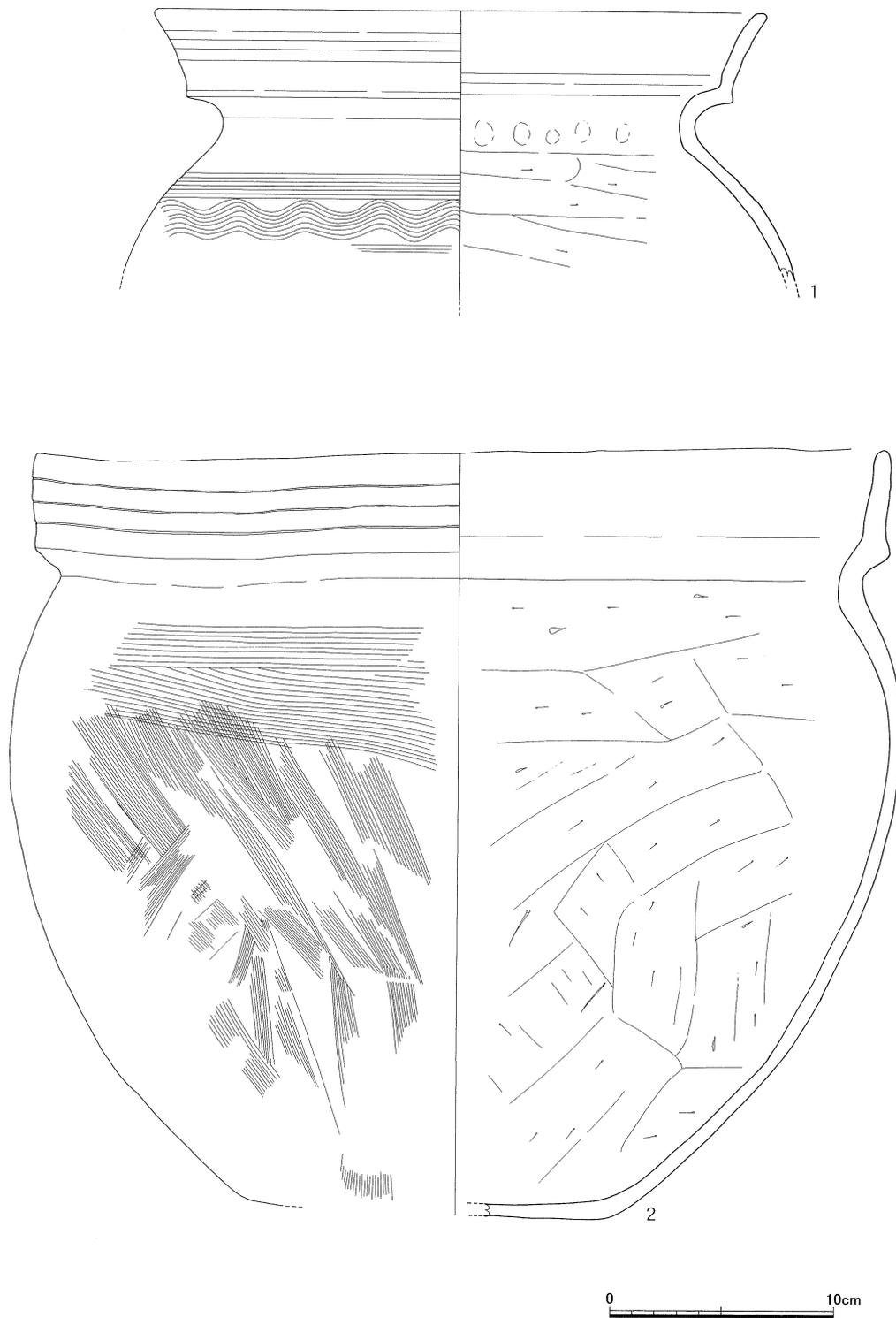
第57図 包含層1 出土遺物12 (S = 1 / 3)



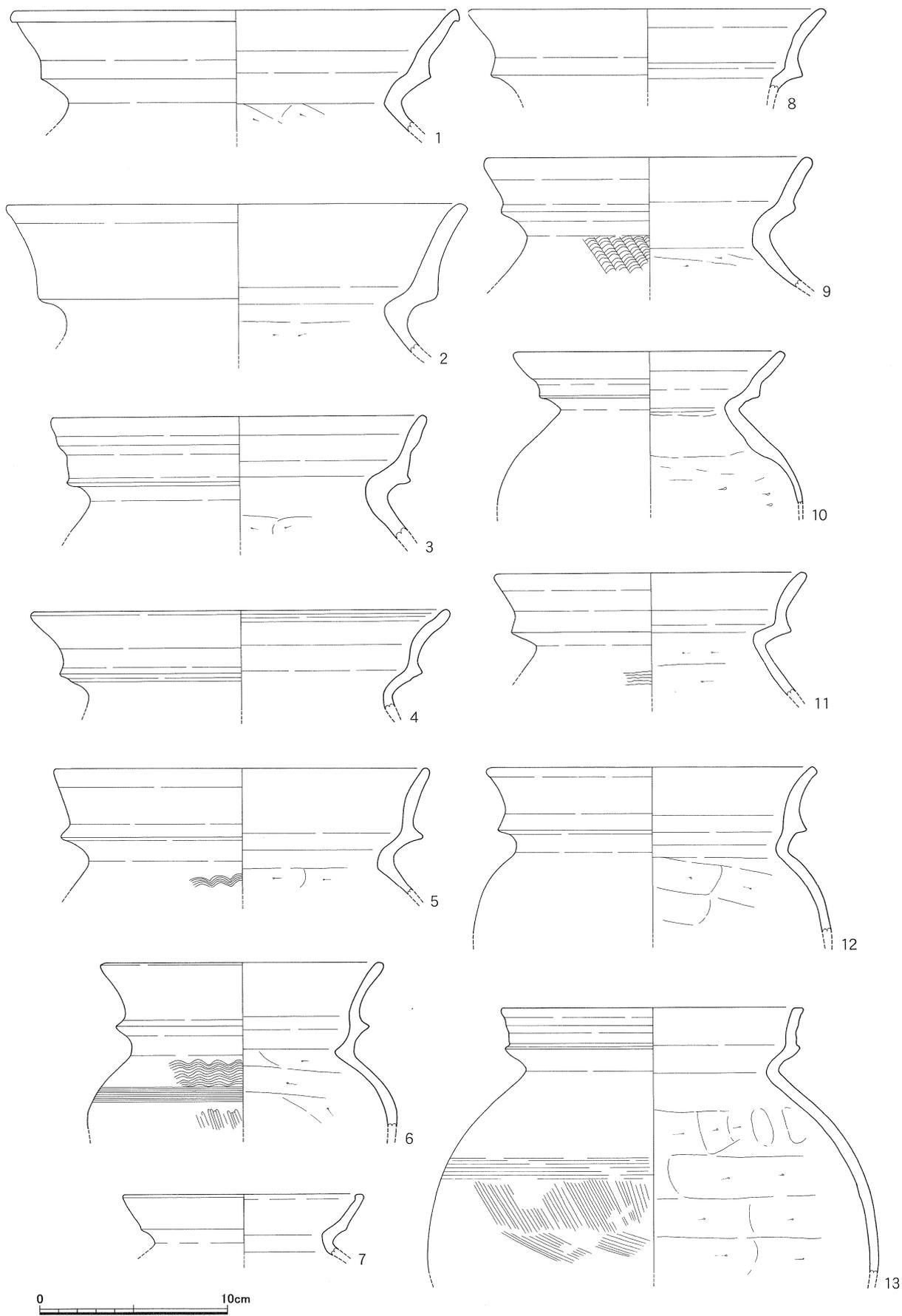
第58図 包含層1 出土遺物13 (S = 1 / 3)



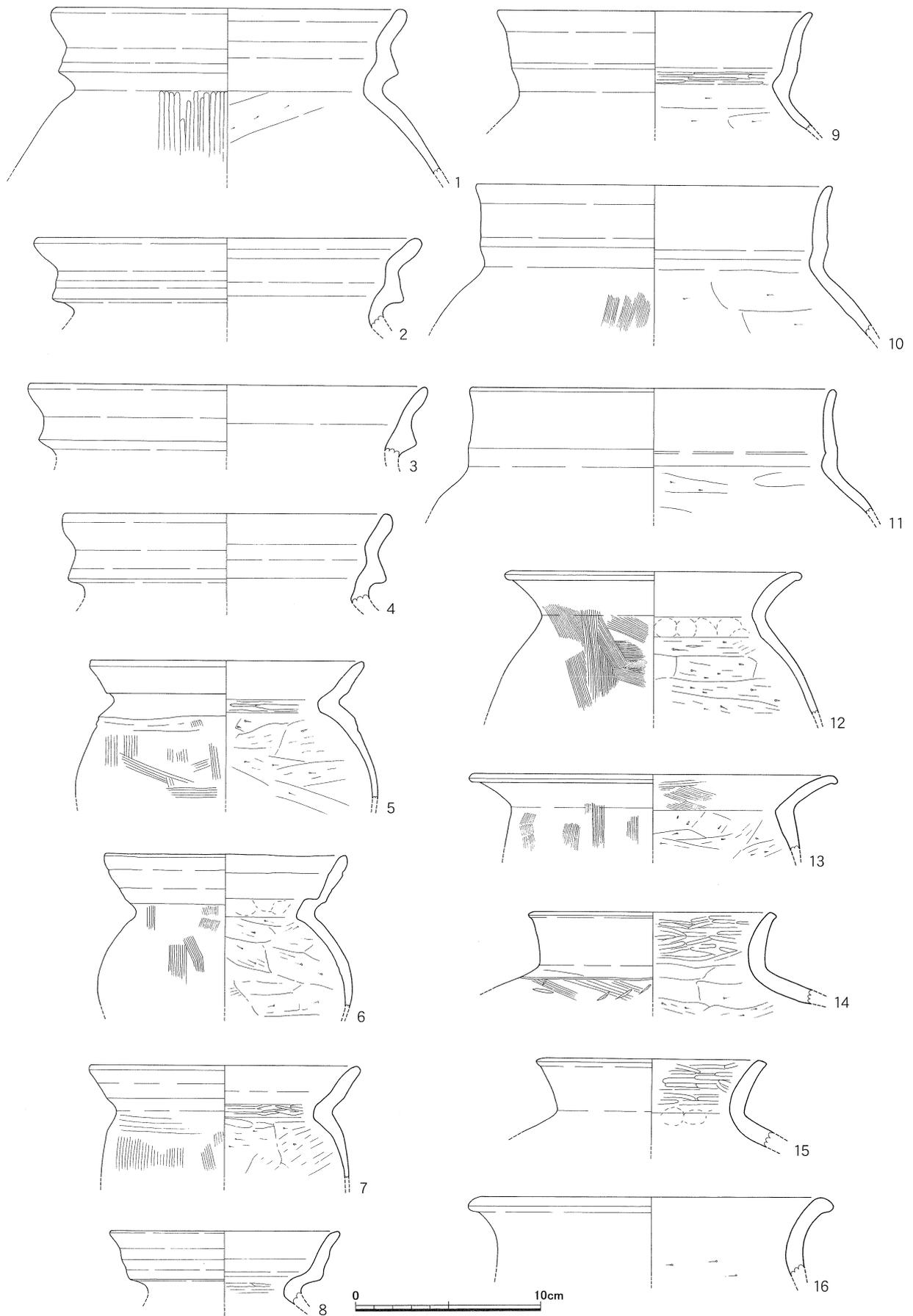
第59図 包含層1 出土遺物14 (S = 1 / 3)



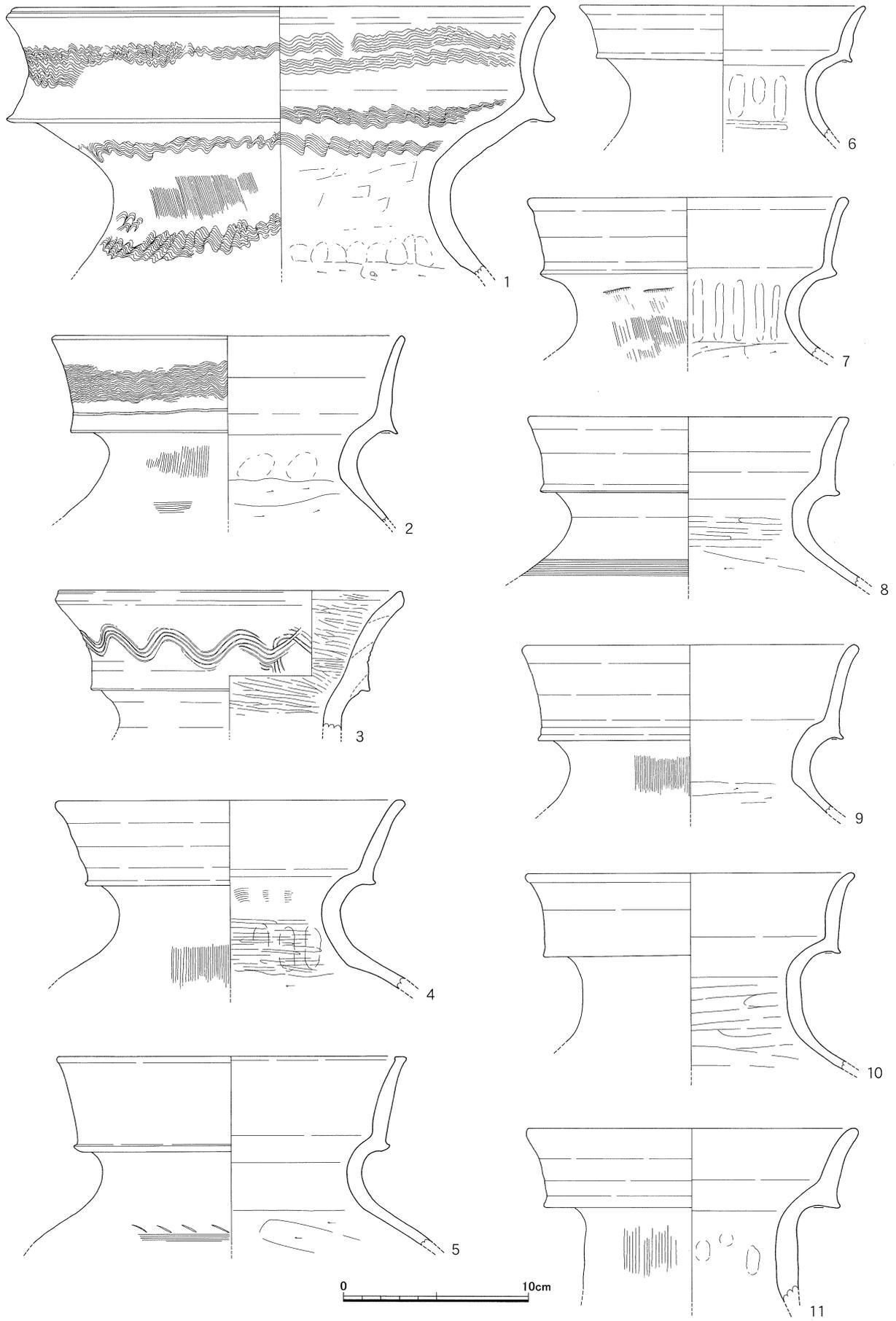
第60図 包含層1 出土遺物15 (S=1/3)



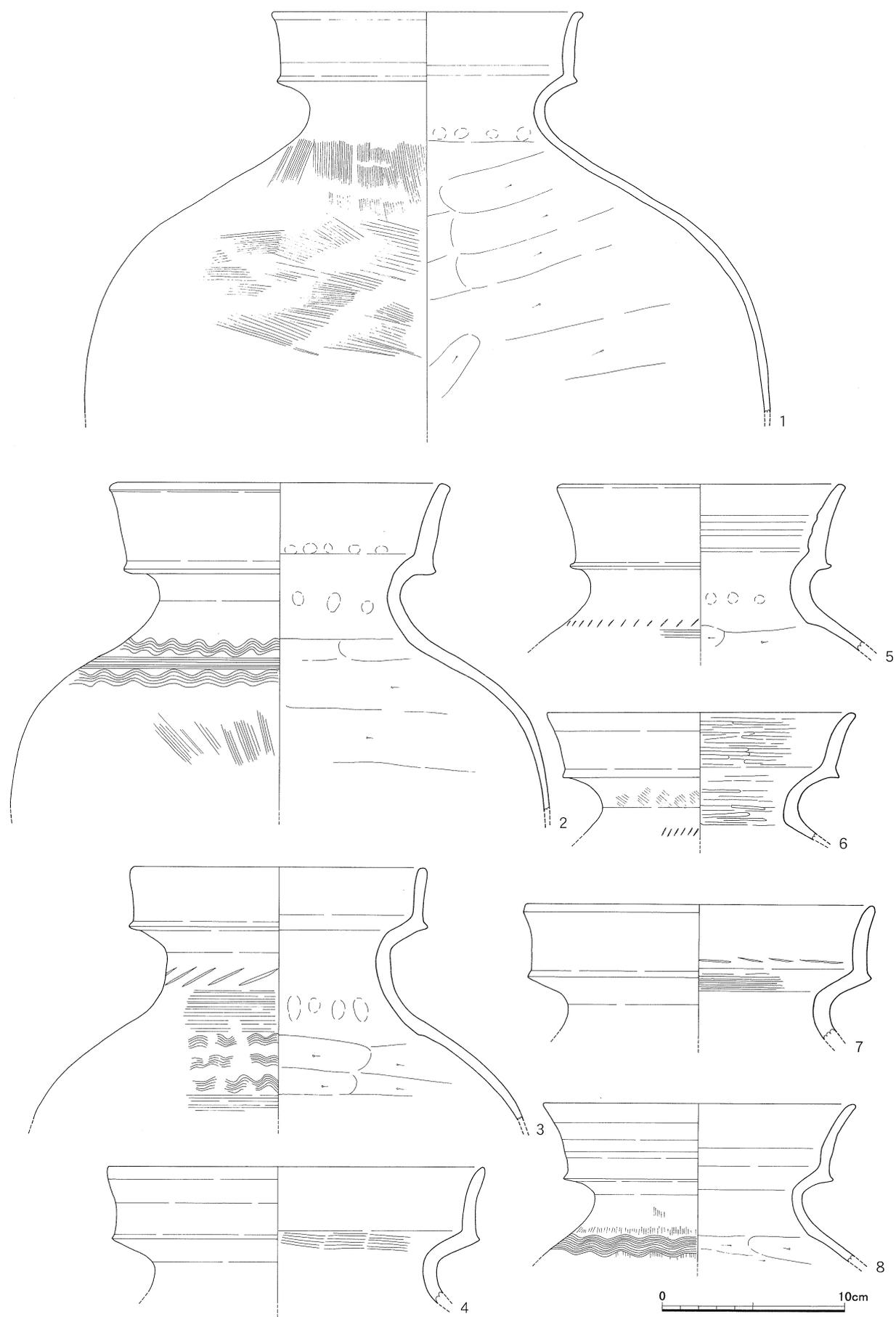
第61図 包含層1 出土遺物16 (S = 1 / 3)



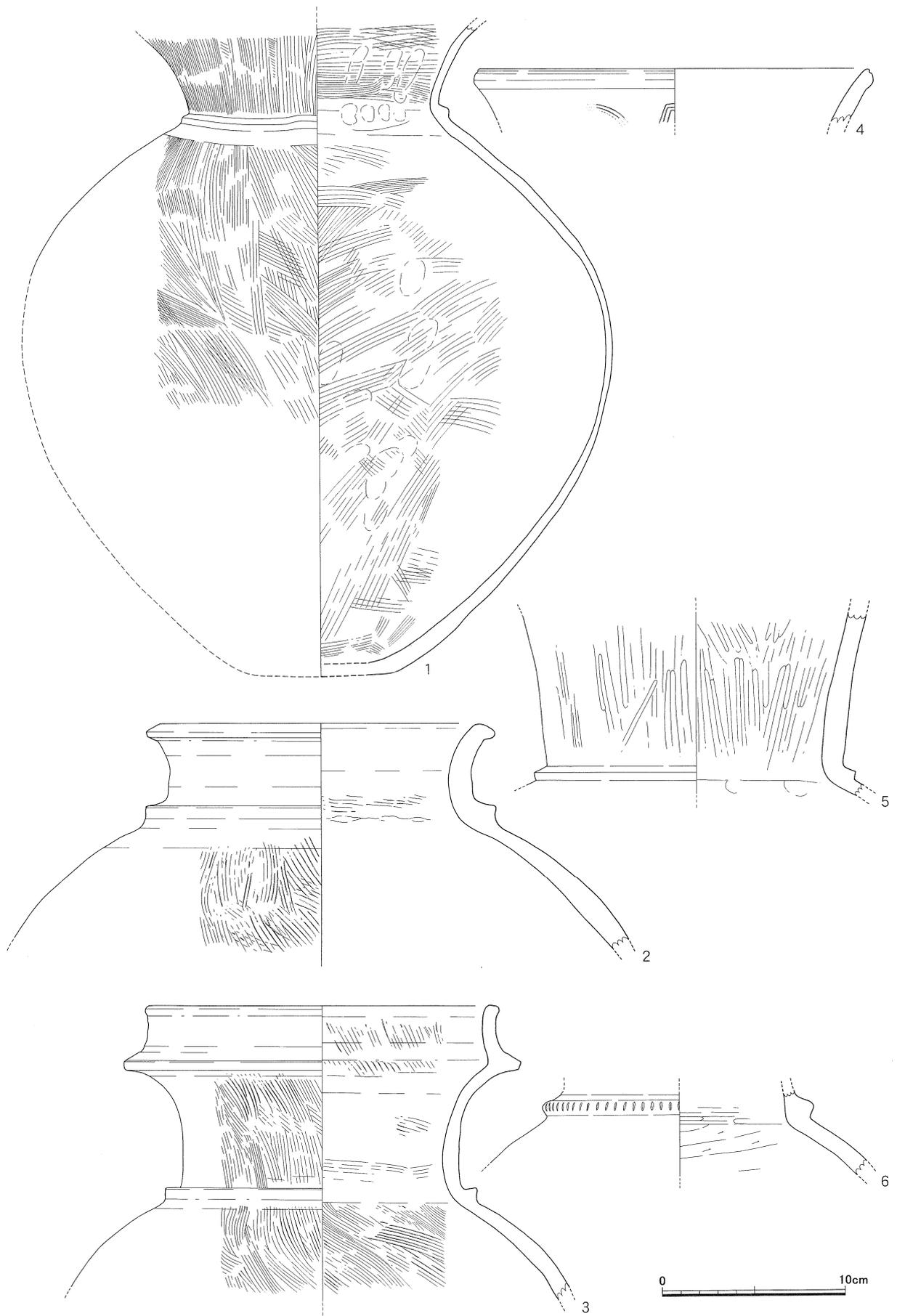
第62図 包含層1 出土遺物17 (S=1/3)



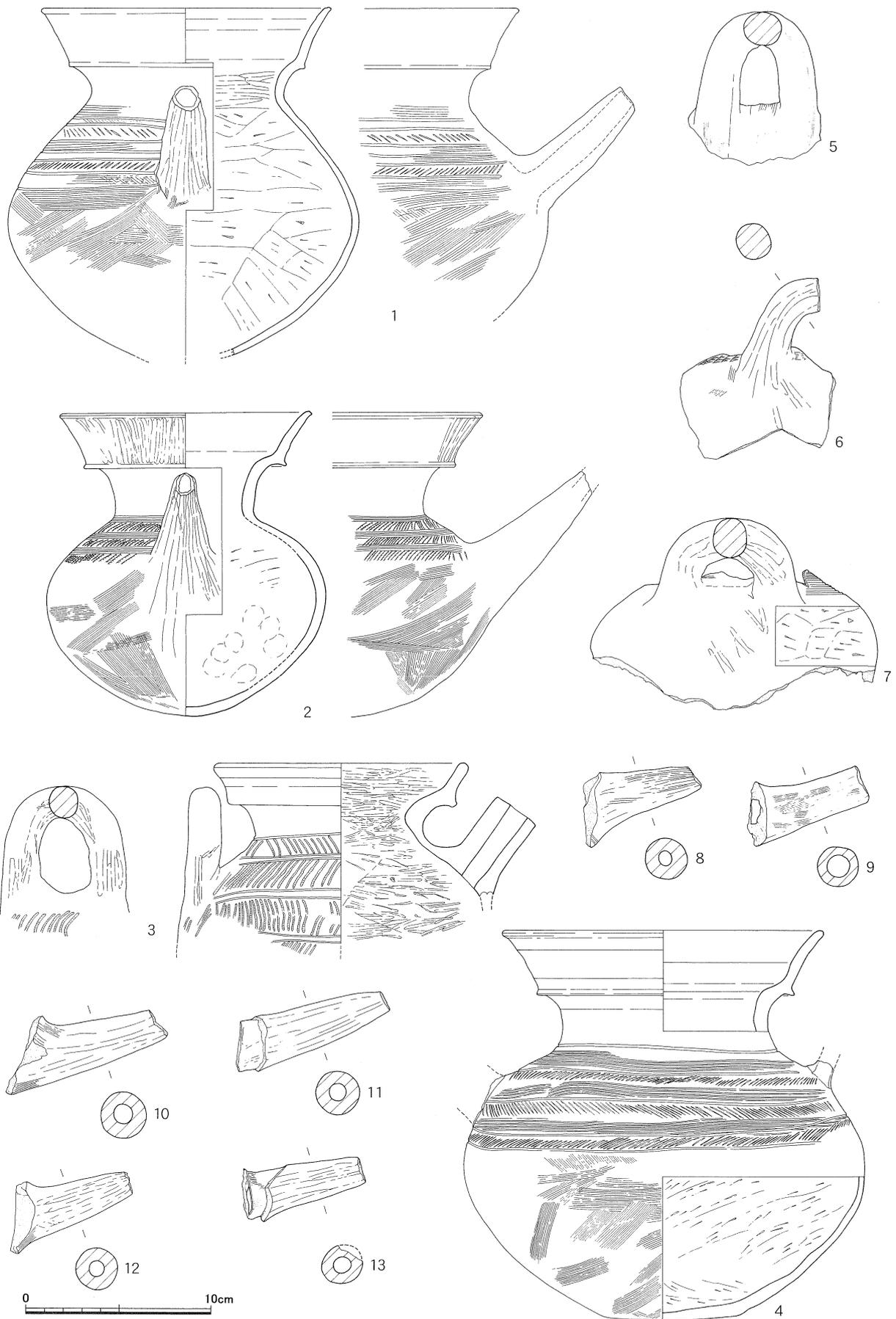
第63图 包含層1 出土遺物18 (S = 1 / 3)



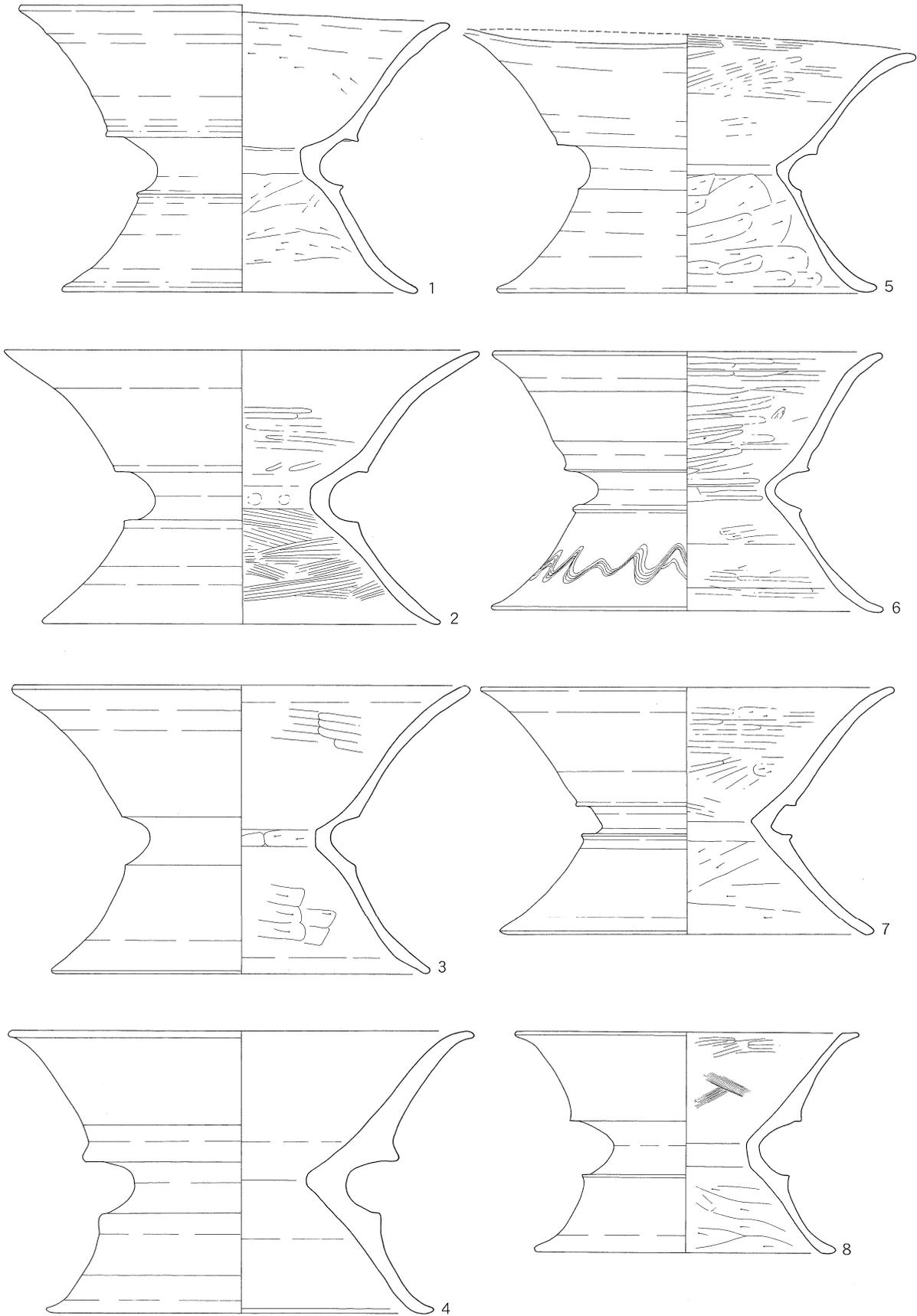
第64図 包含層1 出土遺物19 (S=1 / 3)



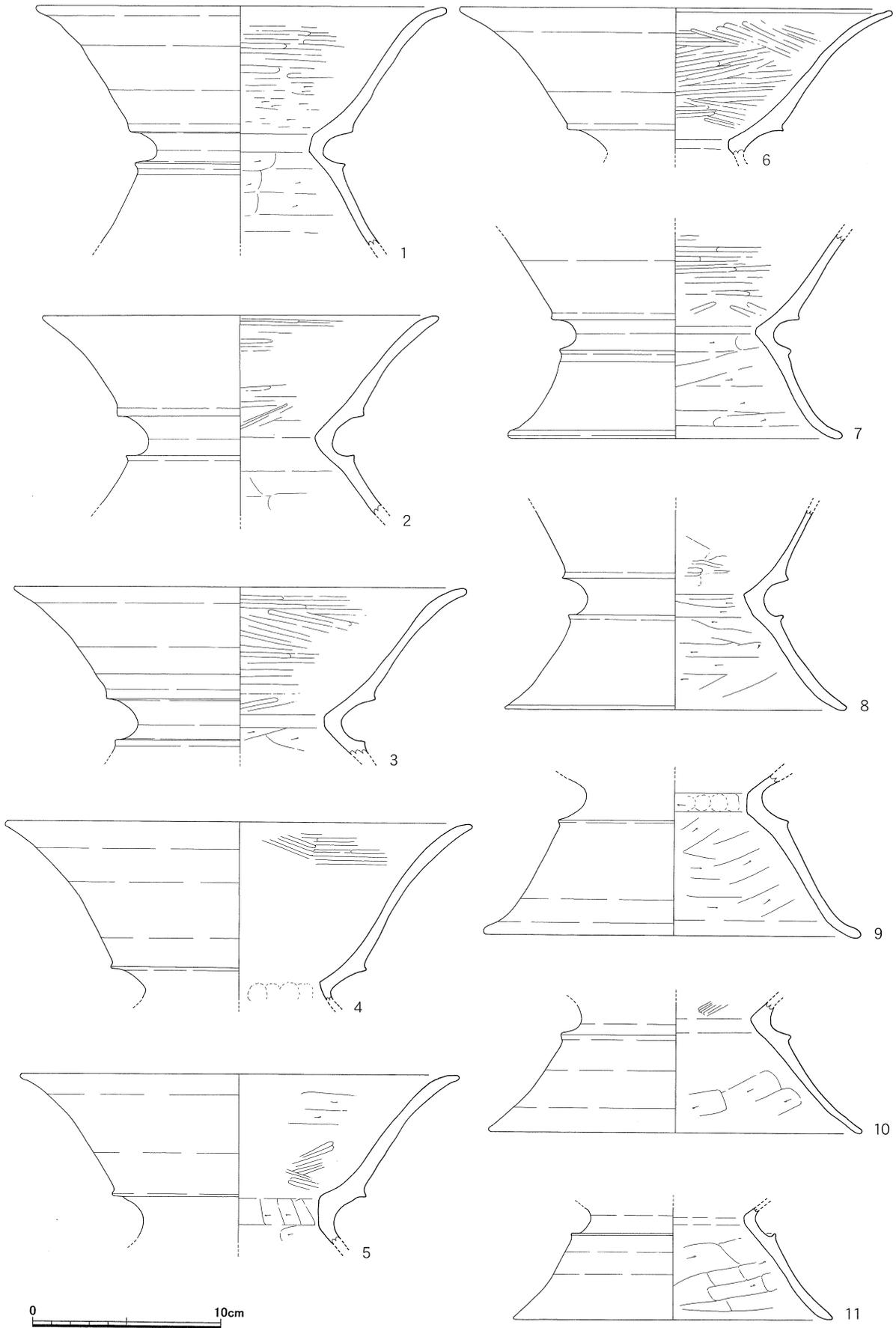
第65図 包含層1出土遺物20 (S = 1 / 3)



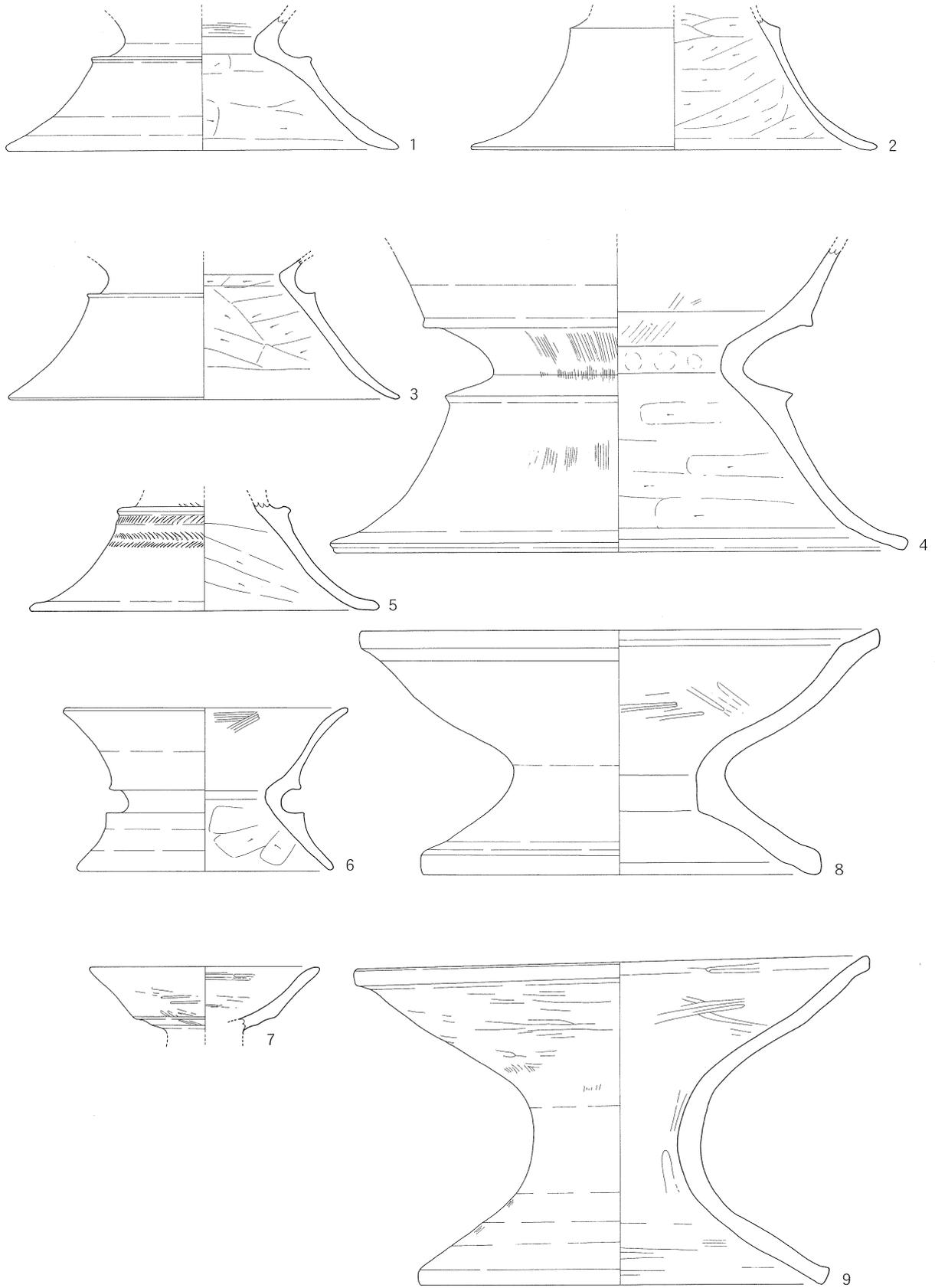
第66図 包含層1 出土遺物21 (S=1/3)



第67図 包含層1 出土遺物22 (S = 1 / 3)

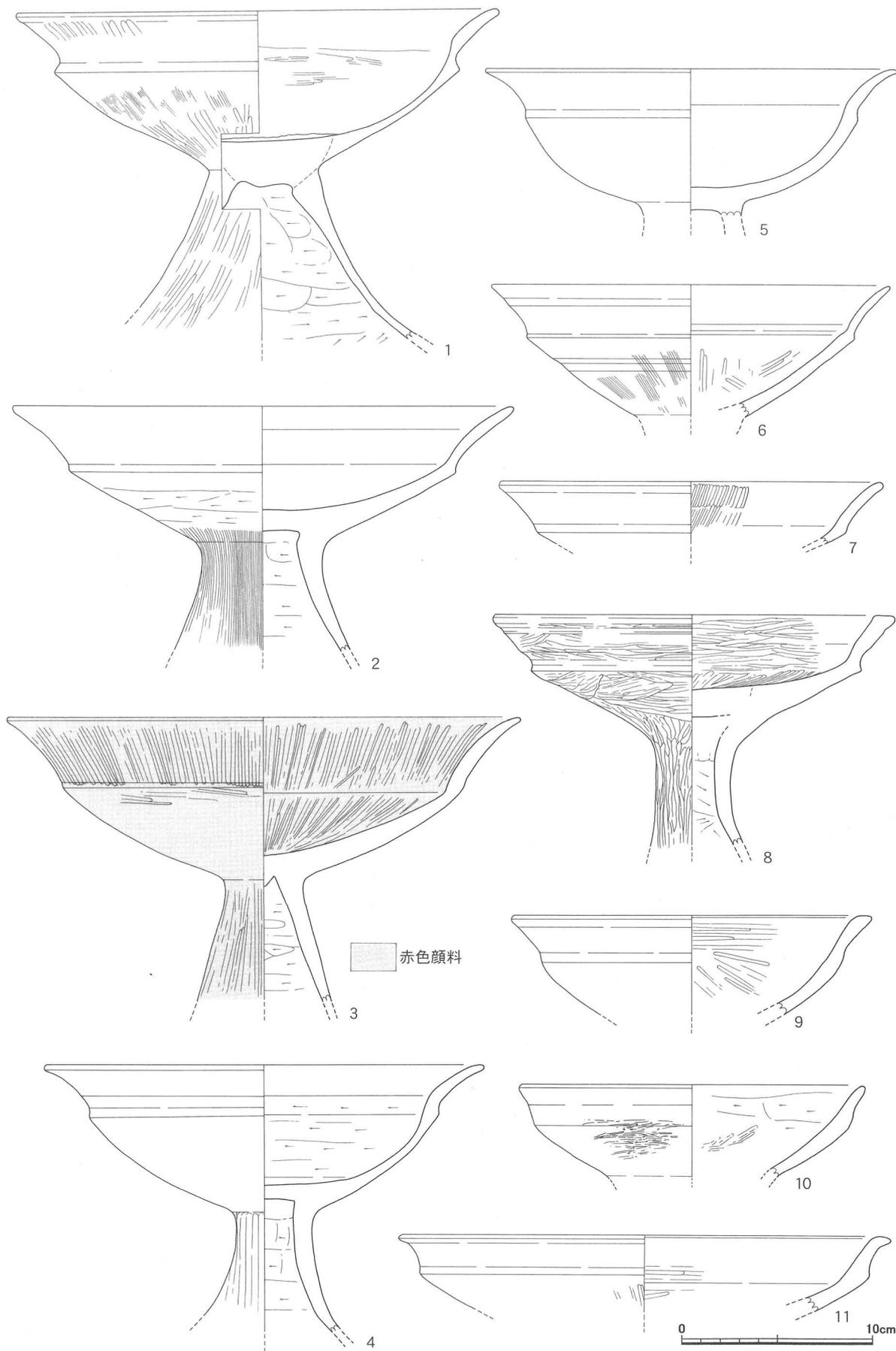


第68図 包含層1 出土遺物23 (S = 1 / 3)



0 10cm

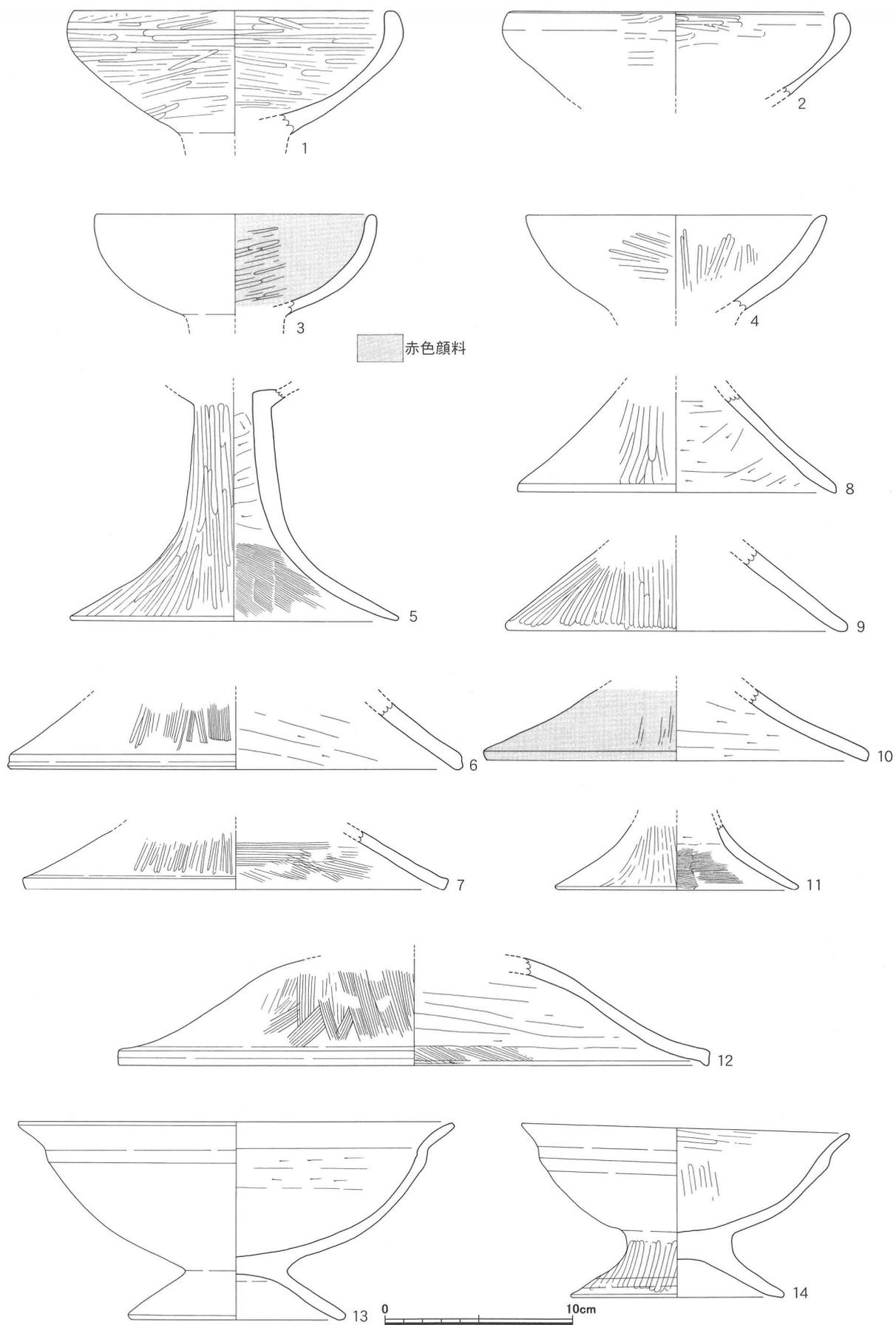
第69図 包含層 1 出土遺物24 (S = 1 / 3)



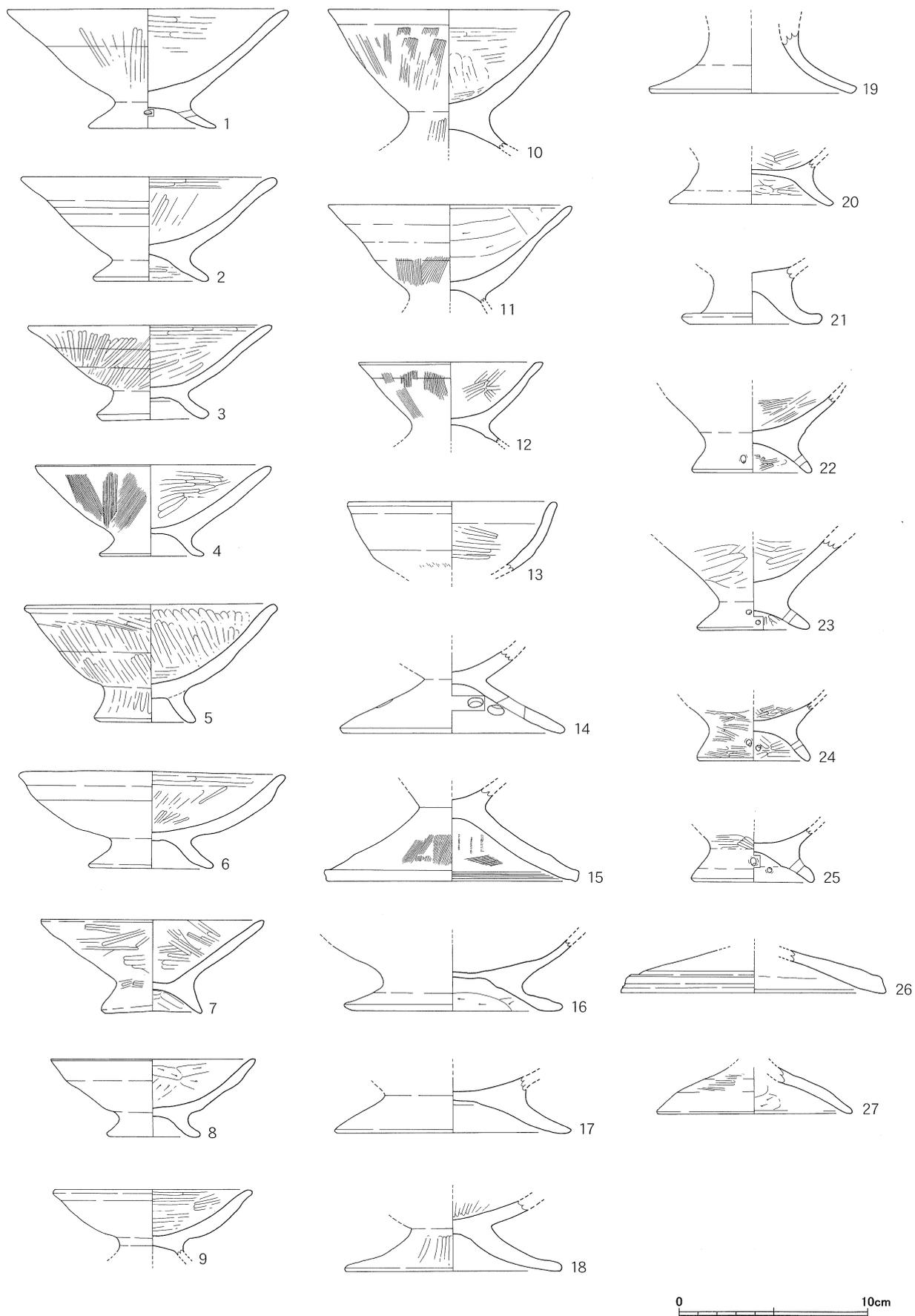
第70図 包含層1 出土遺物25 (S = 1 / 3)



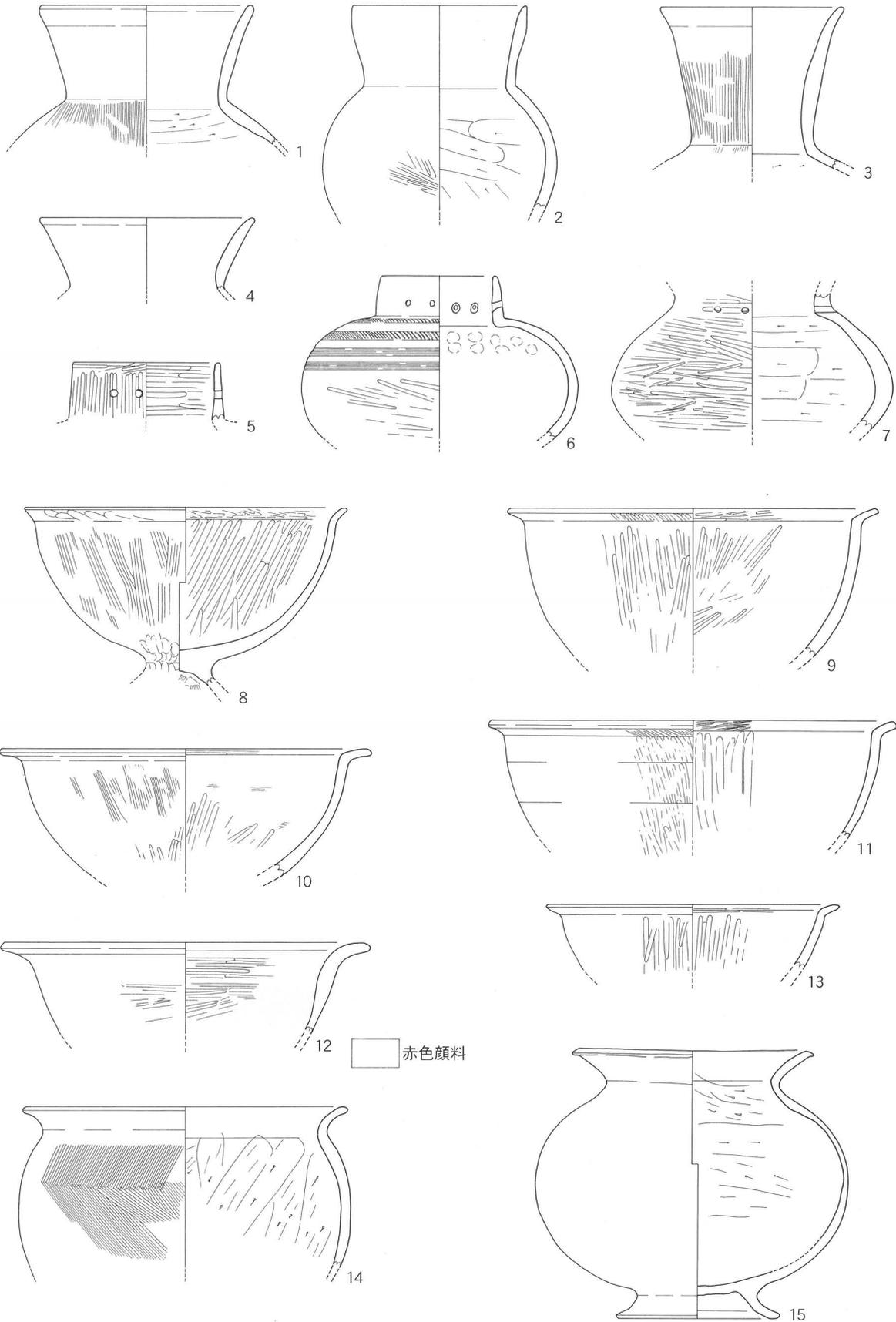
第71図 包含層1 出土遺物26 (S=1/3)



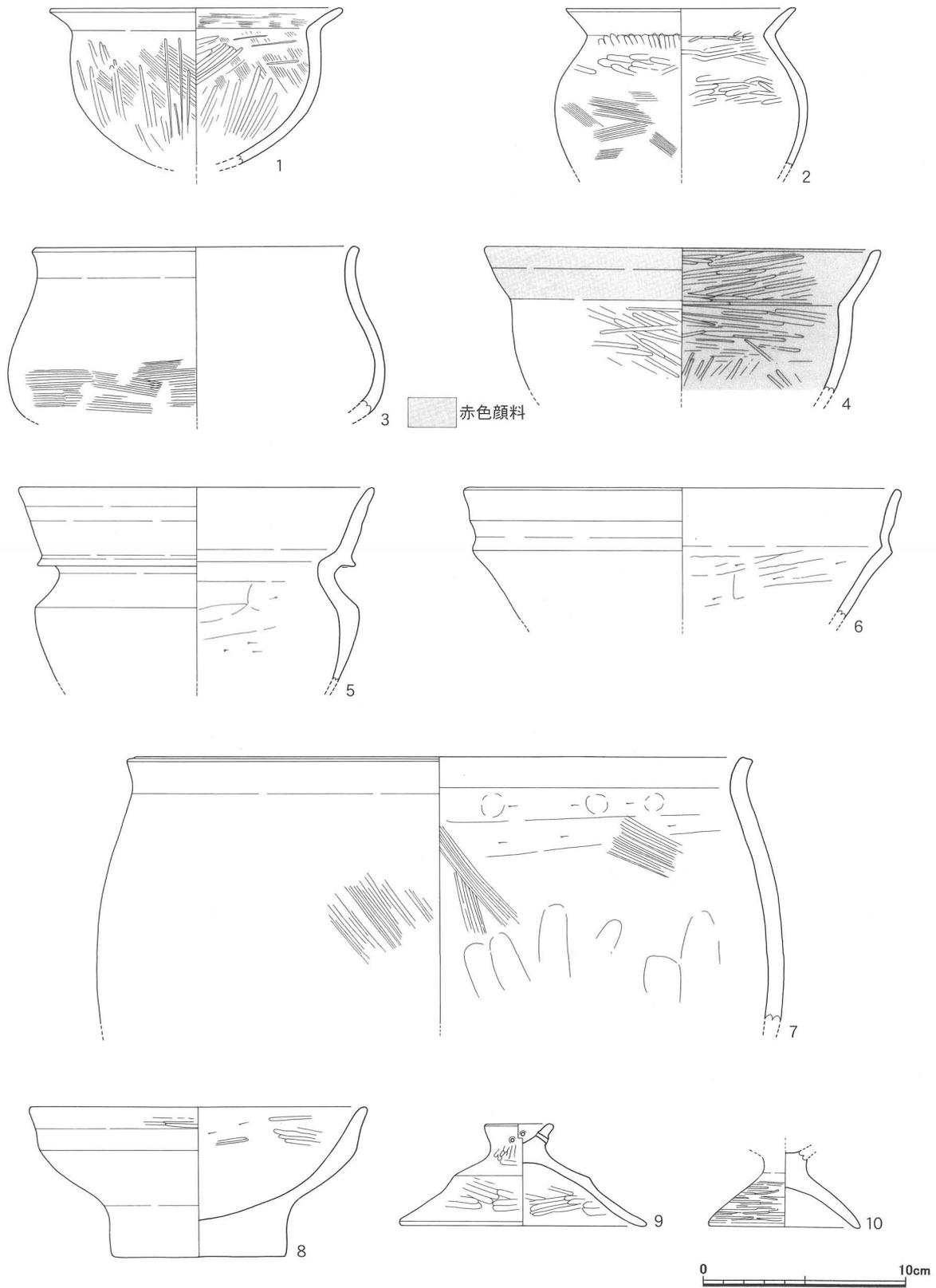
第72図 包含層1 出土遺物27 (S = 1 / 3)



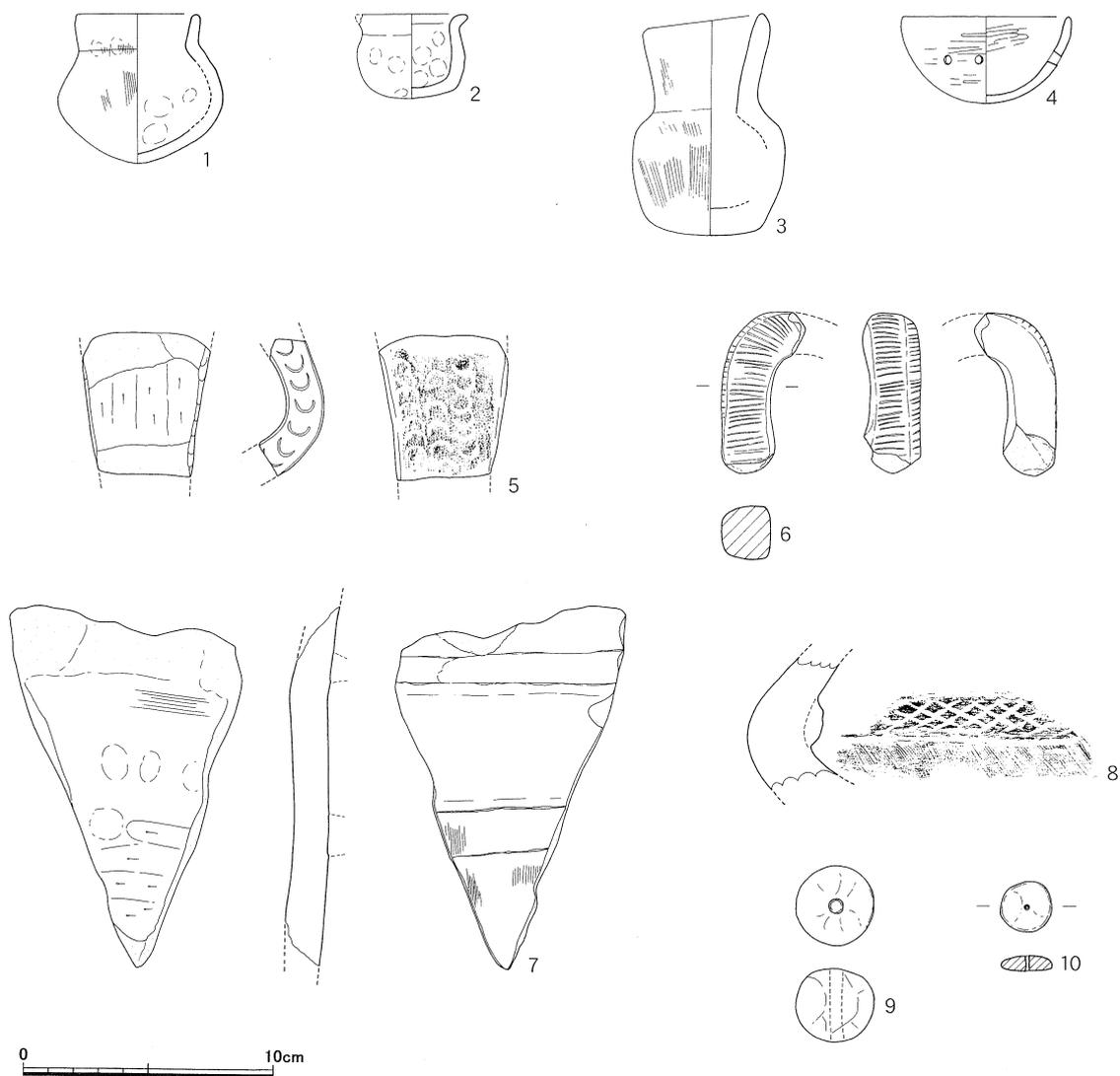
第73図 包含層1出土遺物28 (S=1/3)



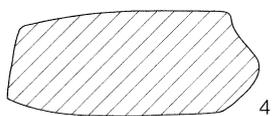
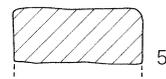
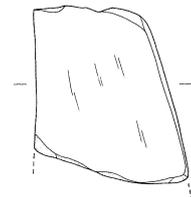
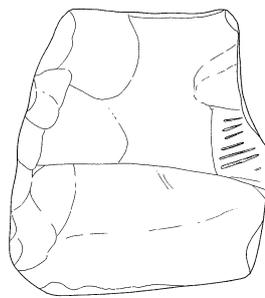
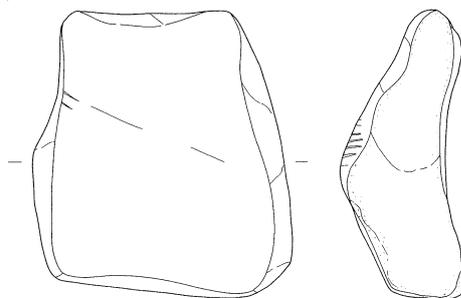
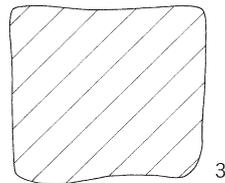
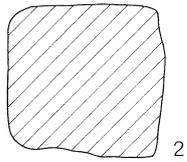
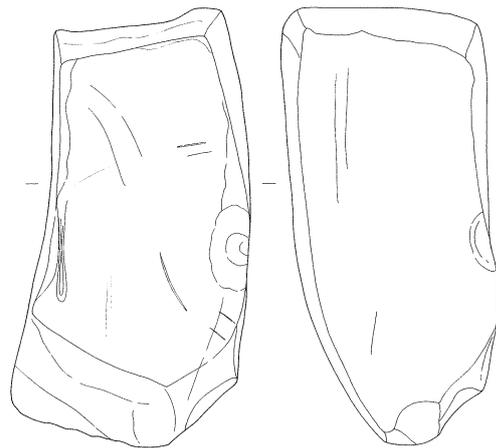
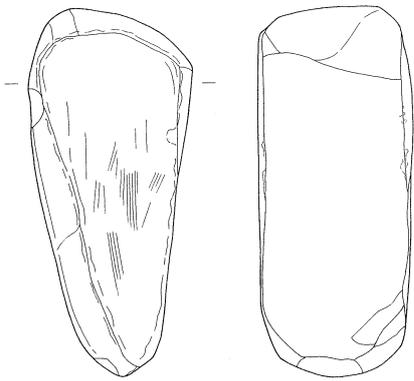
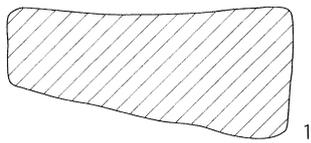
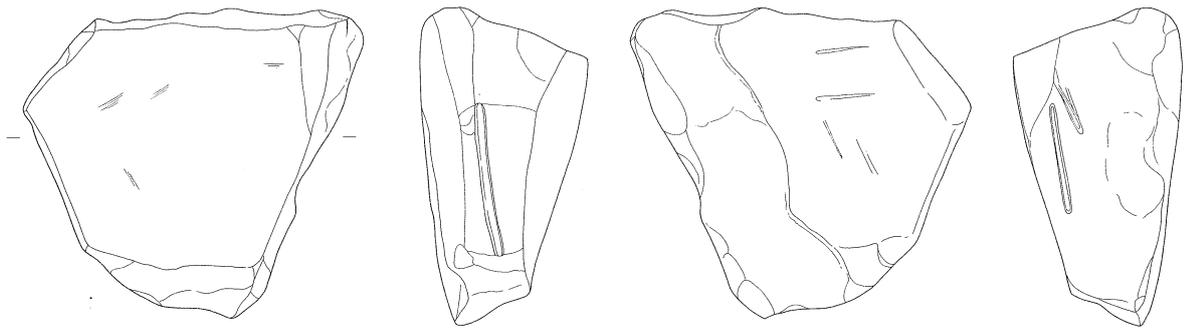
第74図 包含層1 出土遺物29 (S = 1 / 3)



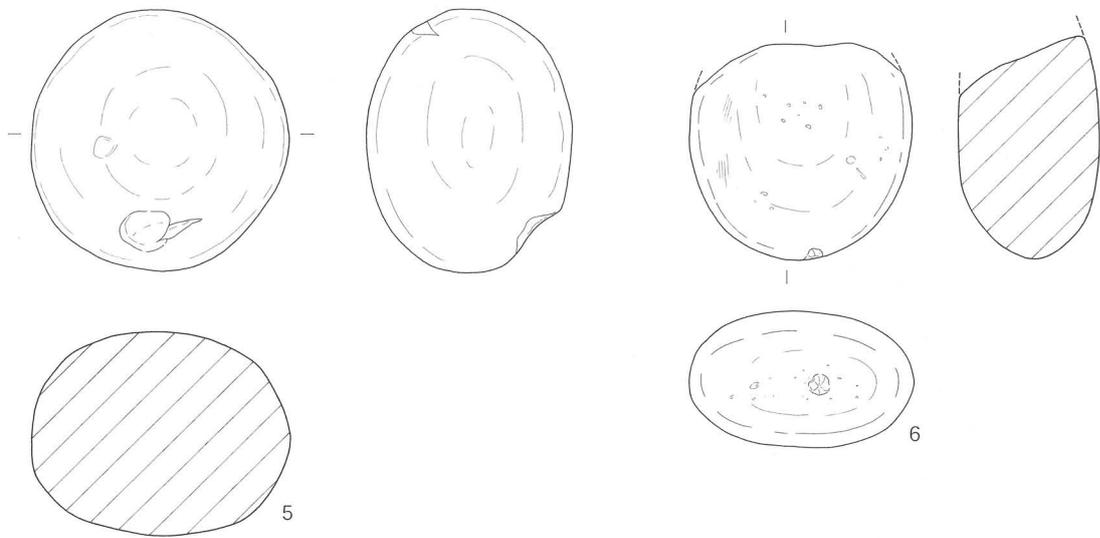
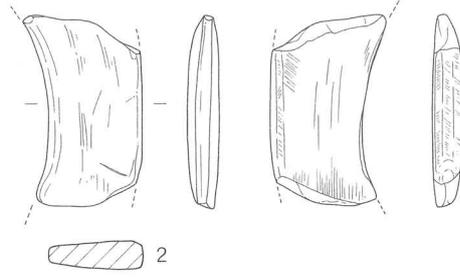
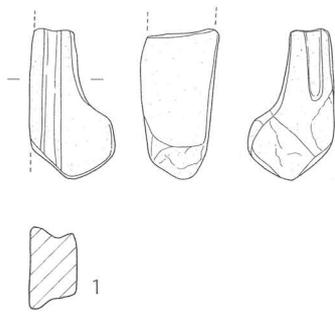
第75図 包含層1 出土遺物30 (S=1/3)



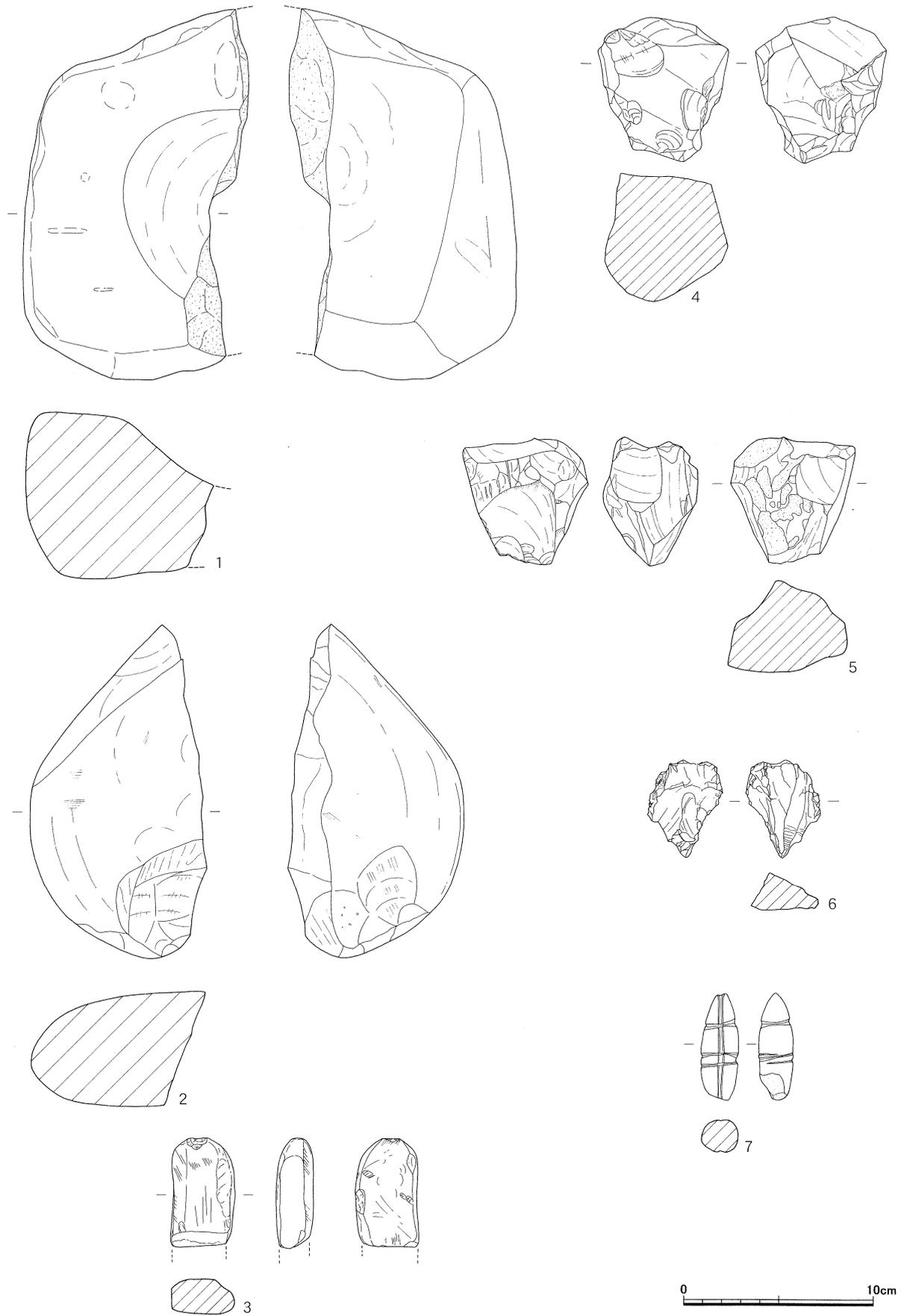
第76図 包含層1 出土遺物31 (S = 1 / 3)



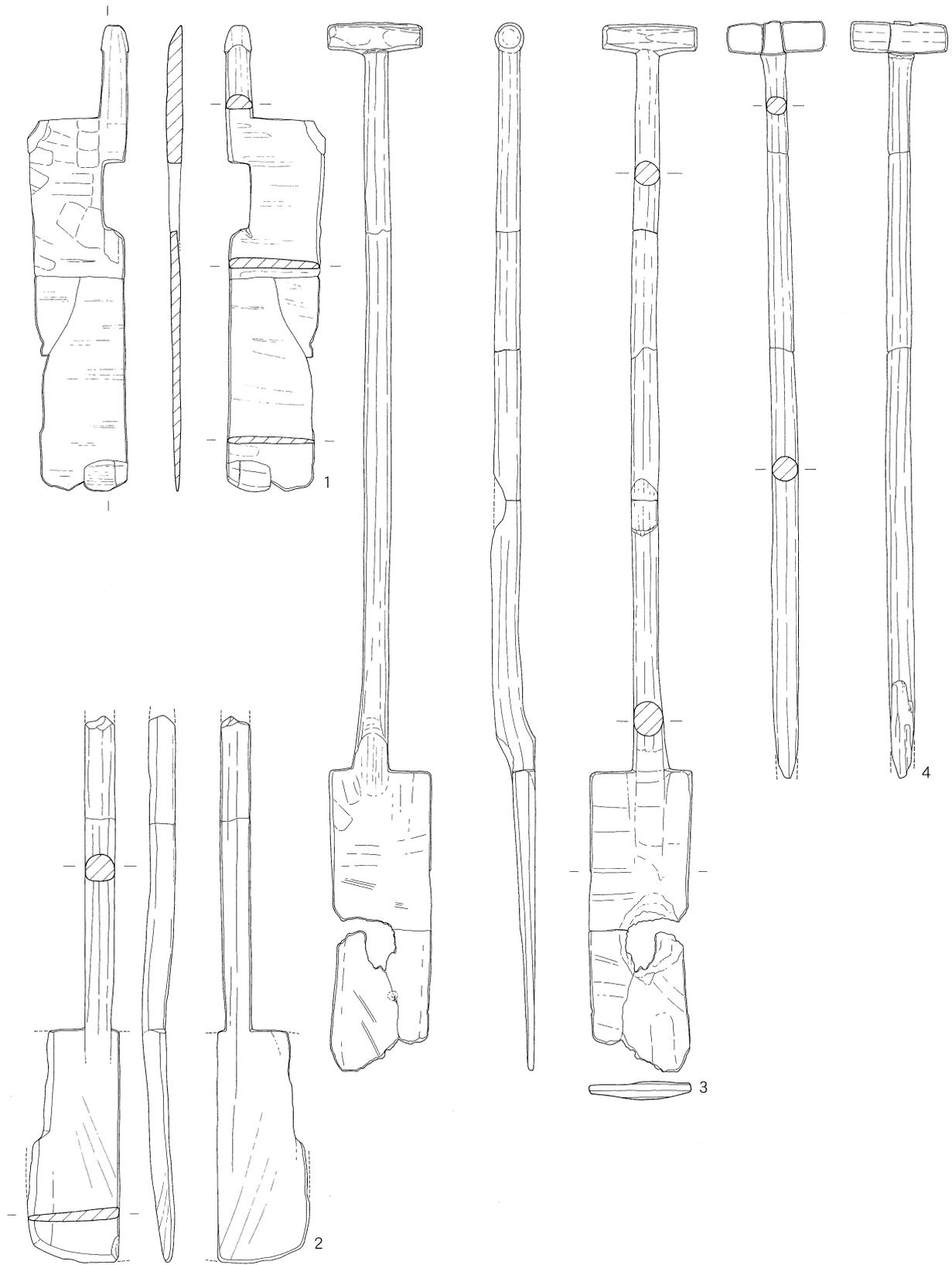
第77図 石製品1 (S=1/3)



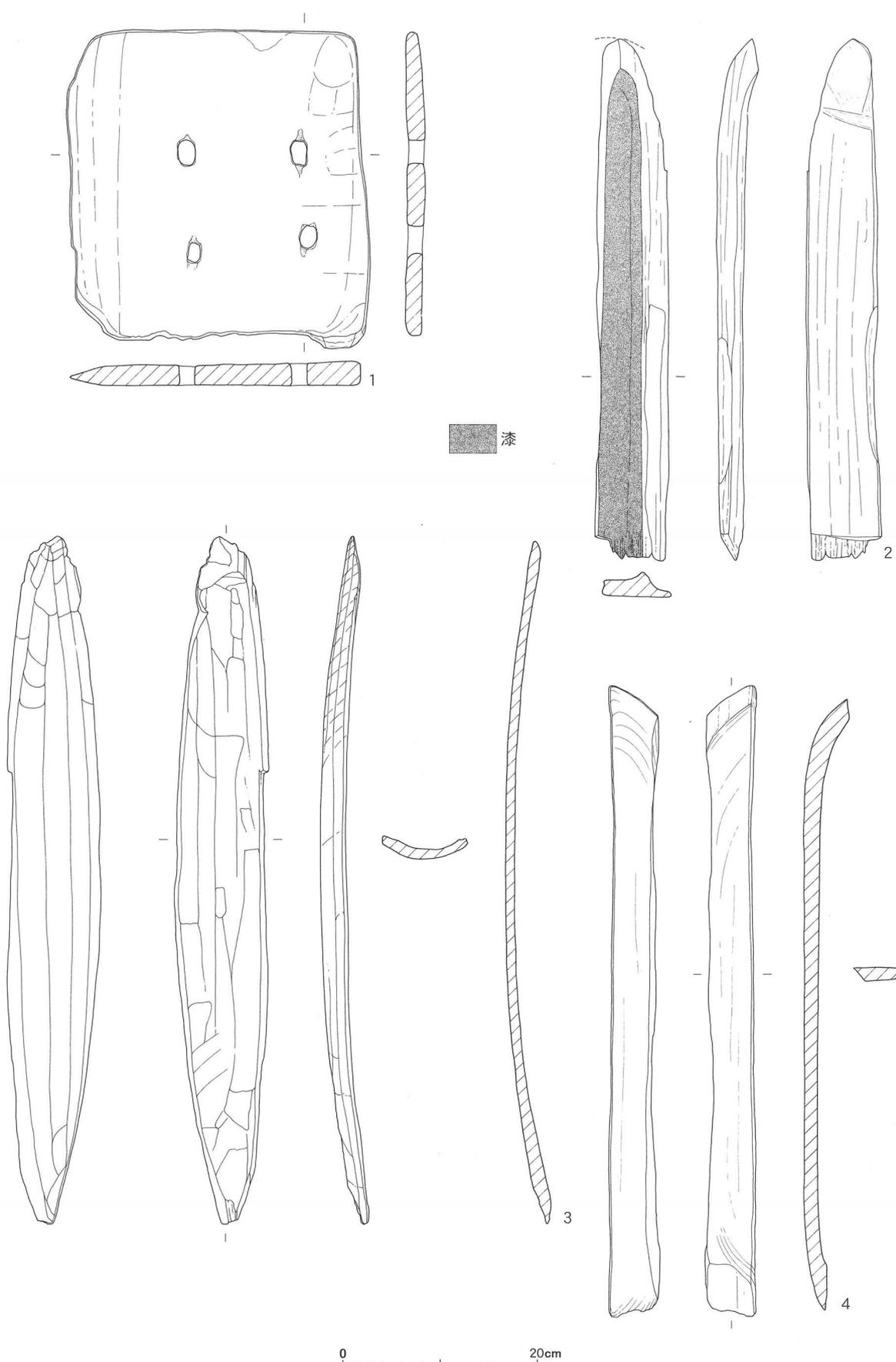
第78図 石製品2 (S=1/3)



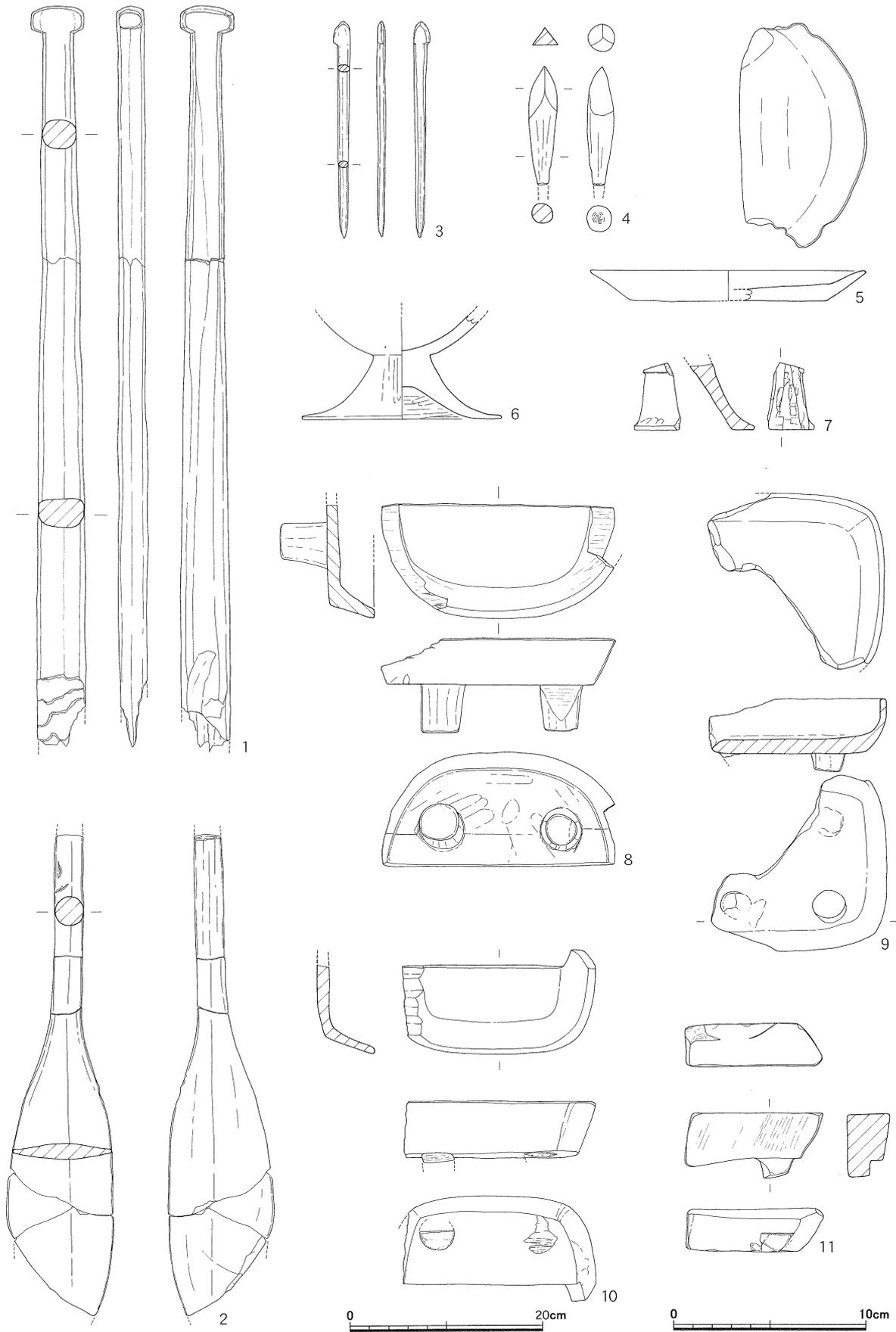
第79図 石製品3 (S=1/3)



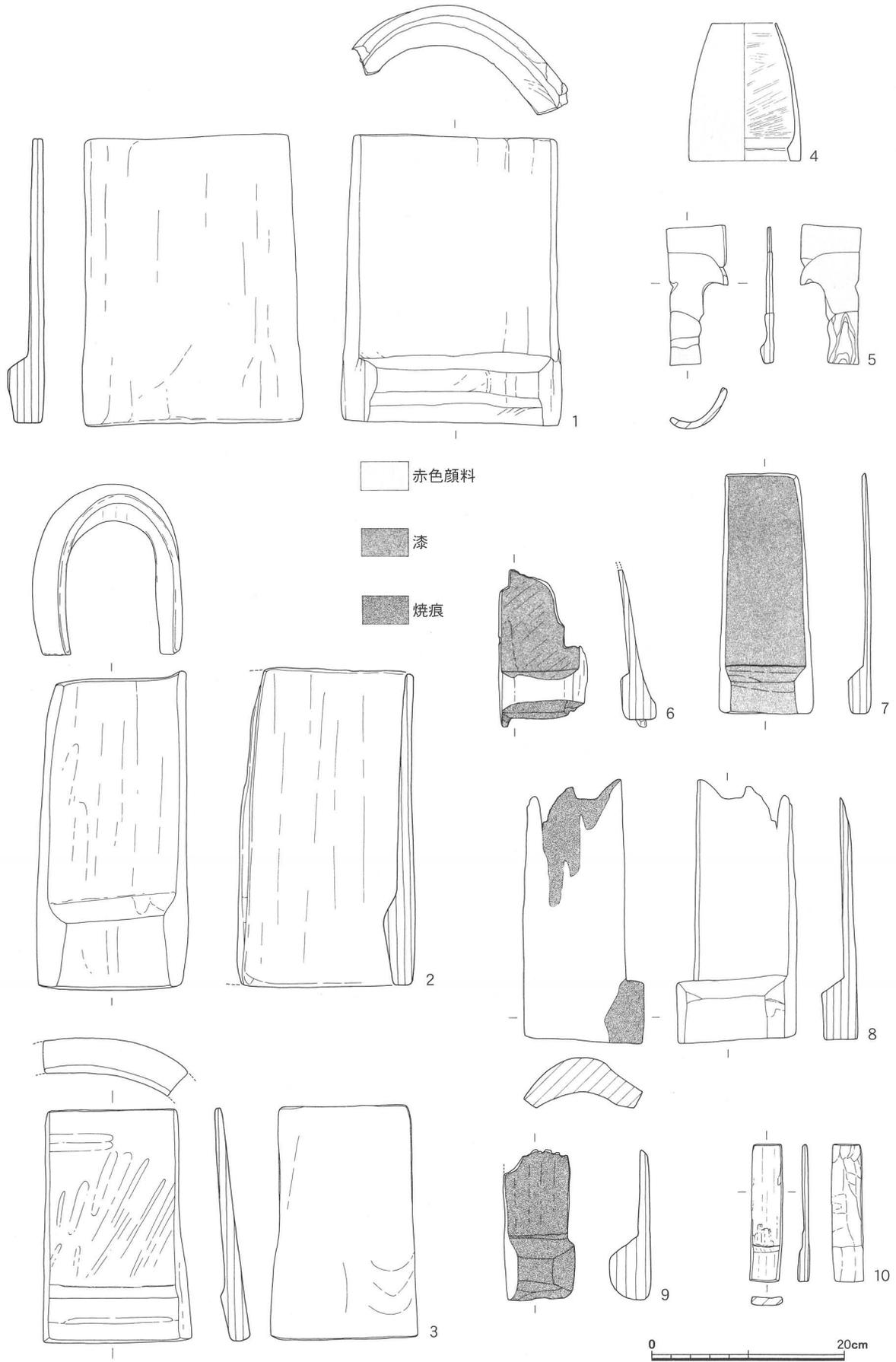
第80図 木製品1 (S=1/6)



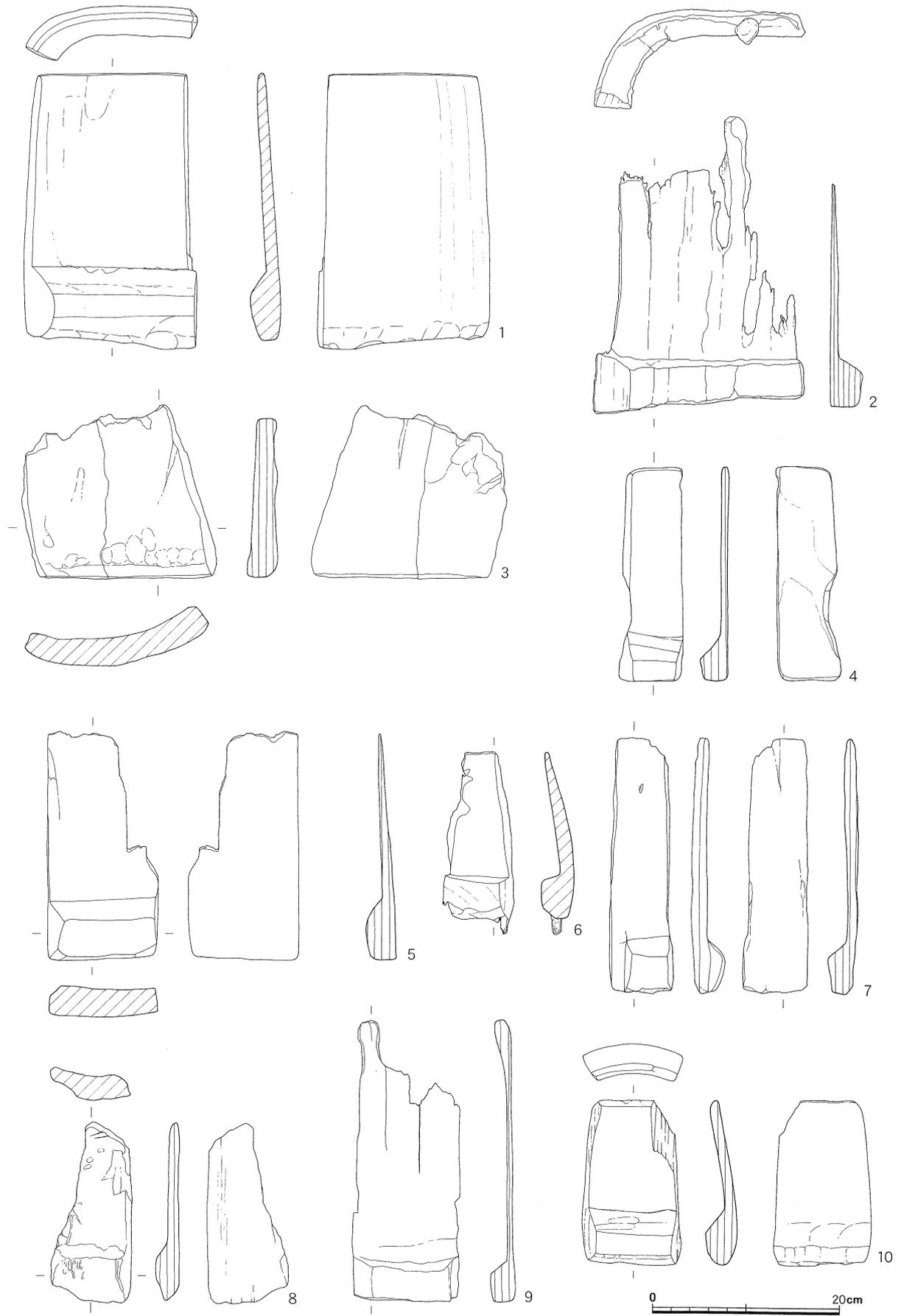
第81図 木製品2 (S=1/6)



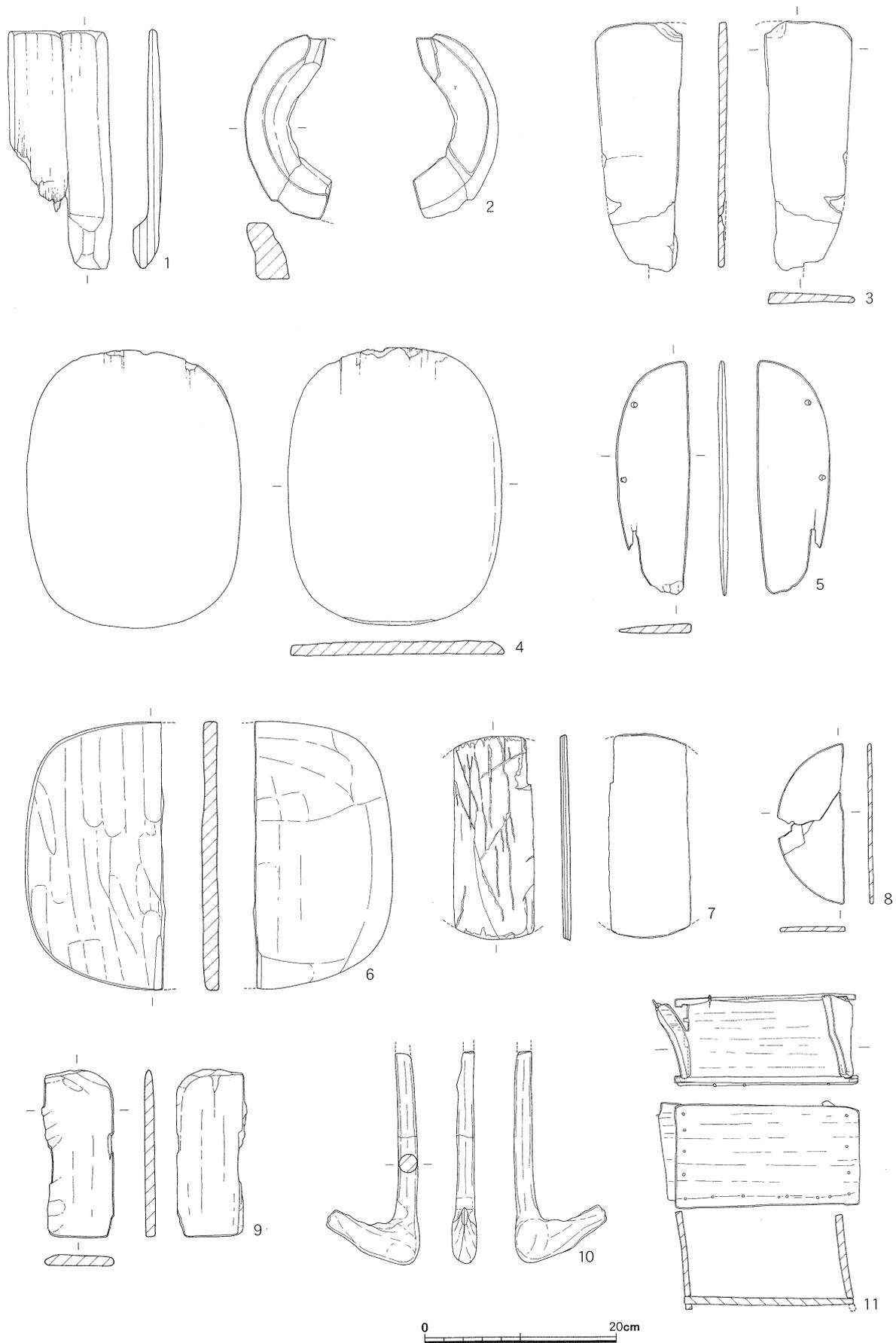
第82図 木製品3 (S=1/6、4・5・6はS=1/3)



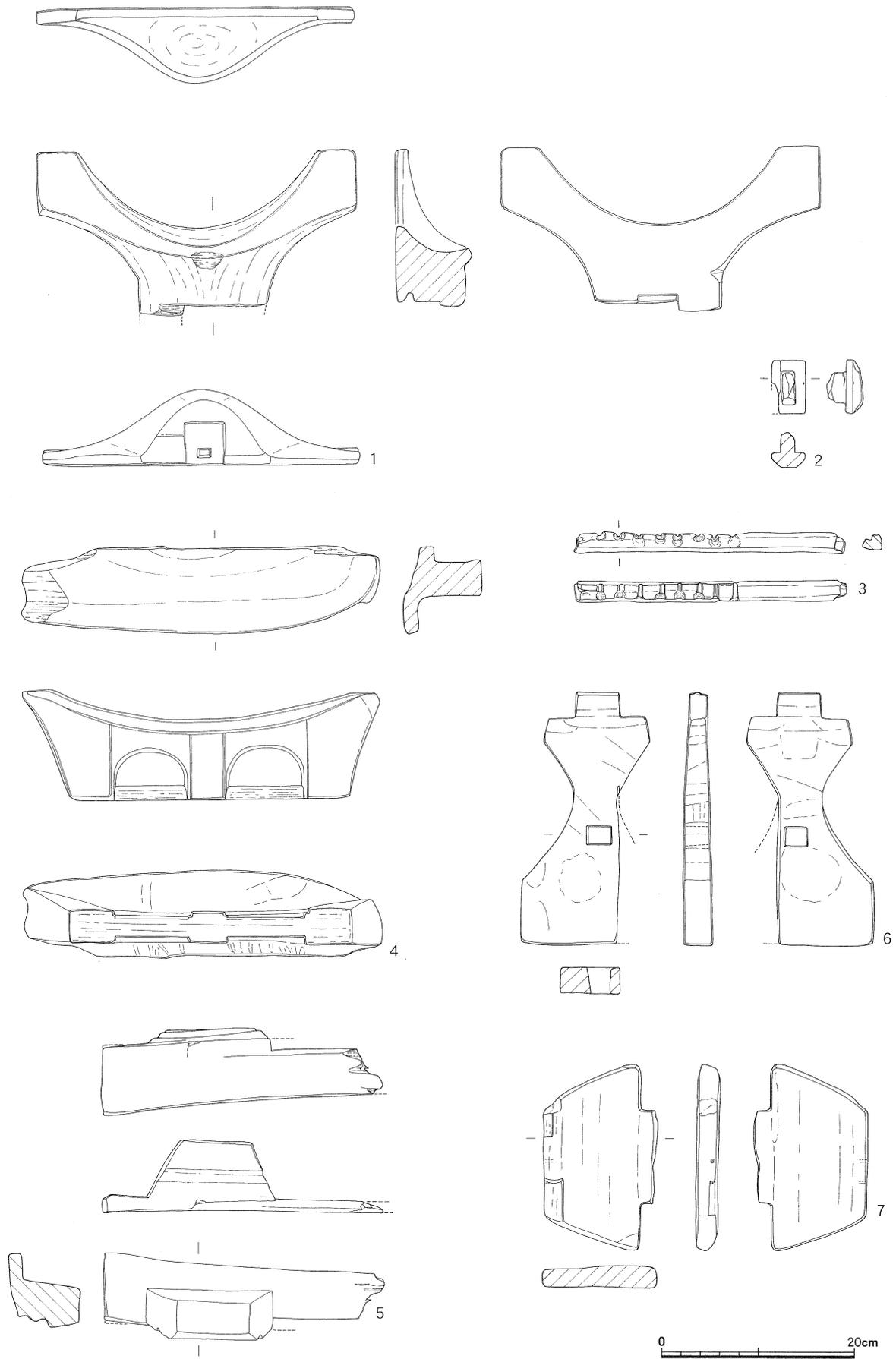
第83図 木製品4 (S=1/6)



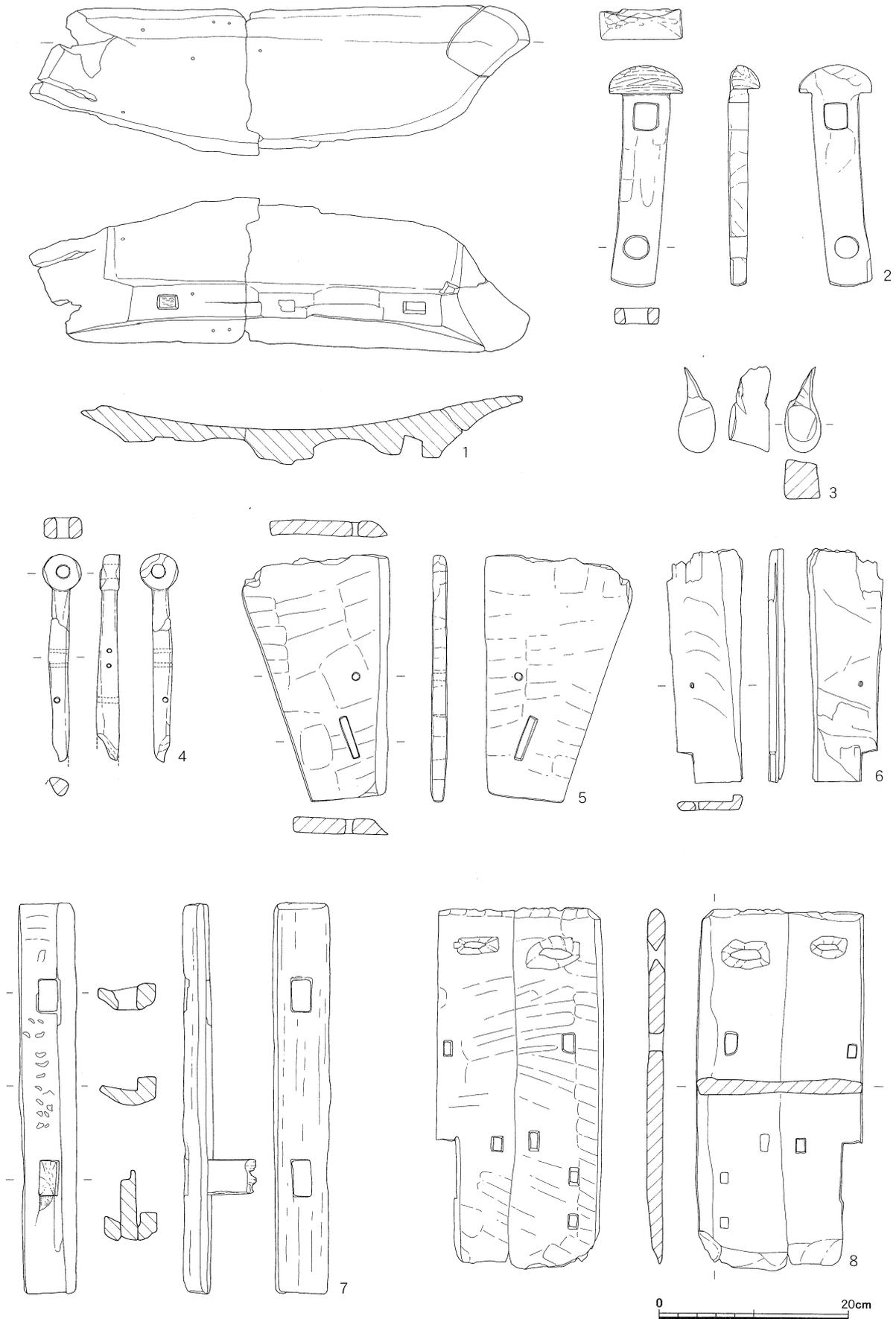
第84図 木製品5 (S=1/6)



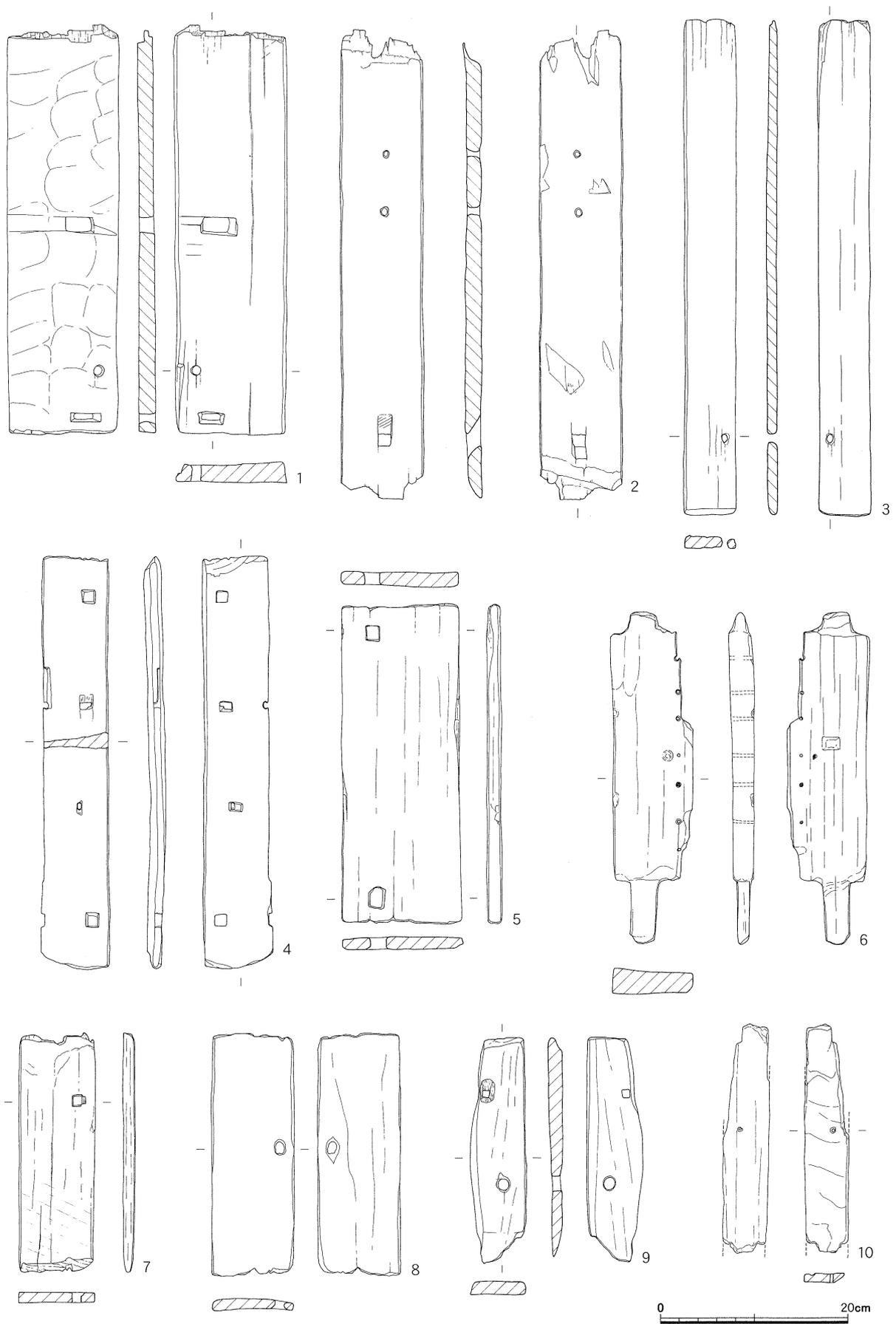
第85図 木製品6 (S=1/6)



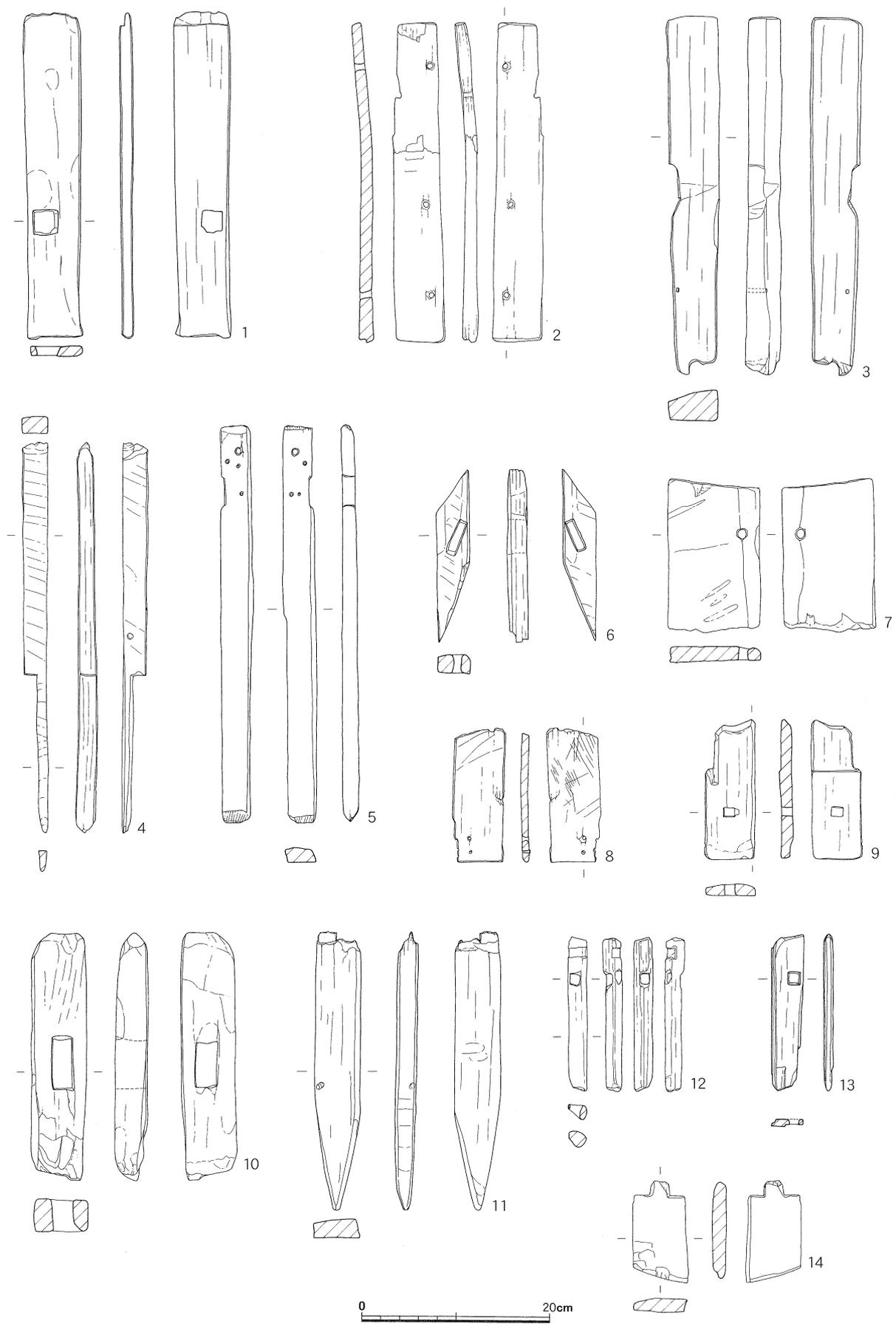
第86図 木製品7 (S=1/6)



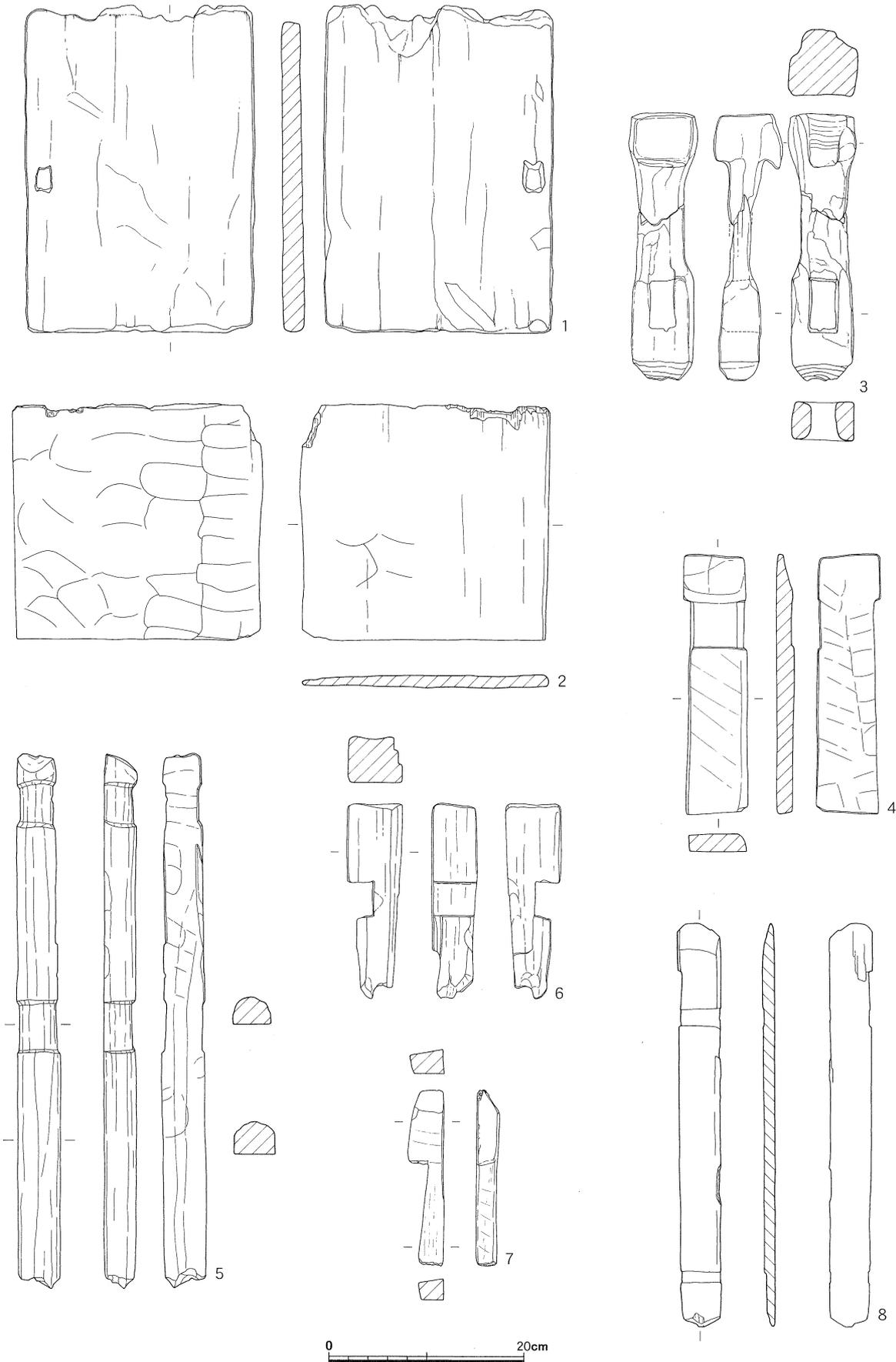
第87図 木製品8 (S=1/6)



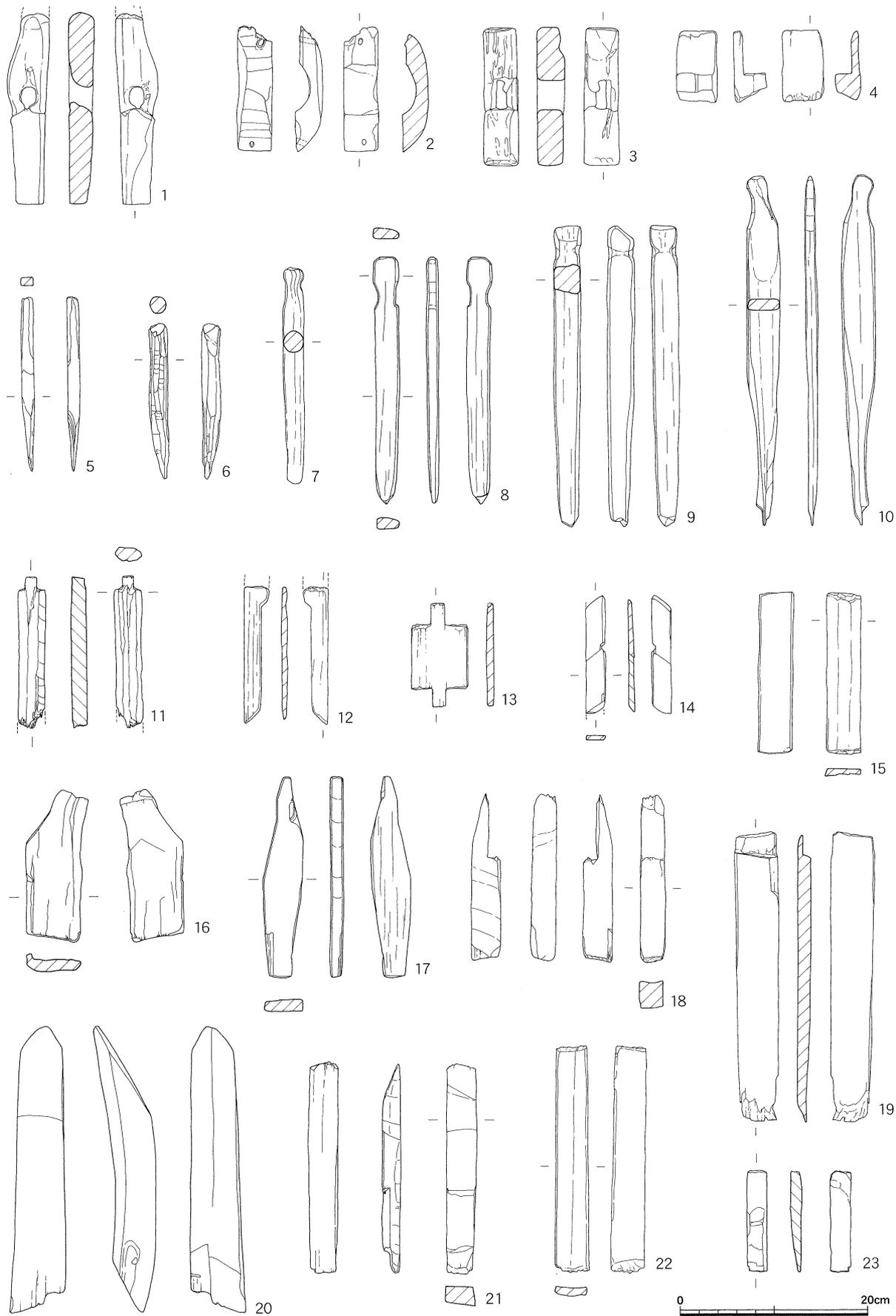
第88図 木製品9 (S=1/6)



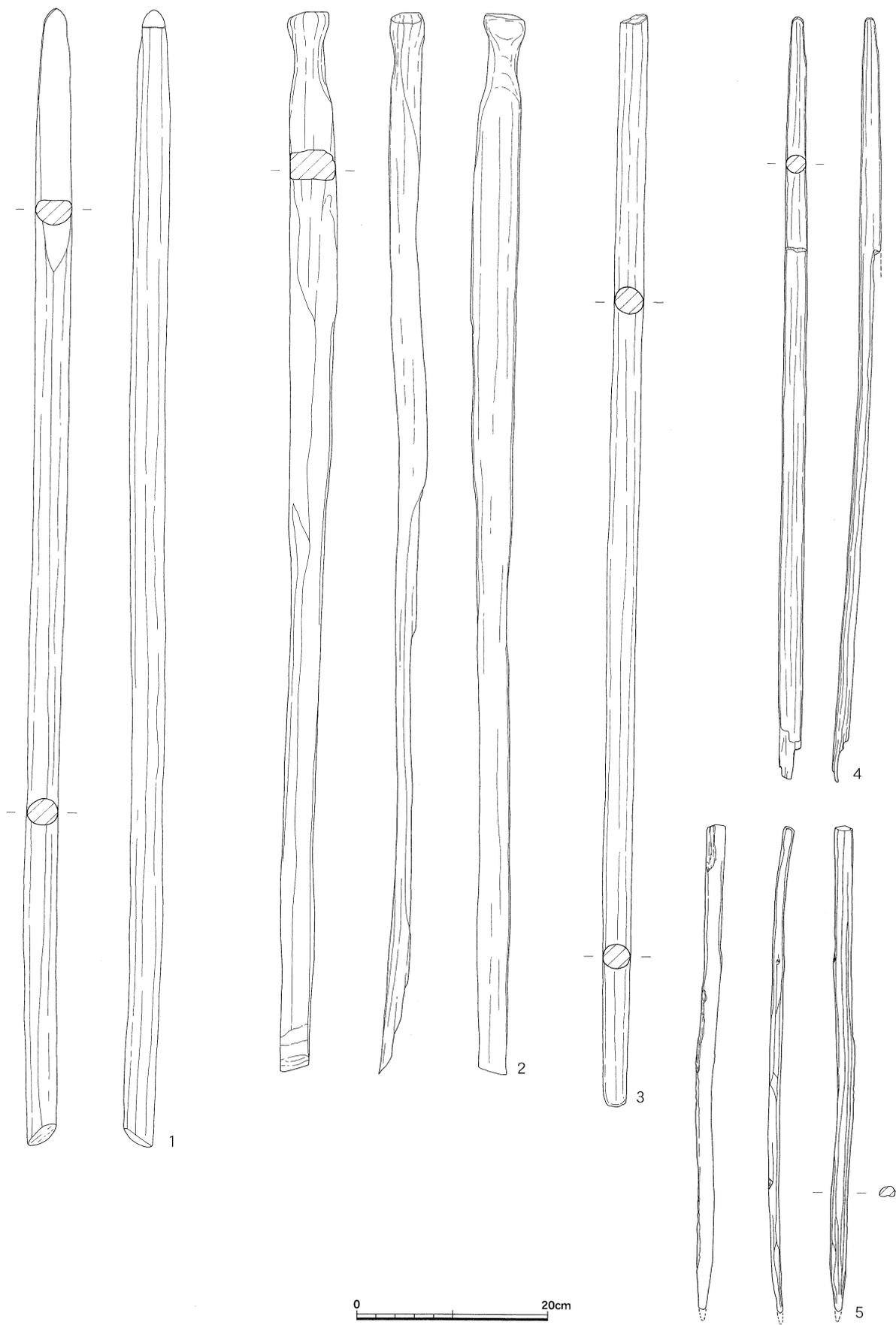
第89図 木製品10 (S = 1 / 6)



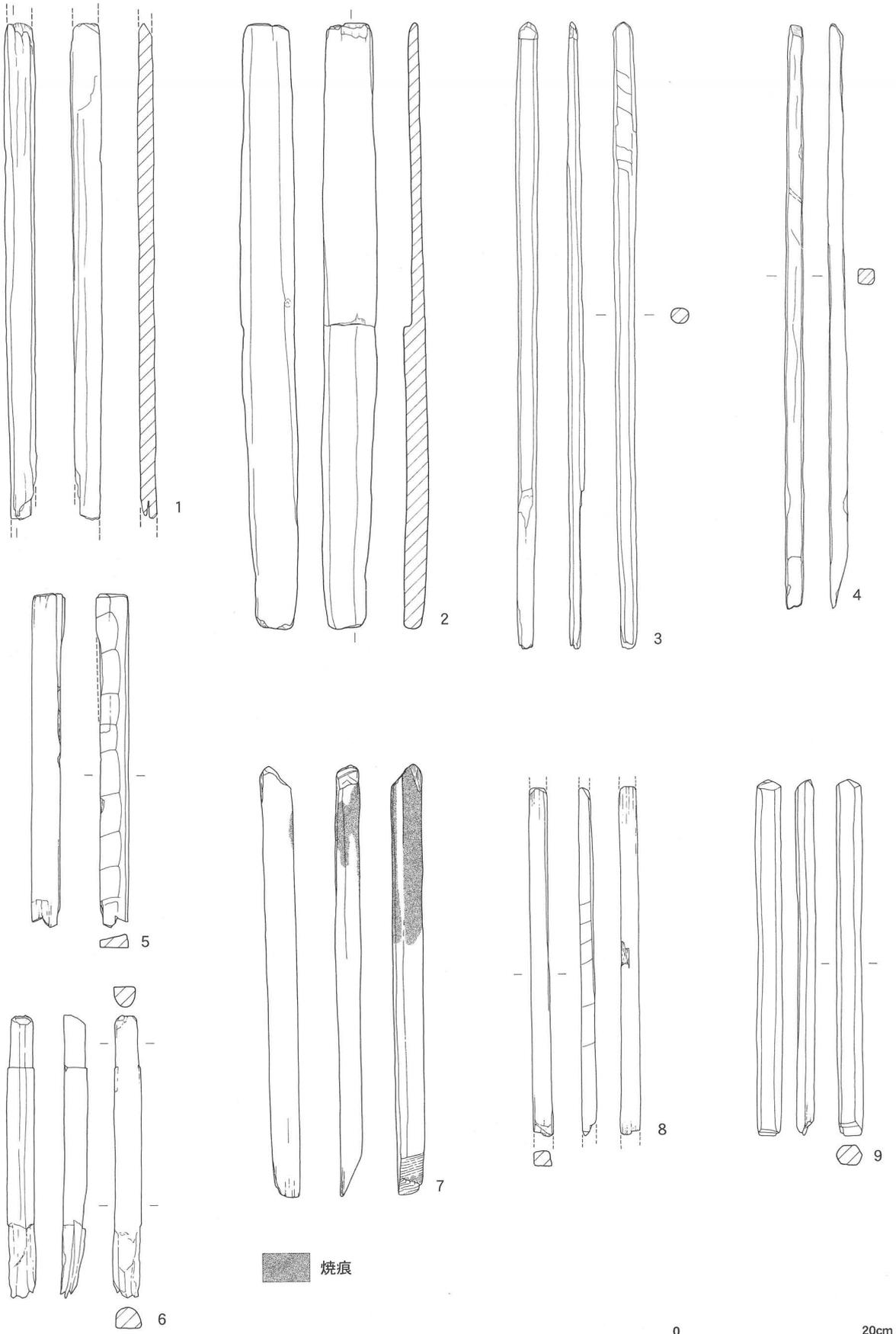
第90図 木製品11 (S = 1 / 6)



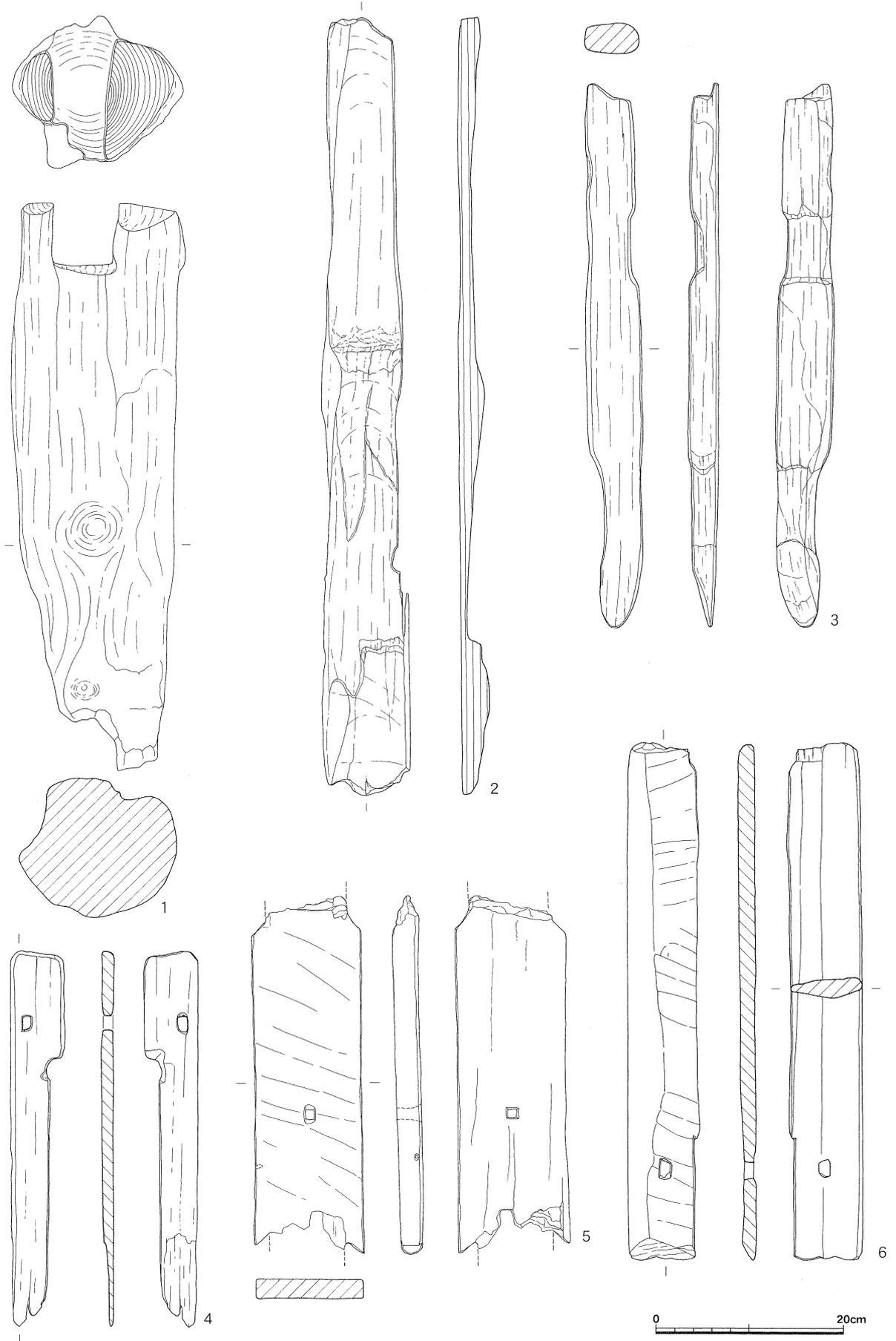
第91図 木製品12 (S = 1 / 6)



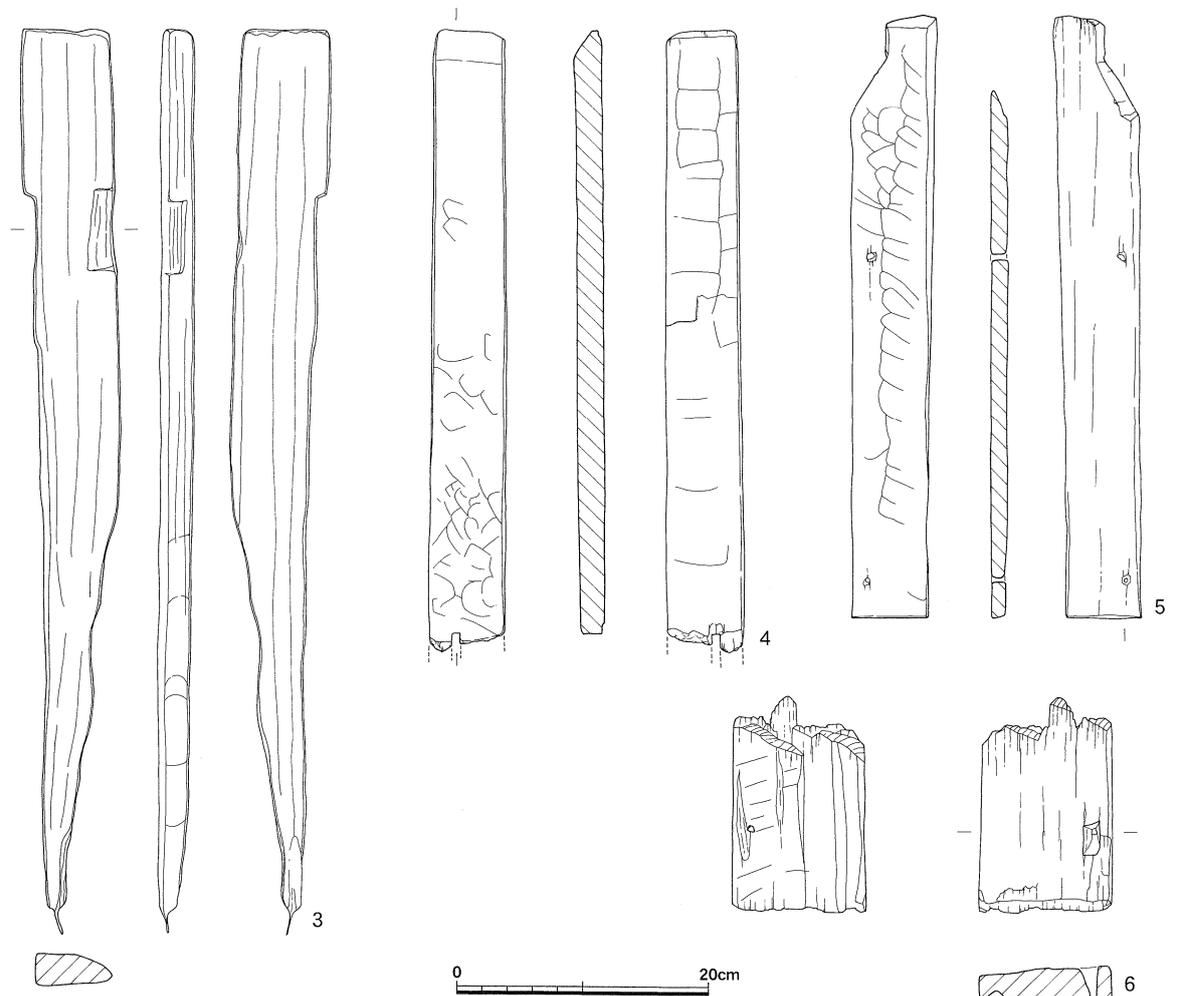
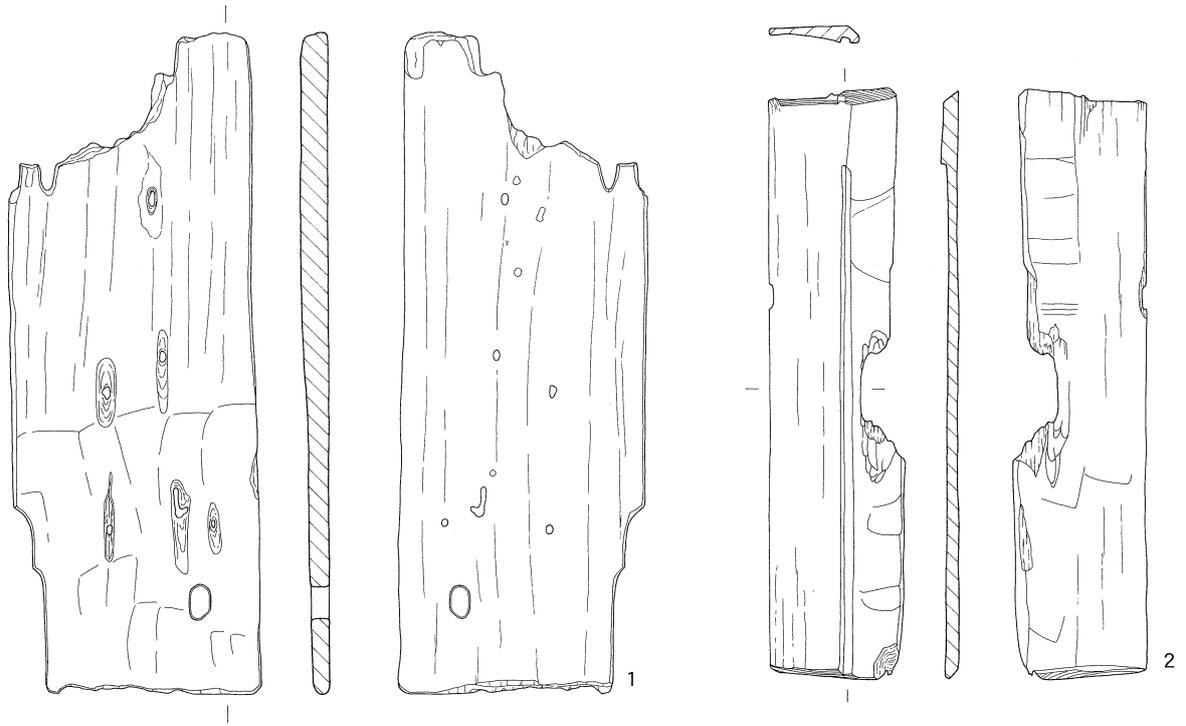
第92図 木製品13 (S = 1 / 6)



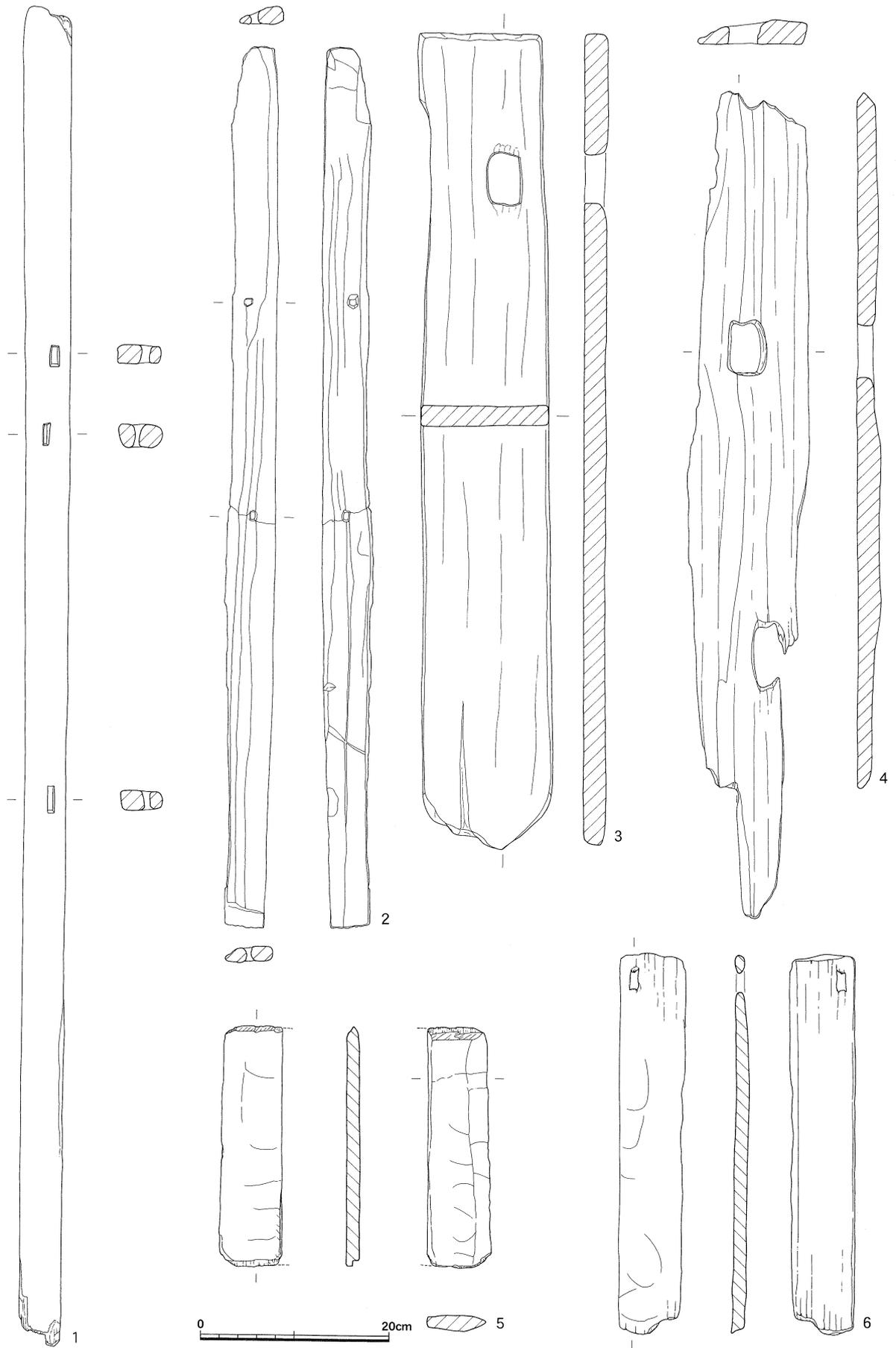
第93图 木製品14 (S = 1 / 6)



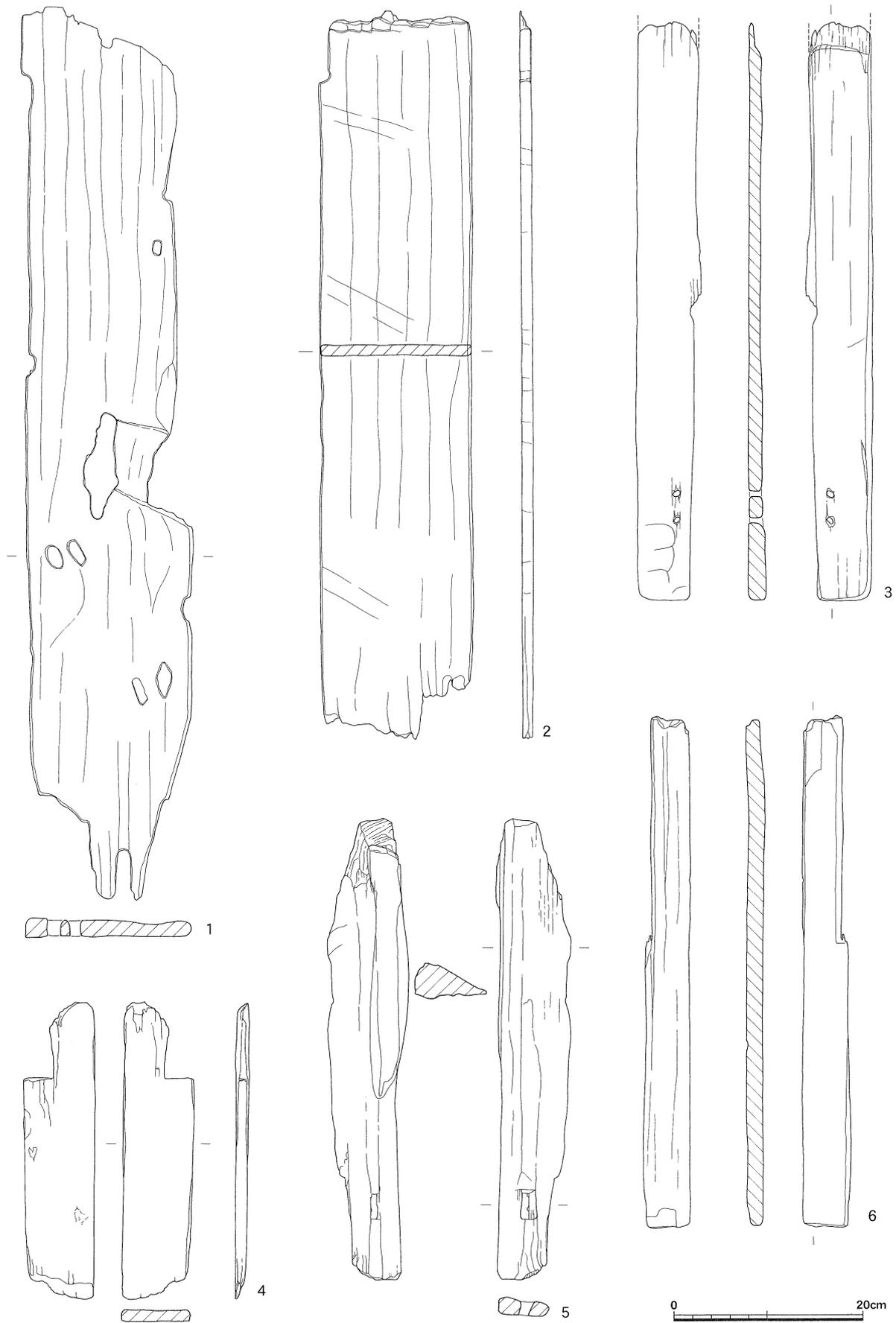
第94図 木製品15 (S = 1 / 6)



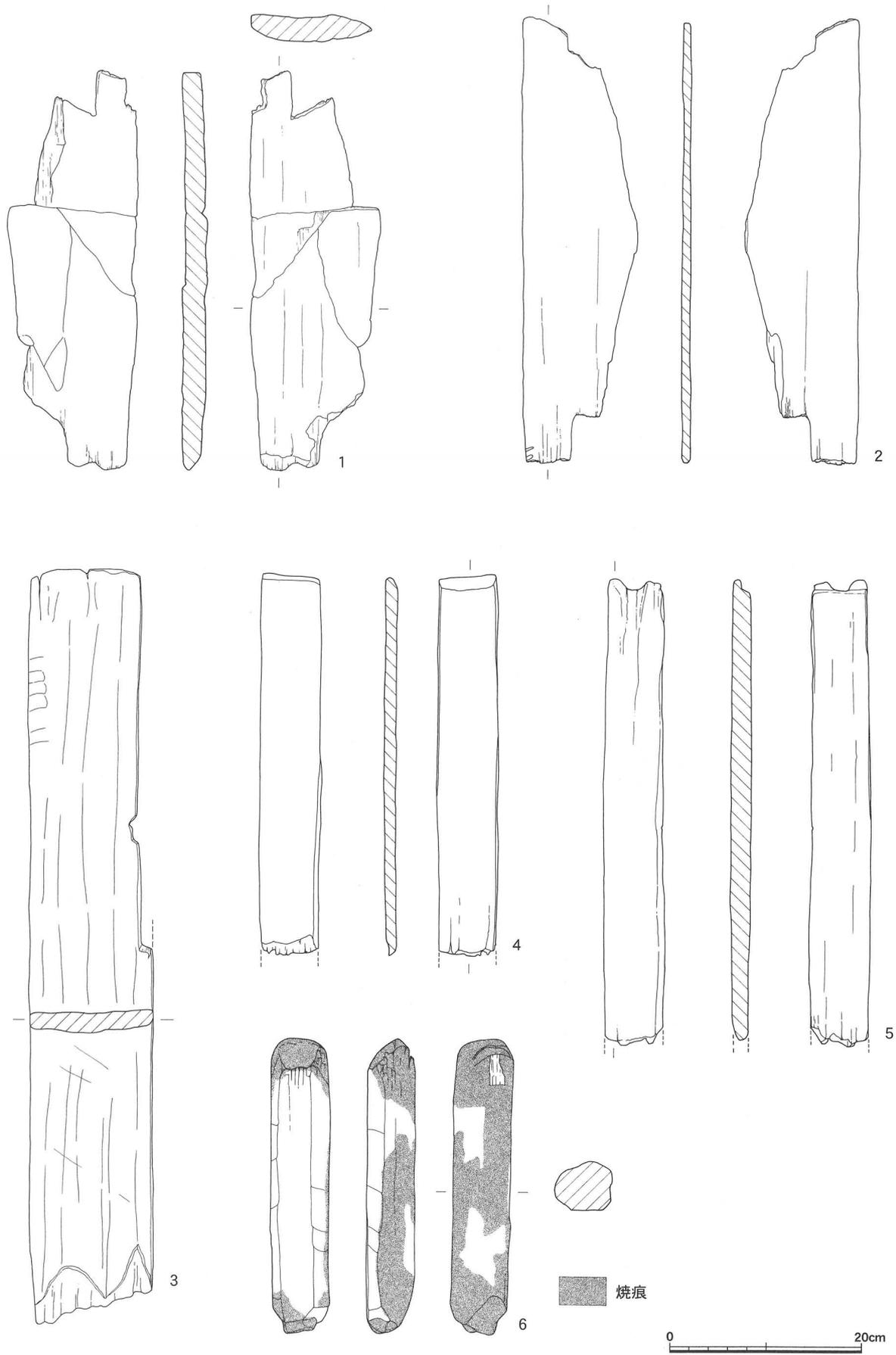
第95図 木製品16 (S=1/6)



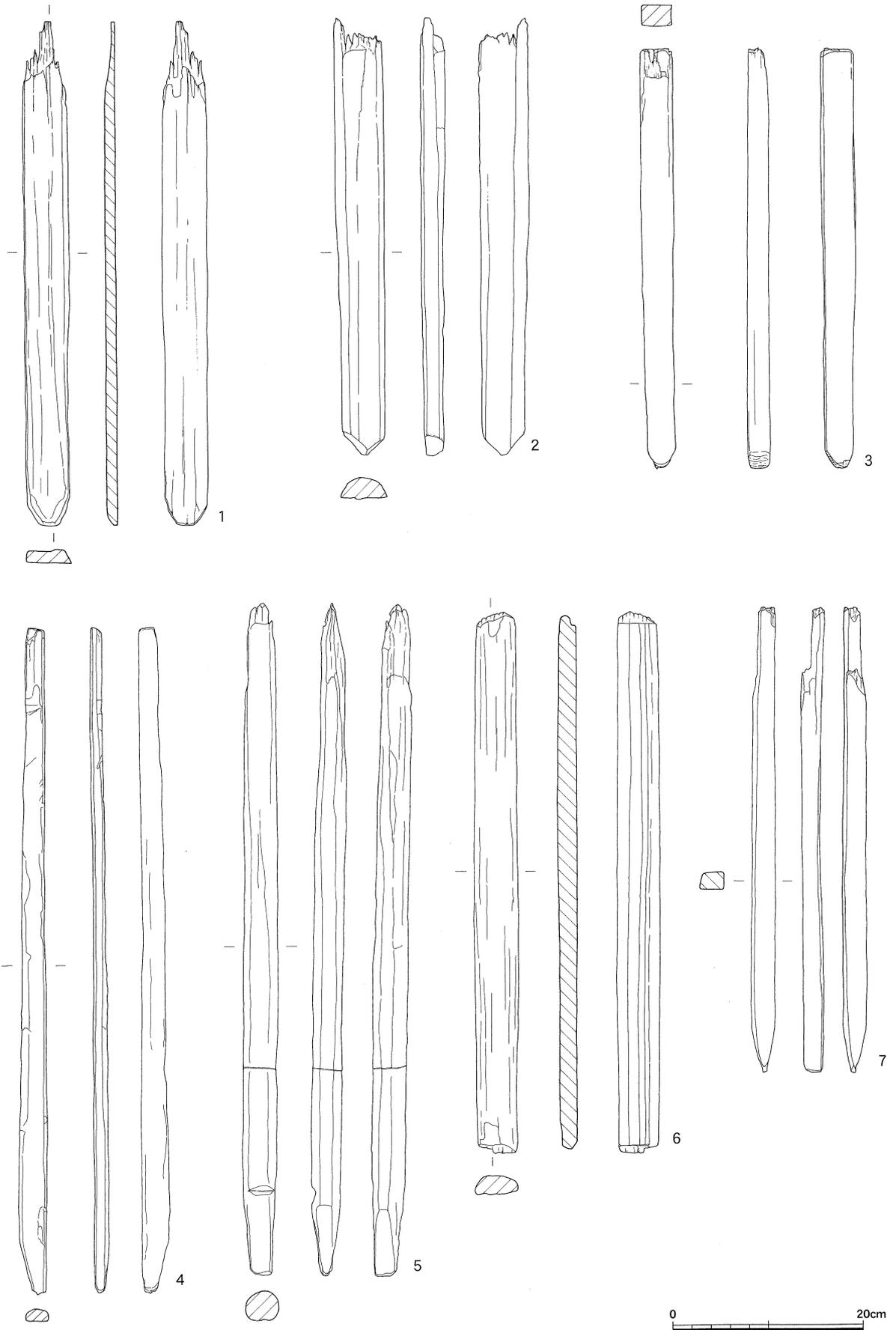
第96図 木製品17 (S = 1 / 6)



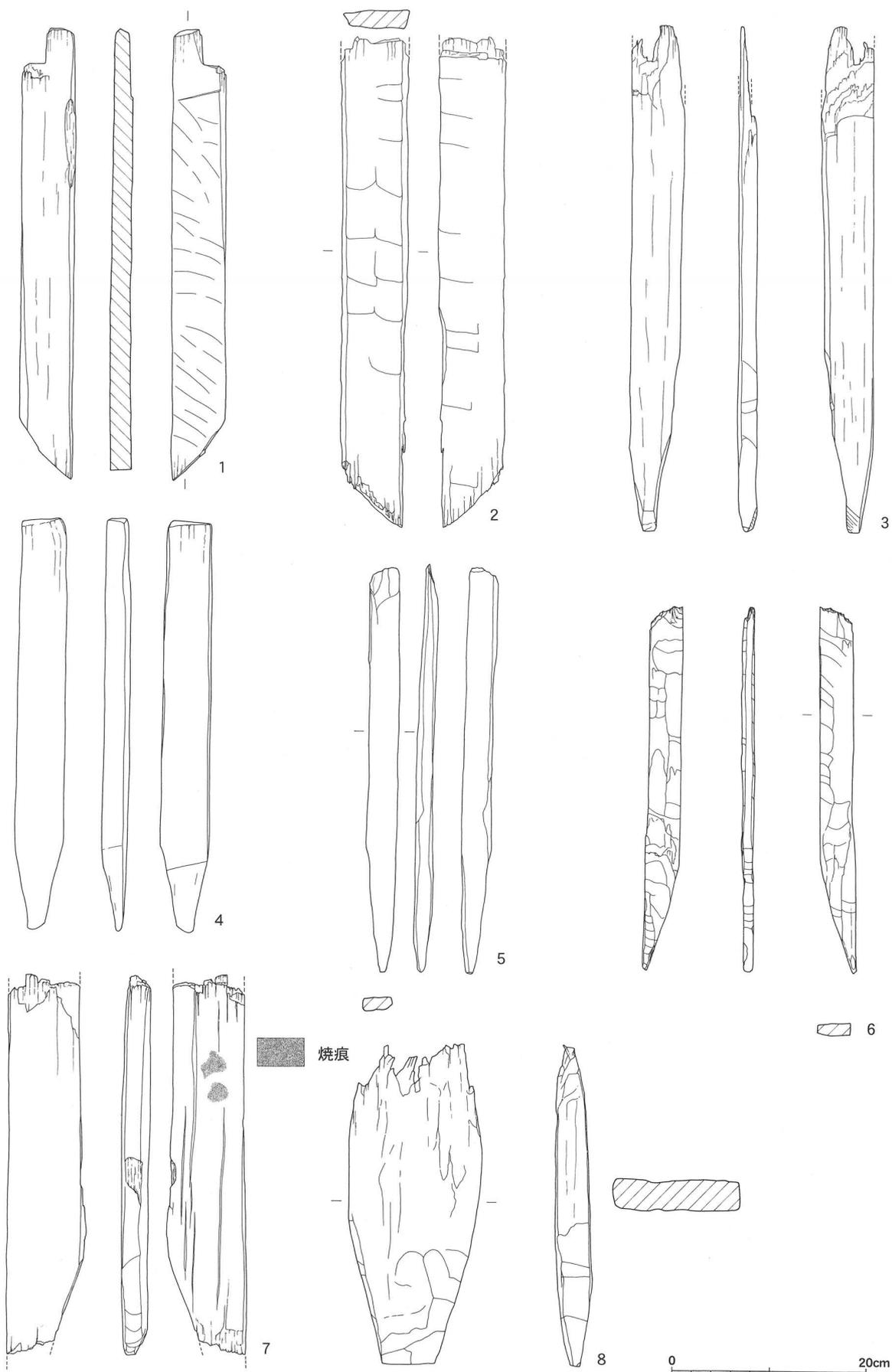
第97図 木製品18 (S = 1 / 6)



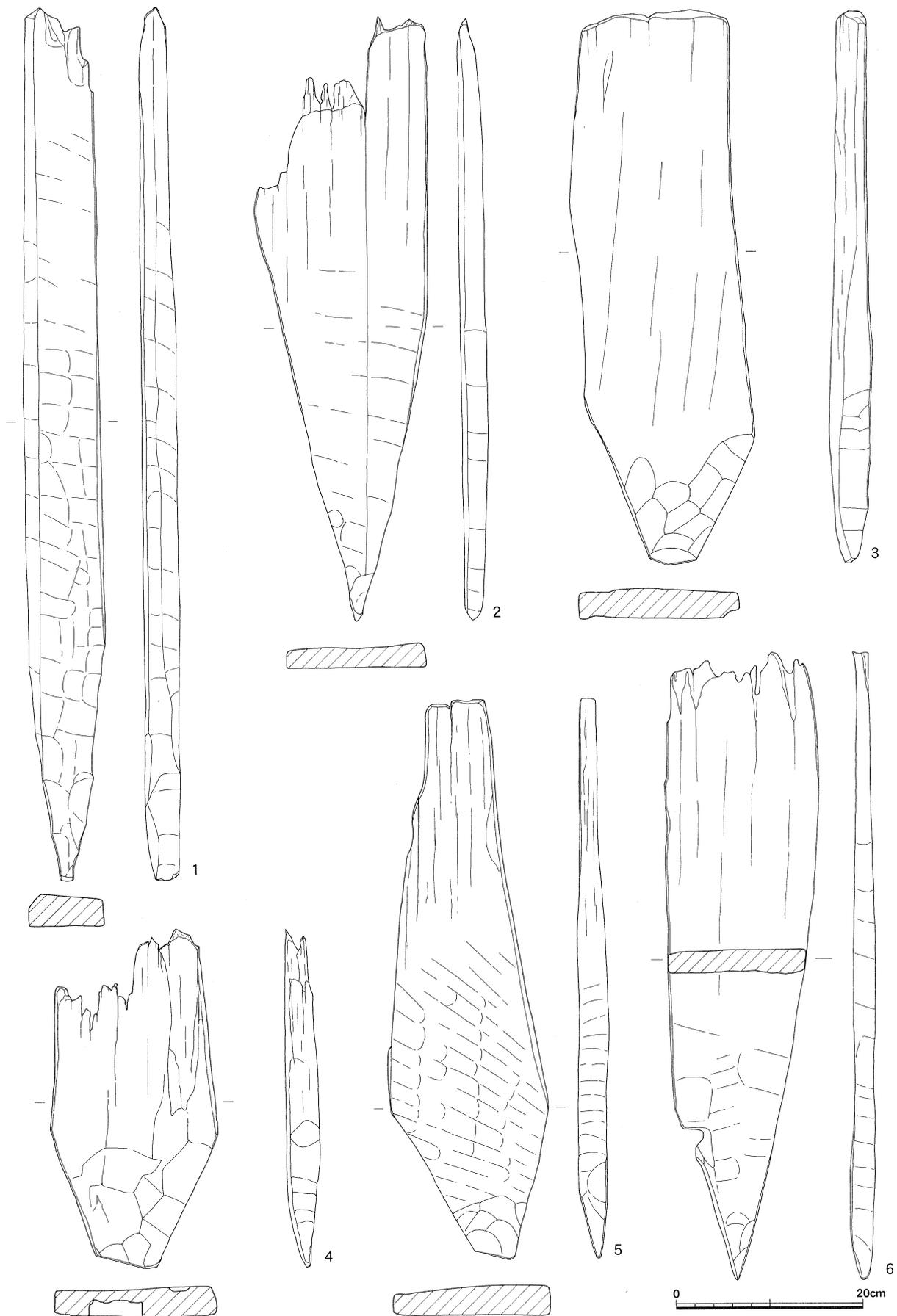
第98図 木製品19 (S = 1 / 6)



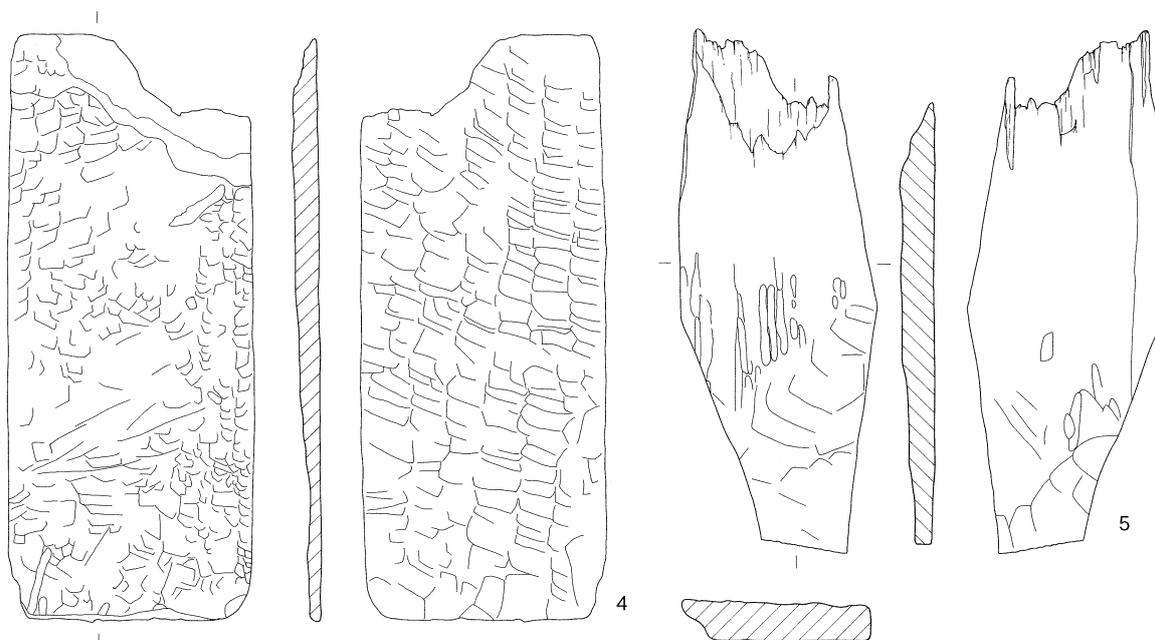
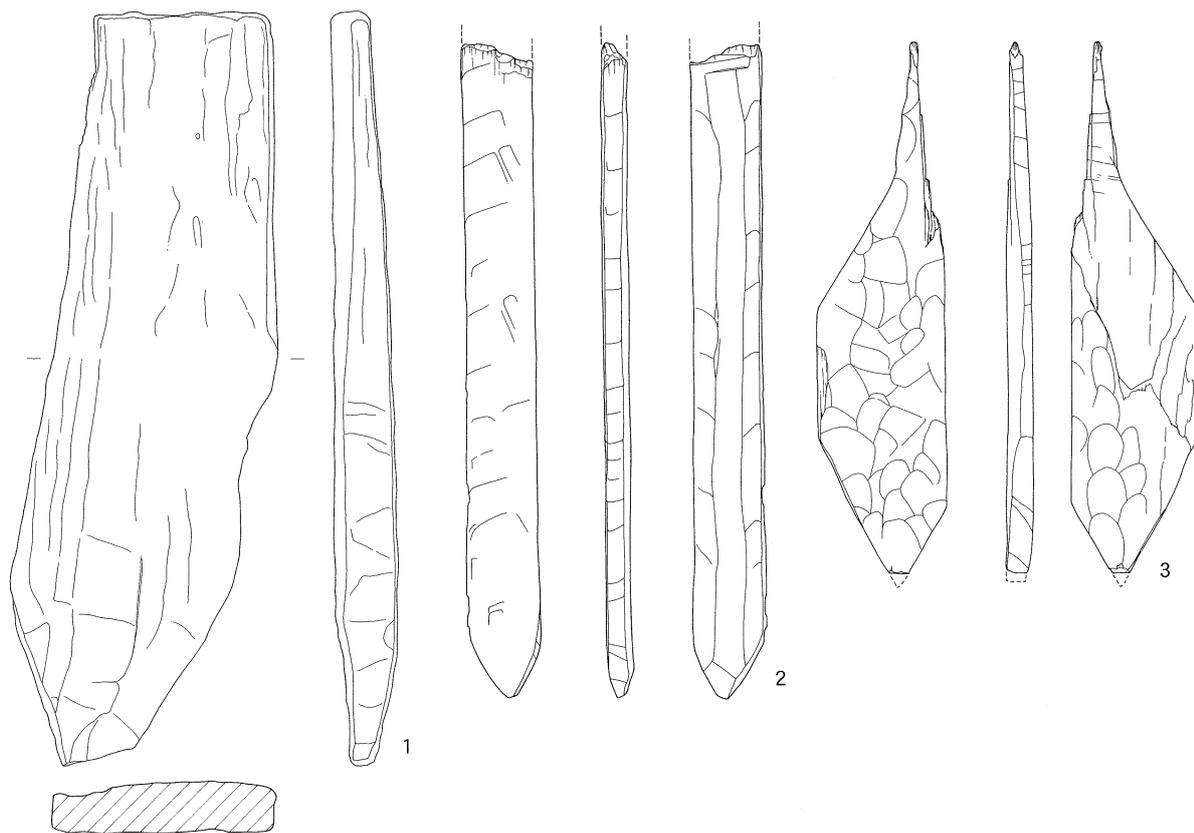
第99図 木製品20 (S = 1 / 6)



第100図 木製品21 (S = 1 / 6)

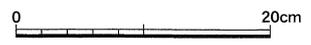
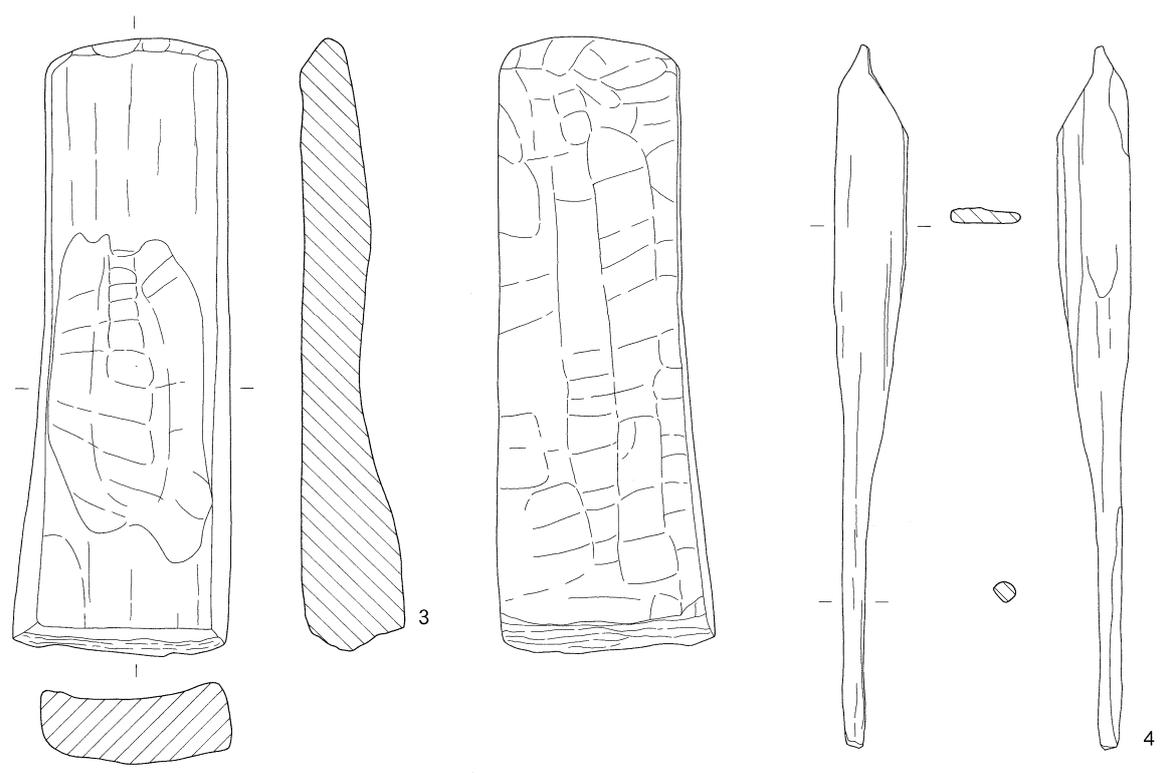
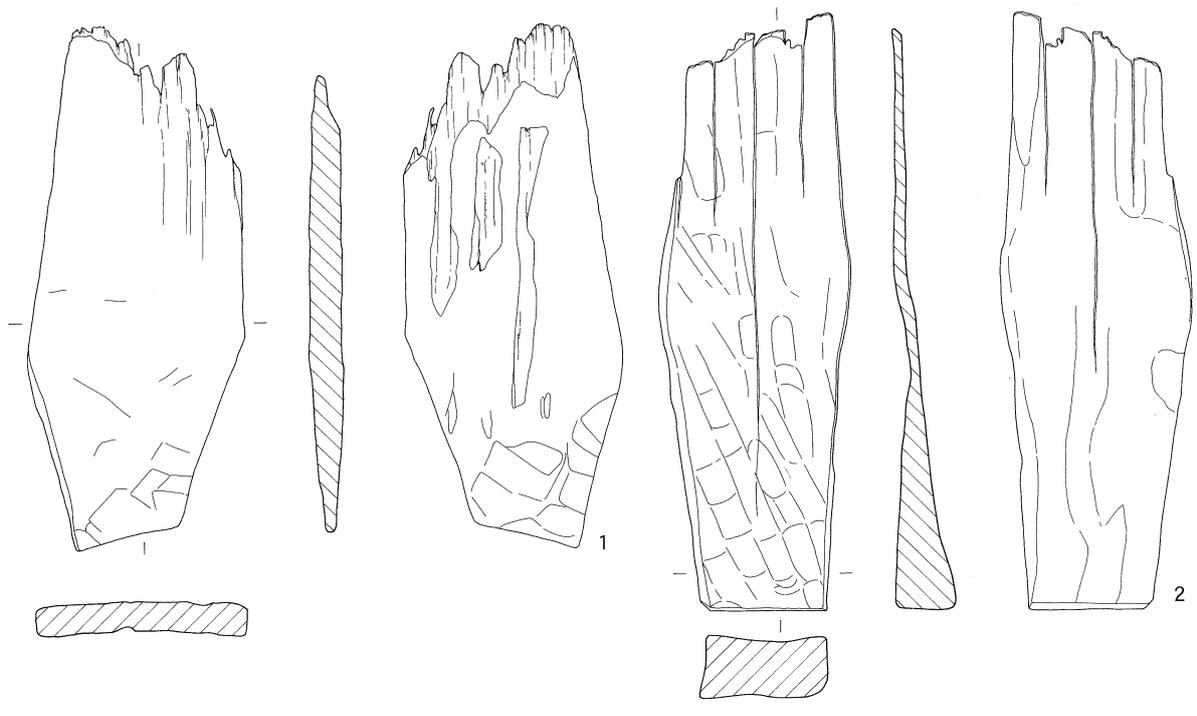


第101図 木製品22 (S = 1 / 6)

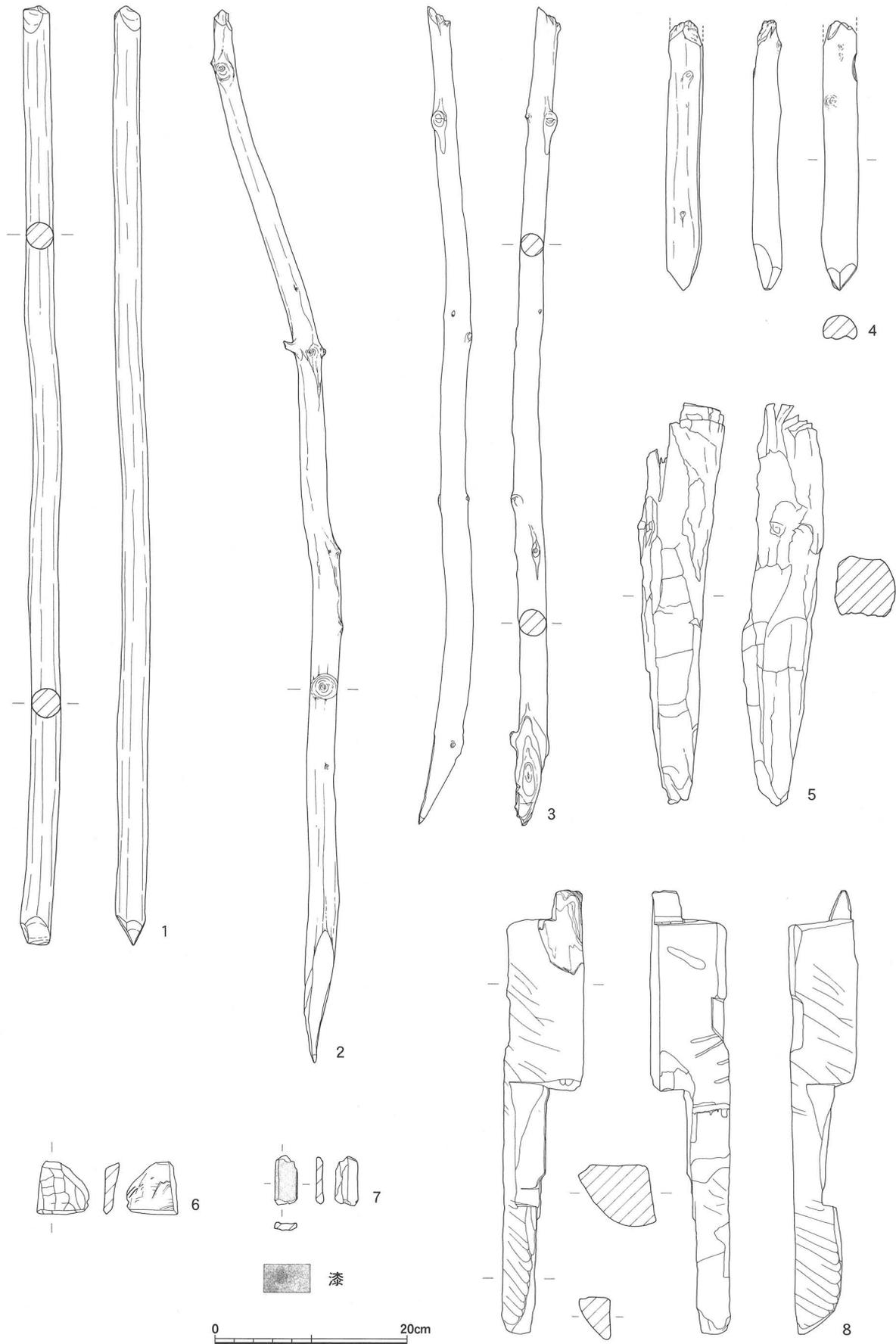


0 20cm

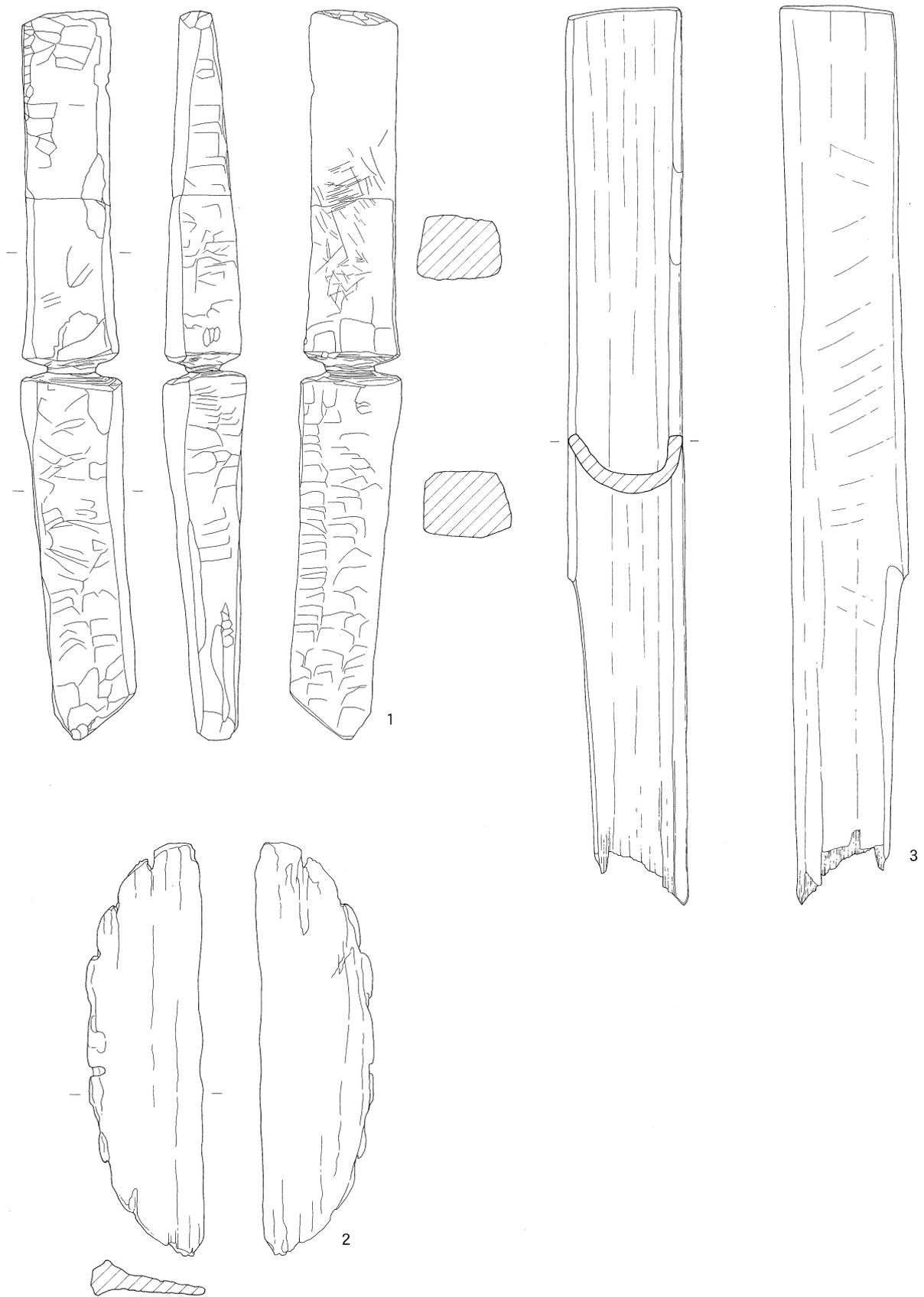
第102図 木製品23 (S=1/6)



第103図 木製品24 (S = 1 / 6)



第104図 木製品25 (S=1/6)



第105図 木製品26 (S = 1 / 6)

## 第4章 自然科学的分析



# 島根県山持遺跡出土試料の<sup>14</sup>C年代測定

小林謙一<sup>1)</sup>・春成秀爾<sup>1)</sup>・坂本 稔<sup>1)</sup>・尾寄大真<sup>1)</sup>・新免歳靖<sup>1)</sup>・松崎浩之<sup>2)</sup>

1) 国立歴史民俗博物館

2) 東京大学原子力研究総合センター・タンデム加速器研究部門

島根県出雲市西林木町所在の山持遺跡出土試料の<sup>14</sup>C年代測定を試みた。試料は、弥生時代後期～古墳時代前期土器の付着物である。試料番号はSMMBとした。

試料については、表1に示す。

## 1. 炭化物の処理

試料については、以下の手順で試料処理を行った。(1)の作業は、国立歴史民俗博物館の年代測定資料実験室において小林・新免、(2)(3)は、坂本・尾寄が行った。

(1) 前処理：酸・アルカリ・酸による化学洗浄（AAA処理）。

AAA処理は、土器付着物については、アセトンで洗浄し、油分など汚染の可能性のある不純物を溶解させ除去した（2回）。AAA処理として、80℃、各1時間で、希塩酸溶液（1 N-HCl）で岩石などに含まれる炭酸カルシウム等を除去し（2回）、さらにアルカリ溶液（NaOH、1回目0.01 N、2回目以降0.1 N）でフミン酸等を除去する作業を4～7回行い、着色がほとんどなくなったことを確認した。さらに酸処理（240分以上）を行い中和後、水により洗浄した（4回）。

試料は、AAA前処理を行った量（処理量）、処理後回収した量（回収量）、二酸化炭素化精製に供した量（精製）、精製した二酸化炭素の炭素相当量（ガス）の重量（mg）を表2に記す。処理した量に対するAAA処理後に回収された試料の重量による重量比を含有率1、二酸化炭素に精製した際の炭素含有率を含有率2、含有率1と2を掛けて求められるところの処理した量に対する炭素量の重量比を含有率3として表2に付す。

(2) グラファイト化：鉄触媒のもとで水素還元レグラファイト炭素に転換し、アルミ製カソードに充填する。

AAA処理の済んだ乾燥試料を、500mgの酸化銅とともに石英ガラス管に投じ、真空に引いてガスバーナーで封じ切った。このガラス管を電気炉で850℃で3時間加熱して試料を完全に燃焼させた。得られた二酸化炭素には水などの不純物が混在しているので、ガラス真空ラインを用いてこれを分離・精製した。

(3) 二酸化炭素化と精製：酸化銅により試料を酸化（二酸化炭素化）、真空ラインを用いて不純物を除去する。

1.5mgのグラファイトに相当する二酸化炭素を分取し、水素ガスとともに石英ガラス管に封じた。これを電気炉で650℃で12時間加熱してグラファイトを得た。管にはあらかじめ触媒となる鉄粉が投じてあり、グラファイトはこの鉄粉の周囲に析出する。グラファイトは鉄粉とよく混合した後、穴径1mmのアルミニウム製カソードに60ONの圧力で充填した。

## 2. 測定結果と暦年較正

AMSによる $^{14}\text{C}$ 年代測定は、東京大学原子力研究総合センターのタンデム加速器施設（MALT、機関番号MTC）で行った。測定結果は、表3に示す。

年代データの $^{14}\text{C}$ BPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した $^{14}\text{C}$ 年代（モデル年代）であることを示す（BPまたはyr BPと記すことも多いが、本稿では $^{14}\text{C}$ BPとする）。 $^{14}\text{C}$ の半減期は国際的に5,568年を用いて計算することになっている。誤差は測定における統計誤差（1標準偏差、68%信頼限界）である。

AMSでは、グラファイト炭素試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を加速器により測定する。正確な年代を得るには、試料の同位体効果を測定し補正する必要がある。同時に加速器で測定した $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比により、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比に対する同位体効果を調べ補正する。 $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比は、標準体（古生物belemnite化石の炭酸カルシウムの $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比）偏差値に対する千分率 $\delta^{13}\text{C}$ （パーミル，‰）で示され、この値を-25‰に規格化して得られる $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比によって補正する。補正した $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、 $^{14}\text{C}$ 年代値（モデル年代）が得られる（英語表記ではConventional Ageとされることが多い）。

$\delta^{13}\text{C}$ 値は、東京大学測定分については、加速器による測定を参考として付す。

測定値を較正曲線INTCAL98（暦年代と炭素14年代を暦年代に修正するためのデータベース、1998年版）（Stuiver, et al. 1998）と比較することによって実年代（暦年代）を推定できる。両者に統計誤差があるため、統計数理的に扱う方がより正確に年代を表現できる。すなわち、測定値と較正曲線データベースとの一致の度合いを確率で示すことにより、暦年代の推定値確率分布として表す。暦年較正プログラムは、OxCal Programに準じた方法で作成したプログラムを用いている。統計誤差は2標準偏差に相当する、95%信頼限界で計算した。年代は、較正された西暦 cal BCで示す。（ ）内は推定確率である。図1は、各試料の暦年較正の確率分布である。

## 3. 年代的考察

今回の測定結果から計算した暦年較正年代についてまとめておく。

まず、やや異常な値を示した2点について検討する。

SMMB10bとSMMB12aの2測定は、同一の型式に比定されている他の土器付着物に比べ、100年程度古い測定結果が得られている。可能性としては、炭化物中に含まれていた不純物を十分に除去できなかったために古い炭素が影響を及ぼしたことが考えられる。もう一つは、海産物の調理によるお焦げなどであった場合、海洋リザーバー効果により、実際よりも古い年代となる場合がある。例えば、秋田県大館市池内遺跡の縄紋前期土器付着炭化物の炭素年代測定では、9点のうち、2点が、他のデータの4780-4940BPから、それぞれ約300年、約1100年古くなった。このうち、約1100年古かった例は、 $\delta^{13}\text{C}$ の値が-22‰で、他の-25~-27‰と比べて高かった。これについて、今村峯雄は、海産物のお焦げである可能性を指摘している（今村2000）。SMMB10bとSMMB12aの2測定例について検討すると、炭素含有率は、特に不良という状態ではなく、顕微鏡観察の結果でも、特にミネラル等の混入が多いとはいえない。一方、 $\delta^{13}\text{C}$ 値をみると、加速器による測定結果であるが約-22‰と他に比べやや重く、海産物に由来するお焦げである可能性は否定できない。炭化物の由来を検討する必要があるが、今後の課題であるが、海洋リザーバー効果を受けている可能性を想定しておきたい。ここでは、この2点は除外して以下の年代的考察を進めておく。

これまでに国立歴史民俗博物館が行ってきた西日本の弥生前期・中期の年代測定結果（春成ほか2004）、たとえば岡山市南方遺跡（小林ほか2004 b）などの弥生時代中期Ⅲ期の較正年代が紀元前200～100年代ころ、大阪府瓜生堂遺跡（小林ほか2004 a）の弥生後期Ⅴ期の較正年代が紀元前後から紀元100年ころの年代に比定されているが、これらの結果と比較検討する。九重式・的場式土器は、上述の海産物の調理に由来する可能性を検討すべき数点を除き、弥生後期とほぼ重なる年代であると思われる。SMMB 7のみは、布留0式併行土器の炭素年代測定値に近い数値が得られているが、この間の較正曲線はやや平坦な部分も含んでおり、紀元70年からの較正年代が確率分布の中に含まれているので、紀元70年から100年代の年代であると捉えれば、土器型式と矛盾がないことになる。

大木式土器については、紀元2世紀ごろの年代を示すSMMB14・15と、それらよりは新しく、瓜生堂遺跡で測定した布留2式土器よりは古い年代である紀元2～3世紀中頃までを示すSMMB13とに分かれる。

ただし、弥生時代後期から古墳時代前期に相当する紀元100年頃から300年頃にかけては、この間の較正曲線自体が検証されないと、詳細な検討は難しい。これらの年代については、年輪年代が確定した日本産の樹木について炭素14年代を測定し較正曲線を検証する作業が必要である。近い将来、日本の樹木による較正曲線の整備を待って、実年代の比定を行うことにしたい。

この報告は、平成16年度文部科学省・科学研究費補助金 学術創成研究「弥生農耕の起源と東アジア—炭素年代測定による高精度編年体系の構築—」（研究代表 西本豊弘）の成果の一部である。

#### 〔参考文献〕

- 今村峯雄 2000 「考古学における<sup>14</sup>C年代測定—高精度化と信頼性に関する諸問題—」（馬淵久夫・富永健編）『考古学と化学を結ぶ』UP選書、東京大学出版会
- 小林謙一・春成秀爾・坂本稔・陳建立・今村峯雄・松崎浩之・秋山浩三・川瀬貴子 2004 a 「大阪府瓜生堂遺跡出土弥生～古墳時代土器の<sup>14</sup>C年代測定」『瓜生堂遺跡』1、(財)大阪府文化財センター調査報告書 第106集、考察・分析・写真図版編、(財)大阪府文化財センター
- 小林謙一・春成秀爾・坂本稔・今村峯雄・松崎浩之・扇崎由 2004 b 「岡山市南方（済生会）遺跡出土土器付着物の<sup>14</sup>C年代測定」『岡山市埋蔵文化財センター年報』3、2002（平成14年度）、岡山市教育委員会
- 春成秀爾・今村峯雄・藤尾慎一郎・坂本稔・小林謙一 2004 「弥生時代の実年代」『日本考古学協会第70回総会研究発表要旨』日本考古学協会
- Stuiver, M. et al. 1998 INTCAL98 Radiocarbon age calibration, 24,000-0calBP. *Radiocarbon* 40(3), 1041-1083.

表1 年代測定用試料一覧

試料番号	遺跡名	型式	器種	注 記	付 着 状 況
SMMB 1	弥生後期	V-1~九重	甕	A1. H層2 P No319	口縁外、やや良、吹きこぼれ
SMMB 2	弥生後期	V-1~九重	甕	B3. H層2 P No599	口縁外、やや良、吹きこぼれ
SMMB 3	弥生後期	V-1~九重	甕	B3. H層2. P No559	口縁外、やや良、吹きこぼれ
SMMB 4	弥生後期	九 重	甕	河川側 B5H層2 P No685	口縁外、やや良、吹きこぼれ
SMMB 5	弥生後期	九 重	甕	B6 P No740 H層2	胴上部外、吹きこぼれ
SMMB 6	弥生後期	九 重	甕	B3. H層2 P No569	胴部外、スス
SMMB 7	弥生後期	的 場	甕	B3. H層2 P No536	胴部外、スス・胴部内、焦げ
SMMB 8	弥生後期	的 場	甕	B3. H層2 P No538	胴上部外、スス・胴下部内、焦げ
SMMB 9	弥生後期	的 場	甕	B3H層2 P No451	胴下部内、お焦げ・外、スス
SMMB 10	弥生後期	的 場	甕	B3. H層2 P No652	口縁外、吹きこぼれ、胴外、スス・胴内、お焦げ
SMMB 11	弥生後期	的 場	甕	B3. H層2 P No535	胴下部外スス・胴下部内良焦げ
SMMB 12	弥生後期	的 場	甕	B6. H層2 P No838	口縁から胴外、やや良、吹きこぼれ・胴内、お焦げ
SMMB 13	弥生後期	大 木	甕	B5. H層1 P No872	口縁外、やや良、吹きこぼれ
SMMB 14	弥生後期	大 木	甕	B2. H層1 P No312	口縁外、やや良、吹きこぼれ
SMMB 15	弥生後期	大 木	甕	B1. H層1 P No254	胴下部外面、スス
SMMB 16	弥生後期	九 重	器台	B3. H層2 P No638. 568	口縁内面、やや焦げ

表2 付着炭化物の処理

試料番号	採取量	処理量	回収量	含有率1	前処理後	精製	ガス	含有量2	含有量3
SMMB 1	92.16	42.69	2.61	6.1	良	2.23	1.34	60.1	3.7
SMMB 2	48.14	29.58	0.64	2.2	少ない	—	—	—	—
SMMB 3	29.62	17.93	0.86	4.8	少ない	—	—	—	—
SMMB 4	307.29	35.29	3.76	10.7	良	2.76	1.66	60.0	6.4
SMMB 5	210.08	32.29	7.76	24.0	良	4.14	2.49	60.2	14.5
SMMB 6 b	124.25	37.19	1.89	5.1	少ない	—	—	—	—
SMMB 7 a	13.10	13.10	0.00	0.0	アルカリに溶解	—	—	—	—
SMMB 7 b	98.83	39.22	16.01	40.8	良	4.75	2.99	63.0	25.7
SMMB 8 a	14.58	14.58	0.00	0.0	アルカリに溶解	—	—	—	—
SMMB 8 b	77.53	41.15	11.38	27.7	良	4.47	2.81	62.9	17.4
SMMB 9 b	85.54	30.37	1.76	5.8	少ない	—	—	—	—
SMMB 10 a	18.67	13.80	1.49	10.8	少ない	—	—	—	—
SMMB 10 b	492.74	68.22	28.26	41.4	良	5.53	3.41	61.6	25.5
SMMB 11 a	25.66	25.66	3.92	15.3	ミネラル多	—	—	—	—
SMMB 11 b	26.39	26.39	8.56	32.4	良	3.98	2.15	54.0	17.5
SMMB 12 a	47.34	35.96	10.12	28.1	良	4.31	2.51	58.3	16.4
SMMB 12 b	204.01	33.49	2.09	6.2	少ない	—	—	—	—
SMMB 13	115.86	51.72	10.61	20.5	良	3.87	2.32	60.0	12.3
SMMB 14	117.94	55.28	22.55	40.8	良	5.08	3.24	63.9	26.1
SMMB 15	62.67	80.65	18.66	23.1	良	5.22	3.43	65.6	15.2
SMMB 16	57.98	40.26	3.16	7.8	良	2.97	1.67	56.3	4.4

採取量・処理量・回収量・精製は、炭化物の重量(mg)、ガスは二酸化炭素の炭素相当量(mg)、含有率は％、aは内面、bは外面付着物

含有率1は回収量/処理量(%)、含有率2はガス/精製(%)、含有率3は含有率1\*含有率2(%)

表3 測定結果と暦年較正年代

試料番号	測定機関番号	炭素年代 $\delta^{13}\text{C}\text{‰}^*$	$^{14}\text{C}$ BP (補正值)	暦年較正cal BC・AD (2 $\sigma$ ) (%) は確率密度
SMMB 1	MTC-05234	-28.2	1930 ±35	BC35-BC30 0.5%
				BC15-BC10 0.8%
				AD1-135 91.6%
				AD160-175 1.4%
				AD200-210 0.9%
SMMB 4	MTC-05235	-26.4	1965 35	BC40-BC5 13.5%
				AD1-90 73.9%
				AD100-125 8.1%
SMMB 5	MTC-05236	-28.5	1990 35	BC85-BC80 0.7%
				BC50-AD85 93.0%
				AD105-120 1.8%
SMMB 7 b	MTC-05237	-24.8	1840 50	AD70-265 88.0%
				AD280-295 1.9%
				AD300-325 5.2%
SMMB 8 b	MTC-05238	-27.2	1960 30	BC35-BC25 3.0%
				BC20-BC10 4.0%
				AD1-90 79.6%
				AD100-125 8.6%
SMMB 10 b	MTC-05239	-22.4	2075 35	BC195-BC190 0.8%
				BC175-BC15 89.5%
				BC10-AD5 5.0%
SMMB 11 b	MTC-05240	-32.7	2040 35	BC160-BC125 7.9%
				BC120-AD30 85.4%
				AD45-55 2.4%
SMMB 12 a	MTC-05241	-22.2	2135 35	BC350-BC295 15.2%
				BC230-BC215 3.2%
				BC205-BC50 76.8%
SMMB 13	MTC-05242	-29.4	1850 35	AD80-AD245 95.4%
SMMB 14	MTC-05243	-26.1	1950 35	BC35-BC25 2.4%
				BC20-BC10 3.1%
				AD1-130 90.2%
SMMB 15	MTC-05244	-26.5	1930 35	BC35-BC30 0.5%
				BC15-BC10 0.8%
				AD1-135 91.6%
				AD160-175 1.4%
				AD200-210 0.9%
SMMB 16	MTC-05245	-24.6	1960 35	BC35-BC25 3.7%
				BC20-BC5 5.8%
				AD1-95 75.1%
				AD100-130 11.0%

註 \*)  $\delta^{13}\text{C}$  値は、加速器による測定である。

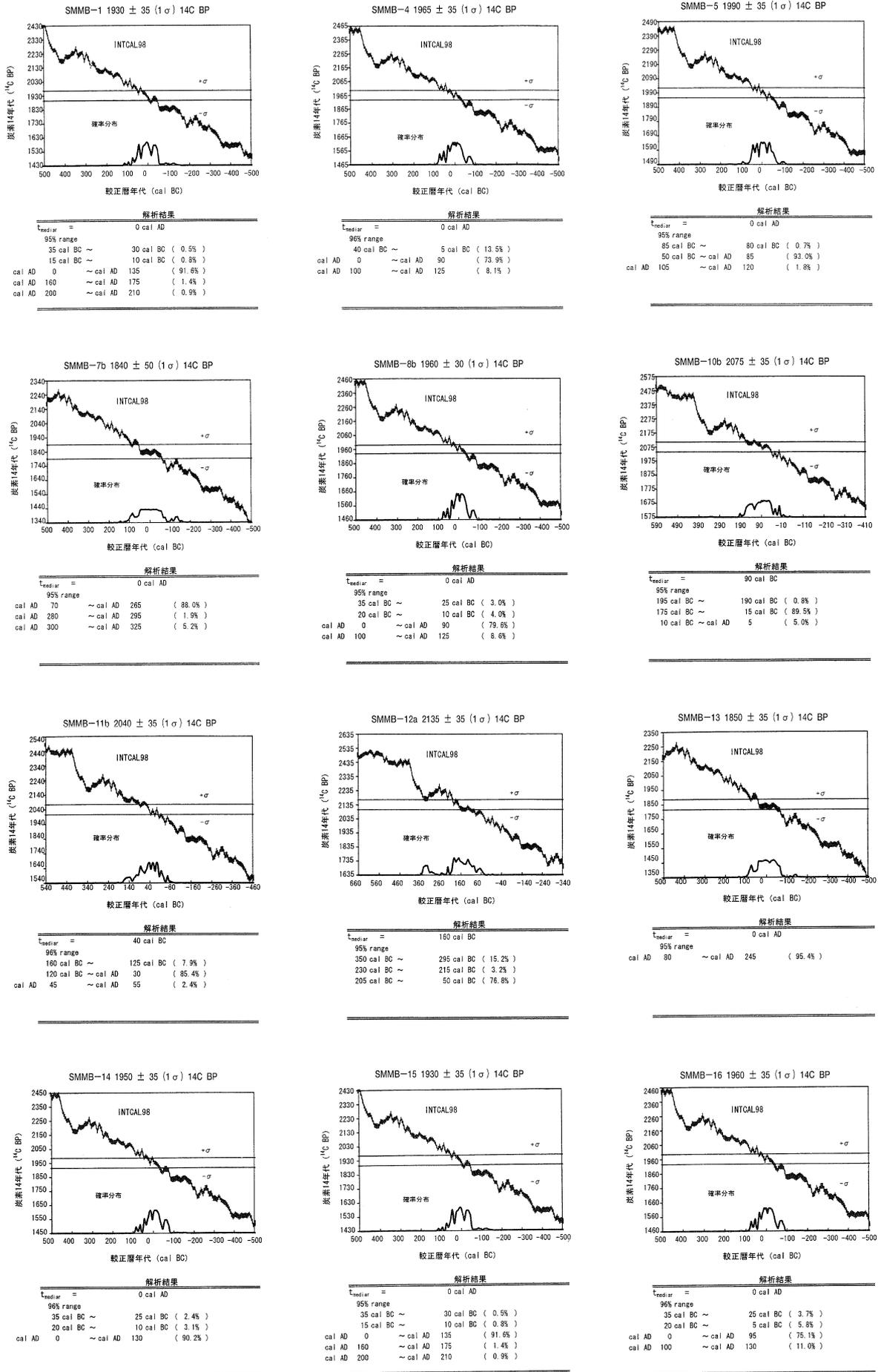


図1 年代測定試料の暦年較正年代の確率密度分布



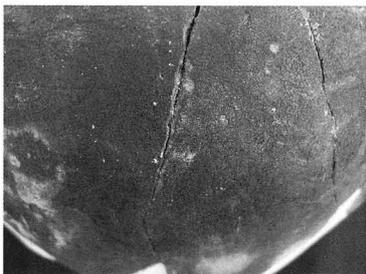
SMMB 1 試料採取土器



SMMB 1 外面付着状態



SMMB 7 b 試料採取土器



SMMB 7 b 外面付着状態



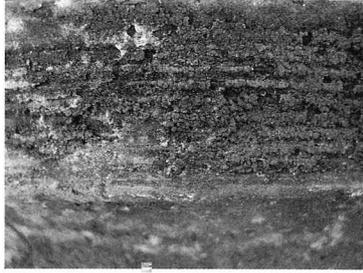
SMMB11 b  
試料採取  
土器



SMMB11 b 外面付着状態



SMMB 4 試料採取土器



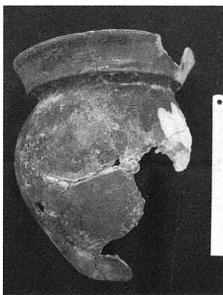
SMMB 4 外面付着状態



SMMB 8 b  
試料採取  
土器



SMMB 8 b  
外面付着  
状態



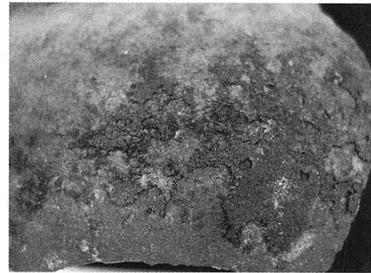
SMMB12 a  
試料採取  
土器



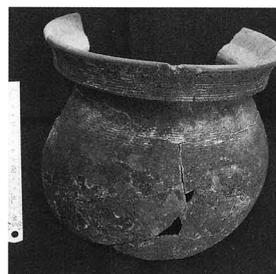
SMMB12 a  
内面付着  
状態



SMMB 5 試料採取土器



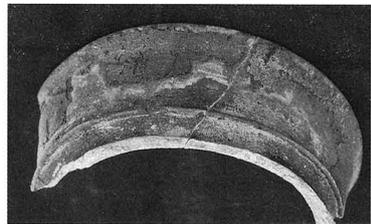
SMMB 5 外面付着状態



SMMB10 b  
試料採取  
土器



SMMB10 b 外面付着状態



SMMB13 試料採取土器



SMMB13 外面付着状態

図2 年代測定をおこなった土器



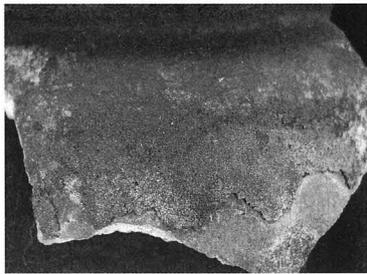
SMMB14 試料採取土器



SMMB15  
試料採取  
土器



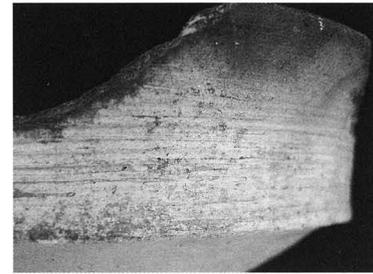
SMMB16 試料採取土器



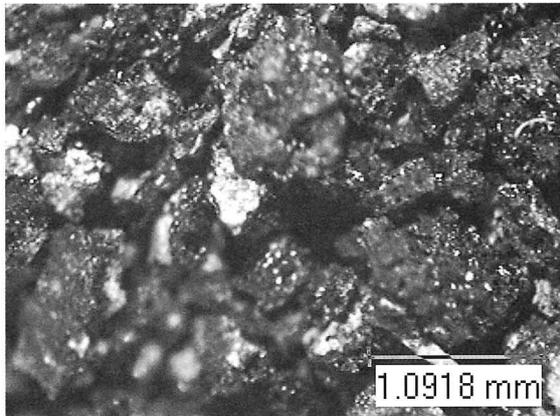
SMMB14 外面付着状態



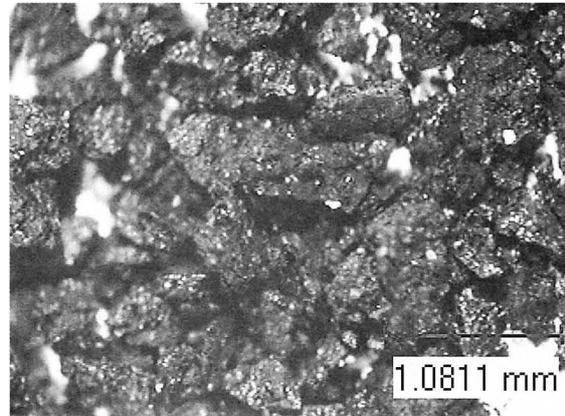
SMMB15 AAA処理前 24倍



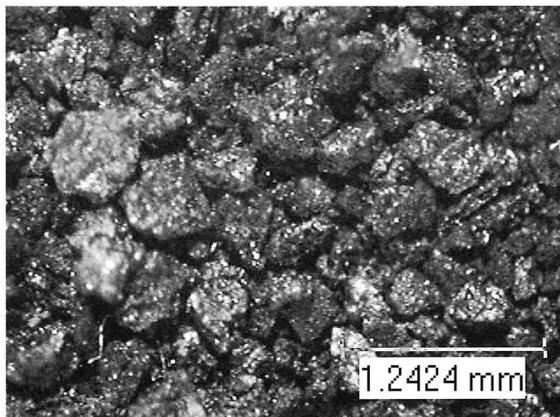
SMMB16 外面付着状態



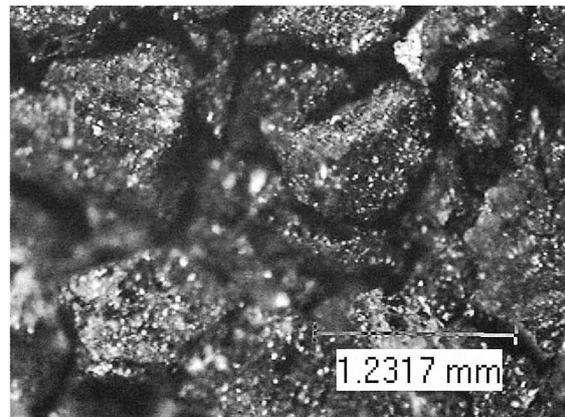
SMMB 1 AAA処理前 23倍



SMMB 1 AAA処理後 24倍

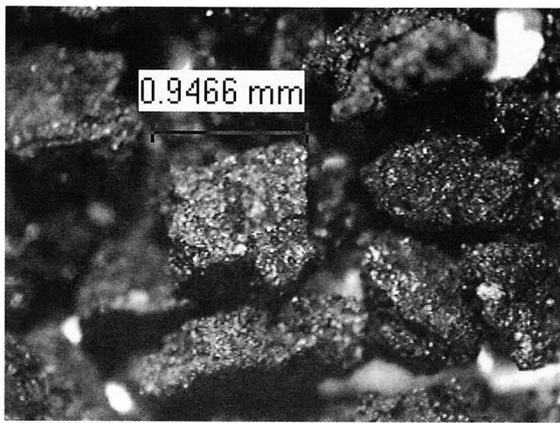


SMMB 2 AAA処理前 23倍

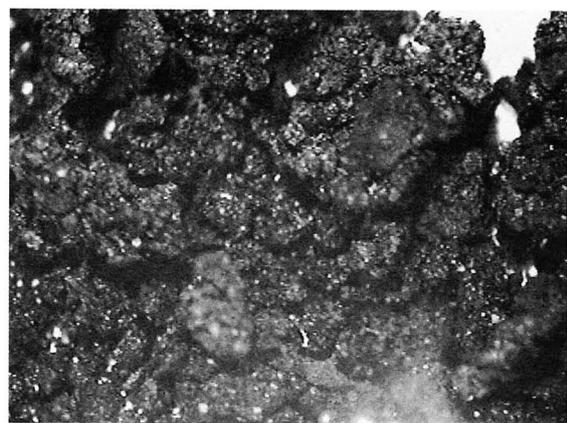


SMMB 3 AAA処理前 24倍

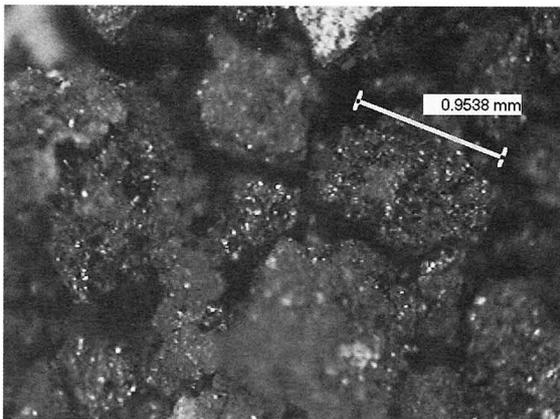
図3 年代測定をおこなった土器とAAA処理前・後の試料の状態



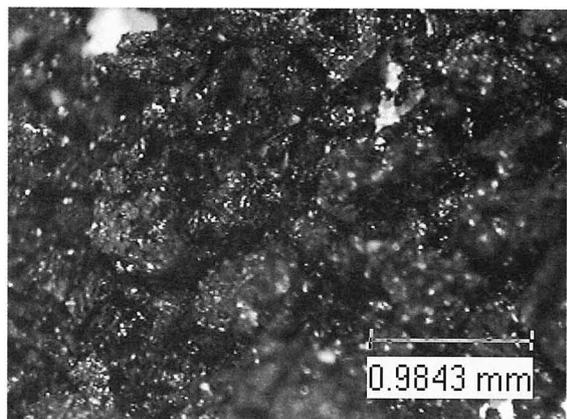
SMMB 4 AAA処理前 23倍



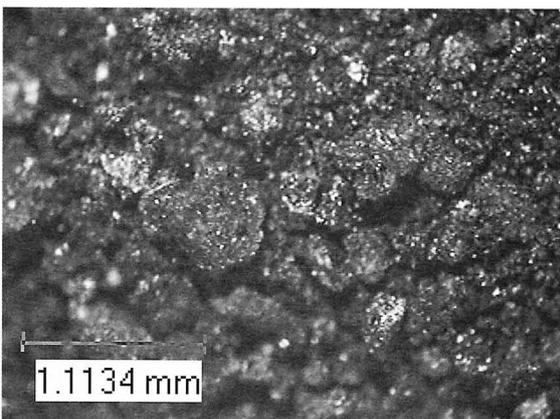
SMMB 4 AAA処理後 24倍



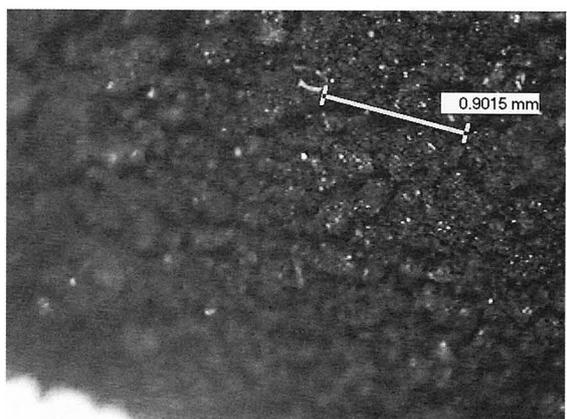
SMMB 5 AAA処理前 24倍



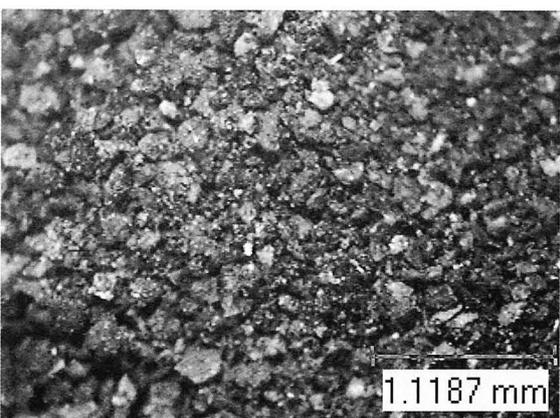
SMMB 5 AAA処理後 23倍



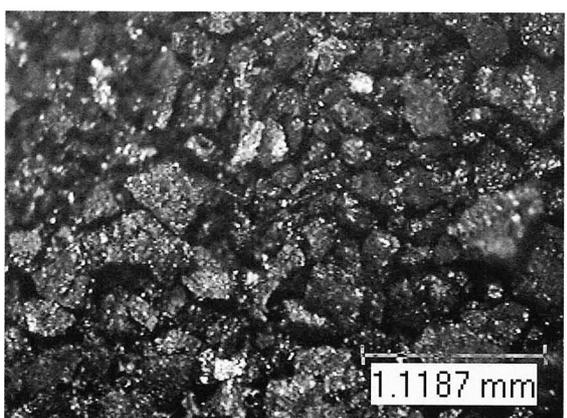
SMMB 6 外面付着 AAA処理前 23倍



SMMB 9 外面付着 AAA処理前 23倍

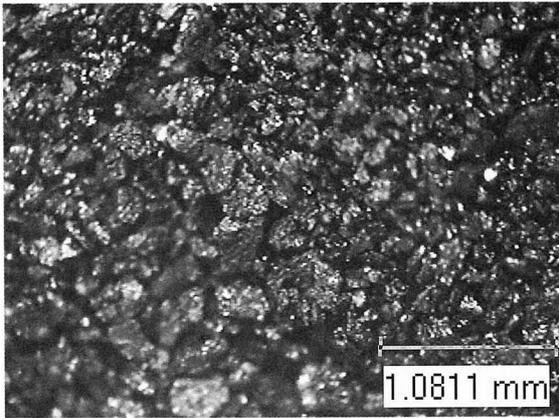


SMMB 7 a 内面付着 AAA処理前 23倍

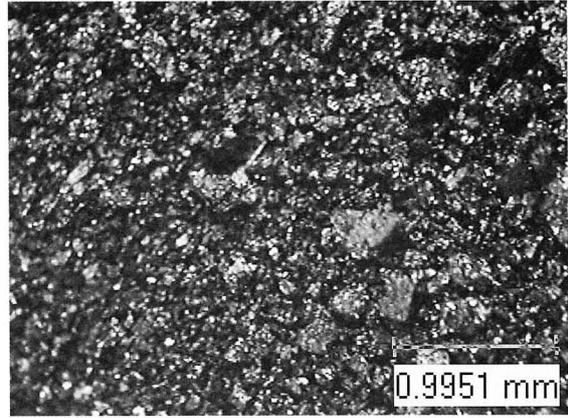


SMMB 7 b 外面付着 AAA処理前 23倍

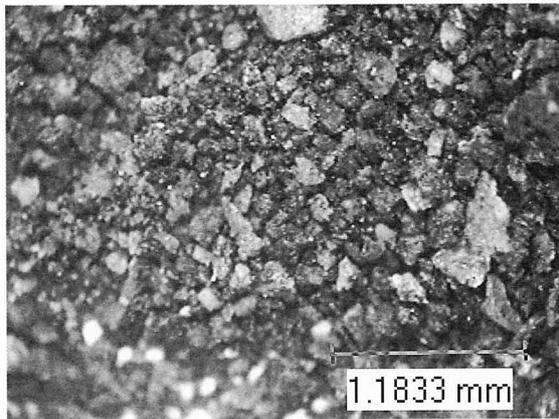
図4 AAA処理前・後の試料の状態



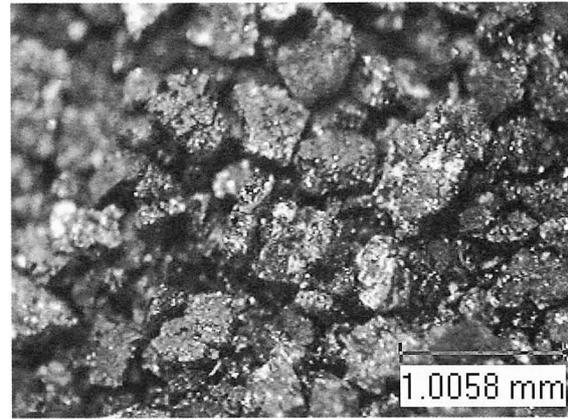
SMMB 7 b 外面付着 AAA処理後 23倍



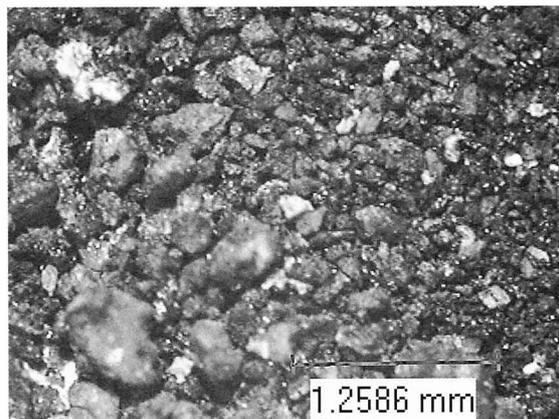
SMMB 8 b 外面付着 AAA処理後 23倍



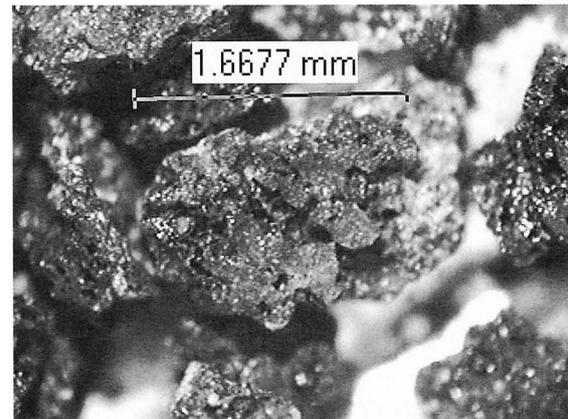
SMMB 8 a 内面付着 AAA処理前 24倍



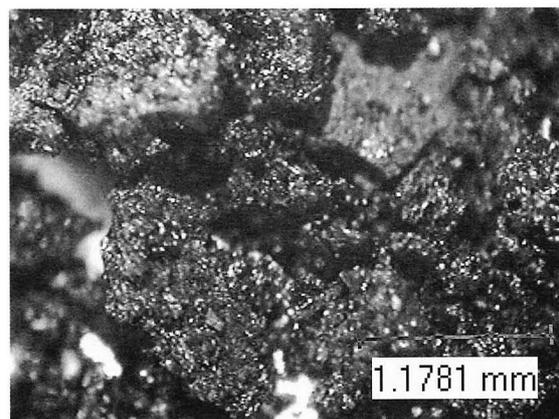
SMMB 8 b 外面付着 AAA処理前 23倍



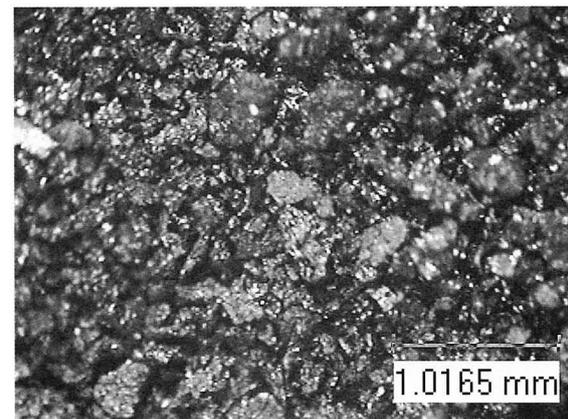
SMMB10 a 内面付着 AAA処理前 23倍



SMMB10 b 外面付着 AAA処理前 23倍

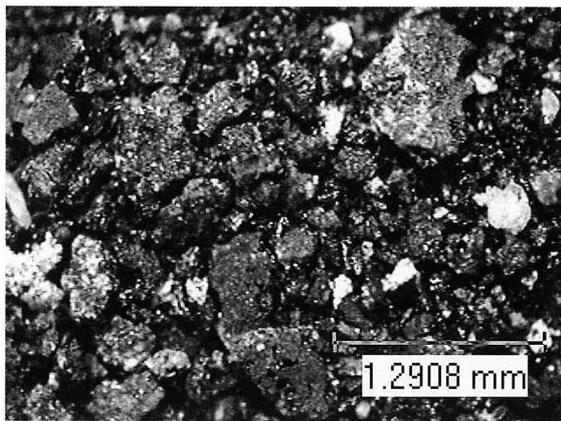


SMMB10 b 外面付着 AAA処理後 24倍

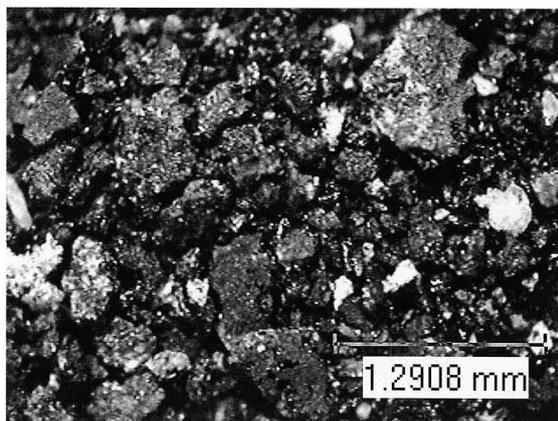


SMMB11 b 外面付着 AAA処理後 24倍

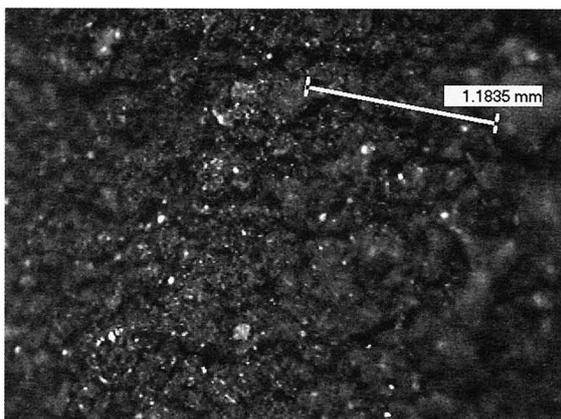
図5 AAA処理前・後の試料の状態



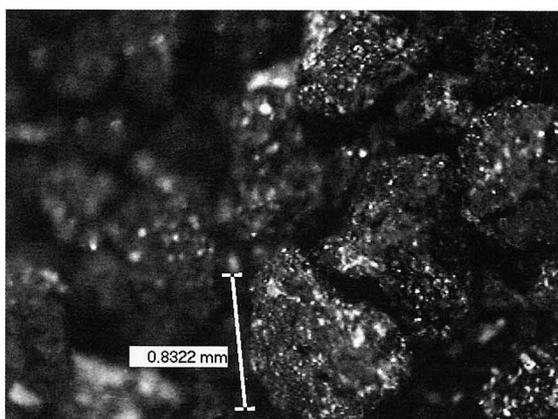
SMMB11 a 内面付着 AAA処理前 24倍



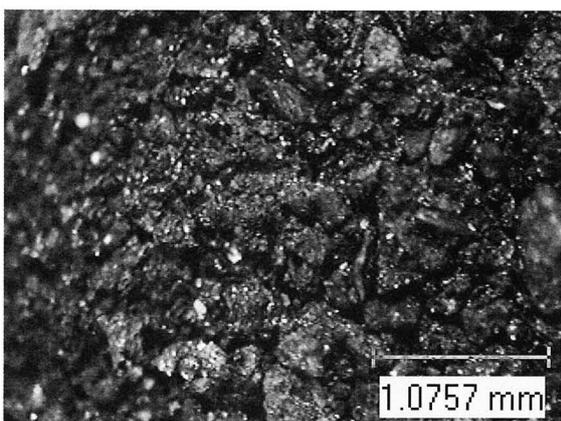
SMMB11 b 外面付着 AAA処理前 23倍



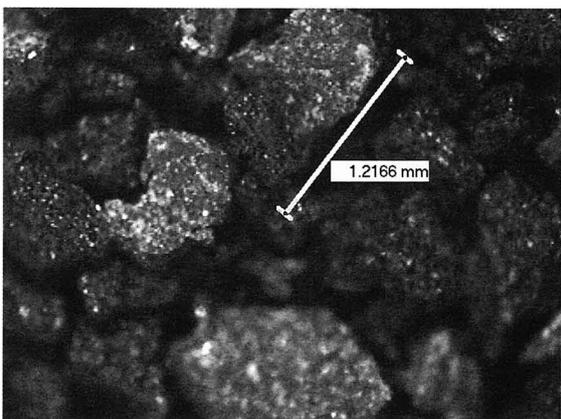
SMMB12 a 内面付着 AAA処理前 24倍



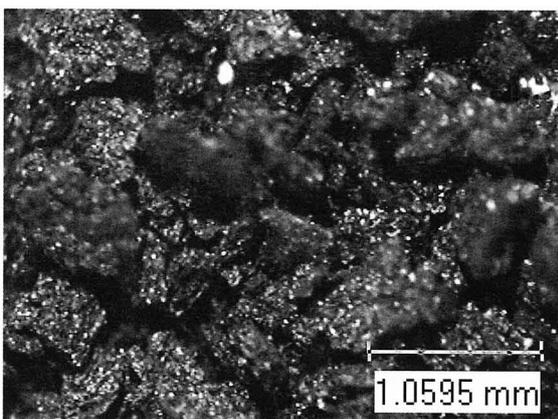
SMMB12 b 外面付着 AAA処理前 23倍



SMMB12 a  
内面付着  
AAA処理後  
23倍

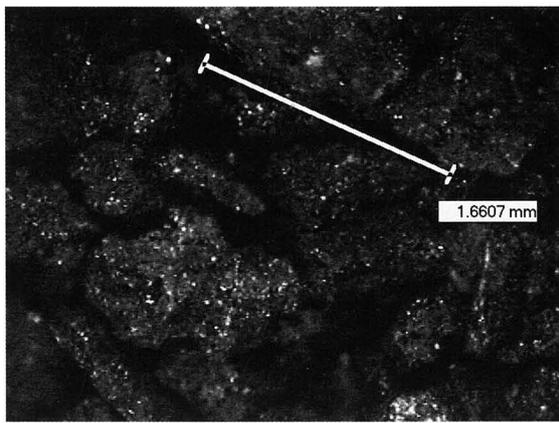


SMMB13 AAA処理前 24倍

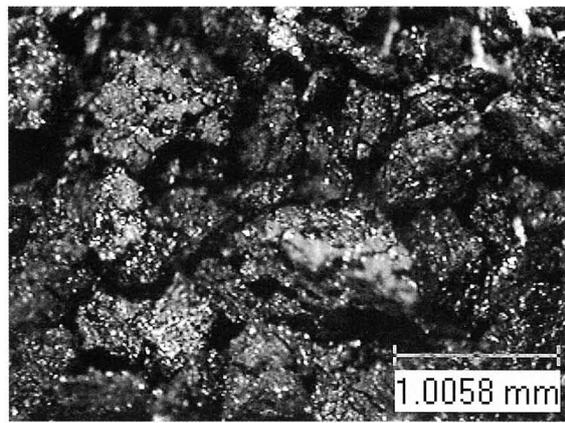


SMMB13 AAA処理後 23倍

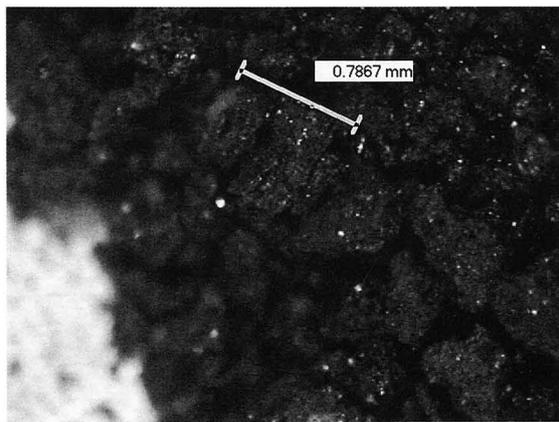
図6 AAA処理前・後の試料の状態



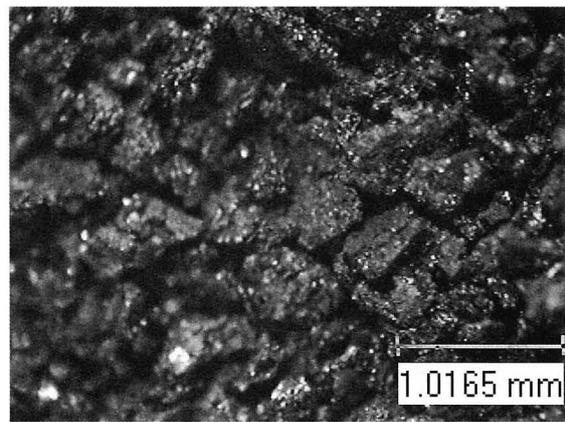
SMMB14 AAA処理前 23倍



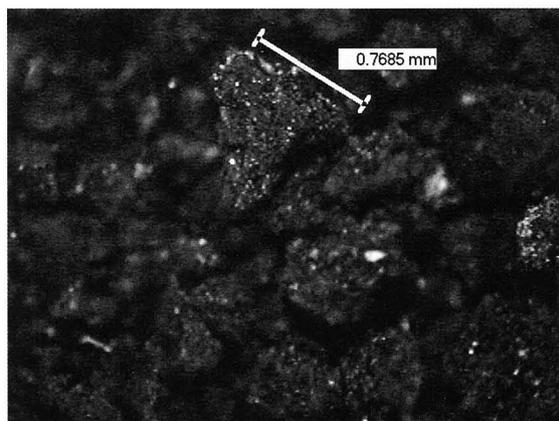
SMMB14 AAA処理後 24倍



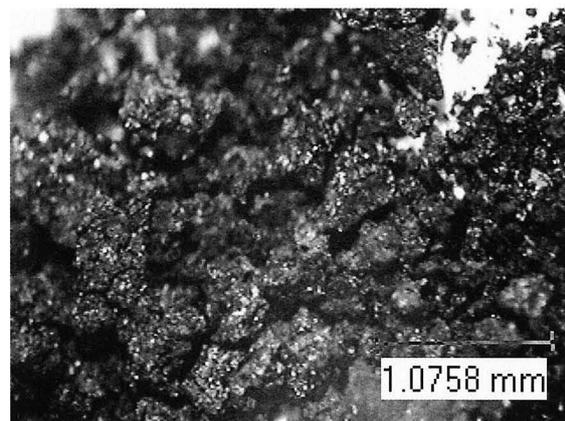
SMMB15 AAA処理前 23倍



SMMB15 AAA処理後 23倍



SMMB16 AAA処理前 23倍



SMMB16 AAA処理後 23倍

図7 AAA処理前・後の試料の状態

測定対象試料番号の本書における土器番号は以下の通りである。

SMMB 1 (第26図 7) SMMB 2 (第27図 2) SMMB 3 (第24図13) SMMB 4 (第27図 3) SMMB 5 (第27図 1)  
 SMMB 6 (第26図 3) SMMB 7 (第38図 7) SMMB 8 (第36図 1) SMMB 9 (第36図 6) SMMB10 (第31図 2)  
 SMMB11 (第32図 1) SMMB12 (第27図16) SMMB13 (第51図 8) SMMB14 (第61図12) SMMB15 (第52図 1)  
 SMMB16 (第42図 7)

## 第5章 まとめ

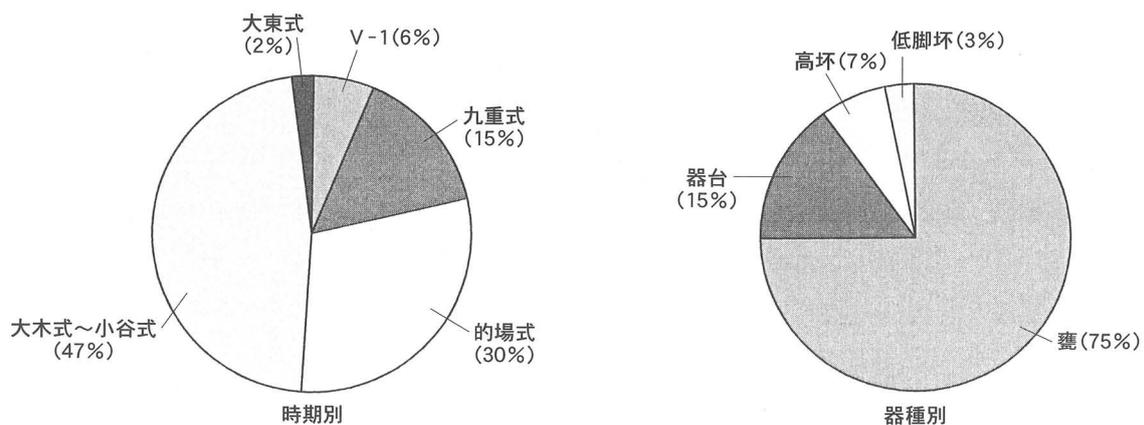
弥生時代後期から古墳時代中期にかけて調査区を東西方向に流れる自然河道を検出した。この河道内からは護岸用杭列や貝塚とともに南岸の斜面から弥生時代後期後半から古墳時代初頭を中心とする多量の土器、木製品などが出土した。この中には当該地域では類例の少ない小型特殊器台が出土するなど大きな成果が得られた。以下、今回の調査で知り得た成果を若干報告することでまとめにかえたい。

### 1. 包含層1・2出土土器について

今回の調査では包含層2から弥生時代後期後半を中心とする土器、包含層1から弥生時代後期末～古墳時代初頭を中心とする多量の土器が出土した。出土総量はコンテナ約200箱あり、報告書への掲載にあたっては、ほぼ元の形に復元できたものや半分以上復元できたものを中心に上げしたが、図示できなかったものも相当量あった。そこで、底部や口縁部などの大きな破片を中心に点数を集計し、従来の編年を使用して時期及び器種ごとの比率を見れば以下の図になる。

こうしてみると、包含層2では的場式、包含層1では大木式～小谷式の比率が圧倒的に高く、また完形品もこの2時期に集中している。これらの多量の土器は意図的に廃棄もしくは置かれた状態で出土していることから、今回の調査区内では竪穴住居跡等の集落の存在を物語る遺構は確認できなかったものの、周辺には集落が存在することは間違いなく、この2時期に集落形成にとって何らかの画期があったと言える。特に大木式の時期の出雲平野では、集落を囲む大溝に多量の土器を廃棄した古志本郷遺跡<sup>(1)</sup>や中野清水遺跡<sup>(2)</sup>でも同様な傾向が窺え、出雲平野の集落遺跡を研究する上で興味深い事象である。

また、今回出土した土器の半数近くに、表面に炭化物が付着したのが見られた。これらのほとんどは甕が占めており、炭化物の付着部分は口縁部から胴部にかけて厚く付着している。このことは日常的に煮炊きに使用していたものであることを示しており、このことから近くに集落が存在していたことを裏付けている。なお、炭化物の自然科学分析結果の詳細については第4章を参照し



第106図 遺物時期別割合

ていただきたいが、従来の土器編年の年代とほぼ近似した測定値を示している。

この多量の土器の中には、他地域から搬入された土器も含まれていた。包含層2では小型特殊器台が出土しているが、これは胎土や色調等から吉備地方からの搬入品ではなく当地域で作られた模倣品の可能性が極めて高く注目されるものである。包含層1では西部瀬戸内～北部九州系からの搬入品と考えられる壺形土器がみられ、他地域との交流が弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけて活発に行われていたことを示す貴重な資料である。

土器以外では石器や碧玉剥片が少量ではあるが出土している。石器の中には筋砥石や内磨き砥石も出土していることから、この時期これらを用いた玉生産を行っていた可能性が高い。

## 2. 特殊土器について

C区を中心に小型特殊器台、特殊壺形土器などの特殊土器が出土した。これらの多くは他の土器と同様に意図的に廃棄されたか、もしくは置かれた状態で出土したため完形近くに復元できたものも多く、全形を窺い知ることのできる資料となった。図化できたものは第19図～21図に掲載したが、その中には小型の装飾器台や器種の不明な土器もある。

小型特殊器台は高さ35cm前後のもので、器台の基本的な形状は「ハ」の字状を呈する脚裾部に長く直立する筒部が付き、そこから大きく外反する受け部をつくり、その端部に上下に拡張した口縁部を貼り付けたものである。形状的には吉備地方の小型特殊器台と非常に類似しており、文様で飾るタイプと無文のもの2タイプがある。文様を施すタイプのもをしてみると、口縁部外面に斜格子文、綾杉文による装飾が施されているが、鋸歯文を施すものは見られない。吉備地方の器台の口縁部は鋸歯文で飾るのが一般的であるのに対して、当遺跡のものはそれとは異にしている。筒部の文様は立坂a類系の文様である連続「S」字状文で飾るもの、縦分割の綾杉文で飾るものがある。また、全体的に文様はヘラ状工具で描かれているため線が太く、シャープでないところも吉備の器台とは違っている。また、筒部下半には三角形透かし孔が認められ、この時期の小型特殊器台の透かし孔は円形・方形・長方形がほとんどを占める中、当遺跡のものは三角形であることも特異なものと言えよう。20-3は口縁部外面に円形浮文や竹管文で装飾を施し、筒部には円形の透かし孔が2段に施されている。これは吉備の小型特殊器台にも見られない形状であり、吉備以外の地域の影響を受けたものの可能性が考えられる。今回は地域を特定できなかったものの、より広範囲で複雑な交流も想定しなければならないであろう。

小型器台は口縁部が上下に拡張するものと内湾して立ち上がるものがある。前者の口縁部外面には1～2段の鋸歯文を施しているが、後者は無文のものである。筒部には両者とも円形の透かし孔を施している。

特殊壺形土器はほとんどが小片であったため、全体像を復元することは困難であった。口縁部と考えられるものは2点あり、器台の口縁部と類似しているが、外面に2段の鋸歯文を施している。このうち21-7は吉備地方からの搬入品であるが、口縁部のみ残存しており、全形を把握することはできなかった。この他は胴部片で球形を呈する胴部の最大径部分に2段の突帯を貼り付けたものである。突帯の外面には鋸歯文で装飾されるものと、竹管文・半裁竹管文で装飾するものが認められる。

ところで、これらの特殊土器の時期、性格、意義等のようなことが考えられるのであろうか。

ここではC区から出土した小型特殊器台を中心にして検討していきたい。まず時期については、出土状況から包含層2に限定され、的場式の鼓形器台と共伴していることから、弥生時代後期後葉の年代で理解されよう。しかし、胎土や文様の施し方などから当地域で模倣して作られた可能性が高く、器台の形式的観点から見た場合はどうであろうか。形状は類似しているが文様や透かし孔等を見れば当該期の吉備地方で出土する器台とは明らかに相違が認められる。吉備地方では三角形透かし孔をもつ器台は中期には存在するが後期には見られなくなるようで、その点では当遺跡のものは古い様相をもっていることになる。口縁部には鋸歯文で飾るのが一般的であるのに対して、斜格子文を施すことは出雲的な様相を表しているのかもしれない。筒部には特殊器台の文様構成の特徴の一つである立坂a類文様や縦分割の綾杉文が施されていることなどにも違いが認められる。このように相違は認められるものの、筒部の文様構成から見ると特殊器台の成立段階に作られたものと理解でき、文様・器形から立坂型の範疇に含まれるものと考えられ、特殊器台編年の第1型式に属するものである<sup>(3)</sup>。

また、特殊器台の分布状況を見ると県内では出雲市西谷墳墓群<sup>(4)</sup>、矢野遺跡<sup>(5)</sup>、安来市白コクリ遺跡<sup>(6)</sup>など約10遺跡から出土している。これらには時期的なばらつきはなく、いずれも第1型式の新段階に属するものが搬入されているとされ<sup>(7)</sup>、時期的にも合致するものと考えられる。

上述したように出雲平野では西谷墳墓群や矢野遺跡などから第1型式の特殊器台を含む特殊土器が見つかっている。当遺跡のものは文様等に特殊性は認められるが、細部のつくりなどは吉備の特殊器台と類似していることから、これらの特殊器台を目の当たりにしながら製作していたことが推測される。ではなぜ何のために当地域で小型特殊器台を製作しなければならなかったのか、という問題が生じてくるが今回はそれを解明するまでには至らなかった。しかし、これらの特殊土器は集

#### 島根県内における特殊土器出土遺跡一覧

遺跡名	所在地	遺構名	遺構の特徴	器種	時期	備考	文献
白コクリ遺跡	安来市	SX02	土壙墓	小型特殊器台	弥生時代後期後葉	搬入品	6
鍵尾遺跡	安来市	A区	土壙墓	特殊壺	弥生時代後期後葉～末	搬入品	15
長曾土壙墓群	安来市		土壙墓	特殊壺?	弥生時代後期後葉	搬入品	16
カウカツ遺跡	安来市 伯太町	E-1号墓	四隅突出型墳丘墓	小型特殊器台 特殊壺	弥生時代後期後葉	搬入品	17
的場遺跡	松江市		土壙墓	小型特殊器台 特殊壺	弥生時代後期後葉	搬入品	18
南講武草田遺跡	松江市 鹿島町	SD02付近	墳墓に伴う溝?	特殊壺?	弥生時代後期～古墳時代初頭	搬入品	19
上野遺跡	松江市 宍道町	I区土器溜まり		壺	弥生時代後期後葉	搬入品	20
西谷2号墓	出雲市		四隅突出型墳丘墓	小型特殊器台 特殊壺	弥生時代後期後葉	搬入品	4
西谷3号墓	出雲市	第1・4主体部	四隅突出型墳丘墓	特殊器台 小型特殊器台 特殊壺	弥生時代後期後葉	搬入品	4
西谷4号墓	出雲市		四隅突出型墳丘墓	特殊器台 小型特殊器台 特殊壺	弥生時代後期後葉	搬入品	4
矢野遺跡	出雲市	第3地点		特殊器台 小型特殊器台 特殊壺	弥生時代後期	搬入品	5
白枝荒神遺跡	出雲市	土器群17		小型特殊器台?	弥生時代後期後葉～末	搬入品	21
下古志遺跡	出雲市	E区SD27		特殊壺		搬入品	22
山持遺跡	出雲市		自然河道	小型特殊器台	弥生時代後期後葉	模倣品 搬入品1点	
余勢の原遺跡	邑南町			特殊壺			7

落内で執り行われた祭祀に特に必要な土器であったと言え、こういう祭器を製作し、儀礼に使用していた山持遺跡の特異性を示唆させる重要な意味を持った資料と言えよう。

次に出土状況を見ると、鼓形器台と高坏とともに河道内から出土している。特殊土器の出土例は吉備を中心に約60遺跡で出土しているが、その大半は墳墓から出土していることから送葬儀礼に使用された土器と考えられている<sup>8)</sup>。ところが最近では河川や集落から出土する例が増加しており、墳墓以外で使用していた可能性も指摘されている<sup>9)</sup>。当遺跡の場合、集落内もしくは河岸で何らかの祭祀を執り行ったのち投棄されたものと考えられるが、壺や甕が相伴していないことも特異なものといえる。器台は壺や甕を載せる機能をもって出現するとされ<sup>10)</sup>、特殊壺とセットで使用されると理解されているが、小型特殊器台の一括投棄された土器だまりからは壺甕類は全く認められなかった。このことは器台単独で祭祀が行われた可能性も示唆しているが、数は少ないものの調査区内からは特殊壺も出土していることからみれば、特殊壺もしくは当地域の壺甕を使用して祭祀を行い、その後何らかの事情により器台と壺甕類とは別々に廃棄されたとも考えられる。

いずれにしても小型特殊器台の使用方法を考える上で興味深い発見であり、今後、河道などの墳墓以外での使用方法や祭祀の対象、他の器種とのセット関係など検討していく必要がある。

### 3. 木製品について

今回の調査で弥生時代後期～古墳時代初頭にかけての木製品が多量に出土した。出雲平野において多量の木製品が出土した遺跡としては、出雲市姫原西遺跡<sup>11)</sup>、海上遺跡<sup>12)</sup>、出雲市大社町五反配遺跡<sup>13)</sup>などが知られており、出土層位からその年代が押さえられているものも多く、貴重な資料となっている。

当遺跡出土の木製品は河道内から出土したため土器とは違い包含層の区別が付かず、細かな年代を推定することができなかったことは残念であった。種類としては農具、運搬具、漁撈具、服飾具、武器、容器、雑具及び部材、建築部材、用途不明品など多岐にわたっているが、雑具部材、建築部材がその大半を占め、次いで容器類が多く出土している。

建築部材は柱や梯子、矢板、杭が多く、それ以外のものは明確には判断できなかったが大型のものや加工の粗いものを建築部材としている。雑具には腰掛、箱、栓などがある。その中で86-1は発見当初その形状から衣笠の立飾りの可能性も考えられたが、平成15年度の山持遺跡の調査で小型ではあるが同様の形態の木製品が出土しており<sup>14)</sup>、それには栓が装着されていることから今回出土したものも栓を施した何かの飾りの一部と判断した。87-4は雑具部材としたがその形状は姫原西遺跡から出土した弩形木製品の先端部分に非常に類似しており、その可能性も否定できないが、小孔の位置などから今後検討を要するものである。そうでないにしても木製三稜鏃が存在していることも非常に興味深く、今後の類例の増加に期待したい。容器類では刳物桶が最も多く出土しているが、それに比べて底板は少量であり、姫原西遺跡のように底板の固定方法が分かるものは認められなかった。また、内面に漆を塗っているものや外面に赤色顔料が塗られているもの、焼痕の認められるものがある。

この他に農具や漁撈具など様々な木製品が見つまっているが、当時の木工技術や建築技術などを今に伝える貴重な資料となった。

#### 4. おわりに

今回の調査は広範囲にわたる山持遺跡のほんの一部を調査したにすぎないが、旧河道内から多量の弥生土器と木製品が出土したことなど大きな成果が得られた。集落跡そのものは確認できなかったが、周辺に集落が存在していたことを物語っており、河道及び杭列等の遺構、遺物から山持遺跡の継続期間や出雲平野北東部の集落の中でどのように位置づけられるのか簡単に整理しておわりにしたい。

包含層2からは少量であるが弥生時代中期の土器が出土しており、二次的に堆積した可能性もあるがこの時期には集落が形成され始めたと考えられる。弥生時代後期になると集落は大規模化し始め、後期後葉の時期には多量の土器が河道に廃棄されるようになる。このような廃棄行為は弥生時代後期末～古墳時代初頭まで続き、その量から推測すればかなり大規模な集落が存在していたと考えられよう。古墳時代中期前半以降には河道は埋没して機能しなくなったと推測され、集落もまた衰退していったと考えられる。ピーク時の河道内には貝塚や護岸施設が検出されており、貝塚の状況を見ると、長い年月この河道に貝を捨てていたと思われ、人々の生活と密接に関連する場所であったことが窺える。杭列については弥生時代後期～古墳時代初頭頃に護岸施設として設置されたものと考えられるが、矢板列に関しては検出状況からみると河道埋没後に作られた可能性が高いと考えられる。そうだとすれば古墳時代中期以降、大規模な集落等は確認していないが中規模あるいは小規模な集落として継続して営まれていた可能性もある。

今後調査が進展して集落の実態や祭祀形態が解明されることに期待したい。

#### 註

- (1) 鳥根県教育委員会『古志本郷遺跡Ⅵ』斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書XⅦ 2003
- (2) 鳥根県教育委員会『大津町北遺跡・中野清水遺跡』一般国道9号バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書5 2004
- (3) 宇垣匡雅「特殊器台・特殊壺」近藤義郎編『吉備の考古学的研究』(上)山陽新聞社 1992
- (4) 渡辺貞幸・田中義昭ほか「西谷墳墓群の調査(1)」『山陰地方における弥生墳丘墓の研究』鳥根大学法文学部考古学研究室 1992  
鳥根県教育委員会『古代出雲文化展－神々の遺産 悠久の鳥根－』 1997  
出雲市教育委員会『西谷墳墓群－平成10年度発掘調査報告書』 2000
- (5) 田中義昭ほか「出雲市矢野遺跡の発掘調査」『古代出雲文化の展開に関する総合的研究－斐伊川下流域を中心として－』鳥根大学山陰地域研究総合センター 1989
- (6) 鳥根県教育委員会『白コクリ遺跡・大原遺跡』一般国道9号(安来道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ 1994
- (7) 宇垣匡雅「特殊器台研究の諸問題」『邪馬台国時代の出雲と大和』香芝市二上山博物館シンポジウム資料 香芝市教育委員会 2003
- (8) 註7と同じ
- (9) 註7と同じ
- (10) 近藤義郎・春成秀爾「埴輪の起源」『考古学研究』第13巻第2号 考古学研究会 1967
- (11) 鳥根県教育委員会『姫原西遺跡』一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 1999
- (12) 出雲市教育委員会『海上遺跡』出雲市民病院移転予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 2002
- (13) 鳥根県教育委員会『五反配遺跡』古代出雲歴史民俗博物館建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 2004
- (14) 鳥根県埋蔵文化財調査センター池淵俊一氏のご教示による
- (15) 山本 清「鳥根県安来市鍵尾の土器群とその土師器」『日本考古学協会第29回総合研究発表要旨』 1963
- (16) 安来市教育委員会『長曾土壙墓群』 1981
- (17) 伯太町教育委員会『伯太町安田地区試掘調査報告書』 1992

- (18) 近藤 正・前島己基「島根県松江市の場土壙墓」『考古学雑誌』第54巻第4号 1972
- (19) 鹿島町教育委員会『南講武草田遺跡』 1992
- (20) 島根県教育委員会『上野遺跡・竹ノ崎遺跡』 2001
- (21) 出雲市教育委員会『白枝荒神遺跡』 1997
- (22) 出雲市教育委員会『下古志遺跡』 2001
- (23) 註7と同じ

〔参考文献〕

- 宇垣匡雅「特殊器台形土器・特殊壺形土器に関する型式学的研究」『考古学研究』第27巻第4号 考古学研究会 1981
- 大橋雅也「器台形土器」近藤義郎編『吉備の考古学的研究』（上）山陽新聞社 1992
- 安川 満「吉備の特殊器台とその拡散」『邪馬台国時代の吉備と大和』香芝市二上山博物館シンポジウム資料 香芝市教育委員会 2002
- 松本岩雄「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年 山陽・山陰編』木耳社 1996
- 奈良国立文化財研究所『木器集成図録 近畿原始編』奈良文化財研究所史料第36冊 1993
- 出雲市教育委員会『山持川川岸遺跡』1996

山持遺跡 土器観察表

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
19-1	10	弥生土器	小型特殊器台	C	包含層2	31.2	41.0	35.1	斜格子 連続S字文 鋸歯文 弧帯文	内:ハケメ・ナデ 外:ミガキ	微砂粒多い 金雲母多い	内:浅黄橙 10YR8/3 外: //	
19-2	10	弥生土器	小型特殊器台	C	包含層2	32.6	39.5	33.7	斜格子 縦方向の綾 杉文 横方向の綾杉 文 平行沈線 鋸歯 文 4方向の透かし	内:ハケメ・ナデ 外:ミガキ	砂粒はやや少 ないが金雲母 目立つ	内:浅黄橙 10YR8/4 外: //	
19-3	12	弥生土器	小型特殊器台	B	包含層2	32.6		6.7	櫛状工具による綾杉文 を直線的に施している	内:ヨコナデ 外:ナデ・ハケメ	2mm以下の砂 粒を含む	内:黄灰色 外: //	
19-4	12	弥生土器	小型特殊器台	C	包含層2	31.6		4.5	口縁部に平行及び斜 めの沈線	内:ヨコナデ・ヘラ ミガキ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:暗灰褐色 外: //	
19-5	12	弥生土器	小型器台	C	包含層2	22.9		17.1	口縁部に3条の凹線 及び2段の鋸歯文 脚部に4方向2段の 透かし	内:ケズリ後ナデ 外:ナデ・ハケ	微砂粒多い金 雲母・石英 表面は砂粒を 沈めている	内:灰白2.5Y8/2 外:浅黄橙10YR8/ 4.部分的に黄橙 7.5YR8/8・淡橙5Y R8/4の所がある	
19-6	12	弥生土器	小型器台	C	包含層2	18.0		10.1	半裁竹管による刺突 文 鋸歯文 3方向 の透かし	内:ミガキ・ケズリ 外:ナデ・ミガキ・ ケズリ後ナデ	微砂粒多い 金雲母・石英	内:淡黄2.5Y8/4 外: //	口縁部の一部に赤色 顔料
19-7	12	弥生土器	小型器台	C	包含層2	19.0		3.6	鋸歯文 半裁竹管に よる刺突文	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を少量含む	内:黄茶色 外: //	
20-1	10	弥生土器	小型特殊器台	C	包含層2	32.8	44.8	35.3	4方向の透かし	内:ヨコナデ・ハケ メ・ヘラケズリ 外:ヘラミガキ・ハ ケメ・ヨコナデ	微砂粒多い 金雲母多い	内:淡黄2.5Y8/4 外:淡黄2.5Y7/3	
20-2	10	弥生土器	小型特殊器台	C	包含層2	32.9		29.0	3条の沈線 口縁部に貼付突帯	内:ケズリ後ミガキ・ ハケ後ケズリ 外:ケズリ後ハケ・ ミガキ	微砂粒多い 金雲母	内:淡黄2.5Y8/3 外:浅黄2.5Y7/3	
20-3	10	弥生土器	小型特殊器台	C	包含層2	30.7	25.9	28.7	半裁竹管、竹管による 刺突文 3方向2 段の透かし これに 対応するように口縁 に円形浮文をつける	内:ハケメ後ナデ・ ケズリ後ミガキ 外:ハケメ・ミガキ	1mm以下の砂粒 が多い 2mm程 の大きめの粒子 も比較的多い 金雲母・石英	内:橙2.5YR7/8 外: //	
20-4	12	弥生土器	小型器台	C	包含層2	25.2		7.3		内:ヨコナデ・ヘラ ミガキ・ハケメ 外:ヨコナデ・ハケ メ・ヘラミガキ	2mm以下の砂 粒を含む	内:橙褐色 外:淡橙褐色	
20-5	12	弥生土器	小型器台	C	包含層2	24.0		6.8	平行沈線	内:ハケメ・ヘラミ ガキ 外:ヘラミガキ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:橙褐色 外: //	
20-6	12	弥生土器	小型特殊器台	C	包含層2	29.6		7.4		内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂 粒を含む	内:橙褐色 外: //	
21-1	14	弥生土器	小型特殊器台	A	包含層2		39.8	2.9		内:ハケメ・ヨコナデ 外:摩滅のため不明	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 外: //	
21-2	14	弥生土器	小型特殊器台	C	包含層2		33.0	4.9		内:ハケメ 外:ヘラミガキ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:黄茶色 外: //	全体的に摩滅してい る
21-3	13	弥生土器	小型器台	C	包含層2		26.1	16.4	3方向2段の円形透 かし	内:ミガキ・ケズリ 外:ミガキ	1mm以内の長 石、石英、金雲 母を多く含む	内:黄灰2.5Y5/2 外:橙2.5YR6/6 ~灰黄2.5Y7/2	赤彩か 底部一部焼 痕か
21-4	13	弥生土器	小型器台	C	包含層2			8.5	4方向の円形透かし を3列以上入れる	内:ヘラミガキ・ナ デ・ハケメ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗橙褐色 外: //	
21-5	13	弥生土器	小型器台	C	包含層2			9.0	3方向の円形透かし	内:ヘラミガキ・ナデ 外:摩滅のため不明	1mm以下の砂 粒を含む	内:橙褐色 外: //	
21-6	13	弥生土器	小型器台	B	包含層2		17.4	14.3	3方向の円形透かし	内:ヘラケズリ 外:ヘラミガキ	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗橙褐色 外: //	
21-7	13	弥生土器	特殊壺	B	包含層2	26.9		5.4	鋸歯文 擬凹線	内:ナデ・ミガキ 外:ミガキ	微砂粒含む 金雲母多い	内:赤10YR5/6 外: //	内外面に赤色顔料
21-8	13	弥生土器	特殊壺	C	包含層2	26.4		5.4	擬凹線及び鋸歯文	内:ヘラミガキ・ヨ コナデ 外:ヨコナデ・ヘラ ミガキ・ハケメ	密	内:にぶい黄色 外: //	
21-9	14	弥生土器	特殊壺	A	包含層2	32.6		8.6	鋸歯文	内:ハケメ 外:ヘラミガキ	2mm以下の砂 粒を含む	内:白黄茶色 外: //	口径は最大径
21-10	13	弥生土器	特殊壺	C	包含層2	37.2		7.1	半裁竹管による刺突 文	内:ハケメ 外:ヘラミガキ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:橙褐色 外: //	口径は最大径
21-11	14	弥生土器	特殊壺	C	包含層2			6.2	平行沈線及び鋸歯文	内:ハケメ・指頭圧痕 外:不明	1mm以下の砂 粒を含む	内:黄灰色 外:暗橙褐色	外面に赤色顔料
21-12	14	弥生土器	特殊壺	C	包含層2			4.6	平行沈線及び鋸歯文	内:ハケメ 外:不明	1mm以下の砂 粒を含む	内:黄灰色 外:茶褐色	外面に赤色顔料
21-13	14	弥生土器	特殊壺	排土	包含層2	長さ 4.3	幅 6.0		半裁竹管による刺突 文 竹管文 竹管に よる円孔があるが貫 通していない	内:ハケメ・指頭圧痕 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗灰茶色 外: //	貼り付けの痕あり
21-14	14	弥生土器	特殊壺	B	包含層2	長さ 3.1	幅 4.5		竹管文 ヘラ状工具 による刺突文	内:ハケメ 外:ナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄茶色 外:明黄茶色	21-13と同一か
21-15	14	弥生土器	特殊壺	C	包含層2	長さ 2.6	幅 4.6		竹管文	内:ハケメ 外:ナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:黒灰色 外:暗灰色	21-13と同一か

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
21-16	14	弥生土器	器台	C	包含層2	20.0		3.2	竹管文	内:ハケメ 外:ハケメ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:黄白色 外: "	
21-17	13	弥生土器	不明	A	包含層2	長さ 8.0	幅 9.3		櫛状工具による刺突 文	内:ハケメ・指頭圧痕 外:ヘラケズリ・ナデ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:暗灰黄色 外:明黄褐色	
22-1	14	弥生土器	直口壺	C	包含層2	13.2		8.5	凹線及びヘラ状工具 による刺突文	内:ヘラミガキ・絞り 目・ヘラケズリ 外:ヘラミガキ・ナデ	3mm以下の砂 粒を含む	内:淡白黄色 外: "	
22-2	15	弥生土器	広口壺	B	包含層2	20.4		2.0	櫛状工具による波状 文	内:ナデ 外:ナデ	やや粗い	内:明褐色7.5YR 7/2 外:灰黄褐10YR 5/2	
22-3	14	弥生土器	広口壺	B	包含層2	23.4		13.7	頸部に突帯あり	内:ハケメ・ナデ 外:ハケメ・ナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄茶色 外: "	
22-4	14	弥生土器	広口壺		包含層2			3.5	口縁外面に円形浮文 と刺突文あり	内:ヘラミガキ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂 粒を多く含む	内:黒色 外:淡黄褐色	
22-5	15	弥生土器	甗	C	包含層2	13.4		3.9	凹線	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗茶褐色 外: "	
22-6	15	弥生土器	甗	B	包含層2	12.0		2.5	凹線	内:摩滅のため不明 外:摩滅のため不明	1mm以下の砂 粒を含む	内:赤褐色 外: "	
22-7	14	弥生土器	甗	C	包含層2	17.0		6.0	櫛状工具による平行沈 線及び刺突文 凹線	内:ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗茶褐色 外:暗黄茶褐色	
22-8	15	弥生土器	甗	B	包含層2	20.8		4.4	凹線	内:ヘラケズリ 外:摩滅のため不明	2.5mm以下の砂 粒を含む	内:暗茶褐色 外:淡白色	
22-9	15	弥生土器	甗	C	包含層2	28.0		5.9	櫛状工具による刺突 文	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂 粒を含む	内:黄茶色 外: "	
22-10	15	弥生土器	甗	C	包含層2	28.9		15.6	櫛状工具による刺突 文	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂 粒を含む	内:灰褐色 外:黄褐色	
23-1	16	弥生土器	甗	C	包含層2	24.4		6.0	凹線	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂 粒を含む	内:明橙褐色 外: "	
23-2	15	弥生土器	甗	C	包含層2	17.6		11.4	凹線 ヘラ状工具に よる刺突文	内:ヘラケズリ・ヨ コナデ 外:ヘラミガキ・ヨ コナデ	3.5mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 外: "	
23-3	15	弥生土器	甗	B	包含層2	16.0		13.0	ヘラ状工具による刺 突文 平行沈線 凹 線	内:ヘラミガキ・ヘラ ケズリ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	2.5mm以下の砂 粒を含む	内:淡灰黄色 外:黄灰色	口縁部から肩部にか けて煤付着
23-4	15	弥生土器	甗	B	包含層2	14.6		9.8	櫛状工具による刺突 文 凹線	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗灰褐色 外: "(一部黒色)	
23-5	16	弥生土器	甗	A	包含層2	17.4		3.6	凹線	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:黄茶色 外: "	
23-6	16	弥生土器	壺	A	包含層2	28.0		10.1	凹線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:黄灰色 外: "	
23-7	16	弥生土器	甗	C	包含層2	18.4		5.3	凹線	内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 外:黒色	
23-8	15	弥生土器	甗	B	包含層2	15.9		5.1	凹線	内:ナデ・ヘラケズリ 外:ナデ	粗い	内:淡橙5YR8/3 外: "	
23-9	16	弥生土器	甗	B	包含層2	14.6		6.6	凹線 櫛状工具によ る刺突文	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:黄茶色 外:黒褐色	
23-10	16	弥生土器	甗	A	包含層2	18.0		6.2	凹線 沈線	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:黄茶色 外:黒色	
23-11	16	弥生土器	甗	B	包含層2	16.2		5.3	凹線 櫛状工具によ る刺突文	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:黄灰色 外:黄灰色	
23-12	16	弥生土器	甗	C	包含層2	17.0		7.3	凹線	内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:灰白色 外:黒色	外面に煤付着
23-13	16	弥生土器	甗	C	包含層2	15.4		3.5	凹線	内:ヨコナデ・ハケ メ及びヘラミガ キ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:黄茶色 外:黒色	外面に煤付着
23-14	16	弥生土器	甗	B	包含層2	11.4		6.5	凹線 平行沈線及び 刺突文	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:不明	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗灰茶色 外:黒色	外面に煤付着
24-1	16	弥生土器	甗	B	包含層2	17.0		11.5	ハケメ後肩部に櫛状 工具による刺突文 凹線	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2.5mm以下の砂 粒を含む	内:暗茶色 外:暗黒茶色	
24-2	16	弥生土器	甗	B	包含層2	18.0		7.4	凹線 ヘラ状工具に よる刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	3mm以下の砂 粒を多く含む	内:淡橙色 外: "	
24-3	17	弥生土器	甗	B	包含層2	20.8		7.8	櫛状工具による刺突 文 凹線	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:黄茶色 外:暗黄褐色	口縁部外面に煤付着
24-4	17	弥生土器	甗	B	包含層2	27.0		5.7	凹線	内:ヘラケズリ 外:不明	2mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄白色 外: "	
24-5	17	弥生土器	甗	A	包含層2	24.6		4.1	凹線	内:ヨコナデ 外:不明	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:明黄茶色 外: "	

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
24-6	17	弥生土器	甕	A	包含層2	27.4		18.6	凹線 櫛状工具による刺突文	内:ヘラケズリ 外:ハケメ	4mm以下の砂粒を多めに含む	内:暗黄褐色 外: "	
24-7	17	弥生土器	甕	A	包含層2	18.0		4.4	凹線	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗褐色 外:黒色	外面に煤付着
24-8	17	弥生土器	甕	A	包含層2	19.6		4.6	凹線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:不明	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗褐色 外: "	外面に煤付着
24-9	16	弥生土器	甕	B	包含層2	22.4		7.6	櫛状工具による刺突文 凹線	内:ヘラケズリ 外:不明	3mm以下の砂粒を含む	内:白黄色 外: "	
24-10	17	弥生土器	甕	B	包含層2	19.0		4.5	ヘラ状工具による刺突文 凹線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外:黒色	外面に煤付着
24-11	17	弥生土器	甕	B	包含層2	17.2		4.7	凹線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:不明	1.5mm以下の砂粒を含む	内:茶褐色 外:黒色	外面に煤付着
24-12	17	弥生土器	甕	C	包含層2	19.4		4.0	凹線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:不明	1mm以下の砂粒を含む	内:茶灰色 外:黒色	外面に煤付着
24-13	17	弥生土器	甕	B	包含層2	14.4		2.7	凹線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ 外:不明	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:黒色	外面に煤付着
24-14	17	弥生土器	甕	A	包含層2	9.0		5.1	ヘラ状工具による刺突文 凹線	内:ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ 外:不明	1mm以下の砂粒を含む	内:暗茶褐色 外: "	
25-1	17	弥生土器	甕	B	包含層2	20.6		12.5	ヘラ状工具による刺突文 凹線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	3mm以下の砂粒を含む	内:黄白色 外: "	
25-2	17	弥生土器	甕	B	包含層2	19.6		9.8	凹線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	3mm以下の砂粒を含む	内:暗灰褐色 外:暗黄褐色	
25-3	17	弥生土器	甕	B	包含層2	18.2		6.2	擬凹線 列点文	内:ナデ・ヘラケズリ 外:ナデ・ハケメ	やや細かい	内:暗褐灰 7.5YR7/2 外: "	
25-4	18	弥生土器	甕	C	包含層2	19.8		5.9	ヘラ状工具による刺突文 凹線	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外: "	
25-5	18	弥生土器	甕	C	包含層2	23.8		4.5	凹線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗灰色 外:黒色	
25-6	18	弥生土器	甕	A	包含層2	25.0		3.6	凹線	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	4mm以下の砂粒を含む	内:茶褐色 外:黒色	外面に煤付着
25-7	18	弥生土器	甕	B	包含層2	28.0		3.1	凹線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:摩滅のため不明	2mm以下の砂粒を含む	内:灰黄色 外:黒色	
25-8	18	弥生土器	甕	B	包含層2	15.2		7.9	凹線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外:黄灰色	
25-9	18	弥生土器	甕	B	包含層2	18.4		4.7	凹線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外:黒色	外面に煤付着
25-10	18	弥生土器	甕	A	包含層2	17.0		4.0	凹線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄灰褐色 外:黒茶色	外面に煤付着
25-11	18	弥生土器	甕	A	包含層2	16.0		3.9	凹線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2.5mm以下の砂粒を含む	内:暗黄灰色 外:黒色	外面に煤付着
25-12	18	弥生土器	甕	B	包含層2	20.0		3.7	凹線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黄灰色 外:黒色	外面に煤付着
25-13	18	弥生土器	甕	B	包含層2	16.6		4.0	凹線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	3.5mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外:黒色	外面に煤付着
25-14	18	弥生土器	甕	B	包含層2	20.0		5.4	凹線 櫛状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2.5mm以下の砂粒を含む	内:黄白色 外: "	
25-15	18	弥生土器	甕	B	包含層2	17.6		6.0	凹線	内:ナデ・ケズリ 外:ナデ・ハケメ	密	内:暗桃灰色 外:暗灰色	外面に煤付着
25-16	18	弥生土器	甕	C	包含層2	16.4		3.3	凹線	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:不明	2mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外:黒色	外面に煤付着
26-1	18	弥生土器	甕	A	包含層2	32.0		10.3	擬凹線 櫛状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	3mm以下の砂粒を多く含む	内:黄灰色 外:橙褐色	
26-2	19	弥生土器	甕	B	包含層2	19.8		10.9	擬凹線 櫛状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	3.5mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外:黄褐色	
26-3	19	弥生土器	甕	B	包含層2	19.2		15.5	擬凹線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:黒色	外面に煤付着
26-4	19	弥生土器	甕	B	包含層2	18.0		22.4	凹線 櫛状工具による刺突文	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄灰色、下半は黒色 外:黒色	

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
26-5	19	弥生土器	甕	B	包含層2	20.0		5.1	擬凹線	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:不明	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:暗茶褐色 外:黒色	外面に煤付着
26-6	19	弥生土器	甕	C	包含層2	16.8		7.3	擬凹線 櫛状工具に よる刺突文	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:黄茶色 外: "	
26-7	19	弥生土器	甕	A	包含層2	13.4		5.0	2条の凹線	内:ヨコナデ・ヘラ ミガキ 外:ヨコナデ・ハケメ	2.5mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 外:黒色	外面に煤付着
26-8	21	弥生土器	甕	C	包含層2	15.2		3.4		内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:不明	1mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 外:黒色	外面に煤付着
26-9	19	弥生土器	甕	B	包含層2	14.6		6.0		内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ	密	内:暗褐色 外: "	外面に煤付着
26-10	20	弥生土器	甕	B	包含層2	14.6		5.0	凹線 櫛状工具によ る刺突文	内:ヘラミガキ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:黄灰色 外:黒色	外面に煤付着
26-11	20	弥生土器	甕	B	包含層2	14.6		6.4	擬凹線 櫛状工具に よる刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2.5mm以下の砂 粒を含む	内:橙褐色 外: "	
27-1	20	弥生土器	甕	C	包含層2	16.6		10.3	擬凹線 櫛または貝 殻状工具による刺突 文	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2.5mm以下の砂 粒を含む	内:黒色 外: "	外面に煤付着
27-2	21	弥生土器	甕	B	包含層2	19.2		5.6	凹線	内:ヨコナデ・ハケ メ・ヘラミガキ・ ヘラケズリ 外:不明	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外:黒色	外面に煤付着
27-3	20	弥生土器	甕	C	包含層2	20.6		7.2	擬凹線 肩部に波状 文	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:不明	3mm以下の砂 粒を多く含む	内:暗褐色 外:黒色	外面に煤付着
27-4	20	弥生土器	甕	B	包含層2	19.2		4.1	擬凹線	内:ヘラケズリ 外:摩滅のため不明	2mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	
27-5	20	弥生土器	甕	A	包含層2	16.4		5.4	擬凹線	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:茶褐色 外:黒色	外面に煤付着
27-6	20	弥生土器	甕	B	包含層2	16.2		4.4	擬凹線	内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:黄茶色 外:黒灰色	
27-7	21	弥生土器	甕	C	包含層2	20.2		4.0	擬凹線	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:黄灰色 外:黒色	
27-8	21	弥生土器	甕	C	包含層2	17.2		3.5	凹線	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:黄茶色 外:黒色	外面に煤付着
27-9	20	弥生土器	甕	B	包含層2	13.6		9.4	擬凹線 貝殻状工具 による刺突文 平行 沈線	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラ ミガキ	3mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	
27-10	21	弥生土器	甕	A	包含層2	15.4		5.8	擬凹線 平行沈線 貝殻状工具による刺 突文	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗茶褐色 外:黒褐色	外面に煤付着
27-11	21	弥生土器	甕	B	包含層2	13.6		5.4	平行沈線及び刺突文	内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄灰色 外:黒色	外面に煤付着
27-12	21	弥生土器	甕	B	包含層2	15.4		3.0	櫛状工具による刺突 文	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ・ヘラ ケズリ	1mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄茶色 外: "	
27-13	21	弥生土器	甕	B	包含層2	16.2		3.5	擬凹線 頸部に2孔	内:ナデ・ヘラケズリ 外:ハケメ	やや粗い	内:明褐色 7.5YR7/2 外:黒色	外面に煤付着
27-14	21	弥生土器	甕	B	包含層2	9.0		3.8	頸部に2方向の円形 孔あり	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄灰色 外: "	口縁部内面から外面 に赤色顔料
27-15	21	弥生土器	甕	B	包含層2	10.6		3.6	凹線 内面のみに (外面に貫通してい ない) 円形孔あり おそらく4ヶ所	内:ヘラミガキ・ヨ コナデ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄白色 外: "	内外面に赤色顔料
27-16	21	弥生土器	甕	C	包含層2	17.4		21.1	擬凹線 肩部に櫛状 工具による刺突文	内:ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラ ミガキ	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗茶褐色 外:黒色	外面に煤付着
28-1	22	弥生土器	甕	B	包含層2	25.7	5.8	39.2	擬凹線 平行沈線 櫛状工具による刺突 文	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラ ミガキ・ハケメ	3mm以下の砂 粒を含む	内:にぶい橙色 外:暗灰褐色	外面に煤付着
28-2	22	弥生土器	甕	B	包含層2	21.1	3.9	29.5	擬凹線 平行沈線 櫛状工具による刺突 文	内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラ ミガキ	2mm以下の砂 粒を含む	内:灰褐色 外:暗灰褐色	外面に煤付着
28-3	22	弥生土器	甕	B	包含層2	14.9	3.7	17.3	擬凹線 羽状文	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	密 (1~2mm の砂粒を含む)	内:浅黄色 外: "	
28-4	22	弥生土器	甕	B	包含層2	14.3	3.5	20.1	貝殻状工具による綾 杉文	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ・指頭 圧痕・ハケメ	やや粗い	内:明褐色灰 7.5YR7/1 外:灰白 7.5YR8/1	外面のほぼ全面と内 面下1/3に煤付着

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の 特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
28-5	22	弥生土器	甕	B	包含層2	15.8	3.4	20.0	擬凹線 櫛状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ・ナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外:灰褐色	外面に煤付着
29-1	22	弥生土器	甕	B	包含層2	24.0	4.5	33.4	擬凹線 櫛状工具による平行沈線及び刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:暗灰褐色	外面に煤付着
29-2	23	弥生土器	甕	B	包含層2	23.1	5.1	33.9	擬凹線 平行沈線及び櫛状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	3mm以下の砂粒を含む	内:暗灰褐色 外:淡黄褐色	外面に煤付着
29-3	23	弥生土器	甕	B	包含層2	16.4	3.6	20.6	擬凹線 櫛状工具による刺突文	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	3mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	
29-4	23	弥生土器	甕	B	包含層2	18.1	4.1	24.3	擬凹線 櫛状工具による平行沈線及び刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:暗灰褐色	外面のほぼ全面と内面底付近に煤付着
29-5	23	弥生土器	甕	B	包含層2	15.4		17.7	擬凹線 列点文	内:ケズリ・ミガキ 外:ナデ・ミガキ・ハケメ	2mm以下の砂粒を多く含む 5mmの石英あり	内:淡黄 2.5YR8/4 外: "	
30-1	23	弥生土器	甕	B	包含層2	20.9	4.8	29.6	擬凹線 櫛状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗灰褐色 外:灰褐色	外面に煤付着
30-2	23	弥生土器	甕	B	包含層2	21.9	4.8	28.6	擬凹線 貝殻状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外:灰褐色	外面下半分に煤付着
30-3	24	弥生土器	甕	B	包含層2	19.3	4.5	26.2	擬凹線	内:ヨコナデ・ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	密 (1~2mmの砂粒を含む)	内:淡黄色 外: "	
30-4	24	弥生土器	甕	B	包含層2	18.1	4.6	26.7	擬凹線 貝殻状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	微砂粒多い 2~3mmほどのや や大きい粒子も わずかにあり	内:淡黄 2.5YR8/3 外: "	
30-5	24	弥生土器	甕	B	包含層2	15.4		12.7	擬凹線 櫛状工具による平行沈線及び刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	内外面に煤付着
31-1	24	弥生土器	甕	B	包含層2	25.8		12.5	平行沈線 櫛状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	5mm以下の砂粒をやや多めに含む	内:淡白橙色 外:淡橙色	
31-2	24	弥生土器	甕	B	包含層2	23.6		19.5	擬凹線 肩部に貝殻状工具による平行線及び刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:黒色	口縁部から頸部にかけて煤付着
31-3	24	弥生土器	甕	B	包含層2	23.2		22.0	擬凹線 貝殻状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外:暗黄褐色	外面に煤付着
31-4	25	弥生土器	台付甕	B	包含層2	16.8		19.7	擬凹線 貝殻状工具による平行沈線・列点文	内:ナデ・ヘラミガキ・ケズリ後ナデ 外:ナデ・ハケメ	やや粗い	内:灰白 2.5YR8/1 外: "	二次焼成 内外面に煤付着
31-5	25	弥生土器	甕	B	包含層2	15.8		15.6	擬凹線 羽状文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	微砂粒多い 4~5mmの大きな石英もある	内:灰白 10YR8/2 外: "	
31-6	25	弥生土器	甕	B	包含層2	15.6	4.1	15.4	擬凹線	内:ケズリ後ミガキ・ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:にぶい黄色 外:にぶい黄褐色	外面及び内面の一部に煤付着
31-7	25	弥生土器	甕	B	包含層2	14.8		8.1	擬凹線 櫛状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ケズリ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外:にぶい橙色	口縁部外面に煤付着
32-1	25	弥生土器	甕	B	包含層2	17.4	4.0	22.6	擬凹線 肩部に貝殻状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヘラミガキ・ハケメ及びヘラミガキ	1.5mm以下の砂粒を少量含む	内:淡暗黄褐色 外: "	外面下半分に煤付着
32-2	25	弥生土器	甕	B	包含層2	16.5	3.7	23.2	擬凹線 貝殻状工具による刺突文	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	微砂粒多い 2mmほどの大きなものも目につく 石英	内:淡黄 2.5YR8/4 外: "	
32-3	26	弥生土器	甕	B	包含層2	14.8	2.7	17.6	平行沈線及び櫛状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ・ナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外: "	
32-4	26	弥生土器	甕	B	包含層2	18.4	4.1	21.0	擬凹線 列点文	内:ヨコナデ・ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	密 (1~2mmの砂粒を含む)	内:淡黄色 外:浅黄色	外面の全面と内面胴部から底部に煤付着
32-5	26	弥生土器	甕	B	包含層2	16.7	3.8	22.9	擬凹線 列点文	内:ヨコナデ・ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	密 (1~3mmの砂粒を含む)	内:灰白色 外: "	
32-6	26	弥生土器	甕	B	包含層2	16.2		18.1	擬凹線 平行沈線	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	5mm以下の砂粒を含む	内:黄白色 外:暗茶色	
33-1	26	弥生土器	甕	C	包含層2	21.6	3.4	29.2	擬凹線 波状文	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ・ナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	外面に煤付着
33-2	27	弥生土器	甕	B	包含層2	20.2		17.9	櫛状工具による平行沈線及び刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗灰褐色 外:灰褐色	外面に煤付着

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
33-3	27	弥生土器	甕	B	包含層2	19.1		13.5	擬凹線 貝殻状工具 による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外:淡黄褐色	外面に煤付着
33-4	26	弥生土器	甕	B	包含層2	17.8		12.3	擬凹線 櫛状工具に よる刺突文	内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラ ミガキ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外:暗灰褐色	外面に煤付着
33-5	27	弥生土器	甕	B	包含層2	19.8		17.9	擬凹線 櫛状工具に よる平行沈線及び刺 突文	内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:ヘラミガキ	3mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 外: "	外面に煤付着
33-6	27	弥生土器	甕	B	包含層2	15.6		14.7	擬凹線 波状文及び 刺突文	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヘラミガキ	2mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	外面に煤付着
33-7	27	弥生土器	甕	A	包含層2	16.4		9.8	擬凹線 櫛状工具に よる刺突文	内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:不明	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外:黒色	外面に煤付着
34-1	27	弥生土器	甕	B	包含層2	31.0	7.7	40.5	擬凹線 波状文後刺突文	内:ヨコナデ・ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1~3mmの砂粒 を含む	内:淡黄色 外: "	
34-2	28	弥生土器	甕	B	包含層2	18.6	3.3	24.4	波状文	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラ ミガキ	2mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 外: "	外面に煤付着
34-3	28	弥生土器	甕	B	包含層2	17.0		23.6	擬凹線 貝殻状工具 による刺突文	内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:ハケメ	2mm以下の砂 粒を含む	内:黄灰色 外:黄褐色	
35-1	28	弥生土器	甕	B	包含層2	27.8	5.4	38.1	擬凹線 貝殻状工具 による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ケズリ・ナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗灰褐色 外:にぶい橙色	外面に煤付着
35-2	28	弥生土器	甕	B	包含層2	25.7		30.0	擬凹線 貝殻状工具 による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラ ミガキ・ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂 粒を含む	内:灰褐色 外:にぶい橙色	外面に煤付着
35-3	28	弥生土器	甕	B	包含層2	13.0	3.7	13.5	貝殻状工具による刺 突文	内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラ ミガキ・ナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:明橙褐色 外: "	
35-4	28	弥生土器	甕	A	包含層2	13.3	2.5	12.9	櫛状工具による刺突 文	内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂 粒を含む	内:にぶい黄褐色 外: "	外面に煤付着
35-5	29	弥生土器	甕	B	包含層2	13.8	3.5	16.2	6条の平行沈線 列点文	内:ナデ・ケズリ 外:ナデ・ミガキ	微粒子の石英、 金・黒雲母、長 石を多く含む。 φ1mm前後の 石英を含む。	内:にぶい黄橙 10YR7/3 外: "	外面に煤付着
35-6	29	弥生土器	甕	B	包含層2	12.2	3.3	15.2	羽状文	内:ナデ・ケズリ後 ミガキ 外:ナデ・ミガキ	1mm以下の砂 粒を含む	内:灰白色 外:にぶい黄褐色	外面体部以下に煤付 着
36-1	29	弥生土器	甕	B	包含層2	22.4		27.7	擬凹線 貝殻状工具 による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケ メ・ヘラミガキ	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗褐色 外: "	外面に煤付着
36-2	29	弥生土器	甕	B	包含層2	18.4	4.4	25.6	平行沈線及び櫛状工 具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケ メ・ナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 外: "	
36-3	29	弥生土器	甕	B	包含層2	15.0		8.0	擬凹線 平行沈線及 び刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2.5mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 外: "	外面に煤付着
36-4	29	弥生土器	甕	B	包含層2	15.0	2.9	23.4	貝殻状工具による平 行沈線及び綾杉文	内:ミガキ・ヘラケ ズリ 外:ミガキ・ナデ・ ハケメ	やや粗い	内:にぶい橙 7.5YR7/3 外:黒色	外面の全面と内面下 1/2に煤付着
36-5	30	弥生土器	甕	B	包含層2	16.2	3.8	21.7	擬凹線 波状文	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケ メ・ナデ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 外: "	
36-6	30	弥生土器	甕	B	包含層2	16.4	3.4	20.5	貝殻状工具による刺 突文	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:黒色 外:暗黄褐色	外面に煤付着
37-1	30	弥生土器	甕	B	包含層2	23.6		16.8	擬凹線 貝殻状工具 による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラ ミガキ・ケズリ 外:ヨコナデ・ハケ メ・ヘラミガキ	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外:灰褐色	
37-2	30	弥生土器	甕	B	包含層2	21.4	10.3	22.4	擬凹線 櫛状工具に よる刺突文	内:ヨコナデ・ケズリ 外:ヨコナデ・ハケ メ・ミガキ	1~3mmの砂粒 を含む	内:淡黄色 外: "	
37-3	30	弥生土器	甕	B	包含層2	20.5		12.8	擬凹線 櫛状工具に よる刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	外面に煤付着
37-4	33	弥生土器	甕	B	包含層2	23.3		7.6	擬凹線	内:ヘラミガキ後ヨ コナデ・ヘラミガ キ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	外面に煤付着
37-5	30	弥生土器	甕	B	包含層2	13.2	2.9	14.5	擬凹線 刺突文	内:ヨコナデ・ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	密(1~2mmの砂 粒を多く含む)	内:浅黄色 外: "	外面に煤付着
37-6	31	弥生土器	甕	B	包含層2	13.7		7.6	擬凹線 貝殻状工具 による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:灰褐色 外:淡黄褐色	外面に煤付着

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
37-7	31	弥生土器	甕	B	包含層2	18.0		7.2	擬凹線 櫛状工具による波状文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗灰褐色 外:暗黄褐色	外面に煤付着
37-8	31	弥生土器	甕	B	包含層2	18.9		13.7	擬凹線 櫛状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:灰褐色 外:灰黄褐色	外面に煤付着
37-9	31	弥生土器	甕	B	包含層2	20.8		6.0	擬凹線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗灰褐色 外: "	外面に煤付着
38-1	31	弥生土器	甕	C	包含層2	22.6		20.8	擬凹線 羽状文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗灰褐色 外: "	外面と内面に煤付着
38-2	31	弥生土器	甕	B	包含層2	23.2		16.8	擬凹線 櫛状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ後ナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄灰色 外:にぶい橙色	外面に煤付着
38-3	31	弥生土器	甕	A	包含層2	23.2		8.9	擬凹線 櫛状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:にぶい橙色	内外面部分的に煤付着
38-4	33	弥生土器	甕	A	包含層2	23.8		5.5	擬凹線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 後ヘラミガキ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:暗灰褐色	外面に煤付着
38-5	32	弥生土器	甕	B	包含層2	15.7	2.9	19.6	擬凹線 貝殻状工具による刺突文	内:ナデ・ケズリ 外:ハケ後ナデ・ミガキ	微粒子の石英、金雲母、長石を多く含む	内:にぶい黄橙色 外: "	外面に煤付着
38-6	32	弥生土器	甕	B	包含層2	17.8		14.4	櫛状工具による刺突文	内:ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	3mm以下の砂粒を含む	内:灰茶色 外: "	
38-7	32	弥生土器	甕	B	包含層2	16.6		15.3	擬凹線 貝殻状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:黒色	外面に煤付着
38-8	32	弥生土器	甕	B	包含層2	16.5		6.0	擬凹線	内:ヘラケズリ 外:摩滅のため不明	1.5mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	
39-1	32	弥生土器	甕	B	包含層2	30.5		12.2	擬凹線 櫛状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外:にぶい橙色	
39-2	32	弥生土器	甕	B	包含層2	20.9		10.1	擬凹線 櫛状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:黄褐色	外面に煤付着
39-3	33	弥生土器	甕	C	包含層2	20.4		6.8	浅く擬凹線がはいる	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:不明	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄茶色 外:暗茶色	
39-4	32	弥生土器	甕	C	包含層2	20.3		6.7	擬凹線	内:ヘラケズリ 外:摩滅のため不明	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外:暗黄茶色	
39-5	33	弥生土器	直口壺	B	包含層2	13.0		15.8	櫛状工具による波状文	内:ヨコナデ・ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を多く含む	内:灰褐色 外:淡黄褐色	肩部より下に煤付着
40-1	34	弥生土器	壺	C	包含層2	26.8		8.8	凹線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色+灰色 外: "	
40-2		弥生土器	壺	A	包含層2	14.0		6.4	凹線	内:ヨコナデ・絞目 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗茶褐色 外: "	
40-3	34	弥生土器	壺	B	包含層2	16.0		7.5	凹線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外:黄褐色	
40-4	34	弥生土器	壺	C	包含層2	13.8		5.4		内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:橙褐色+黄茶色 外:暗赤褐色	頸部内面上部から外面に赤色顔料
40-5	34	弥生土器	壺	B	包含層2	22.4		10.7	波状文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	3mm以下の砂粒を含む	内:黄灰色 外:白褐色	
40-6	33	弥生土器	壺	C	包含層2	16.6		7.4	凹線	内:ヘラケズリ 外:ハケメ	2.5mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	
40-7	33	弥生土器	壺	B	包含層2	13.6		5.4	擬凹線	内:ヘラミガキ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外: "	
40-8	34	弥生土器	壺	A	包含層2	15.3		6.5	擬凹線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	外面に煤付着
40-9	34	弥生土器	壺	C	包含層2	18.1		8.7	擬凹線 平行沈線	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ後ヘラミガキ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	内外面部分的に煤付着
40-10	33	弥生土器	壺	B	包含層2	12.6		8.9	波状文及び平行沈線	内:ヘラケズリ 外:摩滅のため不明	1mm以下の砂粒を含む	内:橙褐色 外:淡橙褐色	
40-11	33	弥生土器	壺	B	包含層2		5.4	22.6		内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:灰褐色 外:淡黄褐色	外面下1/3に煤付着
41-1	35	弥生土器	高坏	C	包含層2	19.4		3.0	凹線	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗灰褐色 外:明黄褐色	
41-2	35	弥生土器	高坏	B	包含層2	23.2		3.9	4条の凹線	内:摩滅のため不明 外:ハケメ	3mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	内外面に赤色顔料

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
41-3	35	弥生土器	高坏		包含層2	22.0		4.1	内:不明 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黒色 外:暗灰色	内面に煤付着	
41-4	34	弥生土器	高坏	B	包含層2	18.6		12.6	擬凹線	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄白色 外:黄白色	口縁部内外に煤付着
41-5	35	弥生土器	高坏	A	包含層2		14.0	11.7	2条の凹線	内:ヘラケズリ・ヨコナデ 外:ヘラミガキ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:淡黄白色	脚部内面に煤付着
41-6	35	弥生土器	高坏	B	包含層2		13.8	4.6	4条の擬凹線	内:ヘラケズリ 外:ヘラミガキ・ナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗茶色 外: "	
41-7	35	弥生土器	高坏	B	包含層2		13.7	3.1	4条の擬凹線	内:ヘラケズリ 外:ヘラミガキ・ナデ	やや粗い	内:黒褐7.5YR2/2 外:褐灰10YR6/1	
41-8	33	弥生土器	器台	B	包含層2	22.0		8.7	4条の凹線	内:ヘラミガキ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	3mm以下の砂粒を含む	内:白黄色 外: "	
41-9	35	弥生土器	器台	C	包含層2	16.6		3.1	4条の凹線	内:ヘラミガキ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗茶褐色 外: "	
41-10	35	弥生土器	器台		包含層2	14.2		4.4		内:ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:黒色 外: "	
41-11	35	弥生土器	器台	B	包含層2	19.0		4.5	凹線	内:ヘラケズリ後ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色(赤色) 外: "	内外面に赤色顔料
41-12	35	弥生土器	器台	A	包含層2	15.0		4.3	凹線	内:ヘラミガキ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を含む	内:茶褐色 外: "	
41-13	35	弥生土器	器台	B	包含層2	13.4		4.2	凹線	内:ケズリ後ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を少量含む	内:暗茶褐色 外:黄褐色	
41-14	34	弥生土器	器台	B	包含層2			16.5		内:ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を含む	内:黒色及び黄茶色 外:淡黄茶色	部分的に赤色顔料が残っている
42-1	36	弥生土器	器台	C	包含層2	17.0		4.2	擬凹線	内:ヘラミガキ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	2.5mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	
42-2	36	弥生土器	器台	C	包含層2	15.2		4.7	擬凹線	内:ヘラミガキ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	
42-3	36	弥生土器	器台	C	包含層2	16.4		4.2	擬凹線	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:白黄褐色 外: "	
42-4	36	弥生土器	器台	A	包含層2	19.6		3.9	擬凹線	内:ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色(赤色) 外: "	内外面に赤色顔料
42-5	36	弥生土器	器台	排土	包含層2	19.0		7.2	擬凹線	内:ヘラミガキ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:黄白色 外: "	
42-6	36	弥生土器	器台	A	包含層2	21.2		5.8	擬凹線	内:ヘラミガキ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗黄白色 外: "	
42-7	34	弥生土器	器台	B	包含層2	21.4		7.9	擬凹線	内:ヘラミガキ 外:ナデ・ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:黄白色	内面に煤付着
42-8	36	弥生土器	器台	C	包含層2	21.2		6.3	擬凹線	内:ヘラミガキ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外: "	
42-9	36	弥生土器	器台	A	包含層2	22.5		5.2	擬凹線	内:ハケメ 外:ハケメ後ナデ	2mm以下の砂粒をやや多く含む	内:黄灰色 外:暗黄灰色	
42-10	36	弥生土器	器台	B	包含層2	22.4		5.9	擬凹線	内:ヘラミガキ 外:ミガキ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:淡黄灰色 外:淡黄灰色	
42-11	36	弥生土器	器台	B	包含層2		21.4	4.8	凹線	内:ヘラケズリ 外:ヨコナデ	3mm以下の砂粒を含む	内:淡黄白色 外: "	
42-12	36	弥生土器	器台	A	包含層2		17.0	4.5	凹線	内:ヘラケズリ・ヨコナデ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外: "	
42-13	36	弥生土器	器台	A	包含層2		15.2	5.3	2条の凹線文	内:ヘラケズリ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗褐色 外:暗褐色	
42-14	36	弥生土器	器台	A	包含層2		13.2	4.8	凹線	内:ヘラケズリ 外:ヘラミガキ・ヨコナデ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:明褐色 外: "	
42-15	36	弥生土器	器台	A	包含層2		14.8	2.8	凹線	内:ヘラケズリ・ヨコナデ 外:ヘラミガキ・ヨコナデ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:淡橙褐色 外:橙褐色	
42-16	36	弥生土器	器台	C	包含層2		13.8	3.3	凹線	内:摩滅のため不明 外:ヘラミガキ・ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:明黄褐色	
42-17	34	弥生土器	器台	C	包含層2		11.6	2.4	凹線	内:ヘラケズリ・ヨコナデ 外:ヘラミガキ	2.5mm以下の砂粒を含む	内:淡黄白色 外: "	
43-1	35	弥生土器	器台	A	包含層2		20.6	5.8	雑な凹線	内:ヘラケズリ 外:ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:黄褐色	

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
43-2	37	弥生土器	器台	B	包含層2		16.6	3.3	凹線	内:ヘラケズリ 外:ヘラミガキ・ナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄白色 外:黄白色 (部分的に赤色)	外面部分的に赤色顔料
43-3	37	弥生土器	器台	C	包含層2		17.2	5.4	凹線	内:ヘラケズリ・ヨコナデ 外:粗いヘラミガキ・ヨコナデ	2.5mm以下の砂粒を含む	内:暗褐色 外: "	
43-4	37	弥生土器	器台	B	包含層2		12.8	3.8	凹線	内:ヘラケズリ・ヨコナデ 外:ヘラミガキ・ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:黒褐色 外:暗茶褐色	
43-5	35	弥生土器	器台	C	包含層2		15.2	12.1	脚部外面に4条の凹線	内:ヘラケズリ・ヨコナデ 外:ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を少量含む	内:淡黄灰色 外:赤色	外面に赤色顔料
43-6	35	弥生土器	器台		包含層2		14.4	5.0	擬凹線	内:ヘラケズリ 外:ヘラミガキ・ヨコナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黒色 外:暗黄褐色	内面に煤付着
43-7	37	弥生土器	器台	B	包含層2		14.6	5.9	擬凹線	内:ヘラケズリ 外:ヘラミガキ・ヨコナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外: "	
43-8	37	弥生土器	器台	A	包含層2		16.0	4.4	擬凹線	内:ヘラケズリ 外:ヘラミガキ・ナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:淡黄褐色 (赤色あり)	外面に赤色顔料
43-9	37	弥生土器	器台	A	包含層2		15.8	5.2	擬凹線	内:ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:暗赤褐色	外面に赤色顔料
43-10	36	弥生土器	器台	C	包含層2		18.8	4.6	擬凹線	内:ヘラケズリ 外:ヘラミガキ・ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外:淡白褐色 (赤色あり)	内面端部に煤付着 外面赤色顔料
43-11	37	弥生土器	器台	B	包含層2		17.4	4.0	擬凹線	内:ヘラケズリ・ヨコナデ 外:ヘラミガキ・ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄灰色 外:黄灰色	
43-12	37	弥生土器	器台	A	包含層2		18.2	6.2	擬凹線	内:ヘラケズリ 外:ヘラミガキ・ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:淡黄灰色 外: "	
43-13	37	弥生土器	器台	A	包含層2		14.4	3.1	擬凹線	内:ヘラケズリ 外:ヘラミガキ・ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	
43-14	38	弥生土器	器台	A	包含層2			10.8	擬凹線	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヘラミガキ	4mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	
43-15	36	弥生土器	器台	A	包含層2	20.4		9.7	擬凹線 爪形の刺突文	内:ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:暗黄白色 外:暗黄褐色	
44-1	38	弥生土器	器台	C	包含層2	24.2	22.2	14.3	羽状文 平行沈線	内:ミガキ・ケズリ 外:ナデ	微粒子の金雲母、石英	内:浅黄2.5Y7/3 外: "	
44-2	38	弥生土器	器台	C	包含層2	25.2		12.1	擬凹線	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ・指頭圧痕 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:にぶい黄褐色 外:暗黄褐色	
44-3	38	弥生土器	器台	C	包含層2	22.9		9.3	擬凹線 貝殻状工具による羽状文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外:黄褐色	
44-4	37	弥生土器	器台	C	包含層2	23.8		7.7	擬凹線 貝殻状工具による羽状文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:にぶい黄褐色	
44-5	37	弥生土器	器台	A	包含層2	17.2		6.2	擬凹線	内:ヘラミガキ 外:ナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	
44-6	37	弥生土器	器台	C	包含層2	19.6		2.9	擬凹線	内:ヘラミガキ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:暗黄褐色 外:黄褐色	
44-7	38	弥生土器	器台	C	包含層2			10.1	擬凹線 貝殻状工具による羽状文	内:ハケメ後ミガキ・ケズリ 外:ミガキ	微粒子の金雲母、石英、黒色粒子を多く含む	内:灰白10YR8/2 外:にぶい黄褐色10YR7/2	
44-8	38	弥生土器	器台	C	包含層2			9.6	擬凹線 平行沈線	内:ハケメ後ミガキ・ケズリ 外:ミガキ	密	内:灰白2.5Y8/2 外:にぶい黄褐色10YR7/2	筒部に貼り付けあり
44-9	39	弥生土器	器台	C	包含層2			5.3	擬凹線 羽状文沈線	内:ミガキ・ケズリ 外:ミガキ	微粒子の金・黒雲母、石英	内:浅黄2.5Y7/3 外: "	
44-10	38	弥生土器	器台	C	包含層2		20.0	11.7	擬凹線	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外:暗黄褐色	
44-11	39	弥生土器	器台	C	包含層2		19.8	10.8	擬凹線 羽状文	内:ミガキ・ケズリ・ナデ 外:ミガキ	1mm以下の砂粒を含む	内:灰黄2.5Y7/2 外: "	底端部内面に煤付着
45-1	39	弥生土器	器台	C	包含層2		19.9	9.1	貝殻状工具による刺突文 擬凹線	内:ヘラケズリ・ナデ 外:ナデ	微砂粒多い 石英、金雲母	内:淡黄2.5Y8/4 外:浅黄2.5Y7/4	
45-2	39	弥生土器	器台	C	包含層2		22.8	6.2	擬凹線	内:ヘラケズリ・ヨコナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:にぶい黄褐色 外:灰黄褐色	
45-3	39	弥生土器	器台	B	包含層2		18.0	6.3	擬凹線	内:ヘラケズリ 外:ヘラミガキ	1.5mm以下の砂粒をやや多めに含む	内:暗黄褐色 外: "	

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
45-4	39	弥生土器	器台	C	包含層2		18.4	6.6	擬凹線	内:ヘラケズリ・ヨ コナデ 外:ヘラミガキ・ヨ コナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗褐色 外: "	
45-5	40	弥生土器	器台	C	包含層2		18.4	4.0	擬凹線	内:ヘラケズリ・ヨ コナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を少量含む	内:暗黄褐色 外: "	
45-6	39	弥生土器	器台	C	包含層2			7.5	櫛状工具による刺突 文 擬凹線	内:ヘラケズリ 外:ヘラミガキ・ヨ コナデ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外:黄褐色	
45-7	39	弥生土器	器台	C	包含層2		17.8	8.0	櫛状工具による刺突 文 擬凹線	内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:ヘラミガキ・ヨ コナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:にぶい橙色 外:暗黄褐色	
45-8	40	弥生土器	器台	C	包含層2		18.0	5.7	擬凹線	内:ヘラケズリ・ヨ コナデ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	
45-9	40	弥生土器	器台	C	包含層2		19.2	5.9	擬凹線	内:ヘラケズリ・ヨ コナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:灰白色 外: "	
45-10	40	弥生土器	器台	A	包含層2		9.5	4.2	擬凹線	内:ヘラケズリ・ヘ ラミガキ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 (赤色あり) 外: "	内外面に赤色顔料
45-11	40	弥生土器	裝飾壺	B	包含層2	14.6		3.9	平行沈線 半裁竹管 による刺突文	内:ヘラミガキ	1mm以下の砂 粒を含む	内:黄灰色 外:黄褐色 (赤色あり)	外面に赤色顔料を塗 布していたと思われ る 口径は最大径
45-12	40	弥生土器	裝飾壺	A	包含層2	16.7		6.2	平行沈線及び櫛状工 具による刺突文	内:ヘラケズリ後ナデ 外:不明	2mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄褐色 外:黄褐色	口径は最大径
45-13	40	弥生土器	小型壺	C	包含層2		6.0	6.0		内:ヘラケズリ 外:摩滅のため不明	1mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 外:暗黄褐色	
45-14	40	弥生土器	鉢	A	包含層2	18.4		8.8		内:ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	1.5mm以下の砂 粒を少量含む	内:暗褐色 外:暗茶褐色	
46-1	40	土師器	甕	C	包含層1	19.1		9.9	櫛状工具による平行 沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外:にぶい橙色	
46-2	40	土師器	甕	B	包含層1	18.2		9.4	櫛状工具による平行 沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	
46-3	41	土師器	甕	B	包含層1	16.9		6.5	櫛状工具による波状 文及び平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:にぶい橙色 外: "	外面に煤付着
46-4	41	土師器	甕	B	包含層1	20.2		7.2	櫛状工具による平行 沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:にぶい黄橙 色 外: "	外面に煤付着
46-5	41	土師器	甕	B	包含層1	19.5		5.1	波状文	内:ヨコナデ・ヘラ ミガキ・ケズリ 外:ヨコナデ	0.5mm以下の砂 粒を含む 密	内:黄褐色 外:灰褐色	
46-6	41	土師器	甕	C	包含層1	15.7		4.4	波状文	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:にぶい橙色 外: "	外面に煤付着
46-7	40	土師器	甕	B	包含層1	18.6		22.4	ヘラ状工具による刺 突文 平行沈線	内:ヘラケズリ 外:摩滅のため不明	2mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄白色 外: "	
46-8	41	土師器	甕	C	包含層1	21.2		20.5	ヘラ状工具による刺 突文 平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	3mm以下の砂 粒を含む	内:黄茶褐色 外:暗灰褐色	
46-9	41	土師器	甕	A	包含層1	17.0		10.0	波状文	内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂 粒を含む	内:淡褐色 (赤色あり) 外: "	内外面に赤色顔料
46-10	42	土師器	甕	A	包含層1	18.0		11.1	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂 粒を含む	内:明黄褐色 外: "	
47-1	41	土師器	甕	A	包含層1	16.6	3.4	26.1	櫛状工具による平行 沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂 粒を含む	内:にぶい黄橙 色 外:明褐色	
47-2	42	土師器	甕	C	包含層1	17.4	3.2	25.4	櫛状工具による平行 沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	3mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外:淡黄褐色	外面及び内面底部に 煤付着
47-3	42	土師器	甕	A	包含層1	16.7	2.6	26.0	擬凹線 刺突文	内:ヨコナデ・ケズ リ・指頭圧痕 外:ヨコナデ・ハケメ	密 (1~2mmの 砂粒を多く含 む)	内:にぶい黄橙 色 外:淡褐色	
47-4	42	土師器	甕	B	包含層1	17.0	2.0	24.0	波状文	内:ヨコナデ・ケズ リ・指頭圧痕 外:ヨコナデ・ハケメ	密 (1~2mmの 砂粒を多く含 む)	内:淡黄色 外: "	
47-5	42	土師器	甕	A	包含層1	16.0		11.7	ヘラ状工具による刺 突文 (3段) 沈線	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	
47-6	42	土師器	甕	B	包含層1	15.4		11.3	平行沈線及び波状文	内:ヘラケズリ 外:ハケメ	3mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄灰色 外: "	
48-1	43	土師器	甕	B	包含層1	17.7		22.3	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ケズ リ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂 粒を含む	内:灰黄2.5Y7/2 外:灰白10YR8/2	外面及び内面底部に 煤付着
48-2	43	土師器	甕	B	包含層1	17.0		23.1	貝殻状工具による刺 突文 平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外:淡黄褐色	外面に煤付着

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
48-3	43	土師器	甕	B	包含層1	16.4		15.0	波状文 沈線 列点文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	微砂粒多い 石英 金雲母	内:灰黄褐色 10YR6/2 外: //	意図的に孔を開けている 外面に煤付着
48-4	43	土師器	甕	B	包含層1	16.4		13.0	平行沈線 ヘラ状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: //	
48-5	43	土師器	甕	A	包含層1	17.8		9.6	櫛状工具による刺突文 波状文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2.5mm以下の砂粒を含む	内:黄灰色 外:黄茶褐色	
48-6	43	土師器	甕	B	包含層1	16.8		13.2	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外: //	
48-7	44	土師器	甕	A	包含層1	16.4		9.5	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黄茶灰色 外:黒灰色	
48-8	44	土師器	甕	A	包含層1	18.8		10.0	波状文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:摩滅のため不明	4mm以下の砂粒を含む	内:暗茶褐色 外: //	
49-1	44	土師器	甕	C	包含層1	21.0		15.3	波状文及び平行沈線	内:ナデ・ケズリ 外:ナデ・ハケメ	微粒子の金・黒雲母・石英・長石を多く含む	内:浅黄橙 7.5YR8/3 外:灰白10YR8/2	
49-2	44	土師器	甕	C	包含層1	24.2		12.4	平行沈線及びヘラ状工具による刺突文 波状文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:淡黄白色 外: //	
49-3	44	土師器	甕	B	包含層1	21.8		10.4	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:白黄色 外:黄褐色	
49-4	45	土師器	甕	A	包含層1	22.6		17.3	櫛状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄灰色 外:黄茶灰色	
49-5	44	土師器	甕	C	包含層1	16.6		8.9	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄灰色及び 黒色 外: //	
49-6	44	土師器	甕	A	包含層1	16.6		7.3	平行沈線	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外: //	
49-7	44	土師器	甕	A	包含層1	16.9		10.2	ヘラ状工具による刺突文 平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:不明	2mm以下の砂粒を含む	内:黄灰色 外:黄灰褐色	
49-8	45	土師器	甕	A	包含層1	15.4		12.7	羽状文 波状文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黄灰色 外:明黄褐色	外面に煤付着
49-9	45	土師器	甕	A	包含層1	15.0		11.9	平行沈線及びヘラ状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:明茶褐色 外: //	
50-1	45	土師器	甕	C	包含層1	17.4		13.8	波状文及び平行沈線	内:ナデ・ケズリ 外:ナデ・ハケメ	微粒子の金・黒雲母・石英を多く含む	内:にぶい黄橙 10YR7/3 外:灰白10YR8/2	外面に煤付着
50-2	45	土師器	甕	A	包含層1	17.8		12.3	波状文 平行沈線	内:ヨコナデ・指頭圧痕及びナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: //	
50-3	45	土師器	甕	A	包含層1	18.6		15.0	ヘラ状工具による刺突文 平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外: //	
50-4	46	土師器	甕	C	包含層1	17.5		16.4	櫛状工具による刺突文及び平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む 密	内:暗黄褐色 外:淡黄褐色	内外面に煤付着
50-5	46	土師器	甕	A	包含層1	17.0		13.5	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄白色 外: //	
50-6	46	土師器	甕	A	包含層1	18.2		12.5	波状文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	3mm以下の砂粒を含む	内:明黄褐色 外: //	
50-7	46	土師器	甕	B	包含層1	18.0		11.5	平行沈線及び波状文	内:ヘラケズリ 外:ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外:黄灰色	
50-8	46	土師器	甕	B	包含層1	16.4		9.1	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: //	
50-9	46	土師器	甕	B	包含層1	16.4		9.7		内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外:黒色	
51-1	46	土師器	甕	C	包含層1	10.2		12.3	平行沈線及び波状文	内:ナデ・ミガキ・ケズリ 外:ナデ・ハケメ後ナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:灰白2.5Y8/2 外: //	内面口縁付近及び外面ある1方向のみ煤付着
51-2	47	土師器	甕	B	包含層1	19.2		12.4	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外: //	
51-3	47	土師器	甕	C	包含層1	21.0		10.6	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・指頭圧痕及びナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外: //	
51-4	47	土師器	甕	B	包含層1	16.2		9.5	ヘラ状工具による刺突文 平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:淡黄灰色 外:淡黄褐色	

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
51-5	47	土師器	甕	B	包含層1	16.8		11.0	波状文 ヘラ状工具による刺突文 平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:明茶褐色 外: "	
51-6	47	土師器	甕	A	包含層1	16.4		15.8	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗黄茶色 外:黒黄茶色	
51-7	47	土師器	甕	B	包含層1	14.6		10.0	波状文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ハケメ	3.5mm以下の砂粒を含む	内:橙褐色 外:明橙褐色	
51-8	47	土師器	甕	C	包含層1	15.0		4.8		内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外:黒色	外面に煤付着
51-9	47	土師器	甕	B	包含層1	16.3		14.2	櫛状工具による平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡橙色 外:灰黄色	外面に煤付着
51-10	48	土師器	甕	C	包含層1	16.5		6.7		内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄茶色 外:黒色	外面に煤付着
52-1	48	土師器	甕	A	包含層1	14.8	2.8	19.9	櫛状工具による波状文及び平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ・指頭圧痕 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗褐色 外:口縁部黄褐色、体部以下黒色	外面体部以下に煤付着
52-2	48	土師器	甕	A	包含層1	14.8	2.0	19.7	平行沈線及び波状文	内:ナデ・ケズリ 外:ナデ・ハケメ	微粒子の石英、金雲母を多く含む	内:灰白10YR8/2 外:浅黄橙10YR8/3	外面及び内面底部煤付着
52-3	48	土師器	甕	A	包含層1	16.0		17.5	平行沈線 ヘラ状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ・指頭圧痕 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄灰色 外:黒色	外面煤付着
52-4	48	土師器	甕	C	包含層1	14.8		16.3	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:明赤灰色 外: "	
52-5	48	土師器	甕	C	包含層1	15.5		15.1	貝殻状工具による刺突文及び平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄灰褐色 外: "	外面体部以下に煤付着
52-6	49	土師器	甕	C	包含層1	15.4		5.3	沈線 (1条) 列点文	内:ケズリ 外:ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	微粒子の金・黒雲母、石英を多く含む	内:にぶい黄橙色10YR7/3 外:淡赤褐色2.5YR7/4	内外面に煤付着
52-7	49	土師器	甕	A	包含層1	13.8		8.8	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄茶色 外:黒色	
52-8	49	土師器	甕	A	包含層1	15.6		6.5	ヘラ状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄灰色 外:黒色	
53-1	49	土師器	甕	C	包含層1	13.7		13.4	櫛状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄灰色 外: "	内外面に煤付着
53-2	49	土師器	甕	A	包含層1	13.5		10.8	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・指頭圧痕・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:明黄褐色 外: "	
53-3	49	土師器	甕	C	包含層1	15.0		5.8	口縁外面に爪形文ヘラ状工具による刺突文 平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄灰色 外: "	
53-4	49	土師器	甕	C	包含層1	19.6	3.0	32.5	擬凹線 平行沈線	内:ヨコナデ・ケズリ・指頭圧痕 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗橙褐色 外:灰褐色	外面に少量の煤付着
53-5	49	土師器	甕		包含層1	14.4		11.0	平行沈線及びヘラ状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗茶褐色 外:黒色	外面に煤付着
53-6	50	土師器	甕	A	包含層1	14.2		10.7	波状文及び平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2.5mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	
53-7	50	土師器	甕	B	包含層1	15.5		10.5		内:ヘラケズリ 外:摩擦のため不明	3mm以下の砂粒を含む	内:明黄茶色 外: "	
53-8	50	土師器	甕	A	包含層1	14.6		8.3	平行沈線及びヘラ状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗茶色 外:黒色	
53-9	50	土師器	甕	A	包含層1	14.4		7.1	櫛状工具による刺突文及び平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外: "	
54-1	50	土師器	甕	C	包含層1	20.9		11.9	波状文及び平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:摩擦のため不明	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄色 外:黄灰色	
54-2	50	土師器	甕	B	包含層1	20.0		16.9	平行沈線及びヘラ状工具による刺突文	内:ヘラケズリ 外:不明	2.5mm以下の砂粒を含む	内:淡黄色 外: "	
54-3	51	土師器	甕	B	包含層1	20.6		11.1	平行沈線及び波状文	内:ヘラケズリ 外:不明	2mm以下の砂粒を含む	内:淡黄茶色 外: "	
54-4	50	土師器	甕	A	包含層1	17.4		14.6	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・絞り目及びナデ・ヘラケズリ 外:ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄白色 外: "	
54-5	51	土師器	甕	B	包含層1	15.0		12.1	櫛状工具による平行沈線及び刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗茶褐色 外:茶褐色	外面に煤付着
54-6	51	土師器	甕	A	包含層1	17.4		8.7	平行沈線及び波状文	内:ヘラケズリ 外:摩擦のため不明	1mm以下の砂粒を含む	内:白黄色 外:明黄褐色	

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
						口径	底径	器高					
54-7	51	土師器	甕	B	包含層1	18.9		7.0	沈線	内:ナデ・ケズリ 外:ナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄白色 外:暗灰色	
54-8	51	土師器	甕	A	包含層1	18.0		13.3	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗黄白色 外: "	
54-9	51	土師器	甕	C	包含層1	17.6		8.6		内:ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄灰色 外: "	肩部より下に煤付着
55-1	51	土師器	甕	B	包含層1	21.0		8.1	列点文	内:ナデ・ヘラケズリ 外:ナデ・ハケメ	やや粗い	内:明褐色 7.5YR7/2 外: "	
55-2	51	土師器	甕	B	包含層1	18.3		7.5		内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色	外面に少量の煤付着
55-3	52	土師器	甕	C	包含層1	21.6		4.5		内:ヨコナデ 外:不明	1mm以下の砂粒を含む	内:暗茶褐色 外:黒色	外面に煤付着
55-4	52	土師器	甕	C	包含層1	23.2		5.8		内:摩滅のため不明 外:摩滅のため不明	2mm以下の砂粒を含む	内:暗茶灰色 外: "	
55-5	52	土師器	甕	C	包含層1	28.4		9.9	平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗黄灰色 外:暗茶褐色	
55-6	52	土師器	甕	B	包含層1	23.5		8.2	波状文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:にぶい黄褐色 外:淡黄褐色	口縁部にわずかに赤彩ありか
55-7	52	土師器	甕	C	包含層1	32.6		6.3		内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外:黄灰色	
55-8	52	土師器	甕	C	包含層1	14.6		4.7		内:摩滅のため不明 外:摩滅のため不明	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	
55-9	52	土師器	甕	A	包含層1	11.7		11.5		内:ヘラケズリ 外:ハケメ・ナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄灰色 外:黄白色	
55-10	52	土師器	甕	C	包含層1	11.0		11.1	櫛状工具による綾杉文 平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄茶色 外:黒茶色	外面に煤付着
55-11	52	土師器	甕		包含層1	11.3		4.7	ヘラ状工具による刺突文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:黒色 外: "	
55-12	53	土師器	甕	B	包含層1	10.0		5.4	擬凹線 貝殻状工具による刺突文	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ後ヘラミガキ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外:暗黄褐色	外面部分的に煤付着か
55-13	52	土師器	甕	C	包含層1	10.4		2.3		内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外: "	
56-1	53	土師器	甕	C	包含層1	32.8		27.2	櫛状工具による平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	外面及び内面部分的に煤付着
56-2	53	土師器	甕	B	包含層1	26.8	5.2	38.8	波状文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	内外面に煤付着
57-1	53	土師器	甕	C	包含層1	34.6		25.2	櫛状工具による刺突文 平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:淡黄褐色	
57-2	53	土師器	甕	C	包含層1	33.6		17.7	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・指頭圧痕・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:明茶褐色 外: "	
57-3	54	土師器	甕	C	包含層1	28.8		20.0	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:淡黄褐色	外面に煤付着
58-1	53	土師器	甕	C	包含層1	21.2		36.3	櫛状工具による刺突文 平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:灰褐色	
58-2	54	土師器	甕	A	包含層1	26.4		15.9	櫛状工具による刺突文 平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:明黄茶色 外: "	
58-3	54	土師器	甕	C	包含層1	30.8		10.1	波状文	内:ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外:暗茶褐色	
59-1	54	土師器	甕	B	包含層1	25.6		13.1	波状文及び平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2.5mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外: "	
59-2	54	土師器	甕	B	包含層1	27.6		17.3	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・指頭圧痕・ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:淡黄褐色	
59-3	54	土師器	甕	B	包含層1	24.8		15.0	ヘラ状工具による刺突文 平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:淡黄白色 外: "	
59-4	54	土師器	甕	A	包含層1	36.4		7.1		内:ヨコナデ・ハケメ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄灰色 外:黄灰色	
60-1	54	土師器	甕	C	包含層1	27.4		12.1	平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・指頭圧痕・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗茶褐色 外:黒色	
60-2	55	土師器	甕	B	包含層1	38.3	15.1	34.3		内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗灰褐色 外:にぶい褐色	
61-1	56	土師器	甕	C	包含層1	24.2		6.5		内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黄灰色 外:黒黄色	

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
61-2	56	土師器	甕	A	包含層1	24.8		8.1	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外: "		
61-3	56	土師器	甕	C	包含層1	20.2		6.7	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2.5mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外:黒色		
61-4	56	土師器	甕	A	包含層1	22.5		5.4	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黄灰色 外:黒灰色		
61-5	56	土師器	甕	C	包含層1	20.2		6.8	波状文 内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を多く含む	内:橙褐色 外: "		
61-6	55	土師器	甕	排土	包含層1	14.9		8.9	波状文 平行沈線 内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	2.5mm以下の砂粒を含む	内:灰色 外:黄灰色		
61-7	56	土師器	甕	C	包含層1	12.9		3.0	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	0.5mm以下の砂粒を含む 密	内:暗黄灰色 外:黄灰色		
61-8	56	土師器	甕	C	包含層1	19.2		4.5	内:ヨコナデ 外:不明	1mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外:黒色	外面に煤付着	
61-9	56	土師器	甕	C	包含層1	17.6		7.0	波状文 内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外:黒褐色	外面に煤付着	
61-10	55	土師器	甕	C	包含層1	14.6		8.2	内:ヨコナデ・ヘラケズリ後ユビナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む 密	内:暗黄灰色 外:暗黄褐色	外面に煤付着	
61-11	56	土師器	甕	C	包含層1	17.6		6.7	沈線 内:ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄白色 外: "		
61-12	56	土師器	甕	A	包含層1	17.8		9.0	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗褐色 外:黒色	外面に煤付着	
61-13	55	土師器	甕	B	包含層1	16.2		14.3	平行沈線 内:ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外: "		
62-1	56	土師器	甕	C	包含層1	19.2		9.0	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外:黒灰色		
62-2	56	土師器	甕	C	包含層1	21.0		4.9	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄茶色 外:黒色		
62-3	56	土師器	甕	C	包含層1	21.7		3.9	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:黒灰色 外: "		
62-4	56	土師器	甕	C	包含層1	17.6		4.9	内:摩滅のため不明 外:摩滅のため不明	2mm以下の砂粒を含む	内:淡黄白色 外: "		
62-5	56	土師器	甕	A	包含層1	14.8		7.5	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	外面に煤付着	
62-6	55	土師器	甕	A	包含層1	13.1		8.2	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:灰褐色 外:黒褐色	外面に煤付着	
62-7	56	土師器	甕	A	包含層1	14.6		6.1	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:暗黒褐色	口縁部外面に煤付着	
62-8	56	土師器	甕	C	包含層1	12.4		4.0	内:ヨコナデ・ヘラミガキ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外:黒色		
62-9	56	土師器	甕	排土	包含層1	17.0		6.4	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:摩滅のため不明	2mm以下の砂粒を含む	内:黄橙色 外: "		
62-10	55	土師器	甕	排土	包含層1	19.2		8.1	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:明橙褐色 外: "		
62-11	56	土師器	甕	A	包含層1	19.8		6.7	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:淡黄褐色		
62-12	57	土師器	甕	B	包含層1	16.0		7.7	内:ヨコナデ・指頭圧痕・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	外面に煤付着	
62-13	56	土師器	甕	A	包含層1	19.8		4.0	内:ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "		
62-14	56	土師器	甕	C	包含層1	13.3		4.2	へら状工具による刺突文 内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外: "		
62-15	56	土師器	甕	C	包含層1	12.4		4.0	内:ヘラミガキ・指頭圧痕・ヘラケズリ後ナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:淡黄褐色		
62-16	56	土師器	甕	C	包含層1	19.7		3.8	内:ヨコナデ・ヘラケズリ後ナデ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:暗黄褐色		
63-1	57	土師器	壺	B	包含層1	29.9		14.4	櫛状工具による波状文 内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄灰色 外: "		

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
63-2	57	土師器	壺	A	包含層I	19.2		10.1	波状文	内:ヨコナデ・指頭圧痕・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外:黄褐色	
63-3	57	土師器	壺	B	包含層I	18.5		7.7	波状文	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	微砂粒含む 石英、金雲母	内:橙色5YR7/8 外: "	
63-4	57	土師器	壺	C	包含層I	19.0		10.3		内:ヨコナデ・ハケメ・指頭圧痕及びヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:明黄茶色 外: "	
63-5	57	土師器	壺	B	包含層I	19.0		10.3	ヘラ状工具による刺突文 平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外: "	
63-6	58	土師器	壺	B	包含層I	15.4		7.2		内:ヨコナデ・指頭圧痕・ヘラミガキ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	
63-7	58	土師器	壺	B	包含層I	17.4		8.7		内:ヨコナデ・絞り・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	
63-8	58	土師器	壺	B	包含層I	17.4		9.2	平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄灰色 外:淡褐色	
63-9	58	土師器	壺	A	包含層I	17.8		9.2		内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外: "	
63-10	58	土師器	壺	C	包含層I	17.8		10.8		内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:白黄褐色 外: "	
63-11	58	土師器	壺	C	包含層I	18.0		9.5		内:ヨコナデ・指頭圧痕 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:明黄茶色 外: "	
64-1	59	土師器	壺	B	包含層I	17.0		22.0		内:ヨコナデ・指頭圧痕・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	3mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外: "	
64-2	59	土師器	壺	B	包含層I	18.6		18.0	波状文及び平行沈線	内:ヨコナデ・ナデ及び指頭圧痕・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:淡橙白色 外: "	
64-3	59	土師器	壺	C	包含層I	16.0		13.9	ヘラ状工具による刺突文 平行沈線及び波状文	内:ヨコナデ・指頭圧痕及びナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2.5mm以下の砂粒を含む	内:黄灰色 外: "	
64-4	59	土師器	壺	C	包含層I	20.7		7.5		内:ヨコナデ・ハケメ・ナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄白色 外: "	
64-5	59	土師器	壺	C	包含層I	15.8		9.2	櫛状工具による刺突文 平行沈線	内:ヨコナデ・指頭圧痕・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:白黄灰色 外: "	
64-6	59	土師器	壺	C	包含層I	16.8		7.0	櫛状工具による刺突文	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:明黄茶色 外: "	
64-7	60	土師器	壺	C	包含層I	19.0		7.4		内:ヨコナデ・ハケメ・ナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄白色 外: "	
64-8	60	土師器	壺	A	包含層I	17.0		7.7	波状文	内:ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黄白色 外: "	
65-1	60	土師器	壺	B	包含層I		8.4	36.0	頸部に断面三角突帯	内:ハケメ・指頭圧痕・ナデ 外:ハケメ・ナデ	やや細かい	内:灰白10YR8/2 外: "	搬入品
65-2	60	土師器	壺	C	包含層I	19.2		11.9	頸部に断面三角突帯	内:ナデ 外:ハケメ	1mm程の砂粒多い	内:灰白2.5YR8/2 外: "	搬入品
65-3	60	土師器	壺	C	包含層I	19.3		15.5		内:ハケメ・ナデ 外:ハケメ・ナデ	微砂粒多い	内:淡黄2.5YR8/3 外: "	搬入品
65-4	61	土師器	壺	B	包含層I	21.9		2.8	櫛状工具による波状文	内:ナデ 外:ナデ	やや粗い	内:橙5YR7/6 外: "	搬入品
65-5	60	土師器	壺	B	包含層I	18.8		10.0	頸部に突帯	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヘラミガキ・ハケメ	6mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:暗橙褐色	搬入品
65-6	61	土師器	壺	C	包含層I	14.8		4.6	頸部突帯にヘラ状工具による刺突文	内:ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗茶色 外:橙褐色	搬入品
66-1	61	土師器	注口土器	C	包含層I	15.7		18.9	連続刺突文 平行沈線	内:ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を含む	内:灰褐色 外:淡黄褐色	
66-2	61	土師器	注口土器	C	包含層I	13.7		16.5	貝殻状工具による刺突文及び平行沈線	内:ヨコナデ・ケズリ・指頭圧痕 外:ヨコナデ・ヘラミガキ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:灰褐色 外:淡灰褐色	外面に煤付着
66-3	61	土師器	注口土器	B	包含層I	13.7		9.4	貝殻状工具による刺突文及び平行沈線	内:ヘラミガキ・ケズリ後ヘラミガキ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	外面に煤付着

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
66-4	62	土師器	注口土器	A	包含層1	17.6	7.3	21.2	列点文 平行沈線	内:ケズリ・ナデ 外:ハケ・ナデ	微砂粒多い 金雲母	内:灰白2.5Y8/1 外: "	
66-5	62	土師器	注口土器	B	包含層1	長さ 8.2	幅 7.1			内:ケズリ 外:ハケメ	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗黒褐色 外:黒褐色	外面に煤付着
66-6	62	土師器	注口土器	B	包含層1	長さ 9.2	幅 8.2		櫛状工具による刺突 文	内:ケズリ 外:ヘラミガキ・ハケメ	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外:淡黄褐色	外面に煤付着
66-7	62	土師器	注口土器	C	包含層1	長さ 10.4	幅 15.4		平行沈線	内:ケズリ 外:ヘラミガキ	2mm以下の砂 粒を含む	内:灰褐色 外:黄褐色	外面に赤色顔料及び 煤付着
66-8	62	土師器	注口土器	C	包含層1	長さ 7.0			平行沈線	内: 外:ハケメ・ヘラミガキ	1mm以下の砂 粒を含む	内:灰褐色 外:暗黄褐色	下1/3に煤付着
66-9	62	土師器	注口土器	C	包含層1	長さ 6.7				内: 外:ハケメ	1mm以下の砂 粒を含む	内:灰褐色 外:黒褐色	
66-10	62	土師器	注口土器	C	包含層1	長さ 9.2				内: 外:ヘラミガキ・ハケメ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外:暗灰褐色	外面に煤付着
66-11	62	土師器	注口土器	B	包含層1	長さ 8.8				内: 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂 粒を含む	内: 外:淡灰褐色	
66-12	62	土師器	注口土器	C	包含層1	長さ 7.3				内: 外:ヘラミガキ・ハケメ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗灰褐色 外:淡黄褐色	外面に煤付着
66-13	62	土師器	注口土器	C	包含層1	長さ 6.7				内: 外:ヘラミガキ	0.5mm以下の砂 粒を含む	内:灰褐色 外:黒褐色	
67-1	63	土師器	鼓形器台	A	包含層1	22.3	18.4	15.0		内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ 外:ヨコナデ	微砂粒多い 石英、金雲母	内:灰白2.5Y8/2 外: "	
67-2	63	土師器	鼓形器台	A	包含層1	24.6	20.6	14.2		内:ヨコナデ・ヘラ ミガキ・指頭圧 痕・ハケメ 外:ヨコナデ	2.5mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄茶褐色 外: "	
67-3	63	土師器	鼓形器台	C	包含層1	23.6	15.5	15.1		内:ヘラミガキ・ヘラ ケズリ・ヨコナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	
67-4	63	土師器	鼓形器台	C	包含層1	24.0	20.0	19.7		内:摩滅のため不明 外:摩滅のため不明	2mm以下の砂粒 を含む 粗い	内:暗黄褐色 外:灰褐色	
67-5	63	土師器	鼓形器台	B	包含層1	23.4	19.6	13.7		内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ・ケズ リ後ナデ 外:ヨコナデ	やや粗い	内:淡橙5YR8/4 外: "	
67-6	63	土師器	鼓形器台	C	包含層1	20.1	20.3	13.5	櫛状工具による波状 文	内:ケズリ後ヘラミ ガキ・ヨコナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	
67-7	64	土師器	鼓形器台	A	包含層1	21.4	19.4	12.9		内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2.5mm以下の砂 粒を含む	内:明黄褐色 外: "	
67-8	64	土師器	鼓形器台	C	包含層1	15.8	15.6	11.5		内:ヘラミガキ・ハ ケメ後ナデ・ヘ ラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	
68-1	64	土師器	鼓形器台	C	包含層1	21.8		12.8		内:ヨコナデ・ヘラ ミガキ・ナデ・ ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 外: "	
68-2	64	土師器	鼓形器台	B	包含層1	21.0		10.6		内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	
68-3	64	土師器	鼓形器台	B	包含層1	24.0		8.9		内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 外: "	内面に煤付着
68-4	64	土師器	鼓形器台	A	包含層1	24.8		9.4		内:ヘラミガキ・指 頭圧痕 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外:暗黄茶褐色	外面に煤付着
68-5	65	土師器	鼓形器台	C	包含層1	23.2		9.0		内:ヨコナデ・ケズ リ・ミガキ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄褐色 外:暗黄褐色	
68-6	65	土師器	鼓形器台	C	包含層1	23.0		7.8		内:ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ケズリ後ナ デ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:淡橙褐色 外: "	
68-7	65	土師器	鼓形器台	B	包含層1		17.8	11.0		内:ヘラミガキ・ナ デ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:明黄褐色 外: "	
68-8	65	土師器	鼓形器台	C	包含層1		18.0	10.6		内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	
68-9	65	土師器	鼓形器台	A	包含層1		20.2	8.3		内:ヨコナデ・指頭圧 痕・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 外: "	
68-10	65	土師器	鼓形器台	A	包含層1		19.6	7.0		内:ヘラミガキ・ヨコ ナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	
68-11	66	土師器	鼓形器台	A	包含層1		16.9	6.0		内:ヘラミガキ・ヨ コナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を少量含む	内:暗黄褐色 外:淡黄褐色	
69-1	66	土師器	鼓形器台	B	包含層1		20.4	6.9		内:ヘラミガキ・ナ デ・ヘラケズリ・ ヨコナデ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
69-2	66	土師器	鼓形器台	C	包含層I		21.0	6.8		内:ヘラケズリ・ヨ コナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄褐色 外:暗黄褐色	
69-3	66	土師器	鼓形器台	C	包含層I		20.2	7.2		内:ヘラケズリ・ヨ コナデ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:淡赤橙色 外: "	
69-4	66	土師器	鼓形器台	A	包含層I		30.0	15.8		内:ヘラミガキ・指 頭圧痕・ヘラケ ズリ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	2.5mm以下の砂 粒を含む	内:黄白色 外: "	
69-5	68	土師器	鼓形器台	A	包含層I		18.2	5.6	貝殻による爪形刺突 文及び羽状文	内:ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外:黄褐色	
69-6	66	土師器	鼓形器台	A	包含層I	14.6	13.3	8.5		内:ヘラミガキ・ヘラ ケズリ・ヨコナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂 粒を少量含む	内:黄褐色 外: "	
69-7	68	土師器	器台	C	包含層I	12.0		3.5		内:ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	
69-8	67	土師器	器台	B	包含層I	26.8	20.6	12.8		内:ヨコナデ・ヘラ ミガキ 外:ヨコナデ	3.5mm以下の砂 粒をやや多め に含む	内:黄褐色 外: "	
69-9	67	土師器	器台	B	包含層I	26.8	21.4	17.1		内:ミガキ 外:ハケメ後ミガキ	φ1mm大の長石、 石英を多く含む 微粒子の黒雲母、 石英を多く含む	内:浅黄橙 7.5YR8/4~橙7/6 外: "	
70-1	67	土師器	高坏	B	包含層I	25.4		17.2		内:ミガキ・ケズリ 外:ナデ消し後ミガ キ・ハケ後ミガキ	微粒子の金・黒 雲母、石英を多 く含む φ2mm前 後の石英を含む	内:浅黄橙 10YR8/3 外:浅黄橙 7.5YR8/3	
70-2	67	土師器	高坏	A	包含層I	26.4		13.1		内:ヘラケズリ 外:ハケメ	2.5mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 外: "	
70-3	67	土師器	高坏	C	包含層I	27.0		15.1		内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂 粒を含む	内:橙褐色 外: "	内外面に赤色顔料 (脚部内面には無し)
70-4	67	土師器	高坏	B	包含層I	13.2		14.2		内:ヨコナデ・ヘラ ケズリ後ナデ・ ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ヘラ ミガキ	2mm以下の砂 粒を含む	内:橙白色 外: "	
70-5	68	土師器	高坏	B	包含層I	21.6		7.8		内:摩滅のため不明 外:摩滅のため不明	2mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄色 外: "	
70-6	68	土師器	高坏	A	包含層I	21.0		7.0		内:ヨコナデ・ヘラ ミガキ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂 粒を含む	内:淡褐色 外: "	
70-7	68	土師器	高坏		包含層I	20.2		3.3		内:ヘラミガキ 外:不明	1mm以下の砂 粒を少量含む	内:黒色 外: "	
70-8	68	土師器	高坏	B	包含層I	21.2		12.3		内:ミガキ・ナデ 外:ミガキ・ケズリ	砂粒少ない 石英	内:浅黄橙10YR8/3 外: "	
70-9	68	土師器	高坏	C	包含層I	19.0		5.3		内:ヘラミガキ 外:摩滅のため不明	2mm以下の砂 粒を含む	内:橙褐色 外: "	
70-10	68	土師器	高坏	B	包含層I	18.1		4.9		内:ヨコナデ・ケズリ後 ナデ・ヘラミガキ 外:ヨコナデ・ヘラ ミガキ	1mm以下の砂 粒を含む 密	内:黄褐色 外: "	
70-11	68	土師器	高坏	C	包含層I	26.0		4.0		内:ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	2.5mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	
71-1	68	土師器	高坏	C	包含層I	28.0		8.5		内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:ヘラミガキ・ナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗黄茶色 外:黄褐色	
71-2	68	土師器	高坏	A	包含層I	27.2		7.8		内:摩滅のため不明 外:摩滅のため不明	1mm以下の砂 粒を含む	内:明黄褐色 外: "	
71-3	69	土師器	高坏	A	包含層I	26.6		13.1		内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ 外:ヘラミガキ	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:橙白色 外: "	
71-4	69	土師器	高坏	A	包含層I	25.4		7.1		内:ヘラミガキ 外:摩滅のため不明	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄灰色 外: "	
71-5	69	土師器	高坏		包含層I	23.8	15.0	16.0	2方向の円形透かし	内:ヘラミガキ・ハケメ 外:ヘラミガキ	2mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 外: "	
71-6	69	土師器	高坏	B	包含層I	26.4		6.7		内:ハケメ・ヘラミガキ 外:摩滅のため不明	1.5mm以下の砂 粒を含む	内:黄褐色 外: "	
71-7	69	土師器	高坏	C	包含層I	23.6		5.3		内:ハケメ・ヘラミガキ 外:ヘラミガキ・ハケメ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗褐色 外: "	
71-8	70	土師器	高坏	C	包含層I	23.4		4.4		内:ハケメ・ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂 粒を少量含む	内:暗黄茶色 外: "	
71-9	69	土師器	高坏	B	包含層I	21.5		4.7		内:ハケメ後ヘラミ ガキ 外:ハケメ	密	内:黄褐色 外:暗黄褐色	外面に煤付着
71-10	70	土師器	高坏	C	包含層I	19.0		4.2		内:ヘラミガキ及び ハケメ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂 粒を少量含む	内:暗茶色 外: "	
71-11	69	土師器	高坏	B	包含層I	15.1		4.6		内:ヘラミガキ・ヘ ラケズリ後ナデ 外:ヨコナデ・ヘラ ミガキ	密	内:にぶい橙色 外:浅黄色	

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
71-12	70	土師器	高坏	C	包含層1	15.2		4.3	内:ヨコナデ・ヘラミガキ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外: "		
72-1	70	土師器	高坏	B	包含層1	17.2		6.8	内:ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外:暗黄褐色		
72-2	76	土師器	高坏	B	包含層1	17.9		4.6	内:ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	やや粗い	内:明褐色 7.5YR7/2 外: "		
72-3	70	土師器	高坏	A	包含層1	14.6		5.6	内:ヘラミガキ 外:摩滅のため不明	1mm以下の砂粒を含む	内:暗茶色 外: "	内面に赤色顔料	
72-4	76	土師器	高坏	C	包含層1	16.0		5.2	内:ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄灰色 外:暗黄灰色		
72-5	70	土師器	高坏	C	包含層1		17.6	12.2	内:ヘラケズリ・ハケメ 外:ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外: "		
72-6	76	土師器	高坏	C	包含層1	24.4	3.6		内:ヘラケズリ 外:ハケメ及びヘラミガキ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗褐色 外:黒褐色		
72-7	76	土師器	高坏	C	包含層1	22.4	3.2		内:ハケメ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:橙茶色 外:暗橙茶色		
72-8	76	土師器	高坏	C	包含層1	16.8	5.4		内:ヘラケズリ 外:ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を多く含む	内:暗黄褐色 外: "		
72-9	76	土師器	高坏	C	包含層1	18.4	4.4		内:ヨコナデ 外:ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を含む	内:黒黄茶色 外:茶褐色		
72-10	76	土師器	高坏	C	包含層1	20.4	3.8		内:ヘラケズリ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外:暗赤褐色	外面に赤色顔料	
72-11	76	土師器	高坏	B	包含層1	13.0	3.6		内:ヘラケズリ・ハケメ 外:ヘラミガキ・ナデ	細かい	内:明褐色 7.5YR7/2 外: "		
72-12	76	土師器	高坏の脚部	C	包含層1	31.4	5.8		内:ヘラケズリ・ハケメ 外:指頭圧痕及びナデ・ハケメ後ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	内面下1/3に煤付着	
72-13	70	土師器	低脚坏	A	包含層1	23.4	11.6	10.7	内:ヘラケズリ・ヨコナデ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外: "		
72-14	71	土師器	低脚坏	排土	包含層1	17.5	11.5	9.4	内:ヘラミガキ・ヨコナデ 外:ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "		
73-1	71	土師器	低脚坏	B	包含層1	13.0	6.4	6.4	1方向の円形透かし 内:ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	2mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "		
73-2	71	土師器	低脚坏	B	包含層1	13.6	6.1	5.7	内:ヘラミガキ 外:摩滅のため不明	1.5mm以下の砂粒を含む	内:淡橙褐色 外: "		
73-3	71	土師器	低脚坏	C	包含層1	13.0	6.0	5.1	内:ヘラミガキ・ヨコナデ 外:ヘラミガキ・ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:明黒褐色 外:明黒褐色、 橙褐色		
73-4	71	土師器	低脚坏	B	包含層1	12.4	5.6	4.9	内:ヨコナデ・ヘラミガキ 外:ヨコナデ・ハケメ	2mm以下の砂粒を含む	内:にぶい橙色 外: "		
73-5	71	土師器	低脚坏	B	包含層1	13.4	5.4	6.4	内:ヘラミガキ・ヨコナデ 外:ヘラミガキ・ヨコナデ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:淡白褐色 外: "	脚部貼り付け	
73-6	72	土師器	低脚坏	C	包含層1	14.2	6.6	5.2	内:ヘラミガキ 外:摩滅のため不明	2mm以下の砂粒を少量含む	内:橙褐色 外: "		
73-7	72	土師器	低脚坏	C	包含層1	11.8	5.4	5.0	内:ヘラミガキ・ナデ 外:ヘラミガキ・ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:にぶい黄褐色 外:灰黄色		
73-8	72	土師器	低脚坏	C	包含層1	10.9	5.0	4.2	内:ヘラケズリ後ナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡灰褐色 外: "		
73-9	72	土師器	低脚坏	A	包含層1	10.6		3.6	内:ヘラミガキ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:暗黄褐色 外: "		
73-10	72	土師器	低脚坏	A	包含層1	12.8		7.5	内:ヨコナデ・ケズリ後ヘラミガキ 外:ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:暗黄褐色 外: "		
73-11	72	土師器	低脚坏	C	包含層1	12.9		5.2	内:ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:にぶい橙色 外:灰褐色		
73-12	72	土師器	低脚坏	B	包含層1	9.8		4.1	内:ヨコナデ・ヘラミガキ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外:にぶい黄褐色		
73-13	72	土師器	低脚坏	A	包含層1	11.0		3.7	内:ヨコナデ・ヘラミガキ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "		
73-14	73	土師器	低脚坏	A	包含層1		12.0	4.4	3方向の円形透かし 内:不明 外:不明	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "		
73-15	73	土師器	低脚坏	B	包含層1	13.4	5.0		内:ヘラミガキ・ハケメ 外:ヘラミガキ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗灰色 外:淡灰色		
73-16	73	土師器	低脚坏	A	包含層1		11.7	3.5	内:ケズリ後ナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗灰白色 外:にぶい橙色		
73-17	73	土師器	低脚坏	B	包含層1	12.6	3.0		内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:淡黄褐色 外: "		

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
73-18	73	土師器	低脚坏	B	包含層1		11.6	3.8		内:ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	
73-19	73	土師器	低脚坏	C	包含層1		11.0	3.4		内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	0.5mm以下の砂粒を含む	内:暗灰褐色 外:淡灰褐色	
73-20	73	土師器	低脚坏	C	包含層1		8.7	2.2		内:ヘラミガキ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	
73-21	73	土師器	低脚坏	A	包含層1		7.4	2.8		内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡灰褐色 外: "	
73-22	74	土師器	低脚坏	C	包含層1		6.4	4.1	2方向の円形透かし	内:ハケメ・ヘラミガキ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	
73-23	74	土師器	低脚坏	B	包含層1		6.0	4.5	2方向の円形透かし	内:ヘラミガキ・ヨコナデ 外:ヘラミガキ・ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄褐色 外: "	
73-24	74	土師器	低脚坏	C	包含層1		6.0	2.9	2方向の円形透かし	内:ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:淡灰褐色 外:淡黄褐色	
73-25	74	土師器	低脚坏	C	包含層1		6.5	2.7	2方向の円形透かし	内:ヨコナデ・ケズリ 外:ヘラミガキ・ヨコナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:灰褐色 外:淡灰褐色	
73-26	76	土師器	低脚坏	C	包含層1		14.2	2.3		内:ヘラケズリ 外:不明	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗橙褐色 外: "	
73-27	76	土師器	低脚坏	B	包含層1		10.4	2.5		内:ヘラケズリ・ナデ 外:ヘラミガキ・ナデ	やや細かい	内:明褐灰 7.5YR7/2 外: "	
74-1	74	土師器	直口壺	B	包含層1	11.0		7.2		内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:明黄褐色 外: "	
74-2	74	土師器	直口壺	B	包含層1	9.0		10.5		内:ヘラケズリ 外:ヘラミガキ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:淡黄茶色 外:黄茶褐色	
74-3	75	土師器	長頸壺	A	包含層1	9.4		8.3		内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:黒灰色 外: "	
74-4	76	土師器	直口壺	C	包含層1	11.0		3.7		内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄灰色 外: "	
74-5	74	土師器	短頸壺	C	包含層1	7.6		3.0	2方向の円形透かし	内:ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:淡褐色 外: "	
74-6	75	土師器	短頸壺	C	包含層1	6.0	14.2	8.5	貝殻状工具による刺突文 平行沈線 円形孔あり	内:ヨコナデ・指頭 圧痕・ナデ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:暗黄茶色 外: "	
74-7	75	土師器	短頸壺	C	包含層1	14.4		7.1	頸部に円形孔あり	内:ナデ・ヘラケズリ 外:ヘラミガキ	7mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外:橙黄灰色	口径は最大径
74-8	75	土師器	鉢	C	包含層1	16.5		8.4		内:ヘラミガキ・ハケメ 外:ハケメ・ヘラミガキ	0.5mm以下の砂粒を含む	内:黄褐色 外:暗黄褐色	外面に煤付着
74-9	76	土師器	鉢	B	包含層1	19.0		7.7		内:ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄灰色 外: "	
74-10	76	土師器	鉢	C	包含層1	19.0		6.6		内:ハケメ後ミガキ 外:ハケメ・ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:淡白橙色 外: "	
74-11	76	土師器	鉢	B	包含層1	21.0		6.0		内:ミガキ 外:ナデ・ミガキ	やや細かい	内:明褐灰 7.5YR7/2 外: "	
74-12	76	土師器	鉢	C	包含層1	19.0		4.7		内:ヘラミガキ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を含む	内:黄茶色 外:黒褐色	内面の一部に赤色顔料
74-13	76	土師器	鉢	C	包含層1	15.0		3.4		内:ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:黄茶色 外:黒黄灰色	
74-14	75	土師器	小型甕	A	包含層1	16.6		8.4		内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	1.5mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:暗黄褐色	外面に煤付着
74-15	75	土師器	低脚付 小型甕	B	包含層1	12.3	8.4	13.9		内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ・指頭圧痕	1mm以下の砂粒を含む	内:灰褐色 外:にぶい橙色	
75-1	75	土師器	鉢	B	包含層1	14.6		7.8		内:ハケメ後ヘラミガキ 外:ヨコナデ・ハケメ後ヘラミガキ	2.5mm以下の砂粒を含む	内:黄灰褐色 外: "	
75-2	77	土師器	鉢	C	包含層1	11.3		8.0		内:ヨコナデ・ヘラミガキ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外: "	
75-3	79	土師器	鉢	C	包含層1	16.2		8.4		内:ケズリ後ナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	内:暗黄茶色 外:黄茶色	
75-4	79	土師器	鉢	A	包含層1	19.6		9.2		内:ヘラミガキ 外:ヨコナデ・ヘラミガキ	1mm以下の砂粒を少量含む	内:暗赤色 外:黒赤色	内面及び外面口縁部に赤色顔料 外面下半分に煤付着
75-5	79	土師器	鉢	A	包含層1	17.6		9.7		内:ヘラケズリ 外:摩滅のため不明	1mm以下の砂粒を含む	内:淡黄白色 外: "	
75-6	79	土師器	鉢	A	包含層1	21.6		6.6		内:ヨコナデ・ヘラケズリ 外:ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	内:暗黄褐色 外:淡黄褐色	

挿図 番号	写真 図版	種別	器種	出土 地点	層位	法量 (cm)			文様の特徴	調 整	胎 土	色 調	備 考
						口径	底径	器高					
75-7	79	土師器	鉢	A	包含層1	31.0		13.3		内:ヘラケズリ及び 指頭圧痕・ハケ メ・ヘラケズリ 外:ハケメ	2mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄茶色 外: "	
75-8	77	土師器	碗	B	包含層1	16.8	8.6	7.5		内:ヘラケズリ後ヘ ラミガキ 外:ヘラミガキ	2mm以下の砂 粒を含む	内:茶褐色 外: "	
75-9	77	土師器	蓋	C	包含層1	12.2	つま み径 3.4	6.1	2方向の円形透かし	内:ヘラミガキ・ヨ コナデ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂 粒を含む	内:灰黄褐色 外: "	
75-10	77	土師器	蓋	C	包含層1	7.5		3.8		内:摩滅のため不明 外:ヘラミガキ・ナデ	2mm以下の砂 粒を含む	内:暗灰褐色 外:黒色	
76-1	77	土師器	手捏ね土器	B	包含層1	5.0		6.1		内:指頭圧痕 外:指頭圧痕・ハケメ	1mm以下の砂 粒を含む	内:黄茶色 外: "	
76-2	77	土師器	手捏ね土器		包含層1	4.5		3.4		内:指頭圧痕 外:指頭圧痕	2mm以下の砂 粒を多く含む	内:黒灰色 外: "	
76-3	77	土師器	手捏ね土器	C	包含層1	5.0		9.0		内:ナデ 外:ハケメ・ナデ	1mm以下の砂 粒を含む	内:暗赤褐色 外: "	
76-4	78	土師器	小型丸底鉢	C	包含層1	6.6		3.5	2孔で1対の円形の 穿孔	内:ヘラミガキ 外:ヘラミガキ	1mm以下の砂 粒を少量含む	内:暗黄褐色 外: "	
76-5	78	土師器	把手	B	包含層1	長さ 5.7	幅 5.0		半裁竹管による刺突 文	ヘラケズリ	1mm以下の砂 粒を含む	淡黄橙色	
76-6	78	土師器	把手	B	包含層1	長さ 6.5	幅 2.0		ヘラ状工具による刺 突文	ナデ	1.5mm以下の砂 粒を含む	淡黄灰色	
76-7	79	土師器	不明	C	包含層1	長さ 14.7	幅 8.8			内:ハケメ・指頭圧 痕・ヘラケズリ 外:ハケメ・ナデ	3mm以下の砂 粒を含む	内:黒灰色 外: "	突帯がはがれている
76-8	78	土師器	甕	C	包含層1	長さ 5.4	幅 11.0		頸部外面に櫛状工具 による斜格子文をつ けた突帯	内:ナデ 外:ナデ・ハケメ	1mm以下の砂 粒を含む	内:淡黄灰色 外: "	
76-9	78	土製品	土錘	B	包含層1	長さ 3.0	幅 3.2				1mm以下の砂 粒を少量含む	灰茶色	
76-10	78	土製品	有孔円盤	B	包含層1	径 2.0		厚さ 0.6		ナデ	1mm以下の砂 粒を含む	黄茶色	

山持遺跡 木製品観察表

挿図 番号	写真 図版	種 別	品 目	出土 地点	法 量 (cm)				備 考
					長	幅	厚	高	
80-1	81	農具	鋤	C	48.0	10.0	1.6		面取りあり
80-2	81	農具	一木作りの鋤	B	56.3	9.4	2.7		面取りあり
80-3	81	農具	一木作りの鋤	C	108.3	10.5	2.8		
80-4	81	農具	鋤の柄	C	78.0	2.6	2.6		先が欠けている
81-1	81	農具	田下駄	B	33.1	31.0	2.5		面取りあり 4箇所孔あり
81-2	81	運搬具	田舟	C	54.0	7.5	3.0		内面に漆が塗られている
81-3	81	運搬具	田舟	C	71.5	9.3	1.0		面取りあり
81-4	81	運搬具	田舟	B	65.5	4.6	1.5		
82-1	82	漁撈具	櫂	A	78.1	5.6	3.0		
82-2	82	漁撈具	櫂	B	50.6	10.9	2.9~1.6		
82-3	82	服飾具	簪	A	22.8	1.8	0.8		先端を尖らせている
82-4	82	武器	木鏃	A	6.3		1.4		先端を尖らせている
82-5	82	容器	皿	C	口径 14.4	底径 10.2		器高 1.6	
82-6	82	容器	高杯	C		脚径 10.4		器高 5.4	脚部内外面に若干ケズリが残っている
82-7	82	容器	高杯の脚部				1.3	7.0	内面を削っている 外面は丁寧加工している 透かしあり 赤色顔料あり
82-8	82	容器	脚付盤	B	24.2	11.9		9.9	面取りあり 脚を付けるときに削り出した傷 が多く残っている
82-9	82	容器	脚付盤	A	18.5	18.0		7.7	

挿図 番号	写真 図版	種 別	品 目	出土 地点	法 量 (cm)				備 考
					長	幅	厚	高	
82-10	82	容器	脚付盤	C		20.0		6.4	漆が塗られている
82-11	82	容器	脚付盤	B	14.2	4.6		6.8	
83-1	83	容器	剝物桶	C	30.0	23.0	3.8~1.3		赤色顔料あり
83-2	83	容器	剝物桶	A	33.4	18.5	3.1		
83-3	83	容器	剝物桶	C	24.5	15.2	2.4~0.8		内面にケズリ痕あり
83-4	83	容器	剝物桶	C	口径 6.6	底径 11.6		器高 14.5	外面に赤色顔料あり 内面に細かいケズリ
83-5	83	容器	剝物桶	C	14.4	5.9	0.6		赤色顔料あり
83-6	83	容器	剝物桶	A	16.5	9.1	3.5~0.7		焼痕あり 内面に漆か何か塗られている
83-7	83	容器	剝物桶	A	25.2	9.8	2.4~0.7		内面に漆らしきものが塗られている
83-8	83	容器	剝物桶	B	27.7	12.3	5.3		焼痕あり
83-9	83	容器	剝物桶	B	15.8	6.8	4.3~0.9		焼痕あり
83-10	83	容器	剝物桶	A	14.4	3.2	1.2~0.5		面取りあり
84-1	83	容器	剝物桶	B	29.9	18.3	3.3		面取りあり
84-2	83	容器	剝物桶	C	32.3	22.6	3.5		
84-3	83	容器	剝物桶	C	18.6	20.8	2.5		
84-4	84	容器	剝物桶	C	23.2	6.7	3.0~0.8		焼痕あり
84-5	84	容器	剝物桶	B	24.8	11.8	3.1		
84-6	84	容器	剝物桶	A	19.8	7.6	3.3		
84-7	84	容器	剝物桶	B	27.8	6.7	3.3~0.8		
84-8	84	容器	剝物桶	A	19.3	8.6	2.5		
84-9	84	容器	剝物桶	C	30.5	11.3	2.6		
84-10	84	容器	剝物桶	C	17.9	10.4	3.4		丁寧な面取りあり
85-1	84	容器	剝物桶	C	25.4	10.6	2.7~0.8		
85-2	84	容器	鉢	C			3.2	6.0	
85-3	84	容器	底板	A	26.5	9.0	1.2~0.6		面取りあり
85-4	84	容器	底板	A	29.5	22.4	1.4		楕円形 ノミ痕あり
85-5	84	容器	曲物の底板	B	24.8	7.7	0.9~0.4		2箇所孔あり
85-6	85	容器	桶の底板	C	28.4	14.4	1.6		面取りあり
85-7	84	容器	底板	C	21.6	8.5	0.9		
85-8	84	容器	曲物の底板	C	17.0	6.9	0.5		
85-9	85	容器	底板	A	17.7	7.5	1.0		
85-10	85	雑具	自在鉤	B	22.4	9.6	1.9		
85-11	85	雑具	箱	A	21.0	11.1		10.3	小さい孔が多数ありなかには留めと思われるものもある
86-1	85	雑具	栓	C	33.3	17.3	7.9		
86-2	85	雑具	栓	C	5.6	3.5	3.7		

挿図 番号	写真 図版	種 別	品 目	出土 地点	法 量 (cm)				備 考
					長	幅	厚	高	
86-3	85	雑具	火鑽臼	C	28.2	1.9	1.9		
86-4	85	雑具	腰掛	A	37.1	11.7	9.0		
86-5	85	雑具	腰掛	B	29.2	7.6	7.2~1.2		
86-6	85	雑具	腰掛の脚	B	26.6	11.0	3.0		表面が傷んでいる
86-7	85	雑具	腰掛の脚	C	19.5	11.8	2.3		2箇所孔あり
87-1	86	雑具	腰掛	B	53.0	15.1	1.7	5.0	赤色顔料あり
87-2	86	雑具部材		C	23.8	7.6~4.5	3.1~1.7		側面に面取りあり 方形及び円形の孔あり
87-3	86	雑具部材		C	9.2	3.8	4.2		大小の孔あり
87-4	86	雑具部材		C	22.2	4.0~1.7	2.4~2.1		長方形及び円形の孔あり
87-5	86	雑具部材		A	26.5	15.5	1.5		
87-6	86	雑具部材		C	25.0	7.8	1.6~0.9		1箇所孔あり
87-7	86	雑具部材		B	41.7	6.0	3.0		
87-8	86	雑具部材		B	38.8	17.5	2.0		面取りあり 方形の孔あり
88-1	87	雑具部材		A	44.2	12.5	2.2		鋭い刃等による痕 長方形及び円形の孔あり
88-2	87	雑具部材		A	55.0	8.8	1.7		2箇所孔あり 斜め方向に方形の孔あり
88-3	87	雑具部材		B	53.5	5.6	1.4		1箇所円形の孔あり
88-4	87	雑具部材		A	44.5	7.1	1.9		4箇所方形の孔あり
88-5	87	雑具部材		C	34.5	12.6	1.6		2箇所ほぞ孔あり
88-6	87	雑具部材		C	35.8	8.4	2.7~2.0		円形の孔あり 木の皮あり 中央の孔は貫通していない
88-7	87	雑具部材		C	20.8	8.1	1.2~1.1		ほぞ孔あり 斜め方向にノミ痕らしきものあり
88-8	87	雑具部材		B	26.2	8.8	1.1		1箇所孔あり
88-9	87	雑具部材		A	24.3	6.0	1.6		円形及び方形の孔あり
88-10	87	雑具部材		A	24.8	5.0	1.0		円形の孔あり 赤色顔料あり
89-1	87	雑具部材		C	35.2	6.0	1.2~0.9		1箇所方形の孔あり
89-2	87	雑具部材		C	34.4	5.3	1.3		ノミ痕あり 円形の孔あり
89-3	88	雑具部材		C	38.6	5.4	3.4		孔あり
89-4	88	雑具部材		B	42.0	2.7	2.1~1.7		面取りあり 窪みあり
89-5	88	雑具部材		B	42.8	3.5	1.5		円形の孔あり
89-6	88	雑具部材		B	18.7	3.5	2.1		面取りあり 方形のほぞ孔あり
89-7	87	雑具部材		B	16.6	9.8	1.7		1箇所孔あり
89-8	87	雑具部材		C	14.4	5.7	0.8		2箇所に孔あり うち1つは留めるための皮が付いている
89-9	88	雑具部材		A	15.1	5.3	1.4~1.2		方形の孔あり
89-10	87	雑具部材		C	26.7	5.9	3.5		長方形の孔あり
89-11	87	雑具部材		B	30.1	5.0	2.1~1.6		1箇所孔あり
89-12	88	雑具部材		A	16.7	1.9	1.8		方形の孔あり

挿図 番号	写真 図版	種 別	品 目	出土 地点	法 量 (cm)				備 考
					長	幅	厚	高	
89-13	88	雑具部材		A	16.9	3.3	0.9~0.7		方形の孔あり
89-14	87	雑具部材		C	10.3	5.6	1.5		面取りあり 焼痕あり
90-1	88	雑具部材		B	34.0	23.4	2.0		方形の孔あり
90-2	88	雑具部材		A	24.5	25.6	1.4		ノミ痕あり
90-3	88	雑具部材		C	20.7	7.0	7.1		面取りあり 長方形の孔あり
90-4	89	雑具部材		A	27.0	6.0	1.7		面取りあり
90-5	88	雑具部材		A	55.3	4.3	3.3		面取りあり
90-6	89	雑具部材		C	20.2	4.6			
90-7	89	雑具部材		A	18.3	3.2	2.5		
90-8	88	雑具部材		A	41.7	4.5	1.2		
91-1	89	雑具部材		B	20.5	4.2	2.7		
91-2	89	雑具部材		A	13.4	4.7	3.9~1.4		2箇所孔あり
91-3	89	雑具部材		B	14.8	3.7	3.0		
91-4	89	雑具部材		C	7.7	4.3	2.8~0.8		
91-5	89	雑具部材		A	18.7	1.3	0.9		
91-6	89	雑具部材		A	16.7	1.8	1.8		
91-7	89	雑具部材		B	23.3	2.2	2.2		
91-8	90	雑具部材		B	26.6	2.7	1.2		
91-9	90	雑具部材		C	32.5	2.9			
91-10	90	雑具部材		C	37.7	3.6	1.1		
91-11	90	雑具部材		C	16.4	2.5	1.6~1.5		
91-12	89	雑具部材		B	14.7	2.7	0.6		
91-13	89	雑具部材		C	11.2	6.0	0.8		
91-14	89	雑具部材		C	12.1	2.1	0.5		
91-15	89	雑具部材		A	17.5	3.7	0.9		
91-16	89	雑具部材		C	31.1	6.0	1.3		
91-17	90	雑具部材		B	21.6	4.1	1.2~1.0		面取りあり
91-18	90	雑具部材		A	18.0	2.6	2.9		ノミ痕あり 先端を斜めに削っている
91-19	90	雑具部材		B	31.3	4.5	1.4		
91-20	90	雑具部材		B	30.8	5.9	4.5		
91-21	90	雑具部材		A	22.1	3.2	2.0		
91-22	89	雑具部材		A	24.4	3.6	0.9		
91-23	90	雑具部材		A	11.0	2.1	1.2		
92-1	90	雑具部材		B	120.9	3.7	2.5		
92-2	90	雑具部材		B	112.8	4.9	3.0		
92-3	91	雑具部材	棒	B	116.2	2.8			

挿図 番号	写真 図版	種 別	品 目	出土 地点	法 量 (cm)				備 考
					長	幅	厚	高	
92-4	91	雑具部材	棒	B	81.2	2.0			
92-5	91	雑具部材	杭	A	51.5	1.9	1.3		面取りあり
93-1	91	雑具部材		A	50.8	2.9	1.6		
93-2	91	雑具部材		B	63.7	5.2	2.1~1.1		
93-3	91	雑具部材		A	65.6	2.0	1.4		面取りあり
93-4	91	雑具部材			61.4	1.7	1.6		先端を尖らせている
93-5	91	雑具部材		A	34.9	3.4	1.4		ノミ痕あり
93-6	91	雑具部材		B	29.7	2.8	2.1		
93-7	91	雑具部材		A	44.9	3.3	2.6		焼痕あり
93-8	91	雑具部材		A	36.5	2.1	1.5		ノミ痕あり
93-9	91	雑具部材		A	37.3	2.8	2.0		
94-1	91	建築部材	柱	C	61.3	17.4	15.0		
94-2	92	建築部材	梯子	B	84.8	9.3	2.9		
94-3	92	建築部材		C	58.6	6.0	3.1		焼痕あり
94-4	92	建築部材		C	40.3	5.7	1.2		方形の孔あり
94-5	92	建築部材		C	38.4	11.6	2.1		円形の小孔及び方形のほぞ孔あり 面取りあり
94-6	92	建築部材		C	55.5	7.7	1.8		方形の孔あり 面取りあり
95-1	92	建築部材		B	53.0	19.5	2.1		孔あり 面取りあり
95-2	92	建築部材		C	47.0	10.7	1.3~0.6		ノミ痕あり
95-3	92	建築部材		A	72.2	7.3	2.5		面取りあり
95-4	92	建築部材		B	49.6	6.1	2.2		ノミ痕あり 先端に加工痕あり
95-5	92	建築部材		B	47.9	6.7	1.4		2箇所孔あり ノミ痕あり
95-6	93	建築部材		C	17.3	10.5	2.8~2.0		孔あり ノミ痕あり
96-1		建築部材		A	143.7	5.0	2.4		長方形の孔が4箇所あり
96-2	93	建築部材		C	94.5	5.4	1.8		2箇所孔あり ノミ痕あり
96-3	93	建築部材		C	87.5	13.2	2.4		部材を矢板に転用か 方形の孔あり
96-4	93	建築部材		A	88.9	12.6	2.6		方形の孔あり
96-5	93	建築部材		A	25.7	6.5	1.7		
96-6	93	建築部材		C	40.6	6.9	1.5		方形の孔あり ノミ痕あり
97-1	93	建築部材		B	95.9	17.4	2.1		方形の孔あり
97-2	93	建築部材		A	78.2	16.0	1.2		面取りあり
97-3	93	建築部材		A	61.9	6.9	1.9		2箇所孔あり ノミ痕あり
97-4	93	建築部材		B	31.9	7.5	1.2		
97-5	93	建築部材		C	49.3	7.8	3.8~0.5		方形の孔あり 焼痕あり
97-6	93	建築部材		A	54.2	4.6	1.7		

挿図 番号	写真 図版	種 別	品 目	出土 地点	法 量 (cm)				備 考
					長	幅	厚	高	
98-1	94	建築部材		B	41.8	13.4	2.3		
98-2	94	建築部材		B	46.9	12.0	1.0		
98-3	94	建築部材		C	79.5	13.0	2.1		ほぞ孔と思われる加工痕あり
98-4	94	建築部材		B	40.0	6.5	1.2		面取りあり
98-5	94	建築部材		B	49.1	6.5	2.1~0.6		
98-6	94	建築部材		A	31.1	6.0	5.2		焼痕あり ノミ痕あり
99-1	94	建築部材		A	50.5	4.7	1.1		
99-2	94	建築部材	杭	B	46.6	5.2	2.3		先端に面取りあり
99-3	94	建築部材	杭	A	44.8	3.5	2.2		
99-4	94	建築部材		B	71.1	2.5	1.3		
99-5	94	建築部材		C	71.7	3.4	3.2		先端に面取りあり
99-6	95	建築部材		A	57.7	4.6	2.0		
99-7	95	建築部材	杭	A	49.4	2.5	2.2		先端を尖らせている
100-1	95	建築部材		C	47.0	5.6	2.2		ノミ痕あり
100-2	95	建築部材		C	48.9	6.9	1.9		面取りあり
100-3	95	建築部材		C	52.7	5.5	1.9		先端に面取りあり
100-4	95	建築部材		A	42.8	5.0	2.7		先端を尖らせている
100-5	95	建築部材		B	42.2	3.1	1.3		先端を尖らせている
100-6	95	建築部材		A	38.0	3.6	0.9		先端を尖らせている
100-7	95	建築部材		A	39.5	8.2	2.9		焼痕あり 斜め方向の加工痕あり
100-8	95	建築部材	矢板	C	33.4	13.1	3.1		面取りあり
101-1	96	建築部材	矢板	C	95.0	8.2	3.5		面取りあり
101-2	96	建築部材	矢板	C	65.7	18.5	2.5		面取りあり
101-3	96	建築部材	矢板	C	60.4	17.2	3.3		面取りあり
101-4	96	建築部材	矢板	C	36.8	17.3	3.3		面取りあり
101-5	96	建築部材	矢板	C	61.0	16.8	3.2		面取りあり 先端を尖らせている
101-6	96	建築部材	矢板	C	68.4	16.0	2.3		面取りあり
102-1	96	建築部材	矢板	C	60.4	17.6	4.0		面取りあり
102-2	96	建築部材	矢板	C	52.1	5.8	2.1		全体に面取りあり
102-3	97	建築部材	矢板	C	42.3	10.1	2.1~1.2		ノミ痕あり 鋭い刃物のような物で線状に切り込みあり
102-4	97	建築部材	矢板	C	46.5	19.3	2.1~0.9		面取りあり
102-5	97	建築部材	矢板	C	39.0	15.4	3.1		面取りあり
103-1	97	建築部材	矢板	C	40.6	16.0	2.5		面取りあり
103-2	97	建築部材	矢板	C	47.8	14.9	4.9		面取りあり
103-3	97	建築部材	矢板	C	49.3	16.8	8.0		面取りあり

挿図 番号	写真 図版	種 別	品 目	出土 地点	法 量 (cm)				備 考
					長	幅	厚	高	
103-4	97	建築部材	矢板	C	56.0	5.6	1.5~1.2		
104-1	98	建築部材	杭	C	99.1	2.8	2.8		先端を尖らせている
104-2	98	建築部材	杭	B	111.2		3.2		先端を尖らせている 自然木を利用
104-3	98	建築部材	杭	B	86.3	3.7~2.4	3.7~2.4		先端を尖らせている
104-4	98	建築部材	杭	A	28.6	3.7	3.0		先端を尖らせている
104-5	98	建築部材	杭	B	42.3	7.7	5.9		面取りあり
104-6	98	用途不明品		C	5.6	5.2	1.5		面取りあり
104-7	98	用途不明品		C	5.0	2.2	0.7		漆が塗られている
104-8	98	用途不明品		A	46.8	7.9	6.5		ノミ痕あり
105-1	98	用途不明品		C	76.2	10.3	6.9		面取りあり 未製品か
105-2	98	用途不明品		A	43.1	11.9	3.5~0.8		
105-3	98	用途不明品		A	94.0	12.0	6.3		面取りあり

### 山持遺跡 石器類観察表

挿図 番号	写真 図版	種別	種 類	出土 地点	層位	法 量				石 材	備 考
						長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)		
45-15	40	玉類	勾玉	B	包含層2	1.4	0.65	0.3	1.0	不明	2箇所穿孔
77-1	79	石器	砥石	C		12.7	12.5	6.6	887.0	砂岩	4面とも使用か 側面の2面には筋状に使用痕が入っている 玉関係か
77-2	79	石器	砥石	C	包含層1	14.8	6.4	6.0	787.6	凝灰岩	1面のみ使用か
77-3	79	石器	砥石	C	包含層1	17.5	9.0	8.1	1858.6	砂岩	使用痕有り
77-4	79	石器	砥石	B		11.4	10.1	4.2	598.0	砂岩	筋状の使用痕
77-5	79	石器	砥石	B	包含層1	7.1	6.1	2.2	171.6	アプライト	
78-1	79	石器	筋砥石	C	包含層1	6.0	3.4	3.0	54.2	アプライト	溝状の窪みあり
78-2	79	石器	内磨き砥石	C	包含層1	7.6	4.0	1.2	37.2	凝灰岩	4面ともに細かい使用痕有り
78-3	80	石器	敲石	A		10.7	8.8	6.6	889.2	閃緑岩	
78-4	80	石器	敲石	C		8.5	7.9	4.5	441.3	流紋岩	全面研磨 赤色顔料付着
78-5	80	石器	敲石	B	包含層1	10.5	10.2	8.2	972.9	ひん岩	摩滅のため使用痕不明
78-6	80	石器	敲石	A		8.6	8.8	5.5	559.7	流紋岩	
79-1	78	石器	石皿	A		19.8	11.0	9.0	2940.0	ひん岩	
79-2	78	石器	石皿	A	包含層1	17.9	9.2	6.2	1399.4	不明	
79-3	80	石器	石斧	B	包含層1	5.8	3.2	1.9	62.3	頁岩	
79-4	80	玉材	碧玉剥片	B	包含層1	7.8	6.9	6.7	407.9	碧玉	
79-5	80	玉材	碧玉剥片	A		6.8	6.2	4.8	195.6	碧玉	
79-6	80	玉材	碧玉剥片	A	包含層1	5.2	3.9	2.0	35.1	碧玉	
79-7	80	石器	石錘	A	包含層1	5.7	1.8	1.8	19.6	砂岩	縦方向に1条の溝 横方向に3~4条の溝

# 写真図版





A区土器出土状况



A区土器出土状况



A区木製品出土状況



B区土器出土状況



B区土器出土状况



B区木製品出土状况